平成17年度

こどもの城
事業年報



財団法人 児童育成協会

平成17年度

こどもの城
事業年報

Contents
目次

こどもの城 事業年報
平成17年度

事業の概要

平成17年度の活動 9
1 はしめに 9
2. 一般事業活動 10
3 その他の活動 12
4 国庫補助による事業活動 13
5 開館時間・入館料(こども活動エリア) 13
平成17年度活動一覧表 17
1. 来館児・者数 17
2 クループ活動実施状況 18
3 講座・クラフなと 19
4 視察・見学実績 21
1年の歩み 22

開館20周年記念事業

1. はしめに 27
2 開館20周年記念事業 28
開館20周年記念事業一覧表 33

各部の事業

体育事業部

平成17年度の活動 37
1. はしめに 37
2 スポーツ遊ひプロクラム 37
3. まとめ 38
平成17年度活動一覧表 39
1. 一般利用 39
2. 講座・クラフなと 42
3. その他 47

プレイ事業部

平成17年度の活動 49
1 はじめに 49
2 プレイホール・大型遊具の整備 51
3. まとめ 52
平成17年度活動一覧表 53
1 一般利用 53
2 講座・クラフなと 58
3. その他 60

造形事業部

平成17年度の活動 63
1 はじめに 63
2 造形活動のテーマについて 64
3 まとめ 65
平成17年度活動一覧表 66
1. 一般利用 66
2 講座・クラフなと 68
3 その他 70
平成17年度プログラム一覧表 71
1. 親子プロクラム 71
2 子ともたけのプロクラム 73

音楽事業部

平成17年度の活動 75
1 はじめに 75
2. 世界をあそへ!わんぱくツアー 75
3 まとめ 77
平成17年度活動一覧表 78
1. 一般利用 78
2. 講座・クラフなと 82
3 その他 85

AV(オーディオ・ビジュアル)事業部

平成17年度の活動 87
1. はじめに 87
2. 上映活動 87
3 その他の活動 89
4 まとめ 90
平成17年度活動一覧表 91
1. 一般利用 91
2. 講座・クラフなと 92
3 その他 94

保育研究開発部

平成17年度の活動 95
1 はじめに 95
2. 3つの保育事業 95
3. まとめ 100
平成17年度活動一覧表 101
1 一般利用 101
2 講座・クラフなと 102
3. その他 104

小児保健部

平成17年度の活動 105
1 はじめに 105
2 20年続いた「小児肥満のための指導者講習会」 105
3. 診療・相談活動 107
4. まとめ 110
平成17年度活動一覧表 111
1 一般利用 111
2. 講座・クラフなと 111
3. その他 113

こどもの城 事業年報

平成17年度

企画研修部

平成17年度の活動 115
1. はじめに 115
2. 事業全体のとりまとめ 115
3 ホランティアの活動と養成 117
4 講座・クラフ 120
5. まとめ 121
平成17年度活動一覧表 122
1 一般利用 122
2. ホランティアの活動 124
3. 講座・クラフなと 127
平成17年度「クループ活動」フログラム一覧 129

劇場事業本部

平成17年度の活動 131
1. はじめに 131
2 主な自主・提携公演 131
平成17年度公演演目一覧表 139
1 青山劇場 139
2 青山円形劇場 140
3. その他 143

広報部

平成17年度の活動 145
1 はじめに 145
2 開館20周年記念ほか 145
3. まとめ 145
平成17年度活動一覧表 147

こどもの城から全国へ

こどもの城から全国へ

平成17年度の活動 151
1. はじめに 151
2. 動くこともの城 152
3 助成金による事業なと 152
4 まとめ 152
平成17年度活動一覧表 153
1 講座・クラフなと 153
2 〈動くこともの城〉 155
3 助成金による事業なと 158

利用案内

●開館時間

平　　日――午後0時30分～午後5時30分
土・日曜日・祝日
学校の季節休み中――午前10時00分～午後5時30分

●休館日

毎週月曜日
（月曜日か祝日や振替休日にあたる場合は翌日か休館日となります。
また、学校の季節休み等には休館日か変則となることかあります。）

●入館料

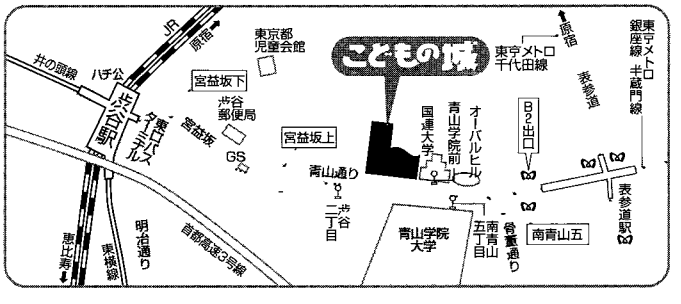
こども 400円（3歳以上18歳未満）　おとな 500円
（20人以上の団体は、こども320円、おとな400円。）

●交通案内

・渋谷駅から　徒歩10分（東口／宮益坂側）
JR山手線・埼京線／東急東横線・田園都市線／
京王井の頭線／東京メトロ銀座線・半蔵門線
○渋谷駅（東口ハスターミナル）から都営ハスか
ご利用いたたけます。
新橋駅行（渋88）「青山学院前」下車すく
・表参道駅から　徒歩8分（B2出口）
東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線

●駐車場（地下）

有料・約80台収容・車高制限2m
日曜日・祝日は混み合いますので、なるへく電車・ハスて
ご来館ください。

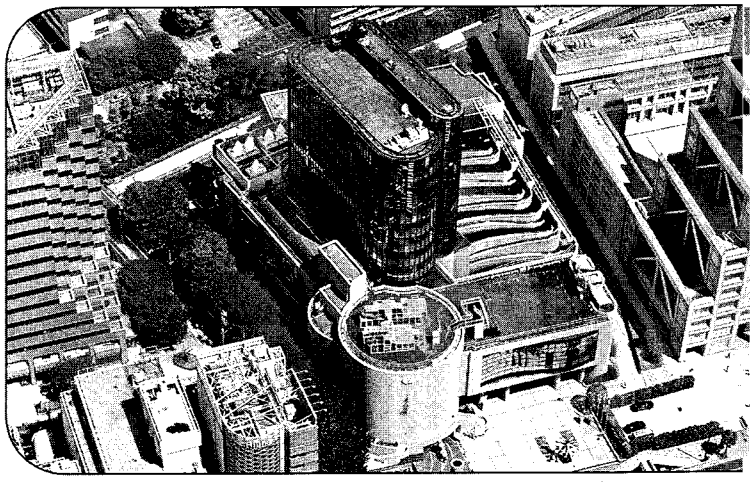


財団法人 児童育成協会
こどもの城
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676
http //www kodomono-shiro or jp/

1

事業の概要

事業の概要



平成17年度の活動

1．はじめに

11月1日に〔こどもの城〕開館20周年を迎えた。昭和から平成にかけて積み重ねられた来館児・者はすでに2千万人を突破した。一方で、〔こどもの城〕にも影響を与えるような出来事もあった。平成15年に厚生労働省から発表された合計特殊出生率は1.29で、初めて1.30を割り込んで“1.29ショック”といわれた。小学校の統廃合も進み、〔こどもの城〕の周りでもいくつかの小学校が姿を消した。学校週5日制もまた大きな出来事であった。土曜日が休みになるということで〔こどもの城〕でも土曜日対策を実施し、小学校高学年向きのプログラムを各事業部が積極的に展開した。しかし、学力低下が話題となり、ゆとり教育に風当たりが強くなってきたことで、土曜日対策の再検討を迫られた。

〔こどもの城〕の有料来館児・者は平成12年度と14年度に前年度を上回り、減少傾向に歯止めがかかってきたのではないかと期待された。しかし、平成16年度は再び大きく減少したため、本年度はその増加を目標に事業を精力的に進めていった。ここ数年は事業のスリム化をはかってきたが、同時に来館児・者を引き付けるようなプログラムが影を潜めたことは事実である。その点では開館20周年の記念事業に期待するところが大であった。

記念事業以外でもいくつかの事業を展開した。その原動力となったのは民間企業との共催である。単独では閉塞感やマンネリ化してしまう事業に対して新しい風を吹き込むことになり、各事業部にとっても新しい感覚で企画することができた。外部の人とのコミュニケーションもまた大きな収穫であった。

こうしたいくつかの大きな共催事業ができた背景には、企業の業績が上がってきたこともあるが、〔こどもの城〕の活動を理解し、評価してくれる人が増えてきたこともある。従来の劇場やギャラリーのプログラムだけではなく、各事業部も積極的に取り組む姿勢が見えた。

本年度の有料来館児・者数は、前年度に比較して若干の減少であった。前半のゴールデンウイークの大きな減少が、最後まで響いた形となったが、後半の増加は次につながる印象がある。特に、平日はベビーカーの置き場所やマナーについて議論されるほど活気が出てきており、〔こどもの城〕を居場所として利用する親子が増えてきている。月2回平日に実施している「赤ちゃんサロン」参加者の大幅増や親子の講座の人気などからも、母子のニーズが一段と高まってきているのが分かる。これらの傾向を今後どのように生かしていくか、あるいは、現在実施している活動をどのようにステップアップしていくかがこれからの課題である。

ここ数年、安定した状態を維持しているのが継続的、体系的に〔こどもの城〕を利用してもらう講座・クラブである。申し込み日には早朝から長い列ができてしまうほどの人気の講座もある。一方、受講者の集まりにくい講座は運営が困難となり中止や内容を変更したものがある。指導の内容は充分な検討を経て講座に反映されているが、指導者の専門的な技術や知識もさることながら、子どもや保護者とのコミュニケーションがしっかりとできることが要求され、対応できる能力を今後も磨いていく必要がある。

開館してから20年の節目を迎え、開館20周年記念事業も精力的に実施することができた。子どもの健全育成の施設として、これからも先駆的な事業を展開して行きたい。

2. 一般事業活動

（ア）来館児・者数

本年度の一般有料来館児・者は234,125人（前年度比2,625人減）、劇場入場者は364,949人（同25,364人減）であった。保育、小児保健、講座・クラブ関係の利用者および研修・会議室や宿泊施設関係の利用者を加えた総数は、914,449人（同26,314人減）となった。

ゴールデンウイークや夏休み特別期間を含む5、7、8月の一般有料来館児・者は、前年同期比11,105人の大幅な減少となった。年間をとおしてみると、大人は平成12年度以来の久々に増加となったが、子どもは平成15年度から連続して3年間減少し続けている。

〔こどもの城〕開館20周年記念事業実施による増加の影響は前半より後半に出たように思われるが、全体としては期待したほどの来館児・者増にはつながらなかった。

（イ）一般来館児・者のための活動

【平常期間】

〈平日〉

・未就園の子どもを連れた母親の来館が多いため、気軽に参加できるプログラムの提供と穏やかで居心地の良い雰囲気作りを心がけた。

・ベビーカーによる来館者が多く、アトリウムで積極的に預かることや館内での置き場所の確保を図った。

〈土曜日〉

・バスケットボールやバドミントンのようなスポーツ活動を中心とした「ビッグサタデー」、段ボール箱を利用した空気砲の作成など科学的な遊びをテーマとした「サタデーラボラトリー」、楽器を体験する「高学年楽器体験コーナー」は引き続き高学年を対象に土曜日対策として実施した。

・「造形実験室」は日曜・祝日に変更して実施した。

〈ハッピーマンデー〉

・「サッカーフェスティバル2005」（10月8～10日）＝JリーグFC東京との協力で実施し、選手との交流や練習、大会形式のイベントを実施した。

・「魔法使いチャンピオンシップ」（10月8～10日）＝魔法使いのチャンピオンをめざしていろいろな遊びに挑戦していくもので、約1,000人の参加者があった。

【特別期間】

・夏休みなどの特別期間は次のようなキャッチコピーをつけ、全館の催しが相互に関連性を持ち、来館児・者に統一的なイメージを与えるよう工夫した。

5月の空にあそびかがやく
（児童福祉週間＝ゴールデンウイーク）
家族そろってあそびまつり（夏休み）
元気にあそんでアッツアツ（冬休み）
春にわくわく　心ウキウキ（春休み）

・ゴールデンウイークは、造形事業部の協力を得てエレベータホールなどに鯉のぼりの置物や小さな作り物などを飾り「こどもの日」を強調した。

・夏休み特別期間の「ドルッチャランド」「マジックアワーパーティー」、ファミリーウイークの「ドルッチャタウン」は開館20周年記念事業としてプロジェクトチームの企画で実施され、多くの来館児・者があり好評を得ることができた。

【こどもの城開館20周年記念事業】

開館20周年記念事業は11月1日の〔こどもの城〕開館記念日に開催されたシンポジウムを中心に精力的に実施した。

○**ドルッチャランド**（8月26～28日）＝〔こどもの城〕の職員、ボランティアが体育室を主会場に“あそびショップ”を出店した。

○**マジックアワーパーティー**（8月27日）＝〔こどもの城〕の閉館後、ふしぎが丘を利用して夜祭りを開催。ゲームや映画上映、焼き鳥や揚げパンなどの屋台も大盛況であった。

○ **開館20周年記念シンポジウム**（11月1日）＝「子どもはどこで育つ？」と題して4人のパネラーの講演とディスカッションを青山円形劇場で実施した。

○**ドルッチャタウン**（11月5・6日）＝講座やクラブの子どもたちが中心になって小さな町を作り、“お店屋さんごっこ”を来館児・者と一緒に楽しんだ。

○**ブルーノ・ムナーリ展**（11月15日～12月18日）＝造

【来館児・者数（対前年度比較）】　（人）

	平成16年度実績 (A)	平成17年度実績 (B)	差し引き増減 (B－A)
有料来館児・者	236,750	234,125	▲2,625
3歳未満児（推計）	57,616	59,118	1,502
招待者	44,390	45,822	1,432
劇場入場者	390,313	364,949	▲25,364
講座・クラブ利用者	75,883	76,215	332
営業部門（研修・会議室および宿泊施設関係利用者）	135,811	134,220	▲1,591
計	940,763	914,449	▲26,314

形作家、ムナーリの作品の展示とワークショップを開催。
○**ダイアログ・イン・ザ・ダーク**（11月19日～12月18日）＝暗闇で視覚障害者の助けを借りながら、歩いたり、座ったりといろいろな行動に挑戦した。
○**赤ちゃん大集合**（11月4日）＝音楽ロビー、体育室など〔こどもの城〕の多くの場所を使用したお母さんと乳幼児の活動を開催。
○**青山太鼓見聞録、ヴィクトリア**他＝劇場事業本部主催で青山劇場、青山円形劇場で実施された。

【外部団体・企業との共催事業】

〔こどもの城〕の活動趣旨に賛同する外部団体、企業の協力を得て積極的に新しい事業展開を行った。
○「モータースポーツにチャレンジ」（バイクの組み立てから実際に運転をするまでに挑戦）……本田技研工業(株)
○「Ｆ１夢をのせて走れ!」（Ｆ１カーの展示やワークショップ）……トヨタ自動車(株)
○「20周年記念事業」……ネスレ日本(株)、フットマーク(株)
○「第13回キンダーフィルムフェスティバル」……ピクサー・アニメーション・スタジオ
○「マタニティーコンサート」「赤ちゃん大集合」……タカタ(株)／和光堂(株)／ビーンスターク・スノー(株)／大島椿(株)／ユニ・チャーム(株)／花王(株)／大塚製薬(株)／持田ヘルスケア(株)／ピジョン(株)／(株)ベビーリース／コンビ(株)／(株)赤ちゃんとママ社／江崎グリコ(株)／アイクレオ(株)／インビスタジャパン(株)／(株)ベネッセコーポレーション／(財)母子衛生研究会／(社福)日本保育協会／(社)全国ベビーシッター協会／(財)児童健全育成推進財団
○「ニッサンゆかいな絵本と童話展」……日産自動車(株)
○造形スタジオ（日常活動）……アート・バイ・ゼロックス／中川ケミカル(株)／山田ダンボール(株)／リンテックス(株)
○こどもの城児童合唱団巡回コンサート……(財)児童健全育成推進財団

（ウ）講座・クラブ

継続的、体系的に〔こどもの城〕を利用してもらうため、講座・クラブ活動を実施した。来館児・者全体の減少傾向が見られる中、講座・クラブの受講者数は高い水準を維持しているものが多い。特に、体育事業部の２期の講座・クラブ受講者数は、933人（前年度890人）で平成９年度以来の900人台を超えた。

〔こどもの城〕としてはこれからも、受講生や保護者との信頼関係を保ちつつ運営していきたい。実施種類、コース数、受講者数は以下のとおり。

・講座……32種、51コース、受講者1,366人
・クラブ……６種、６コース、受講者817人
・講習会……７種、19コース、受講者169人
・短期集中講習会……17種、受講者1,912人
・専門者向け講習会……13種、22コース、受講者844人

（エ）グループ活動

平日、〔こどもの城〕開館前の午前中を利用して、保育所、幼稚園および小学校などの団体を対象に、各事業部において特別プログラムを提供する「グループ活動」は、一般来館児・者の受け入れ、講座・クラブの実施と並び〔こどもの城〕の事業のなかで重要な位置を占めている。ハンディキャップを持った子どものグループや日本語を解さないインターナショナルスクールの子ども、自主保育グループなど様々な団体からの申し入れがあり、利用件数は安定している。

本年度は208グループ、3,433人（前年度は、138グループ、3,157人）を受け入れた。

敬宮愛子内親王殿下とお友だちが、グループ活動を利用された。

（オ）保育研究開発・小児保健（クリニック）

〈保育研究開発〉

・保育事業の３つの柱である「幼児グループ」「保育クラブ」および「親子教室」を継続して実施した。
・保育関係者のための研修プログラム（保育関係者が行う子育て相談研修会＝基礎編・応用編、ニュースレターの発行、保育セミナーの開催など）を実施した。
・一般来館児・者を対象として特別期間に行った「親子工房」や、平常期間の土曜日に親子がゆったりと一緒に遊べる「よちよちクラブ」などにも積極的に取り組んだ。

〈小児保健（クリニック）〉

・小児保健クリニックでの診療・相談を実施したほか、体育事業部と連携して「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」「マタニティスイミング」などを継続して実施した。診療、相談件数については、2,594件（前年度2,654件）とやや減少した。
・小児保健関係者のための研修プログラム「小児肥満のための指導者講習会」「小児保健セミナー」を実施した。
・赤ちゃんサロンは年間3,365人（前年度2,456人）にもおよぶ参加者を集めた。

（カ）劇場事業

自主公演としては、青山劇場で１公演、青山円形劇場で９公演、提携公演として青山劇場で２公演、青山円形劇場で12公演を実施した。このうち、「こどもの城・キリン・

ファミリーオペレッタ～とびこむ絵本V」は、平成18年度児童福祉文化賞の舞台芸術部門において、推薦作品に選ばれた。また、「青山太鼓見聞録」「KOUSKY Ⅲ 沢則行meets中西俊博」、「J－Kダンスフェスティバル2005」「ドイツのダンス新しい世代」は文化庁国際芸術交流支援事業のそれぞれ助成対象作品に選ばれた。

劇場の貸与については青山劇場が19件、青山円形劇場が40件で、国費による工事期間等を除いた稼働状況は別表のとおりであった。

	使用可能日数（日）	使用日数（日）	稼働率（%）
青山劇場	343	309	90.1
青山円形劇場	364	337	92.6
計	707	646	91.4

また、劇場公演の他に、若手舞台芸術家の育成を図るためのプログラム「APAS」（Aoyama Performing Arts Seminar＝エイパス）を14件、実施した。

（キ）利用者サービス事業

〔こどもの城〕を利用する人などの便宜をはかるため、宿泊施設、売店、各種自動販売機および駐車場の管理、運営を行った。

また、研修室については児童厚生員等を対象とした宿泊研修や保育・小児保健関係のセミナーの開催場所として利用するほか、他の福祉関係団体が主催する研修会やセミナーの会場としても活用され、児童の健全育成や福祉向上のための事業に寄与した。

3．その他の活動

（ア）広報

〔こどもの城〕の事業・活動内容をより理解、認識していただくとともに、利用者の増加をはかることを目的として、各種の広報活動を行った。

活動の主な柱としては――、

(1)「こどもの城ニュース」の発行（年11回発行）
(2) 各種広報資料（パンフレット、チラシなど）の作成・配布
(3) 月刊誌「こども未来」を通じて〔こどもの城〕の活動内容の紹介
(4) 新聞・テレビ・雑誌などを通じての広報
(5) 広報企画の推進

――などであり、新聞、テレビなどの取材は、外国からのものを含めて年間193件にのぼった。

また、インターネットは時代を映しだすように、総閲覧数が前年度に続き大幅に増加。その閲覧数は、「こどもの城ホームページ」が4,744,805件（前年度3,398,301件）、「青山劇場ホームページ」は5,173,735件（前年度4,804,587件）であった。

（イ）こどもの城友の会

〔こどもの城〕のサポーターともいえる「こどもの城友の会」の会員増加をめざして、キャンペーンや映画試写会（『チキンリトル』『ロボッツ』『ミリオンズ』）への招待を実施した結果、新たに434家族の入会があり、本年度末現在の会員数は1,236家族と若干の増加となっている。

（ウ）国際交流

6月に実施したギャラリーの催し物「オーストラリア絵本展～南半球からのメッセージ～」は、絵本の展示とワークショップを組み合わせたもの。事業部門でもタグラグビーなどオーストラリアのスポーツの紹介、オーストラリアに関連した音楽などの催しを実施し、オーストラリアの文化の紹介と交流の目的を果たした。

例年の京浜地区外国人学校の合同美術展「アートスケープ展」にギャラリーを提供したほか、夏休み短期講座のなかでアフリカやインドネシア、ベトナムの民族楽器を紹介し、演奏等をするなど、気軽で自然な国際交流をめざした。

また、グループ活動におけるインターナショナルスクールの利用件数は45件で、日本の児童文化の紹介と社会体験の貴重な機会となっている。

（エ）実習生・研修生の受け入れ

大学などの要請に応じて、〔こどもの城〕の事業部門をフィールドとし、その活動内容を研修対象とする実習生、研修生を受け入れているが、本年度は実習生25人、研修生・研究生5人を受け入れた。

中・高校生の職場体験としての依頼が学校から多く寄せられるようになっており、各事業部と調整しながら受け入れた。本年度は中学生2件10人、高校生4件57人と大きく増加した。

（オ）講師派遣

〔こどもの城〕で行う指導者向け講習会やセミナー、〈動くこどもの城〉の派遣事業以外にも、児童館を中心とした全国の児童健全育成の現場からの要請により、講師派遣という形で各地に出向き、〔こどもの城〕のプログラム運営の実際と理念の普及に努めた。地域の子育て支援センターや学童クラブなど子育て支援、次世代育成にかかわる派遣依頼も増加の傾向にある。本年度は106件の派遣を行った。

（カ）助成金による事業

独立行政法人福祉医療機構の「子育て支援基金」からの

助成を受け、「子どもたちによる街づくりワークショップ事業」「子育てネットワークによる小・中学生交流事業」を行った。

4. 国庫補助による事業活動

(ア) 啓発活動

児童の健全育成にかんする冊子を配布し事業実例の紹介と理念の普及に努めた。

(1) 購入部数　30,000部

(2) 配布先　中央官庁、地方公共団体、社会保険事務所、各県経営者協会および商工会議所、中央児童福祉審議会委員等関係者

(イ) 児童館巡回支援活動等事業〈動くこどもの城〉

全国の児童厚生施設に対し、〔こどもの城〕で開発、蓄積した活動プログラムを巡回、提供し、地域における健全育成活動を支援するとともに、児童厚生員等に対する実技指導を行い、あわせて今後の活動の充実に向け、プログラムの準備、開発に努めた。

本年度〈動くこどもの城〉は沖縄県を加え、未実施県は高知県のみとなった。

プログラム	巡回支援活動	巡回実技指導
音楽関係	2か所	2か所
体育関係	4 〃	4 〃
乳幼児と親子への支援	9 〃	9 〃
絵本関係	−	1 〃
折り紙作品の展示	15 〃	−
昔遊び・グループ遊び	7 〃	4 〃
造形活動	−	2 〃
計	37か所 (前年度37か所)	22か所 (前年度25か所)

(ウ) 中央児童厚生施設活動推進事業

〔こどもの城〕の事業に理解と協力が得られるボランティアの養成、児童の健全育成活動に参加するボランティアの拡充等をはかるための事業を実施した。

本年度末現在のボランティア講習修了者数は、2,430人となっており、うち〔こどもの城〕のボランティアとして登録されている者は369人、本年度中に〔こどもの城〕の事業活動に参加した者は延べ6,600人にのぼっている。

5. 開館時間・入館料（こども活動エリア）

(ア) 平常期間

〔こどもの城〕の「こども活動エリア」の開館時間は以下のとおりである。

平　日	午後 0 時30分～午後5時30分
土・日曜日・祝日	午前10時00分～午後5時30分
月曜日	休館（祝日・振替休日にあたるときは開館。翌火曜日が休館）

(イ) 特別期間

学校の季節休み（夏休み、冬休み、春休み）、児童福祉週間（ゴールデンウイーク）、11月1日の〔こどもの城〕の開館記念日をはさむ1週間を特別期間とし、多数の来館児・者が楽しめるようなプログラム作りと施設利用の工夫をした。

■児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間■
4月29日～5月5日（5月2日は休館）

■夏休み特別期間■
7月21日～8月31日（毎日開館）

■こどもの城ファミリーウイーク（開館記念）特別期間■
10月29日～11月6日（10月31日は休館）

■冬休み特別期間■
12月23日～平成18年1月9日
（12月28日～1月2日は休館）

■春休み特別期間■
3月25日～4月5日（毎日開館）

(ウ) 入館料

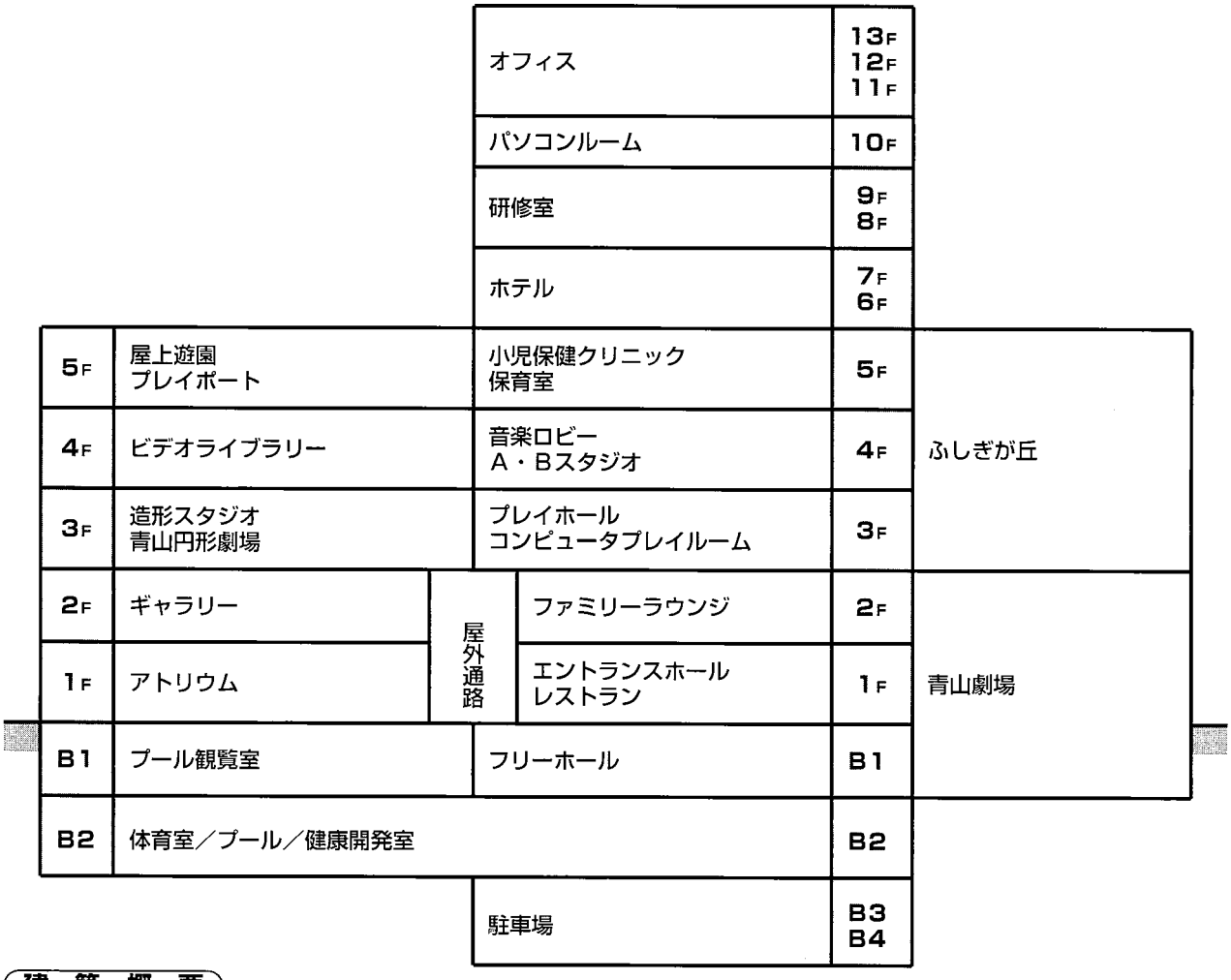
【一般入館料】

一　般	こども（18歳未満） （保護者が同伴した3歳未満児は無料）	400円
	大人（18歳以上）	500円
回数券	こども（6枚つづり）	2,000円
	大　人（6枚つづり）	2,500円
団　体（20人以上）	こども	320円
	大　人	400円

【優待パス】

平日ゆうゆうパス（1年間有効）大　人	3,000円
わくわくパス（夏休み期間限定）大　人	1,800円
ドキドキパス（夏休み期間限定）こども	1,500円
小・中学生土曜日パス（1年間有効）小・中学生	2,500円

〔こどもの城〕の概要



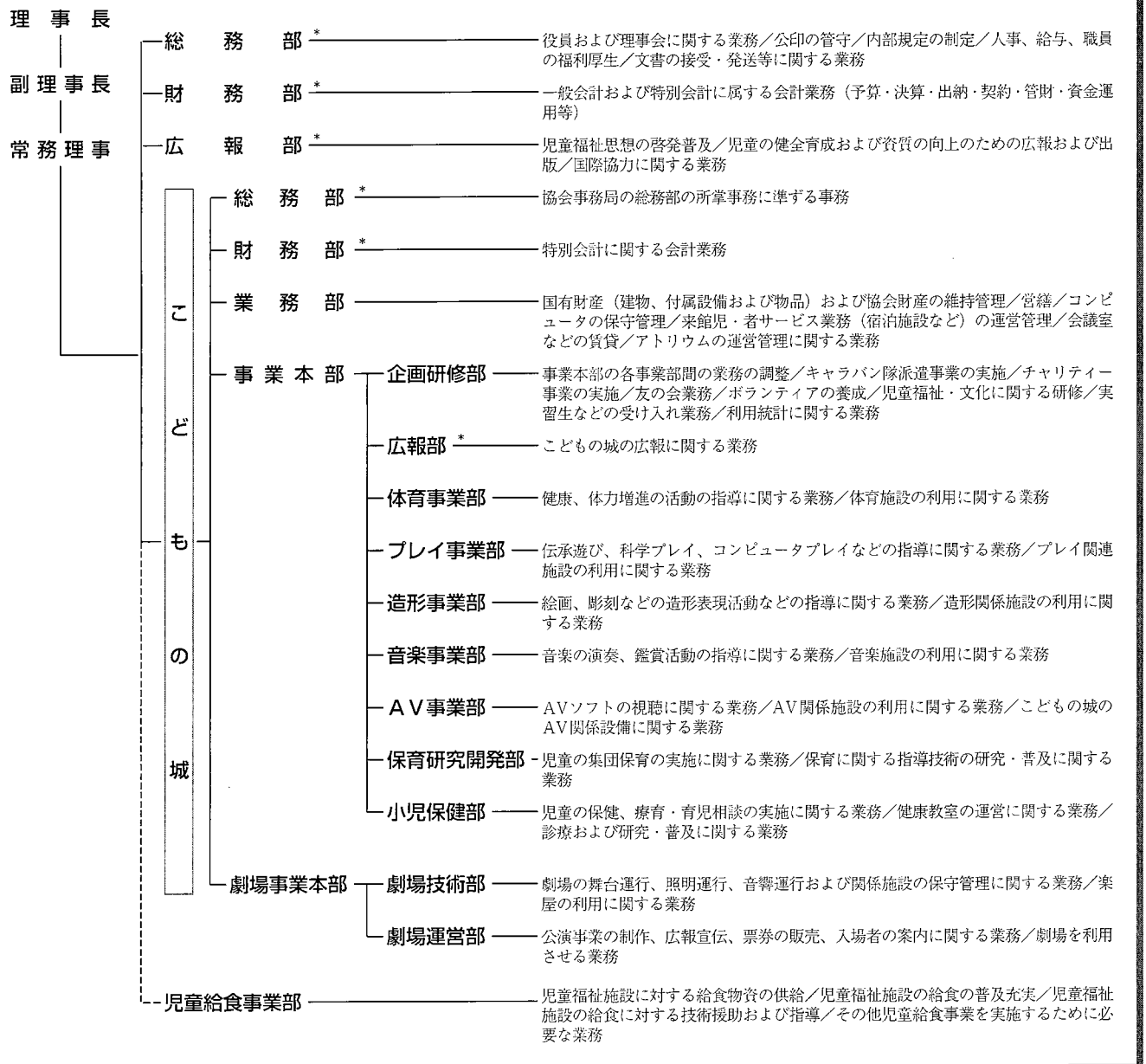
建　築　概　要

所在地……東京都渋谷区神宮前5-53-1
建築主……厚生労働省（当時：厚生省）
敷地面積……9,923平方メートル
建築面積……6,001平方メートル
延床面積……41,699平方メートル
建ぺい率……60.48%
容積率……345.38%
階数……地下4階・地上13階・塔屋1階
最高高さ……GL+57.6メートル
基礎下端……GL−28.5メートル
主要構造……高層部　鉄骨造り
　　低層部　鉄骨鉄筋コンクリート造り
　　地　下　鉄筋コンクリート造り
着工……昭和56年11月
完成……昭和60年9月（11月1日開館）

※〔こどもの城〕は1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して、厚生省（当時）が計画・建設した児童の健全育成のための総合施設。運営は、厚生労働省の委託を受けて（財）児童育成協会があたっている。

〔こどもの城〕組織機構図（平成18年3月31日現在）

〔注〕＊印は（財）児童育成協会本部と〔こどもの城〕の役職を兼ねる



部＼職員数	一般	嘱託	計	部＼職員数	一般	嘱託	計	部＼職員数	一般	嘱託	計	部＼職員数	一般	嘱託	計
総務	5	0	5	事業本部	2	0	2	音楽事業	4	0	4	劇場技術	5	0	5
財務	5	0	5	企画研修	8	0	8	ＡＶ事業	5	0	5	劇場運営	7	0	7
広報	3	0	3	体育事業	7	1	8	保育研究開発	7	1	8	劇場事業本部	2	0	2
業務	17	0	17	プレイ事業	8	0	8	小児保健	5	0	5				
				造形事業	4	0	4					合計	94	2	96

（財）児童育成協会役員（平成18年3月31日現在）

役職	氏名		役職	氏名	
理事長	吉武　民樹		理事	品川　正治	（財）国際開発センター会長
副理事長	小山　敬次郎	目白大学客員教授	理事	篠原　徹	日本商工会議所常務理事
常務理事	本橋　紘		理事	山口　規容子	総合母子保健センター愛育病院名誉院長
理事	今泉　昭雄	（社福）全国心身障害児福祉財団理事長			
理事	大野　出穂		監事	秋山　昭八	弁護士
理事	小澤　壯六		監事	藤間　秋男	公認会計士

〔こどもの城〕の付帯事業（平成18年3月31日現在）

業種	店名等	場所	利用客席数	営業日・営業時間	備考
宿泊施設	こどもの城ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員 64	無休（12月28日～1月2日を除く）	洋室24室（シングル3、Aツイン10、Bツイン11） 和室3室（4人用1、5人用1、10人用1） ※1泊6,720円～
貸し室	研修室	8・9階	研修室 10 ※一部通しで使用できる。利用人員350人ぐらいまで	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝9：00～21：00	研修および会議など ※1単位時間12,075円～
	ギャラリー	1階アトリウム		無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝10：00～17：30	各種展示会など ※1日31,500円
物品販売	売店	1階アトリウム	1か所	営業日時＝「こども活動エリア」の開館日時と同じ 毎週月曜日休業（月曜日が祝・休日のときは火曜日） 土・日曜日、祝・休日、春・夏・冬休みの特別期間＝10：00～17：30 その他の平日＝12：30～17：30	がん具、文具、音楽用品、スポーツ用品、講座指定水着、催事関係用品、印刷出版物、衣料、雑貨など
	自動販売機	館内各所	飲・食・乳販売 27か所 たばこ 3か所 テレホンカード 2か所	無休	ドリンク類、牛乳類、スナック類、カップ麺類
公衆電話		館内各所	8か所 9台	無休	
駐車場		屋内（地下2階～地下4階）、屋外（1階）	約126台 （業務車両分含む）	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝8：00～22：00	普通車両は地下駐車場、バスなど大型車両は屋外（1階）に駐車 ※普通車両 30分 300円 マイクロ車 1時間 840円 大型車 1時間1,260円
飲食関係	レストラン「アンファン」	1階	客席数 140	無休（12月29日～1月2日を除く） 営業時間＝7：30～19：00	ファミリーレストラン、すし、弁当仕出し、パーティー、宿泊施設利用者の食事など
	劇場内「スナック」	青山劇場内地下および2階ロビー	立食	公演に合わせて営業 営業時間＝開演前・幕間	喫茶、軽食

平成17年度活動一覧表

1．来館児・者数

	一般来館児・者			劇場			その他	計
	有料		総数	青山劇場	青山円形劇場	小計		
		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
4月	大人	7,606	27,898	17,761	7,891	25,652	12,692	66,242
	子ども	7,601						
	団体	218	推計					推計
	受講生など	12,473	(31,708)					(70,052)
5月	大人	10,321	28,080	33,040	6,974	40,014	13,015	81,109
	子ども	6,803						
	団体	573	推計					推計
	受講生など	10,383	(33,247)					(86,276)
6月	大人	7,265	23,758	30,290	6,554	36,844	12,368	72,970
	子ども	5,181						
	団体	1,016	推計					推計
	受講生など	10,296	(27,397)					(76,609)
7月	大人	11,293	31,453	34,788	5,847	40,635	12,576	84,664
	子ども	9,666						
	団体	2,377	推計					推計
	受講生など	8,117	(37,107)					(90,318)
8月	大人	22,138	57,737	32,655	9,787	42,442	8,944	109,123
	子ども	22,818						
	団体	1,445	推計					推計
	受講生など	11,336	(68,812)					(120,198)
9月	大人	8,308	25,634	29,349	8,507	37,856	11,353	74,843
	子ども	5,929						
	団体	1,589	推計					推計
	受講生など	9,808	(29,794)					(79,003)
10月	大人	8,478	25,378	22,189	7,987	30,176	10,131	65,685
	子ども	6,239						
	団体	518	推計					推計
	受講生など	10,143	(29,622)					(69,929)
11月	大人	8,549	25,885	25,601	2,998	28,599	10,820	65,304
	子ども	5,743						
	団体	1,212	推計					推計
	受講生など	10,381	(30,167)					(69,586)
12月	大人	7,375	20,698	19,887	9,070	28,957	9,090	58,745
	子ども	5,204						
	団体	1,022	推計					推計
	受講生など	7,097	(24,394)					(62,441)
平成18年 1月	大人	8,893	29,040	11,662	7,401	19,063	8,050	56,153
	子ども	7,024						
	団体	5,228	推計					推計
	受講生など	7,895	(33,492)					(60,605)
2月	大人	7,653	24,116	18,931	5,259	24,190	11,438	59,744
	子ども	5,102						
	団体	1,827	推計					推計
	受講生など	9,534	(27,947)					(63,575)
3月	大人	10,203	36,485	5,414	5,107	10,521	13,743	60,749
	子ども	9,618						
	団体	2,090	推計					推計
	受講生など	14,574	(41,593)					(65,857)
計	大人	118,082	356,162	281,567	83,382	364,949	134,220	855,331
	子ども	96,928						
	団体	19,115	推計					推計
	受講生など	122,037	(415,280)					(914,449)

注）「一般来館児・者」の"推計"は、3歳未満児の推定来館児数を含めたもの。
「受講生など」は、招待と講座・クラブ受講生を合算したもの。
「その他」は、宿泊施設・研修室等の利用者。

2. グループ活動実施状況

		保育所	幼稚園	小学校	中・高校	養護学校	ろうあ学校	盲学校	小学校特殊学級	中学校特殊学級	障がい児施設	自主保育グループ	計
件数		33	55	22	2	17	0	3	14	1	1	60	(件) 208
月別内訳	4月		1									4	5
	5月		6	1		2						4	13
	6月	2	9	5		3						8	27
	7月	2							4			3	9
	8月												
	9月	1	1			4						6	12
	10月		1		1	5						7	14
	11月	4	8	5		1			3	1	1	5	28
	12月	6	3	4	1	1						2	17
	平成18年 1月	4	6						4			7	21
	2月	13	9	5				2	2			10	41
	3月	1	11	2		1		1	1			4	21
地域別内訳	東京都 区	33	47	22	1	11		3	11		1	60	189
	東京都 市					2							2
	他県		8		1	4			3	1			17
参加児童数別内訳	10人未満		5			8		3	10	1		58	85
	10~19	23	20	9		6			3			2	63
	20~29	8	14	13		3			1		1		40
	30~39	1	7		1								9
	40~49	1	3										4
	50~59		2		1								3
	60~79		3										3
	80~99												
	100~149		1										1
	150人以上												
参加児童数	延べ人数	640	1,567	411	83	191		17	114	7	26	377	(人) 3,433
	1件当たり人数	19.4	28.5	18.7	41.5	11.2		5.7	8.1	7.0	26.0	6.3	16.5
引率者数		116	218	49	4	185		12	65	2	13	3	667
付添者数		7	17	19		25		19			26	19	132
活動部門	体育	7	10	6	1	1			7	1		8	(件) 41
	プレイ	16	21		1	6					1		45
	造形	3	21	9	1				1			8	43
	音楽	5	22			10		3	6			9	55
	AV	4	2	7	1								14
	プレイ自由	32	54	21		6		3	9	1	1	2	129
	AV自由	1	3	1	1	2							8
	その他自由利用											35	35

注)「活動部門」は、1つの団体が複数の部門を利用することがあるので、重複して計上してある。

3. 講座・クラブなど

〈講座〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体育	親子水泳	幼児・親	1年 2コース	60(組)
	幼児水泳	幼児	〃 5〃	270(人)
	幼児体育	〃	〃 3〃	120
	小学生水泳	小学生	〃 7〃	380
	小学生体育	〃	〃 2〃	60
	シニア・スイミング	小・中・高校生	〃 2〃	60
	シニア・スイミング・フレッシュ	小・中学生	〃 1〃	30
	ジュニア新体操	小学生の女子	〃 1〃	35
	シニア新体操	小・中学生の女子	〃 1〃	35
	手足の不自由な子の水泳	小・中学生	〃 1〃	15
プレイ	キッズクラブ	小学生	〃 1〃	30
	ユースクラブ	小・中学生	〃 1〃	40
造形	こどもクリエイティブクラブ(クレイワーク)	〃	〃 1〃	20
	〃 (ゆかいな造形)	〃	〃 1〃	20
	〃 (親子でアート)	幼児・親	〃 1〃	10(組)
	〃 (絵本の世界へ)	小・中学生	〃 1〃	20(人)
	〃 (ハンズワーク)	小・中・高校生	〃 1〃	20
	大人のための造形表現教室	一般	〃 1〃	30
音楽	みんなで楽しいリトミック	幼児・親	〃 3〃	60(組)
	リズム・ムービング	幼児	〃 1〃	20(人)
	リズム・ムービング&パーカション	小学生	〃 1〃	15
	おんがく大好きミュージック・パーク	ダウン症の幼児・親	〃 1〃	10(組)
	合唱講座	小学生	〃 1〃	30(人)
	児童合唱団	合唱講座修了者	〃 2〃	90
	ガムラン講座	小・中・高校生	〃 1〃	15
	三味線	〃	〃 2〃	24
	混声合唱	高校生以上	〃 1〃	15
	和太鼓グループ	小・中・高校生	〃 1〃	12
	パーカッション・アンサンブル	〃	〃 1〃	15
	レッツ・プレイ・サンバ初級	小学生	〃 1〃	10
	レッツ・プレイ・サンバ	小・中・高校生	〃 1〃	10
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	太りすぎの小学生	〃 1〃	20
計	32種		51コース	1,601

〈クラブ〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通年 1コース	−
	レディース・コース	一般女性	〃 1〃	150(人)
小児保健	マタニティ・スイミング	妊婦	〃 1〃	420
保育	幼児グループ	幼児	1年 1〃	24
	保育クラブ	〃	〃 1〃	400
企画研修	L.I.T.(高校生ボランティア)	高校生	〃 1〃	30
計	6種		6コース	−

〈講習会（1か月以上のもの）〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体育	幼児・母親体育 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（1・2歳）	幼児・母親	3か月 3コース	60（組）
	幼児・母親体育 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（2・3歳）	〃	〃 3 〃	90
	母と子のすくすくランド Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	5か月～・母親	〃 3 〃	60
	ぱちゃぱちゃファミリースイム Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	幼児・保護者	〃 3 〃	90
音楽	おんがく星みつけた Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	幼児・親	3か月 3 〃	90
保育	親子教室	〃	〃 3 〃	48
企画研修	じょいんクラブ（後期のみ開講）	小・中学生	5か月 1 〃	20（人）
計	7種		19コース	458

〈短期講習会（1か月未満のもの）〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
体育	夏休みこども集中水泳講習会（A・C）	小・中学生	5日間 2コース	100（人）
	〃 （B・D）	幼児	〃 2 〃	80
	夏休み体操教室 ガンバ	小学生	〃 1 〃	30
	春休みこども集中水泳講習会 A	小・中学生	〃 1 〃	50
	〃 B	幼児	〃 1 〃	40
	成人水泳集中講習会	一般	7日間 12 〃	240
プレイ	パソコン教室スペシャル・ロボットプログラミング入門	小学生	4日間 1 〃	15
造形	夏休み造形教室	小・中・高校生	1日 36 〃	533
	大人のための造形表現教室	一般	〃 1 〃	20
音楽	手作り楽器のワークショップ	小・中・高校生(親子)	〃 16 〃	377
	大人のための手作り楽器のワークショップ	一般	〃 1 〃	30
	感じる心を育てる講座	〃	〃 1 〃	80
AV	映像・科学ワークショップ	小・中・高校生	〃 38 〃	456
	映像技術セミナーシリーズ	一般	2日間 2 〃	40
小児保健	夏休みこども1日ドック	小・中学生	1日 1 〃	10
	季節の離乳食	乳児・親	1日 6 〃	60
	親子のほっとタイム	〃	3日間 3 〃	90
劇場	青山パフォーミング・アーツ・セミナー2005	小学生～一般	1～3日間 14 〃	355
計	18種		139コース	2,606

〈専門指導者向け講習会等〉

部門	プログラム名	対象	コース	総定員
AV	プロフェッショナルビデオ講座	指導者・一般	2コース	60（人）
保育	保育セミナー	保育関係者	1 〃	80
	保育関係者が行う子育て研修会（基礎編）	〃	2 〃	140
	保育関係者が行う子育て研修会（応用編）	〃	1 〃	40
小児保健	小児肥満のための指導者講習会	養護教諭・保健師など	1 〃	50
	小児保健セミナー	保育士・保健師など	1 〃	100
	最新の小児保健の基礎と実際	〃	2 〃	100
企画研修	おりがみにつよくなる講習会	児童厚生員など	2 〃	100
	作って演じる人形劇	〃	2 〃	60
	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会	〃	3 〃	150
	〃 パソコン編	〃	1 〃	20
	ボランティア講習会	18歳以上	2 〃	60
	ボランティア・グレードアップ講習会	ボランティア登録者	2 〃	60
計	13種		22コース	1,020

4. 視察・見学実績

年度	都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局、公共団体		児童館、保育所、幼稚園、学校、施設、サークル、これらの団体		海外からの視察・見学		その他		計	
昭和60年度	(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279
61年度	(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671
62年度	(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700
63年度	(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875
平成 元年度	(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178)	1,753
2年度	(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265
3年度	(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(127)	1,473
4年度	(78)	585	(62)	1,038	(9)	122	(6)	35	(155)	1,780
5年度	(69)	698	(75)	1,182	(14)	119	(9)	41	(167)	2,040
6年度	(96)	782	(73)	1,251	(13)	144	(13)	116	(195)	2,293
7年度	(136)	956	(101)	1,542	(19)	273	(16)	94	(272)	2,865
8年度	(63)	402	(188)	1,691	(19)	139	(8)	48	(278)	2,280
9年度	(89)	723	(134)	1,335	(14)	229	(24)	43	(261)	2,330
10年度	(63)	474	(150)	1,470	(26)	204	(24)	145	(263)	2,293
11年度	(83)	863	(171)	975	(18)	177	(17)	68	(289)	2,083
12年度	(85)	616	(154)	596	(14)	128	(27)	37	(280)	1,377
13年度	(29)	254	(216)	1,029	(15)	109	(26)	68	(286)	1,460
14年度	(13)	40	(189)	1,212	(16)	211	(8)	38	(226)	1,501
15年度	(8)	14	(152)	965	(19)	149	(8)	14	(187)	1,142
16年度	(5)	53	(156)	1,084	(14)	135	(6)	13	(182)	1,285
平成17年度 4月	(1)	29	(4)	27	(2)	28	(2)	2	(9)	86
平成17年度 5月	(1)	1	(16)	58	(0)	0	(1)	1	(18)	60
平成17年度 6月	(0)	0	(18)	81	(1)	27	(2)	2	(21)	110
平成17年度 7月	(0)	0	(17)	32	(3)	44	(2)	22	(22)	98
平成17年度 8月	(0)	0	(13)	69	(0)	0	(0)	0	(13)	69
平成17年度 9月	(0)	0	(15)	51	(0)	0	(0)	0	(15)	51
平成17年度 10月	(1)	7	(23)	128	(5)	84	(1)	1	(30)	220
平成17年度 11月	(2)	4	(14)	93	(0)	0	(1)	2	(17)	99
平成17年度 12月	(0)	0	(19)	81	(0)	0	(0)	0	(19)	81
平成17年度 H18 1月	(0)	0	(9)	36	(1)	15	(0)	0	(10)	51
平成17年度 2月	(0)	0	(23)	166	(3)	102	(3)	4	(29)	272
平成17年度 3月	(0)	0	(27)	102	(0)	0	(1)	1	(28)	103
平成17年度 合計	(5)	41	(198)	924	(15)	300	(13)	35	(231)	1,300
累計	(1,441)	10,937	(2,648)	27,092	(394)	3,844	(354)	3,172	(4,837)	45,045

注）（ ）内は、団体数。
「その他」は、中央官庁、中央団体、会社など。

1年の歩み

月　日	事　項
4.29~5.5	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間「五月の空に あそびかがやく」 時空の旅人～タイムン・トラベルン～／キャッスルスポーツゲームズ～チャレンジウイーク～／パソコン 魔法のグラフィックス／こども歳時記「端午の節句」／ゴールデンウイーク 人形劇フェア／おどれ！さけべ！「いち、にの、サンバ!!」／つくって遊ぼう親子工房／こども探偵団2～20への鍵～――ほか
5.4・5	こどもフェスティバル（青山円形劇場）＝ざん・ぱら・りん劇場（4日）／おんがくがスキ！（5日）
5.11~15	AOYAMA FIRST ACT #6「南国プールの熱い砂」（青山円形劇場）
5.18・19	平成17年度第1回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「音であそぶ！～手作り楽器とリズム遊び～」（研修室ほか）
5.28	保育関係者が行う子育て相談研修会「基礎編」第1回（第2回は10月22日に開催。研修室）
6.8・9	平成17年度こどもの城児童厚生員等実技指導講習会パソコン編「児童館でのパソコン遊び」（パソコンルーム）
6.6~12	青山円形劇場＆玉川大学芸術学部提携公演「創作舞踊詩 お春の夢」（青山円形劇場）
6.11	保育関係者が行う子育て相談研修会「応用編」第1回（第2回は9月10日、第3回は平成18年1月14日に開催。研修室）
6.11~28	オーストラリアの絵本展 南半球からのメッセージ（ギャラリー） ※6月18・19日に、オーストラリアの絵本作家、アリソン・レスター、ロン・ブルックスの両氏によるワークショップをフリーホールで開催
6.24・25	第5回子育て支援講習会「最新の小児保健の基礎と実際～心とからだの健康～」（研修室）
6.21~7.7	こども歳時記「七夕」（造形スタジオ）／「天までとどけねがいごと」（プレイホール。7月1～7日）
7.4	こどもの城マタニティコンサート「ピアノデュオ Duetwo（デュエットゥ）安らぎのハーモニー」（青山円形劇場）
7.6~10	こどもの城開館20周年記念「ヴィクトリア」（青山円形劇場）
7.21~8.31	夏休み特別期間「ギラギラたいよう キラキラえがお 家族そろって あそびまつり」 キャッスルスポーツゲームズ～サマーツアー～／素材との出会い展「布と造形2」／あそびまつり ウリバダオ！／世界をあそべ！わんぱくツアー／不思議な映像実験室 絵が動いてみえるおもちゃの展示とワークショップ／つくって遊ぼう親子工房～ファンタスティック・ダンボール・スティック／パソコンであそぼう マジック・ピクチャー／サタデー・ラボラトリーまつり“夏の陣”／ウオーターアドベンチャー2005／F1カー特別展 夢のせて走れ！――など
7.21~8.31	第22回渋谷スタンプラリー（NHKスタジオパーク、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館、UNギャラリー、こどもの城）
7.21~8.31	夏休みこども集中水泳講習会、ガンバ2005、夏休み造形教室（6コース）、親子で作ろう！手作り楽器のワークショップ（8コース）、映像・科学ワークショップ（5コース）、パソコン教室スペシャル～ロボットプログラミング入門、こども1日ドック――さまざまな夏休み短期コースを開講
7.22~24	月猫えほん音楽会2005（青山円形劇場）
7.24~31	APAS「NYMTミュージカルワークショップ」（講師＝マーク・パデントン：演出／トニー・カストロ：音楽） ※青少年向け2コース、指導者向け1コース開催
8.4~7	APAS「リン・リチャーズのダンスワークショップ」（講師＝リン・リチャーズ）※4～6歳、7～10歳、11～16歳対象の3コース
8.4~14	第13回キンダー・フィルム・フェスティバル（青山円形劇場・Bスタジオ）
8.6・7	第19回こどもの城保育セミナー「子どもの育ち・社会の育ち」（研修室）
8.12~16	APAS「パントマイム・ワークショップ」（講師＝上の空はなび、猪俣哲史、上海太郎） ※親子ペア（4~12歳）、中・高校生、一般を対象に4コース
8.19~24	こどもの城児童合唱団合宿（山口県）
8.21	ワークショップ「作って演じる人形劇」（人形制作） ※9月11日に「同」（操演のコツ）
8.26~28	こどもの城開館20周年記念「めざせ王様！チキチキドルッチャランド」（全館）
8.27	こどもの城開館20周年記念「ドルッチャランド マジックアワーパーティー」（ふしぎが丘、ネット広場）
9.4	第36回バンバー大会（プレイホール）
9.17~19	特別プログラム・山中湖ファミリーキャンプ（東京YMCA山中湖センター）
9.27~10.3	こどもの城開館20周年記念「日韓友好年2005」記念 J－Kダンスフェスティバル（青山円形劇場）
10.8~10	サッカーフェスティバル2005（体育室）
10.10~13	ROLLY Glory Rolly（青山円形劇場）
10.12	渋谷消防署管内の自衛消防訓練審査会で、〔こどもの城〕の自衛消防隊女子隊が準優勝

月　日	事　項
10.15・16	青山円形劇場＋ゴーチ・ブラザーズ共同プロデュース公演「胎内」（青山円形劇場）
10.15～11.6	全国児童館おりがみ作品展・おりがみカーニバル（ギャラリー）
10.19～21	平成17年度第2回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「フィールドアドベンチャー～遊びと子どもと“まちづくり”」（研修室）
10.26	こどもの城開館20周年記念「青山太鼓見聞録」（青山劇場）
10.29～11.6	開館記念・ファミリーウイーク特別期間 あそびのおもちゃ箱スペシャル／つくる・あそぶ～わくわくパペットランド／つくって遊ぼう　親子工房2005秋～顔・かお・カオ……この石どんなカオ？／親子のふれあい体操／ファミリーパター／第12回親子体験ワークショップ
11.1	こどもの城開館20周年記念記念シンポジウム「子どもはどこで育つ？」（青山円形劇場）
11.1	プレイホールの「わくわくらんど」がリニューアルオープン
11.4	こどもの城開館20周年記念「赤ちゃん大集合」（全館）
11.4～13	こどもの城開館20周年記念「日本におけるドイツ2005／2006 ドイツのダンス～新しい世代」（青山円形劇場）
11.5・6	こどもの城開館20周年記念「みんなでつくる　ドルッチャタウン」（全館）
11.15～12.18	こどもの城開館20周年記念「ブルーノ・ムナーリ展～もっと豊かに！もっと自由に！」（ギャラリー・造形スタジオ）
11.19～12.18	こどもの城開館20周年記念「ダイアログ・イン・ザ・ダーク　子どものためのワークショップ」（期間中の土・日曜日。フリーホール）
11.28	ビデオライブラリーの全ブースでＤＶＤソフトが視聴可能になる
12.1～26	青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン」（青山円形劇場）
12.11	水泳講座受講生の「水泳記録会」（プール）
12.23～平成18年1.9	冬休み特別期間「元気にあそんで　アッツアツ！」 こども歳時記「クリスマス」「お正月」／ミニクリスマスツリーを作ろう／わいわいスタジオ「クリスマススペシャル」／モータースポーツにチャレンジ／遊んで笑って福あつめ／お正月だよウリパダオ／新春もちつき大会／ミラクルスタジオ／つくろう！飛ぶおもちゃ2　ほか
平成18年1.3～9	第18回こどもの城・キリン・ファミリー・オペレッタ「とびこむ絵本Ⅴ～くるくるグリムのおかしな家」（青山円形劇場）
1.　～2.3	こども歳時記「節分」（造形スタジオ）／節分会大まめまき大会（プレイホール。1月28・29日）
1.26～2.5	こどもの城開館20周年記念「デーモン小暮の邦楽維新 青山本場所」（青山円形劇場）
1.25～27	平成17年度第3回こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「児童館のグループ活動～仲間同士の力をいかすために」（研修室）
2.1～12	保育活動展～こどももよう パートⅢ（ギャラリー）
2.4～3.3	こども歳時記「桃の節句」（造形スタジオ）／みんなでひなまつり（プレイホール。2月25・26日）
2.10～12	こどもの城開館20周年記念「青山円形劇場オブジェクトシアターvol.9 KOUSKY Ⅲ～沢則行meets中西俊博（青山円形劇場）
2.23～3.12	東京・横浜地区のインターナショナルスクールの合同美術展「アートスケープ展2006」（ギャラリー）
3.4・5	大型児童館のボランティアが交流・情報交換する「じょいんアクション2006」
3.7～13	AOYAMA FIRST ACT #7 innerchild vol.11「パンゲア」（青山円形劇場）
3.12	こどもの城映画劇場特別企画「中国の墨絵アニメーション」（Ｂスタジオ）
3.17～19	音楽講座受講生の合同発表会「ぼくらのサウンド2006」（青山円形劇場）
3.18・19	サタデー・ラボラトリーまつり（音楽ロビー）
3.19	新体操発表会「Joyful　2006」（体育室）
3.21	第37回バンバー大会（プレイホール）
3.25～4.5	春休み特別期間「春にわくわく　心ウキウキ」 花よりだんす！ダンスはすんだ？！／スポーツあそびショップＭＯＮＯ／やってみよう！つくってみよう！　アートと造形／空気砲バン☆バン／こどもの城映画劇場「カナダのアニメーション特集」　ほか

2

開館20周年記念事業

開館20周年記念事業

一人ひとりを大切に
遊びがつくるみんなのWA



1．はじめに

平成15年10月に企画研修部から、開館20周年を記念する事業についての提案がなされた。内容は、記念事業を実施するかどうかといった基本的なことであった。5年後の25周年の話題も出たが、開館して20年目にあたる平成17年の実施に向けて、検討していくこととなった。

平成15年3月の事業部課長会（事業部会）では、〔こどもの城〕全体として20周年記念事業を展開するためには、劇場部門や業務部門などとの調整が前提となるが、「こども活動エリア」を担当している事業部としての提案や企画、実施については、事業部課長会が軸となって進めていくことが確認された。一方、事業をつなぐ役割が必要との意見が出され、企画研修部が担当していくこととなった。

スケジュールの作成、記念事業の企画、必要な委員会の設置などについて議題が出されたが、最も重要とされた予算に関しては、基本的には全体予算の中で考えていくこととし、協賛を得るなど積極的な財源の獲得をめざすこととした。

まず、記念事業の全体の趣旨をとおして、改めて〔こどもの城〕のめざすものを確認し、伝えることが必要であった。開設当時のねらいでもある“遊びをとおして子どもたちの健やかな体や豊かな情操を育成していく”ことで、遊びが活動の原動力であることを強調した。さらに、現在の社会状況を見ると、子どもを取り巻く環境が厳しくなってきているだけに、個の力、個と個を結ぶ力を養うことが大切ではないかとの意見もあり、“こどもの城は多彩な子ども、家族が集まる交流の場であり、多くの人々、活動の中で子どもがしなやかでたくましい個として成長し、仲間と輪になったときも集団としての輝きを放つことができるように支援する”ことを加え、全体の活動に反映させた。

趣旨にあわせて、標語を作ることとした。標語は趣旨を端的に表現するために必要であった。職員に対して公募をし、事業部課長会で検討のうえ決定した。標語は「一人ひとりを大切に　遊びがつくるみんなのWA」である。

開館20周年記念事業を行う期間は、平成17年4月から18年3月までの1年間。11月1日の開館記念日を強調する意味で、青山円形劇場を使用して実施する、開館20周年記念シンポジウム「子どもはどこで育つ？」を中心に置き、10月29日～11月6日を「開館記念・ファミリーウイーク特別期間」とした。

最初の20周年記念事業は、夏休み後半の8月26～28日に開催された「めざせ王様!!　チキチキドルッチャランド」と「ドルッチャランドマジックアワーパーティー」（8月27日）である。早い時期に企画が出されていた「ブルーノ・ムナーリ展」（11月15日～12月18日）、「ダイアログ・イン・ザ・ダーク～子どものためのワークショップ～」（11月19日～12月18日の土・日曜日）の2つは11月から12月にかけて、それぞれ約1か月間実施することができた。劇場部門では、「青山太鼓見聞録」（青山劇場／10月26日）、「ヴィクトリア」（青山円形劇場／7月6～10日）などの自主公演を記念公演として実施した（131～144ページ「劇場事業本部」の項参照）。

20周年記念事業を実施するにあたって、各事業部門が協力して全館事業に取り組み、事業を成功させることが目的の一つになっていた。〔こどもの城〕では、それぞれの部門が、独自に事業を進めていくことが多く、部門間の交流をとおして新しい企画を考えていく必要があった。

各部門から選ばれたプロジェクトメンバーによって作業部会が構成され、実施に向けて精力的な話し合いが進められた。最終的に「めざせ王様!!　チキチキドルッチャランド」「ドルッチャランドマジックアワーパーティー」「みんな

でつくる ドルッチャタウン」(11月5・6日) の3つの事業を実施。多くの人たちが参加してくれた。

2. 開館20周年記念事業

(ア) めざせ王様 !! チキチキドルッチャランド

8月26~28日／体育室ほか全館

作業部会が担当する事業の1つとして、〔こどもの城〕全館を使った遊びのプログラム「めざせ王様!! チキチキドルッチャランド」を夏休み特別期間中の3日間実施した。作業部会のテーマ“人・つながり・コミュニティー”を基本に、20年間にわたってつちかってきた各部門のノウハウを生かしたプログラムの実施と、開館20周年の周知をはかった。“ドルッチャ”というのは、“チャイルド”のアナグラム。

〔こどもの城〕全体を“ドルッチャランド”という遊びの国としたもので、出店されている“遊びのショップ (遊びのプログラム)”をめぐってポイントを集めていくと、市民 → 騎士 → 大臣と位が上がり、最後に“あそびの王様”をめざす設定とした。

“遊びのショップ”は、作業部会のテーマを取り入れてもらい、メイン会場 (体育室) に6店、館内各所に9店が出店した。さらに、1日2回体育室で“ドルッチャランド”の祭典「ドルッチャフェスティバル」を開催した。親子、初めて出会った子ども同士、スタッフ・ボランティアと来館児・者など、さまざまな“つながり”を見ることができた。

“遊びのショップ”の内容も、ゲームやラリー、クラフト、言葉遊びなどバラエティーに富んでいて、子どもたちも年齢やそれぞれの興味に合わせて、自分にあった“遊びのショップ”に参加することができた。一方、全館を使ったため、メイン会場と館内の“遊びのショップ”との一体感が弱くなってしまった部分があり、今後の課題とされる。

(株) ネスレ日本の協賛で、入国証とした参加カードやスタッフそろいのTシャツなどを作ることができた。大規模な催しを行う際、外部からの協賛は欠かせない手段と感じた。

(イ) ドルッチャランド マジックアワーパーティー

8月27日／ふしぎが丘

「めざせ王様!! チキチキドルッチャランド」のプログラムの1つとして、“夜祭り”というモチーフに見合った遊びを展開した。開催時間は、特別に夕方5時から閉館後の8時まで。開館20周年を迎えることを周知し、地域の児



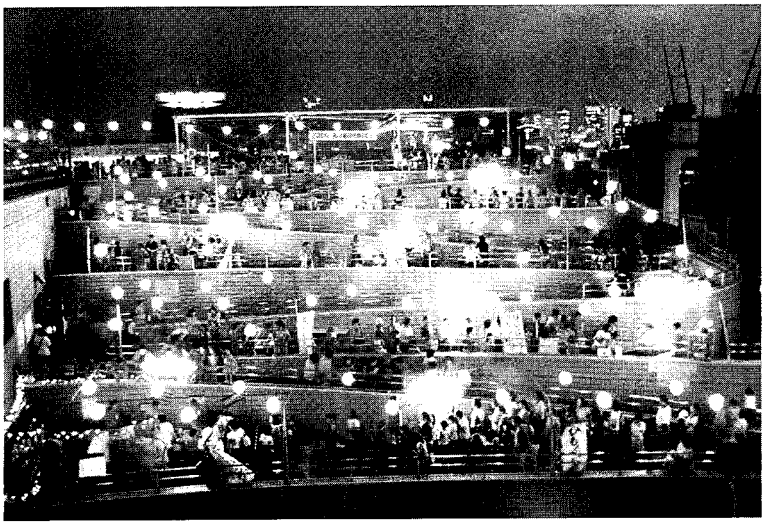
めざせ王様 !! チキチキドルッチャランド (体育室)



めざせ王様 !! チキチキドルッチャランド (プレイホール)



めざせ王様 !! チキチキドルッチャランド「ドルッチャフェスティバル」(体育室)





ドルッチャランド～マジックアワーパーティー

童館としての〔こどもの城〕をこれまで支えてくださった、近隣の方々への感謝を表す意味もあった。

内容は、大きく分けて「遊びの屋台」「飲食店」「イベント」の3つ。「遊びの屋台」は9店。射的や輪投げ、ひもくじなどのオーソドックスなものから、ボランティアが考えたユニークなゲーム店（紙を使った型抜きやわんこそばゲーム）も登場し、〔こどもの城〕ならではの屋台となった。「飲食店」では、6種類の食べ物と4種類の飲み物を用意。焼きそばや焼き鳥、あげパンなどがたいへんな人気で開店からあっという間に完売となった。「イベント」は、ネット広場の中で“見て楽しめる”“来場者の誰もが楽しめる”をコンセプトに、ほ乳ビンの早飲み、ジャンケンなどのゲーム、サンバやジャグリングなどの公演プログラムを企画・運営した。

そのほかにも、「星空シアター」と題して、日没後にふしぎが丘の向かいにスクリーンを設置して屋外映画会を実施したり、来場時にサイリウムのブレスレットを無料で配布した。3時間という短い時間の中で800人を超す来場者があり、運営スタッフが対応に窮する場面もあったが、子どもたちだけでなく大人も含めて〔こどもの城〕の夜を楽しむ催しとなった。

また、実施の挨拶や物品の調達などで地域の方々と接する場面もあり、さまざまなコミュニティーと〔こどもの城〕とのつながりを再認識する結果となった。

（ウ）開館20周年記念シンポジウム

11月1日／青山円形劇場

11月1日の〔こどもの城〕開館記念日に、青山円形劇場で開館20周年記念シンポジウム「子どもはどこで育つ？」を開催した。子どもが“個”として育つ上で、家族の力や影響力は無視できないものがある。一方、社会環境の変化は、家族の外側にも子育ての環境を広げている。家族と子育て、子育ての新たな支えあいと連携に視点をあて、子どもたちが幸せに育ち、自らの力を伸ばしていくために親や



20周年記念シンポジウム
「子どもはどこで育つ？」
※パネリストは左から、菅原ますみさん（お茶の水女子大学助教授）、川原圭敬さん（映画監督）、久田邦明さん（神奈川大学講師）、神崎ゆう子さん（歌手）。司会は、好本恵さん（アナウンサー）。

指導者は何をしたらよいかについて意見交換がなされた。

4人のパネリストが、それぞれの立場から“子育ての力”について講演。NHKテレビの歌のおねえさんとして活躍した歌手の神崎ゆう子さんは、子どもの自立を目標にゆとりを持って子育てをする大切さを、青少年教育を専門としている神奈川大学講師の久田邦明さんは、子どもの居場所としての“地域の茶の間”などの実践活動について、映画監督の川原圭敬さんは、親を演じている自分、わが子をカメラをとおして見ていることについて、お茶の水女子大学助教授の菅原ますみさんは、発達心理の専門家として発達にそった親の役割についてデータを提示してくれた。

今回のシンポジウムでは劇場の演出効果を利用して、子どもの生活環境をパントマイムで表現し、テーマをイメージ化する試みをした。

（エ）赤ちゃん大集合

11月4日／館内各所

平成3年から始まった「赤ちゃんサロン」は、今日、〔こどもの城〕の子育て支援事業を代表するプログラムとなっている。“乳幼児と母親の交流をはかるための催し”の先駆となったもので、特に母親同士の交流の場に、医師、保健師、臨床心理士、管理栄養士などの専門スタッフが加わっていくという手法は〔こどもの城〕ならではのものであった。

赤ちゃん大集合「小児科医師の子育てトーク」



平成6年の「国際家族年」を契機に、「赤ちゃんサロン」拡大版である「赤ちゃん大集合」を年1回、〔こどもの城〕全館をあげて行っている。

開館20周年記念事業とした本年度は、9階研修室の「赤ちゃんサロンスペシャル」のほかに、体育室で年齢に応じた体操プログラム「ごろごろ ハイハイ」「たっちたっち タッタッタッ」などを行ったほか、月齢にかかわらず参加できる人形劇やパネルシアターのプログラム「にこにこ広場」「あそんでバブリン」(音楽ロビー)、楽しいコンサート「うたってバブリン」(音楽ロビー)、保育と体育スタッフによるプログラムや、ボランティアによるのんびりできるスペース「みんなであそぼう！ にこにこパーク」(研修室)、「It's

【「赤ちゃん大集合」プログラム】(表18)

時間	9階研修室	8階研修室	8階研修室	4階音楽ロビー	4階ビデオライブラリー	地下2階体育室
10:00						
10:30	赤ちゃんサロンスペシャル	みんなであそぼう！ にこにこパーク (10:30～15:00)				ごろごろハイハイ (10:30～11:00)
11:00						
11:30	お昼休憩 (11:30～12:30)		育児用品の展示・情報コーナー (11:30～15:30)			たっちたっち タッタッタッ (11:10～11:40)
12:00						
12:30					ビデオどうぶつえん (12:30～17:30)	
13:00	小児科医師の子育てトーク(13:00～14:00)					
13:30						てくてくピョンピョン (13:30～14:00)
14:00				にこにこ広場スペシャル (14:00～14:30)		
14:30				うたってバブリン (14:30～15:00)		It's a ベビーワールド (14:10～14:40)
15:00	(10:30～15:00)			あそんでバブリン (15:00～15:30)		
15:30						
16:00						
16:30						
17:00						
17:30						

ａ ベビーワールド」(体育室)、ベビー用品や育児用品を紹介する「情報コーナー」(研修室) など、幅広い内容の構成となった。

〔こどもの城〕のほぼ全館を使い、どの時間帯に来館しても参加できるように、プログラム構成も細かい配慮をした。４００組近い親子が集まると、さすがににぎやかで、ベビーカーでの移動や休憩場所など、参加者に不便をかけた点もあった。「赤ちゃん大集合」が〔こどもの城〕にとって特別な１日で終わることなく、この１日のノウハウをこれからの事業のなかに生かしたいと考えている。

(オ) みんなでつくる　ドルッチャタウン

11月5・6日／館内各所

「みんなでつくる ドルッチャタウン」は、“人･つながり･コミュニティー”を基本としながら、“子どもたちから子どもたちへ”をねらいにあげ、講座生など参加を希望した子どもたち（ドルッチャタウン・プロジェクトのメンバー）から来館児・者へ発信するプログラムとして実施した。子どもたちが積極的に遊びを作り、その遊びを通じて子ども同士の交流の促進や社会活動参加へのきっかけを作り、また子どもが主体的に参画する活動の価値を、来館した子どもたちや家族に感じてもらう機会となるように考えた。

具体的には、子どもたちがイメージしやすいように“ドルッチャタウン”という架空の街、“＄ッチャ（ドルッチャ)”という紙幣や銀行を設定し、プロジェクトメンバーは遊びの店を出店した。当日来館した子どもたちは、銀行で受け取った“＄ッチャ”を使って、遊びの店で遊ぶことができるというものにした。

プロジェクトメンバーへの参加については、より魅力的な“タウン”となるように、講座生だけでなく、事前に一般募集をして店を準備する“あそびつくり隊”や「こどもの城友の会」の家族会員に呼びかけた「昔ばなしハウス」の出店など、３つの参加形態をとり、３歳の親子から高校生まで、幅広い年齢層が参加するプログラムにすることができた（講座生：20店、一般：4店、友の会：1店、スタ

赤ちゃん大集合「あそんでバブリン」





みんなでつくる ドルッチャタウン（講座生が新体操の体験指導）



同（L. I. T. のクイズ大会）



同（こどもの城の城友の会会員の「昔ばなしハウス」）



同（講座生が三味線体験の指導）

ッフ＋ボランティア：3店)。

当日はゲームやクラフトなどだけでなく、参加型のコンサートやスポーツ広場、広告代理店や喫茶店などが登場し、“遊びのお店”を介して知らない子同士が話をしたり、力を合わせてゲームに取り組んだりする姿も見られ、〔こどもの城〕らしい催しとなった。

(カ) ブルーノ・ムナーリ展 ～もっと豊かに！もっと自由に！～

11月15日～12月18日／ギャラリー・造形スタジオ

開館20周年を迎え、再びブルーノ・ムナーリの活動を取り上げたのは、ムナーリ作品がアート原理を明確にビジュアル化し、ムナーリの仕事からは視覚言語の明快な解釈を読み取ることができ、さまざまなジャンルが交錯する21世紀の社会の中で、今それを確認する必要があると考えるからである。彼のユーモアあふれる造形表現や発想と出会う時、私たちは芸術が身近なものであり、日々の心と生活を“もっと豊かに、もっと自由に”転換させる可能性を秘めていることに気づき、世界中が混迷しているといわれている時代にあって、この展覧会が、人間形成にとって必要不可欠なものが何であるかを考えるきっかけになればと考え企画した。

今回の展覧会は、ギャラリーにグラフィックアート、オブジェ、プロダクトデザイン、子どものための遊具、絵本などを展示し、その視覚言語の意味を作品とともにパネルで紹介した。会場は、ムナーリの絵本「暗い夜に」に登場する洞窟を門のように仕立てて配置し、来館児・者が作品を鑑賞することが、すなわちムナーリの絵本の中に入り込んで洞窟を探索するという構成にした。



ブルーノ・ムナーリ展（造形スタジオ）

会期中は全日、造形スタジオでムナーリが考案した遊具の体験や造形ワークショップを実施した。子どもだけでなく、児童館や美術・造形の指導者など、多くの大人も作品を鑑賞し、子どもたちの活動を楽しんでいた。

(キ) ダイアログ・イン・ザ・ダーク ～子どものためのワークショップ～

11月19日～12月18日の土・日曜日／フリーホール

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、ドイツで生まれた「自分の手も見えない真っ暗のなかで、視覚障害者の案内を受け、日常生活のさまざまなシーンを体験するワークショップ」である。

日常生活では視覚に頼って生活している人間にとって、視覚が使えなくなることで、本来持っている嗅覚・触覚などさまざまな五感を感じることができる。暗闇に対する不安が、一緒に入っているグループのメンバーとのコミュニケーションを促進する。そして、視覚障害者の持つ能力に気付き、お互いを理解することができる。こうした、ダイアログ・イン・ザ・ダークの特徴が、子どもたちの個の力と社会性をはぐくむという〔こどもの城〕の目標と重なる部分が多いため、20周年記念事業として取り組んだ。

より多くの子どもたちに参加してもらいたいと考えたが安全管理上、1回につき6人が限界であり、1日5回、合計10日間で300人の子どもたちに体験してもらった。参加方法は、事前申し込み制にしたが、定員の2倍近い応募があり、抽選を行った。

暗闇の中での活動は非公開にしているため、具体的に記述できないが、何かに触れるなど積極的に五感を感じてもらう活動、日常生活の一場面で子ども自身が一人で問題解決をしていくもの、グループ全体で問題解決をしていくものなどを実施した。子どもたちは「最初は不安だったが、とてもおもしろかった」「目の見えないことは不自由だけど、豊かな世界だった」と感想を述べていた。

こどもの城開館20周年記念事業一覧表

名　称	日　時	場　所
めざせ王様!! チキチキドルッチャランド	8.26～28	体育室ほか全館
ドルッチャランド　マジックアワーパーティー	8.27	ふしぎが丘
開館20周年記念シンポジウム	11.1	青山円形劇場
赤ちゃん大集合	11.4	館内各所
みんなでつくる　ドルッチャタウン	11.5・6	〃
ブルーノ・ムナーリ展～もっと豊かに！もっと自由に！	11.15～12.18	ギャラリー、造形スタジオ
ダイアログ・イン・ザ・ダーク～子どもたちのためのワークショップ	11.19～12.18の土・日曜日	フリーホール
《青山劇場・青山円形劇場公演》 青山太鼓見聞録	10.26	青山劇場
Aoyama First Act #6 KAKUTA「南国プールの熱い砂」	5.11～15	青山円形劇場
ヴィクトリア　supported by ケフィア倶楽部	7.6～10	〃
「日韓友情年2005」記念　K－Jダンスフェスティバル ◇日韓ダンスコンタクト～日韓の若い才能たちの出会い～ ◇コリアンダンスミュージアム～日韓ダンス交流と韓国ダンスのいま～	 9.27・29 10.1・3	 〃 〃
ROLLY Glory Rolly ～進化するローリー、退化するロウリー、変化するRolly～	10.10～13	〃
青山円形劇場+ゴーチ・ブラザーズ共同プロデュース公演「胎内」	10.20～30	〃
日本におけるドイツ2005／2006 「ドイツのダンス～新しい世代」～多様と多面そして変容～ ◇Aプログラム「バック・トゥー・ザ・プレゼント」 ◇Bプログラム「自分のこだわり」 ◇Cプログラム「モノ？サブジェクツ」	 11.4～6 11.9・10 11.12・13	 〃 〃 〃
青山円形劇場プロデュース「ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン」	12.1～11、13～26	〃
こどもの城キリン・ファミリーオペレッタ 「とびこむ絵本Ⅴ～くるくるグリムのおかしな家～」	H18.1.3～9	〃
デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration 青山本場所 ◇絢爛の巻 ◇開国の巻 ◇風狂の巻	 1.27～29 1.31～2.1 2.3～5	 〃 〃 〃
青山円形劇場オブジェクトシアターvol.9「KOUSKY Ⅲ」 ～「モノ」と「ヒト」と「オト」の不思議空間～沢則行 Meets 中西俊博	2.10～12	〃
中西俊博　Leeping Bow　2006～音の実験室～	3.3・4	〃
Aoyama First Act #7 innerchild「PANGEA（パンゲア）」	3.7～13	〃

3

各部の事業

体育事業部



平成17年度の活動

1．はじめに

活動は、講座・クラブの運営と一般来館児・者向けの活動に大きく分けられる。平日は講座・クラブを中心に運営している。土・日曜日、祝日は一般来館児・者向けに体育室でスポーツ遊びのプログラムを実施したり、プールの開放を行っている。

〔こどもの城〕を利用する子どもたちに、いかに運動を体験させ、体を動かす楽しさを知らせるかが、体育部門の使命と考えている。楽しみながら体力向上をはかる場である。

25m×5コースの温水プール、小さめのバスケットボールコート1面分の体育室がある。子どもたちの遊びが、かなり変わってきているといわれているが、体育室で見る子どもたちの表情は、今もかわらずに輝いている。

（ア）一般利用

特別期間（児童福祉週間＝ゴールデンウイーク、夏休み、冬休み、春休み）のプログラムは、年間をとおしたテーマの連続性を大切にして、「キャッスルスポーツゲームズ」「モータースポーツにチャレンジ」の大テーマのもとで、さまざまなプログラムを実施した。

（イ）講座・クラブなど

水泳講座の受講生を対象に、毎年行っている「水泳記録会」。本年度は、156人が参加。記録会にあわせて「水中うんどう会」を行った。

「水中うんどう会」は、子どもたちみんなに、水をもっともっと楽しく感じてもらいたいという願いから開催したもので、泳げる・泳げないに関係なく、水とどれだけ“たわむれられるか”がキーポイント。陸上と違った感覚のなかで、自分の体をどのようにコントロールすればよいのか、“泳ぐ”とは別の視点でプールでの活動をとらえてもらった。

低学年プログラム「滑って転んでボールへジャンプ！」は、水上に敷いたブルーシートの上を走っていって、つり下げられたボールを取るというもの。チームごとにいくつのボールが取れたかを競った。水の上を走るという、不思議な感覚を体験した。

高学年は「一寸法師で猛ダッシュ！」。フロートに乗って、プールの上に張られたロープをつたいながら、対岸まで横断するもの。チーム全員が渡りきるまでの時間を競った。バランスが取りにくいフロートの上で、自分の体とフロートの両方を操らなければならないため、みんな苦労していた。

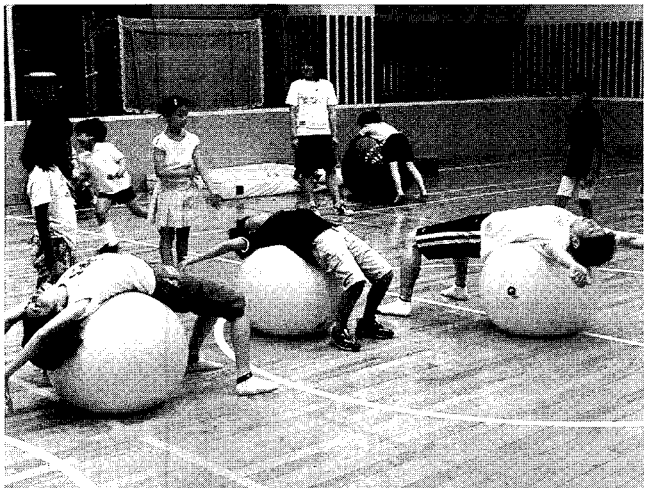
記録会とはまったく違った雰囲気のなかで、水中うんどう会は行われた。ふだんの講座では耳にしたことがない子どもたちの歓声が、プール全体に響き渡っていたことからもうかがえるように、“泳ぐ”とは別の感覚でプールや水をとらえてほしいという願いは通じたと思う。

2．スポーツ遊びプログラム

（ア）キャッスルスポーツゲームズ

ドイツで行われた『ワールドゲームズ』にちなみ、年間テーマを「キャッスルスポーツゲームズ」にした。『ワールドゲームズ』とは、オリンピック競技に採用されていないスポーツ競技のトップアスリートによる国際的な総合スポーツ大会。4年ごとに開催されている。

ビッグサタデー（体操アラカルト）



サッカーフェスティバル2005



最近は、鬼ごっこなどの伝承遊びを題材にスポーツ遊びを行うことが多かったが、本年度はスポーツ競技に注目し、しかもメジャーなスポーツだけでなく、マイナーなスポーツ競技にも挑戦した。

世界的には人気スポーツであるが、日本ではなじみのうすい“クリケット”や“タグラグビー”“ダブルダッチ”なども取り上げた。

平成17年の春休み特別期間に「開幕戦」を行い、児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間が「チャレンジウイーク」、夏休み特別期間が「サマーツアー」、冬休み特別期間が「チャンピオンズリーグ」と、年間をとおしたプログラム。1年を通じて参加してくれた子どもには、〔こどもの城〕のキャラクター、マックローがスポーツをしている写真付きのスポーツカードをプレゼントした。さらに、スポーツカードを8種類集めると、特製のカードホルダーをプレゼントするなど、繰り返し参加する子どもにも楽しめる特典を作って、1年間の流れを途切れさせないようにした。

それぞれのスポーツ競技を体育室で楽しめるようにアレンジしたが、それでも十分に競技がもつ楽しさを伝えることができたと思う。今後もさまざまな競技に挑戦していきたい。

（イ）モータースポーツにチャレンジ

児童福祉週間（ゴールデンウイーク）と冬休みの特別期間に、本田技研工業（株）の協力のもとで、組み立て式の電動ミニバイク（ドリームキッズバイク）を使用し、「モータースポーツにチャレンジ」を行った。“バイクを組み立てて乗ってみよう！”というテーマで、自転車に乗れる小学生以上を対象に実施した。

第1弾の児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間は、実際にバイクを組み立てて乗ることを目的にした。集まった子どもたちのほとんどは、モータースポーツを体験することは初めて。組み立てや実際にバイクを運転する活動をとおして、初めてのことに挑戦する気持ち、体験するおもしろさを感じ取っていたようだ。

第2弾は冬休み特別期間。チームで協力して組み立て作業をすることを目的にした。役割分担によって、一人ひとりがピット作業（解体・組み立て）を確実に、そして迅速に行い、走行時間とあわせた総合時間を競う「ピットインレース」。走行スピードを競うレースではなかったが、各チームとも協力しあい、一体となってレースに取り組んでいた。

バイクという、子どもにはなじみのうすい“道具”を使ってスポーツ感覚を磨く新しい試みのプログラムだったが、意図したことは子どもたちに十分伝わったのではないかと思う。今後も、検討を加えながら、定期的にこのような活動も取り入れて、〔こどもの城〕ならではのスポーツ遊びのプログラムを提供していければと思う。

3. まとめ

開館20周年を迎え、体育部門では活動の柱である、講座・クラブ・講習会を、従来どおりの運営で、“変わらないことのよさ”を主張している。しかし、世の中の変化は大きく、子どもたちのものの考え方も変わってきている。学校週5日制の影響から遅い時間帯の講座に受講生が集中したり、火曜日の受講生の減少が目立つ一方で、親子を対象とした講座の応募人数が年々増加するなど、講座のあり方全体を見直す時期にきていることも事実である。

一般来館児・者向けの活動では、今までさまざまなテーマを設定して、子どもの体力作りを行ってきた。これからも遊びを大事にしたスポーツ遊びのプログラムを提供していくように努力したい。

平成17年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
プール一般利用	土曜日　13:30～16:00 日曜日・祝日 10:30～17:00	土・日曜日、祝日にそれぞれの時間帯で一般利用。18歳以上300円、小1～17歳200円、幼児100円。レンタル（タオル・水着）各200円。幼児は保護者が1対1で付き添って利用。（プール）
体育室一般利用 レクリエーションゲーム ドッジボール 卓球 ウオールサッカー ユニホック	各月 第1日曜日と前日の土曜日 第2日曜日と前日の土曜日 第3日曜日と前日の土曜日 第4日曜日と前日の土曜日 第5日曜日と前日の土曜日	週ごとに内容を替えて行っている。卓球の週は終日卓球の自由利用（混み合う場合は各グループ20分交代で利用）。他の種目は、日曜日は14：00と16：00の2回、土曜日は14：00に練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフライングディスクの的当てとフリースローイングを行っている。利用時間は土曜日が13：30～16：00、日曜日が10：00～17：00。土・日曜日と重ならない祝日は、鬼ごっこを行った。（体育室）
体力測定	土・日曜日、祝日	7種目9項目の体力測定を行っている。4歳児くらいから大人までが利用でき、男女別に全国平均値と比べることができる。利用料は1回100円。土曜日＝14：00、15：00、日曜日＝11：00、13：00、14：00、15：00、16：00。（健康開発室）
ビッグサタデー	土曜日　10:30～11:45	学校週5日制に対応して、平成14年度から始めた小学校4年生以上を対象としたプログラム。サッカー、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、体操などの種目を2か月交代で取り上げ、技術や戦法、ルールなどを指導。ゲーム（試合）の楽しさ、おもしろさを体験できるようにした。（体育室）
ファミリーアドベンチャー	5.29 8.7 H18.3.12	身の回りにあるいろいろな“冒険”を家族で楽しむ野外プログラム。参加家族がふれあいながら、不思議の発見、新鮮な出会いなど、ちょっとした“冒険”にチャレンジした。参加費1,000～2,500円（1人）。 □5月29日＝パークアドベンチャー～なつかしのザリガニ釣りに挑戦（水元公園＝東京都） □8月7日＝川遊びアドベンチャー～思いっきり川遊び（伊奈キャンプ場＝東京都） □平成18年3月12日＝パークアドベンチャー～春はすぐそこに（柏の葉公園＝千葉県）
サッカーフェスティバル2005	10.8・9 キックターゲット大会 10:30～11:45 サッカークリニック 13:00～14:00 14:10～15:30 16:00～17:20 10.10（ウオールサッカー大会） 練習　10:30～11:30 大会　13:00～17:00	8・9日は、Jリーグの FC東京のスタッフがサッカークリニックを開催。プロのコーチがさまざまなテクニックを指導した。10日は、〔こどもの城〕独自ルールのウオールサッカー大会を開催した。（体育室）
第18回水泳記録会	12.11　13:00～16:00	水泳講座受講者がエントリー（1人2種目＝1,000円）を行い、年齢別、男女別で記録に挑戦。幼児2種目、小・中学生12種目。幼児13人、小・中学生143人参加。水中うんどう会も行った。（プール）
親子DEぱちゃぱちゃ	12.11　10:00～11:30	「親子水泳」「ぱちゃぱちゃファミリースイム」のコースが人気を集めている。受講希望者が多く、キャンセル待ちをしている人も多い。ウエイティングしている家族を対象に、一日体験コースを行った。1・2歳親子50組が参加。（プール）
第18回新体操発表会	H18.3.19 13:30～15:30	「ジュニア新体操」「シニア新体操」の受講生による発表会。1年間の成果を発揮し、家族の前で演技を発表した。今年のテーマは「Joyful 2006」。55人参加。（体育室）

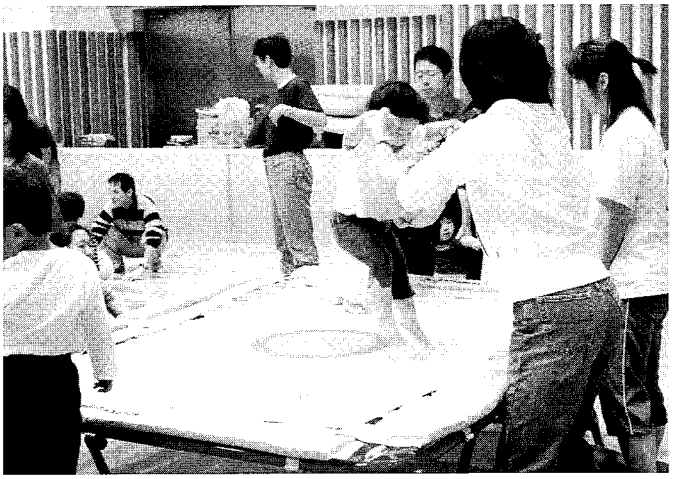
〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 キャッスルスポーツゲームズ～チャレンジウイーク～モータースポーツにチャレンジ	4.29～5.1 10:30～11:30 13:30～14:30 15:30～16:30	組み立て式の電動ミニバイクを組み立て、ヘルメット・グローブ・ガードを身につけてサーキットコースになった体育室を周回。自転車に乗れる小学生以上が対象。参加費100円(保険代)。協力：本田技研工業(株)　(体育室)
〈 〃 〉 〃 体操アラカルト	5.3～5　14:00～15:00 16:00～17:00	器械体操、徒手体操、組体操――Gボールを利用した体操も含めて、体をたくみに使うさまざまな体操に挑戦した。　(体育室)
〈 〃 〉 ターゲット×ターゲット	4.29～5.1、3～5 10:00～17:00	ダーツなど“的にあてるスポーツ”をアレンジしたミニゲームを楽しんだ。　(健康開発室)
〈夏休み〉 体験！ライフセービング～安全な水遊びをするために	7.18　10:30～12:00	海・プールなどでの安全についての講習。溺れている人への対処法、着衣水泳を行う。対象は小学生以上。参加費500円。協力：ライフセービング協会。　(プール)
〈 〃 〉 キャッスルスポーツゲームズ～サマーツアー～	7.21～8.5、8～12、 15～23、29～31 14:00～15:00 16:00～17:00	チャレンGボール、フライングディスク、サッカー、野球、タグラグビー、カバティ、ハンドボール、バスケットボール、バレーボール、つなひき、相撲、ユニホック、体操アラカルト、ドッジボールなど、いろいろなスポーツに日替わりで挑戦した。ブーメラン協会、クロケット協会の協力で、ブーメランとクロケットも行った。　(体育室)
〈 〃 〉 フリースタイルなわとび	8.6・7　14:00～15:00 16:00～17:00	ロープスキッピング日本チャンピオンの粕尾将一さんの指導で、短なわ、大なわ、ダブルダッチ（2本なわとび）に挑戦した。　(体育室)
〈 〃 〉 トランポリン	8.13・14 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00	毎年行っている人気プログラム。競技用トランポリンを使用して、技の習得をした。(体育室)
〈 〃 〉 パタ・パタ・パター	8.24・25 10:00～12:00 13:30～17:00	9ホールのパットゴルフ場を作り、仲間や家族とパットゴルフを楽しんだ。　(体育室)
〈 〃 〉 体力“からだ”測定	7.21～8.31 11:00／13:30／ 14:30／15:30／ 16:30	通常の体力測定に加え、骨振動計で推定骨量と血圧を測定した。母親の参加が目立った。協賛：ネスレ日本(株)。　(健康開発室)
〈 〃 〉 ちびっこプール	7.21～8.31 10:30～16:30	屋上に仮設プール（13.6×5m、水深60ｃm）を設置、一般利用。利用料200円、レンタル（タオル・水着）各200円。　(屋上プール)



キャッスルスポーツゲームズ（組体操）

名　称	日　時	内　容
〈開館記念〉 親子であそぼう～サッカー・体操	10.29・30、11.3 14:00～15:00	「ファミリーウイーク」にちなんで、親子で手をつないだままサッカーをしたり、子どもが親の体をアスレチックがわりに登ったり、親子で楽しめるスポーツ遊びを行った。（体育室）
〈　〃　〉 1・2歳児親子体操～1・2ジャンプ	10.30　10:30～11:30	1・2歳の親子を対象にしたプログラム。年齢に応じて親子でふれあいを楽しめる体操を紹介した。（体育室）
〈　〃　〉 2・3歳児親子体操～2・3スキップ	11.3　10:30～11:30	2・3歳の親子を対象にしたプログラム。年齢に応じて親子でふれあいを楽しめる体操を紹介した。（体育室）
〈冬休み〉 キャッスルスポーツゲームズ～チャレンジウイークⅡ～モータースポーツにチャレンジ	12.23～27 10:30～11:30 13:30～14:30 15:30～16:30	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間に続く第2弾。体育室のサーキット場に信号機を設置。チームで協力して組み立て作業をすることを目的とした。また、運転するときのアクセルワークなどもしっかり練習した。参加費100円（保険代）。協力：本田技研工業（株）。（体育室）
〈　〃　〉 　〃　チャンピオンズリーグ	H18.1.3～9 14:00～15:00 16:00～17:00	「キャッスルスポーツゲーム」の総まとめ。本年度行ってきたスポーツに挑戦。それぞれのゲームでチャンピオンを決めた。チャンピオンチームには、スポーツカードやチャンピオンカードをプレゼント。（体育室）
〈春休み〉 スポーツあそびショップ　MONO	3.25～4.5 14:00～15:00 16:00～17:00	身近にある“もの（MONO）”――新聞紙、タオル、ビニール袋など――を使って体を動かすスポーツ遊びを行った。広げた新聞紙をおなかにあてて、手を離して落とさないように走る「腹巻きダッシュ」などを行った。（体育室）
体力測定	特別期間中 （児童福祉週間特別期間を除く）	健康開発室で7種目9項目の体力測定。男女別に全国平均値と比べることができる。利用料1回100円。（健康開発室）
プール　一般利用	〃	10：30～12：00、13：30～17：00に一般利用（プログラムにより変更あり）。有料。（プール）



1・2歳児親子体操～1・2ジャンプ



スポーツあそびショップ　MONO（タオル）

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名称	対象・定員	受講数	日時	内容
親子水泳 A	(組) 1・2歳児と親 (30)	(組) ① 35 ② 35 ③ 30	水曜日 10:00～11:00	親と子を対象とした水泳コース。土曜日のコースは父親の参加が多い。父親が参加することで、よりダイナミックな動きができる。 受講料＝1・2期各27,000円、3期17,000円。
〃 B	〃	① 34 ② 35 ③ 30	土曜日 10:00～11:00	
幼児水泳 A	(人) 3・4歳児 (50)	(人) ① 22 ② 14 ③ 23	木曜日 14:00～15:00	単に泳法の修得だけでなく、陸上と同じように水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をとおして、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身につける。クラスの人数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1・2期各21,000円、3期14,000円。
〃 B	4・5歳児 (60)	① 30 ② 38 ③ 19	木曜日 15:00～16:00	
〃 C	〃	① 19 ② 32 ③ 30	金曜日 14:30～15:30	
〃 D	3～5歳児 (50)	① 49 ② 50 ③ 50	火曜日 14:30～15:30	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行っている。クロールなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導を行っている。6段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。 受講料＝1・2期各21,000円、3期14,000円。
〃 E	〃	① 40 ② 37 ③ 25	水曜日 13:30～14:30	
幼児体育 A	3・4歳児 (40)	① 33 ② 31 ③ 31	水曜日 14:30～15:30	たくさんの友だちと一緒に思いきり体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しく動きながら健康な体や運動の基礎を作る。
〃 B	4・5歳児 (40)	① 16 ② 21 ③ 21	火曜日 15:00～16:00	「幼児体育A」を土台にして、それを発展させながらさまざまな運動を体験し体の使い方を学んでいく。 受講料＝1・2期各19,000円、3期13,000円。
〃 C	〃	① 21 ② 17 ③ 19	木曜日 15:00～16:00	

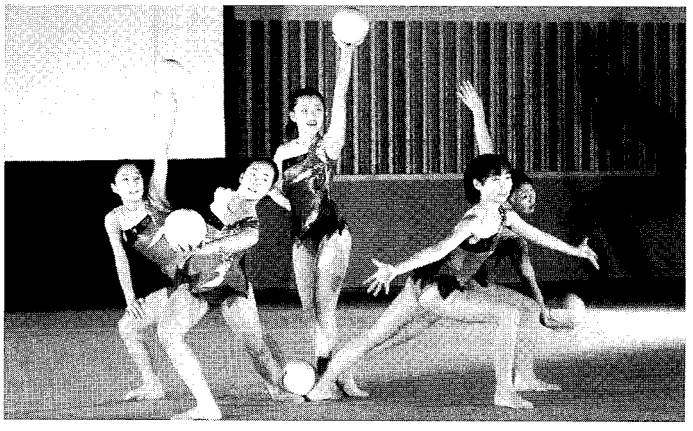


第18回水泳記録会（水中うんどう会）

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
小学生水泳　A	(人) 小1～6 (60)	(人) ① 55 ② 43 ③ 36	水曜日 14:30～15:30	生涯楽しめるスポーツ“水泳”を基礎から学び、4泳法をマスター。「シニア・スイミング」へのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施（10級～1級）。次への目標としている。 受講料＝1・2期各21,000円、3期14,000円。 10級　顔つけ　もぐり　息こらえ　ボビング　水なれ 9級　伏し浮き　背浮き　板キック　ボディーイメージ1 8級　伏し浮きキック　背浮きキック　ボディーイメージ2 7級　ノーブレクロール　バックキック　ボディーイメージ3 6級　クロール・バック（12.5）　ブレスト・バタフライ（キック） 5級　クロール・バック（25）　ブレスト・バタフライ（リズム） 4級　クロール・バック（50）　ブレスト・バタフライ（呼吸） 3級　クロール・ブレスト（タイム）　個人メドレー 2級　個人メドレー（100）（タイム） 1級　個人メドレー（200）（タイム） ※バランス良く発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」の2講座の受講ができる。 受講料＝1・2期各25,000円、3期17,000円（2コース合計）。
〃　B	〃	① 16 ② 17 ③ 14	火曜日 15:30～16:30	
〃　C	〃	① 52 ② 58 ③ 54	水曜日　〃	
〃　D	〃	① 50 ② 43 ③ 54	金曜日　〃	
〃　E	〃	① 55 ② 48 ③ 50	木曜日 16:00～17:00	
〃　F	小2～6 (40)	① 39 ② 38 ③ 28	火曜日 16:30～17:30	
〃　G	〃	① 39 ② 40 ③ 36	木曜日 17:00～18:00	
シニア スイミング　A	小1～高3 (30)	① 11 ② 10 ③ 10	火曜日 16:30～18:00	「小学生水泳」からのステップアップ講座。4泳法とも、自己記録の向上をめざす。指導者の推薦が必要。 受講料＝1・2期各21,000円、3期14,000円。 ※受講生は「シニアスイミングA」「同B」「シニアスイミングフレッシュ」の時間に練習に来ることができる。
〃　B	〃	① 10 ② 10 ③ 8	水曜日　〃	
シニアスイミング フレッシュ	小3～中3 (30)	① 27 ② 28 ③ 21	金曜日 16:30～18:00	小学3年生以上で泳ぎが不得意な子どものクラス。クロールで25m以上泳ぐことを第一目標に練習を進める。90分の集中的な練習で上達の度合いが大きかった。 受講料＝1・2期各21,000円、3期14,000円。
小学生体育　A	小1～6 (30)	① 34 ② 31 ③ 28	火曜日 16:00～17:00	器械体操、球技を中心に多種多様な運動経験をとおして苦手な種目を克服する。さらに、鬼ごっこなどを取り入れ、持久力も身に付ける。 受講料＝1・2期各17,000円、3期11,000円。 ※バランス良く発達ができるよう「小学生体育」と「小学生水泳」の2講座の受講ができる。 受講料＝1・2期各25,000円、3期17,000円（2コース合計）。
〃　B	〃	① 35 ② 31 ③ 29	木曜日　〃	

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
ジュニア新体操	（人） 小1～3の女子 （35）	（人） ① 35 ② 35 ③ 33	水・金曜日 15:30～17:00	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやボールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料＝1・2期各26,000円、3期19,000円。
シニア新体操	小4～中3の女子 （35）	① 32 ② 27 ③ 23	水・金曜日 16:30～18:00	「ジュニア新体操」から一歩進んで新体操独特の美しい表現ができるように練習。創作活動や発表会も開催。 受講料＝1・2期各26,000円、3期19,000円。
手足の不自由な子の水泳	小1～中3 （15）	① 10 ② 11 ③ 11	土曜日 17:00～18:00	身体に障害があり、水泳の機会に恵まれない小・中学生が対象。スタッフ、ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料＝1・2期各16,000円、3期10,000円。
健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	太りすぎの小学生とその親 （20）	① 20 ② 19 ③ 19	土曜日 16:00～17:00	小児保健部との協力事業。医師、栄養士による健康・栄養のチェック、体育指導者による体力チェック――3者が協力してトータルな活動を行う。 受講料＝1・2期各22,000円、3期18,000円。

※講座回数＝1期13回、2期13回、3期9回（「ジュニア新体操」「シニア新体操」は週2回）



第18回新体操発表会

〈クラブ〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
ダイナミック・ヘルス・クラブ(D.H.C.)	（人） 成人 メンバー ビジター 法人	（人） 年間延べ 6,825 402 271 合計 7,498	火～土曜日 12:00～13:30 18:00～21:00 日曜日・祝日 18:00～20:00	18歳以上の大人のためのクラブ。プール、体育室、ジムを利用して体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。個人会員は、入会金100%オフ、会費20%オフキャンペーンを実施して、新規会員の募集に努めた。入会金0円、年会費50,000円、4か月20,000円、月会費5,500円、利用料（利用の都度）300円。パス券（月3,000円、4か月11,000円）、ビジター1,500円。
レディースコース スイミング リズム &ストレッチ	18歳以上の女性 （150）	① 54 ② 57 ③ 56	火・木曜日 10:00～11:00 水曜日 10:00～11:00 土曜日 11:00～12:00	スイミング3コース、リズム&ストレッチ1コースを併せてレディースコースとし、チケット制でどのコースでも参加できるようにした。チケット終了後は6回分の追加クーポン券を発行。生活習慣の中に定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも4班編成。それぞれのレベルにあった班を選択し、「スイミング」ではクロールの練習から4泳法を身に付けることを目標に健康作り。「リズム&ストレッチ」では、ゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動で、楽しく動きながら明日への活力を生みだす。 受講料＝1・2期各21,000円（13回分）、3期14,000円（9回分）。クーポン券（6回）5,000円。
マタニティ・スイミング	妊娠16週以降の妊婦 （月35）	年間延べ 1,564	火・木曜日 11:00～12:00	小児保健部との協力事業。水泳プログラムをとおして、妊娠中を楽しく過ごすためのクラス。医師が活動前後に健康チェックを行い、活動中も不測の事態に備えて常駐する。出産や子育てにかんするレクチャーや栄養・心理の相談も受けられる。受講料12,000円（月7回）、入会金10,000円。

《講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（組）	（組）		
母と子のすくすくランド	おすわりのできる乳児と母親（20）	① 31 ② 40 ③ 30	金曜日 10:00～11:00	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び、お母さんのシェイプアップも。1・2期は10回、3期は9回。 受講料＝1・2期各23,000円、3期21,000円。
幼児・母親体育　A	1・2歳児と母親（20）	① 30 ② 30 ③ 30	火曜日 13:30～14:30	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳び、走るうちに運動神経を養い、体を動かすことの楽しさを身に付ける。1・2期は10回、3期は9回。 受講料＝1・2期各19,000円、3期17,000円。
〃　B	2・3歳児と母親（30）	① 27 ② 30 ③ 30	水曜日 11:00～12:00	
ぱちゃぱちゃファミリースイム	1・2歳児と父母、祖父母（30）	① 20 ② 30 ③ 26	金曜日 10:00～11:00	1歳から始まる水泳のビギナークラス。父母、祖父母のうち2人と幼児の組み合わせで参加できる。水慣れから、楽しい水泳活動をとおしてコミュニケーションも深めていく。1・2期は10回、3期は9回。 受講料＝1・2期各25,000円、3期23,000円。

《短期講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
夏休みこども集中水泳講習会　A	小1～中3（50）	50	7.21～25 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法を体験。 受講料＝7,000円。
〃　B	4・5歳児（40）	40	7.21～25 10:30～11:30	
〃　C	小1～中3（50）	50	8.18～22 9:30～10:30	
〃　D	4・5歳児（40）	40	8.18～22 10:30～11:30	
ガンバ！2005	小1～3（30）	30	8.18～22 9:30～10:30	器械体操や球技などの基本動作を身に付ける、体操の苦手な子どもの体操教室。 受講料＝7,000円。
春休みこども集中水泳講習会　A	小1～中3（50）	50	4.1～5 9:30～10:30	5日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。 受講料＝7,000円。
〃　B	4・5歳児（40）	40	〃 10:30～11:30	
成人水泳集中講習会	18歳以上（月20）	延べ130	水・金曜日 18:00～19:00	18歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習。月ごとに募集を行い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。 受講料＝10,000円（各月7回）。
こども一日ドック	小1～中3（10）	10	7.23 12:00～17:30	小児保健部との協力事業。体力測定など運動面の指導を担当。

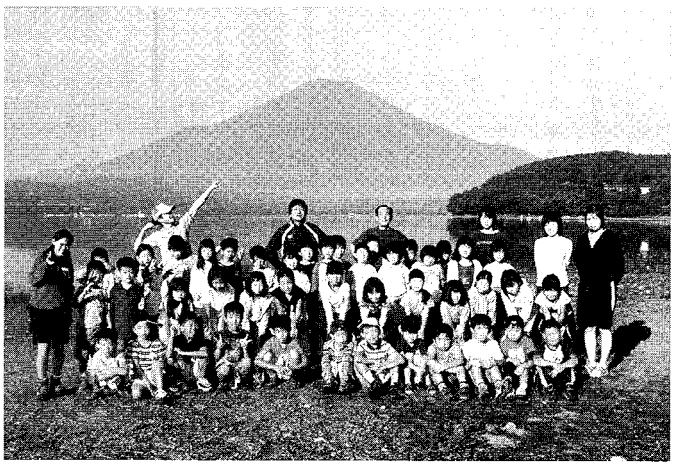
〈専門指導者向け講習会等〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
小児肥満のための指導者講習会	（人） 保育士・保健師・養護教諭など （50）	（人） 52	H18.3.10・11	小児保健部との協力事業。体育では運動指導や体力測定についてのレクチャーおよび実践を行った。

〈野外活動〉

名　称	日　時	内　容
新体操夏合宿	7.31～8.3	町民体育館で技術の向上をはかりながら、地域の人たちの協力も得て、楽しく、実のあるプログラムを行うことができた。講座生35人のほか、OG 3人も加わり、スタッフとあわせて41人が参加。東白河郡ユーパル矢祭（福島県）。
スポーツキャンプ	7.26～29	大自然に囲まれたグリーンピア津南でテニスや球技などスポーツをとおして、全力を出した爽快感、充実感を味わえるキャンプ。また、栄養を考えた食事メニューを自分たちで作ることにも挑戦。グリーンピア津南（新潟県）。
健康スポーツ教室～太りすぎクラス～夏合宿	8.10～12	週1回1時間、体を動かす講座とは別に長時間運動を続けることで体を動かす楽しさを改めて知ってもらうことが目的。フライングディスクのゲームを中心に1日がかりのサイクリングなどの運動プログラムのほか、野外炊事など、食と運動を中心にしたキャンプ。16人が参加。朝霧高原グリーンパーク（静岡県）。
チャレンジキャンプ	8.27～30	“何にでも挑戦しよう！”が合言葉の低学年体験キャンプ。今回は、山中湖一周ウオーキングにチャレンジ。天候が悪く、プログラム変更を余儀なくされたがメインプログラム（一周ウオーキング）は無事実施することができた。小学1～3年生45人が参加。YMCA山中湖（山梨県）。
スキースクール パート1　1期 〃　2期	12.26～29 H18.1.4～7	1期はスキーレッスンに最適な北志賀高原よませスキー場（長野県）、2期はファミリー向けゲレンデで安心して楽しめるグリーンピア津南（新潟県）。2期は新学期が始まる前なので、往復の疲労の軽減をはかるため新幹線を利用。また、2期は中学生のみスノーボードのレッスンあり。小学2年生～中学3年生が対象。1期は43人、2期は49人参加。
スキースクール パート2	3.27～30	小学1～3年生の低学年が対象のスキースクール。パート1と異なり、スキーのみならず「班対抗雪合戦」「雪上運動会」などレクリエーション的なプログラムも多く含まれている。44人参加。グリーンピア津南（新潟県）。

チャレンジキャンプ





スキースクール　パート1

3．その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	6.21	青森県黒石市立黒石公民館。
〃	6.22	青森県津軽市生涯学習センター「松の館」。
〃	9.5・10	神奈川県葉山町福祉文化会館。
身近な道具でスポーツ遊び	9.27	岡山市三門児童センター。
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	9.30	埼玉県北本市市民交流プラザ保育ステーション。
〃	10.4・5	青森県むつ市中央公民館。
「おにごっこ」で楽しく体力づくり	10.14～16	栃木県こども総合科学館。
〃	10.24	新潟県妙高市上町ふれあい会館。
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	10.24	兵庫県宝塚市立東公民館。
親子ふれあい体操1・2・3	11.12	静岡県韮崎市営体育館。
〃	12.13	香川県さぬきこどもの国わくわく児童館。
〃	H18.3.10	東京都杉並区立今川児童館。
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	3.11	島根県益田市立子育て支援センター。
親子ふれあい体操1・2・3	3.16	埼玉県川越市クラッセ川越。



「ドルッチャタウン」では、体育の講座受講生が「スポーツ広場」を開催。

《講師派遣》

名　　称	日　　時	内　　容
すくすく広場育児講座	6.18	東京都三鷹市子ども家庭支援センター。
スポーツレクリエーション教室	6.22、11.18、H18.2.17	東京都大田区南雪谷児童館。
秋田県児童館連絡協議会ブロック別指導員研修会	7.11～13	秋田県大館市中央公民館（11日）、横手市あさくら館（12日）、秋田県生涯学習センター（13日）。
みんなで楽しむ　スポーツ遊び	8.2	新潟ユニゾンプラザ。
山形県児童館等連絡協議会	9.22	山形県立総合福祉センター。
乳幼児の遊びと運動機能の発達	11.19	埼玉県川越市児童センターこどもの城。
赤羽幼稚園PTA「親子体操教室」	12.20	東京都港区立赤羽小学校体育館。
日本体育大学スキー指導実習	H18.2.10～15	志賀高原焼額山スキー場（長野県）。
運動遊びで健康作り	3.2	埼玉県川越市児童センターこどもの城。
職員研修「運動遊びと体操」	3.7	埼玉県三芳町立北永井児童館。

プレイ事業部



平成17年度の活動

1．はじめに

屋内の広い遊び空間であるプレイホールを中心に、屋上遊園、パソコンルームなどの運営を担当し、年間をとおし多くのプログラムを実施した。また夏休みと冬休みの特別期間には、自然のなかで仲間との共同生活を体験するキャンプ活動を行った。

活動プログラムは、〈あそび〉をとおして子どもたちのよりよい成長・発達を促すことをねらいに、3つの方向性を基本にして計画・実施した。

(1) 子どもの発達年齢や遊びの種類を考慮したプログラムの提供と遊び環境の整備　(2) 児童文化、子どもの遊び文化を題材にした行事やプログラムの提供　(3) 仲間遊びや子ども同士の交流を促進し、社会的な適応能力をはぐくむプログラムの開発・提供――である。

本年度は、開館20周年を迎え、遊具環境整備の一環として、プレイホールの大型遊具「わくわくらんど」をリニューアル。床面の張り替え工事も実施。開館以来初めてプレイホールを工事のために閉鎖した。より高い安全性と、より多くの〈あそび〉の要素が盛り込まれ、プレイホールの中心遊具として親しまれる「わくわくらんど」になった。床面の張り替えにより、プレイホール全体が明るく清潔感のある遊び場所となった。

(ア) 一般利用

平常期間には、一般来館児・者に向けてさまざまなプログラムを曜日ごとに行っている。紙芝居・人形劇・影絵を上演する「みんなのにこにこ広場」(水曜日)、「おりがみ遊び広場」(木曜日)、週がわりでいろいろながん具を提供する「金曜開店あそびやさん」(金曜日)、小学生以上を対象にさまざまな体験遊びを行う「サタデー・ラボラトリー」(土曜日。ＡＶ事業部と共同で実施) を行った。また日曜日を中心に家族で楽しむ「ファミリープレイタイム」を年間5回実施した。

七夕や節分といった、季節が感じられるプログラムや特別期間のダイナミックな遊びのプログラムも継続して実施した。特に、開館20周年にあたり、ゴールデンウイーク人形劇フェアを記念事業として拡大して実施した。また、春休み特別期間に行った「空気砲バン☆バン」は、常時空気砲を使った遊びができるようにしたうえで、空気砲工作や空気砲大会を行うなど、新しい試みを取り入れ、一つの遊びの素材をさまざまな角度から楽しむプログラムとして展開した。

それぞれの活動では、ボランティアの協力も得ながら、児童文化財の楽しさを感じてもらったり、子ども同士や親



サタデー・ラボラトリー（のこぎりをひこう）

子での交流促進をはかった。

安全で子どもたちの発達によい効果をもたらす遊び場の設定と管理も、年間をとおして行っている。本年度は、「わくわくらんど」のリニューアルのほかに、パソコンルームの機器の入れ替えを実施。最新のソフトウエアに対応できるようになったこと、ネットワーク化されたことなどにより、より幅広いパソコン遊びの環境を整えることができた。

【サタデー・ラボラトリー】

「サタデー・ラボラトリー」は小学生以上を対象にした、科学・映像遊びを中心とした体験型のプログラム。プレイ事業部とＡＶ事業部が共同で実施している。

本年度は特に、プレイホールで数多く実施するようになったことが、大きな相違の一つとしてあげられる。これまで主会場として利用してきたフリーホールは、他の遊び場から離れたフロアにあるので、一般の来館児・者の目にとまりにくいプログラムであった。このプログラムに参加するという明確な目的がある子どもの割合が多く、一人ひとりの参加者がじっくりとプログラムに取り組むことができるので、充実した時間を過ごせた反面、参加者数が比較的少ないという問題を抱えていた。

プレイホールで実施することで、そこで遊んでいる多くの子どもたちの目に触れるようになり、参加者数も増加した。しかし、多くの人が遊んでいる場所ということもあり、音や臭いを伴うプログラムの実施に制限がでてきたり、参加者増にともないスタッフも同時に数多くの参加者に対応することになり、一人ひとりの参加者との活動を深めることが難しくなった。事実、一人当たりの平均プログラム参加時間は、フリーホールで開催していたときより短くなっている。また、常連の参加者とスタッフとの関係作りがしにくい環境となった。

今後、プログラムによってフリーホールやプレイホール、またその他の場所を上手に使い分け、多くの子どもたちを受け入れられるように体制を整えると同時に、より活動の深まりを得られるような環境を整えていくことが課題である。

（イ）講座・クラブなど

【キッズクラブ・ユースクラブ】

平成４年度からスタートした「キッズクラブ」「ユースクラブ」も14年目を迎えた。〈あそび〉を活動の主軸においた定期的なグループ活動をとおして、人間関係作りの基礎を体験的に学ぶ機会として活動を進めている。

学校週５日制が定着し、平日は低学年から６時間授業が多くなり、また学力低下の懸念から、休みとなった土・日曜日に塾などに通う児童が増加するなど、子どもたちの生活パターンは多忙化し、自由に遊べる時間が減少している。

その一方で、保護者からは「キッズクラブ」「ユースクラブ」のような活動――〈あそび〉をとおして人間関係を体験的に学んでいく機会への期待がとても高まっている。昨今増加傾向にある、社会とのコミュニケーションが上手に取れない青少年の増加や、それを遠因とするさまざまな事件への懸念が背景にあるとも考えられるが、少々複雑な気持ちがする。

本年度は〔こどもの城〕の開館20周年記念行事として11月５・６日に「ドルッチャタウン」が行われ、両クラブが１日ずつ出店、参加した。「キッズクラブ」は体験参加型人生ゲーム「人生いろいろ冒険ゲーム・ドリームＥＸ」を行い、「ユースクラブ」は２日目におばけ屋敷のようなドキドキする占いのコーナー「ホラー占いの館」を出店した。

２つのクラブのメンバーは、企画から準備、運営までを行い、一般来館者・児を店に招いて自分たちの作ったゲームをスタッフとして運営したり、司会を務めるなどの活動を行った。それぞれの子どもたちは、自主性や自発性を持って能動的に参加した。さらに、ふだんなかなか経験する機会がない、大勢の人との交流をはぐくむ絶好の機会となったようだ。



ファミリープレイタイム（親子で遊ぼうパペットランド）



みんなでひなまつり

パソコン教室スペシャル～ロボットプログラミング入門



第37回バンパー大会



【パソコン教室スペシャル】

〔こどもの城〕の「パソコン教室スペシャル」では、単にパソコンの操作方法を学ぶだけでなく、グループの協同作業をとおして、課題達成に向けたチーム活動を円滑に進める方法を体験的に学ぶことを目的に実施している。本年度は、小学校4～6年生を対象に、「ロボットプログラミング入門」を実施した。

3・4人のグループごとに、パソコンでプログラム制御できる自律型ロボットをレゴブロックで作り、決められた動作を正確に行ったり、赤外線センサーを使って道をたどったりできるようにプログラミングするという内容。教室では、与えられた課題を達成するために、グループのメンバーそれぞれが協力し、失敗をくり返しながらも、ロボットが意図どおり動作するようにプログラムの修正を重ねていくという、充実した活動となった。

（ウ）野外活動

17年目を迎えた「ちびっこ冒険団」のメインプログラムは、往復5時間の大冒険ハイキング。“かっぱの子ども”を主人公としたファンタジックな動機付けを行うことで、自然に目を向ける機会になったり、険しい道も難なく歩けたりと、大きな効果があった。

「フェローシップキャンプ」では、メインプログラムである茶臼岳トレッキングが悪天候で中止となり、班活動にプログラム変更せざるを得なかった。このことが、自然の力の大きさを感じる機会になり、また仲間とどう過ごすかを相談し、ともに活動することで、仲間との距離もぐっと縮まったようだ。

「ゆきんこ冒険団」では、班活動を例年より重視した結果、班で考えた雪合戦のルールで対戦相手を募集したり、ケーキを作った班がパーティーを企画し、参加者をつのったりと、子どもから子どもへの働きかけが活発になり、班を越えた活動につながったようだ。

どのキャンプも運営に参画してくれるボランティアリーダーは非常に重要な存在である。キャンプ活動をとおして子どもに対応する力を伸ばしていくボランティアリーダーもたくさんいる。スタッフとともにキャンプを作り上げていく準備段階での活動内容、キャンプに必要な理論・技術を身につけることなど、活動する時間が少ない社会人ボランティアが多くなった今、限られた時間内で、ボランティアリーダーを育成する方法を今後工夫していくことが非常に重要な課題と感じられた。

2. プレイホール・大型遊具の整備

本年度は、プレイホール内に設置している大型固定遊具「わくわくらんど」のリニューアルと、プレイホールの床面の全面張り替えを行った。この工事に伴い9月27日～10月17日を全面閉鎖、以降10月末日までを一部閉鎖とした。〔こどもの城〕の遊び場の中心であるプレイホールを閉鎖することは、開館以来初めてであり、代わりとなる遊び場や週間行事の場所の確保など、全館的な影響も考えながらの作業となった。

この更新は、遊具の安全化対策と開館20周年の整備計画の一環として実施した。大型固定遊具「わくわくらんど」は、取り扱い業者から“世界一の使用頻度”といわれるほど、一般的な公園と比較して使用頻度は高く、利用する年齢層も幅広い。磨耗や劣化などに対する耐久性が必要であるのに加えて、利用者に対しては施設の魅力を増したり安全の確保などが求められる。そのため、長期的な計画を立て、定期的に交換（リニューアル）をはかる必要がある。

特に“安全”については、近年、欧米の遊具安全基準（米国ASTM F1487－98、欧州EN 1176など）が新しくなり、また国内でも最近の遊具事故の事例を受けて遊具業界の自主規格として安全基準が設定され、従前からある遊

具についても基準を満たすことが望ましいとのアドバイスをもらっていた。欧米の旧基準で建てられている「わくわくらんど」については、改装も検討したが、新基準に対応するために更新することとなった。

今回の更新にあたり、安全性や機能性などについて、新規遊具の可能性も含めて、さまざまな角度から検討したが、従来の木製遊具を引き続き利用することとした。これは機能的に優れていることはもちろんのこと、主な部品がユニットで構成されているため、旧遊具で使われていた床材や柱・トンネルなどのほとんどの部品を再利用することができるからである。環境に優しく、コスト的にも節減をはかりながら、大規模な遊具に更新することができた。また、内容的にも従来からの考え方である、立体を有効に利用し、多くの子どもが一度に遊べる工夫をさらに進めるとともに、低層部の1階部分にネット遊具や橋などを設置し、低年齢の幼児でも安全に冒険遊びに挑戦できるようにした。

前年度の「親子で遊ぶコーナー」の大幅なリニューアルを皮切りにスタートしたプレイホール大型遊具の更新であるが、引き続き継続していきたいと考えている。

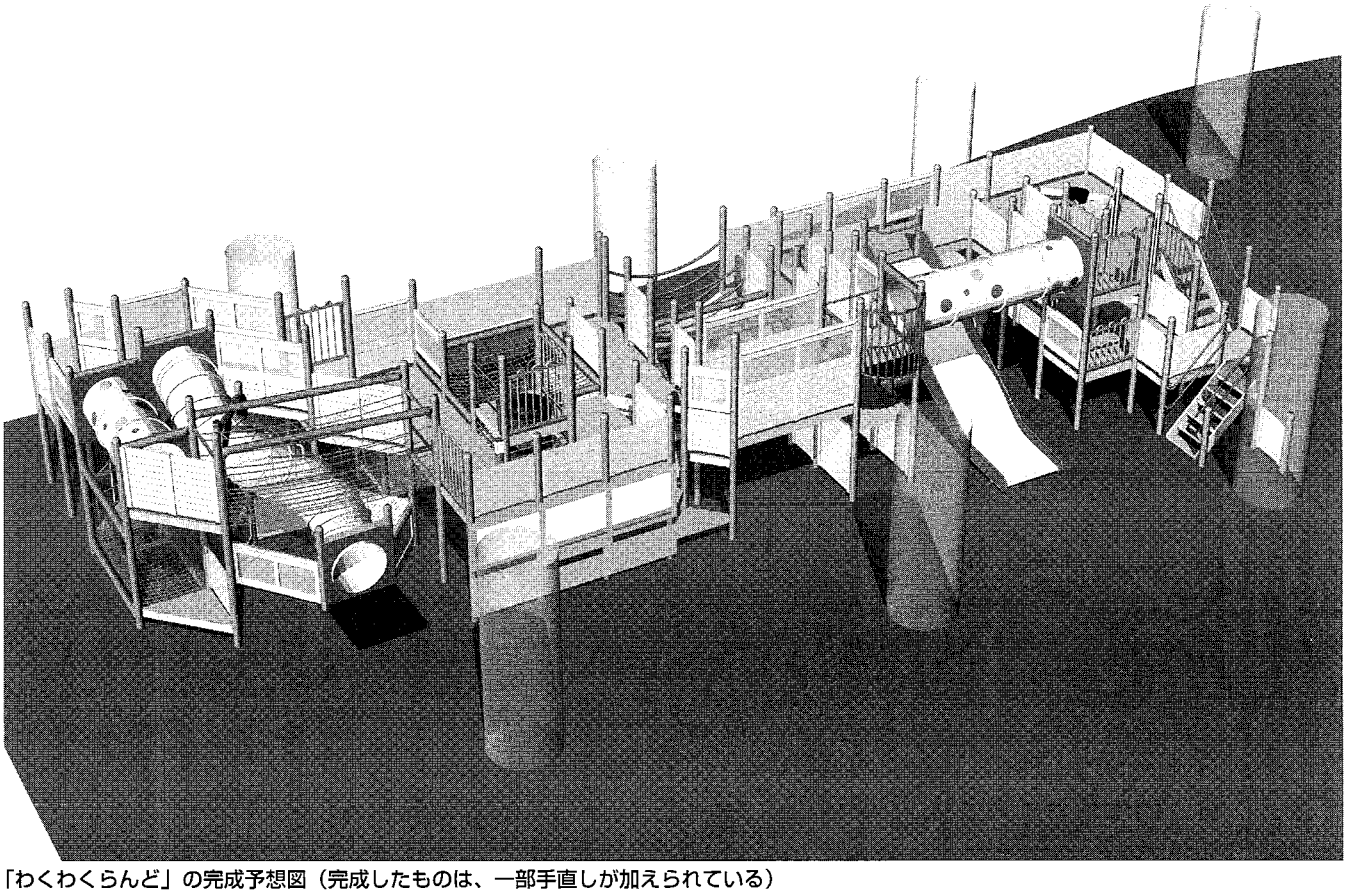
屋上の大型固定遊具「プレイポート」は耐久年限が近づきつつあり、磨耗などで使用が一部厳しい状況ではあるが、ボールプールなどは来館児・者に人気が高く、今後も更新を含めて次期の遊具の導入について検討をしていきたい。

また、大型固定遊具の導入計画については、来館児・者の傾向である低年齢層の拡大を受けて、プレイホール・屋上などの従来のエリアだけでなく、柔軟に考えていく必要があるかもしれない。乳幼児の利用できる設備の拡充についても、全館的な取り組みとして新しいあり方について検討をさらにしていく必要を感じている。

3. まとめ

プレイ事業部の活動も20年目を迎えた。開館当時と比較すると、子どもたちの育つ環境も大きく変わってきている。20年前に〔こどもの城〕に遊びに来ていた子どもたちは、もう子どもを産み育てる世代となっている。〔こどもの城〕自身も含めて、この20年間の健全育成活動を問い直してみる必要もあろう。

開館当初から、さまざまな〈あそび〉をとおして、子どもたちの交流や社会的な適応能力をはぐくむことを活動の主眼にしてきた。子どもが家族や仲間と楽しく遊ぶことからはじまり、まわりの人々と調和しながら平和で創造的な社会を構成する一員になること、またそのような力をはぐくめるようにすることが、いかに基本的で大切なことであるかを、今の社会をながめていて改めて感じる。20年経過してもまったく変わらないこの意味を再度確認して、さらに新しいビジョンを持って、次の活動へとつなげたい。



「わくわくらんど」の完成予想図（完成したものは、一部手直しが加えられている）

平成17年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
みんなのにこにこ広場	水曜日　15:00～15:30	週替わりで、人形劇・紙芝居・影絵を上演。いずれも女性ボランティアの協力を得ている。鑑賞型のプログラムには常連の参加も多く、いろいろなジャンルの児童文化を伝える機会となっている。就園児にまじって赤ちゃん連れのお母さんの参加が近年増え、子どもと一緒に楽しもうとする姿やアットホームな雰囲気にリラックスしている姿が見られた。（プレイホール）
おりがみあそび広場	木曜日　14:30～15:30	日本の伝承遊びの一つである“おりがみ”の楽しさを来館児・者に伝えるプログラム。ボランティアの協力を得て、折り図を用意せず口承で伝えている。本年度から参加者の年齢層を上げることを目的に実施時間を30分繰り下げ、14時30分～15時30分とした。折り紙のメニューは、月ごとにテーマを決めて選択した。6・7月の「どうぶつえん」、10月の「すいぞくえん」、2月の「むしえん」、3月の「しょくぶつえん」では、折った作品をパネルにはりつけ、年間をとおすと4つの「○○えん」ができあがるように設定した。少しずつできあがっていくパネルがきっかけになり、継続して参加する親子も出てきて、“また来週”とボランティアとのつながりがみられるよい雰囲気となっていた。（プレイホール）
金曜開店！あそびやさん	金曜日　開館時間中	期間ごとに3～4種類のおもちゃを選び、週替わりで来館児・者に体験してもらった。 1期＝変型木のつみき／木の汽車のおもちゃ／魚の動きが楽しい魚釣りゲーム 2期＝働く車のおもちゃ／バランスゲーム／板状のつみきセット 3期＝手びねりゴマ／ドミノ／板状のつみきセット／変型木のつみき（プレイホール）
おはなし人形広場	土曜日　15:00～15:30	人形劇やパネルシアターなどを上演。月1・2回はプロやアマチュアの劇団による公演、それ以外は音楽事業部やボランティアの協力を得て、スタッフが担当。親子連れが多く、鑑賞型のプログラムであること、実施場所が鑑賞するのにふさわしい環境であることなどから、親子がリラックスし、ゆったりとした気分で楽しんでいる様子がうかがえた。劇団公演：16回、その他公演：19回。（音楽ロビー）
サタデー・ラボラトリー	土曜日　13:00～16:00 （受付時間）	小学生以上を対象とした、科学遊び・映像遊びを中心とした、直接体験を重視したプログラム。AV事業部と共同で毎週異なったプログラムを実施。実施プログラムは別表参照。（フリーホールほか）
〈ファミリープレイタイム〉 おやこでチャレンジゲーム	5.29　12:30～16:00 （受付時間）	身近な道具を用意。ルールが単純なゲーム「宝さがし」「おはしで豆はこび」「巻き取り」「つみきタワー」「じゃんけん10回勝負」に取り組み、ベスト記録を目標に家族で工夫して遊べるよう内容を設定した。参加48組。（プレイホール）
〈　〃　〉 おやこでうたあそび	6.26　12:30～16:00 （受付時間）	絵かき歌、ケンパ「あんたがたどこさ」、歌遊び「なべなべそこぬけ」「おせんべやけたかな」などを口ずさみながら遊んだ。参加37組。（プレイホール）
〈七夕〉 天までとどけねがいごと	7.1～3　11:00～16:00 7.5～7　13:00～16:00 （受付時間）	七夕の由来を伝える行事。短冊に願いごとを書いて笹竹に飾った。今回は短冊のほかに、折り紙の吹き流しや天の川など、いろいろな七夕飾りも作って笹竹をにぎわせた。子どもと一緒に参加した親も、折り紙の天の川の切り方を思い出し、楽しむ姿も見られた。（プレイホール）
第36回バンパー大会	9.4 小学生の部　10:00～13:15	高学年コーナーにある遊具『バンパー』（ビリヤードに似たニュースポーツゲーム）の大会。残念ながら、中・高生の部の参加者が集まらず、未開催となった。小学生の部の参加者は、大会に向けて夏休み特別期間中に練習に来館し、その中からも交流がうまれたようである。小学生の部10人が参加。（プレイホール）
〈ファミリープレイタイム〉 ？（ハテナ）をさがせ ～お城探検隊～	9.18・19 12:30～16:00 （受付時間）	指令書に指示された問題を、館内をまわりながら解いて遊ぶ。親子で相談している姿が見られた。参加77組（2日間計）。（プレイホール）

名　称	日　時	内　容
魔法使いチャンピオンシップ	10.8～10 11:00～16:00 （受付時間）	さまざまな“魔法使い修行ゲーム”にチャレンジするゲーム大会を実施した。修行ゲームをクリアすると、魔法を習得した証として魔法の道具が描かれたカードをもらえる。このカードにはジャンケンのマークも描かれていて、このマークで勝負を行う魔法使いの大会も実施した。参加者同士が、カードを見せ合ったり交換したりする姿も見られ、交流が促進できるプログラムとなった。10月9・10日は雨天のため、館内で魔法使いをテーマにしたラリー形式の代替プログラムを実施した。（屋上ネット広場）
〈ファミリープレイタイム〉 ろうそくをつくろう	12.11　12:30～16:00 （受付時間）	溶かして着色したロウと氷を紙コップに入れ、空洞のあるロウソクを作った。ロウソクのできあがりにわくわくした。参加79組。（プレイホール）
〈節分〉 節分会 大まめまき大会	H18.1.28・29 15:30～16:30	毎年恒例の豆まき大会。節分の由来を参加劇仕立てで紹介し、子どもたちと一緒に豆まきを行った。怖さを克服してスタッフとボランティアが扮する鬼に一生懸命に豆を投げたり、鬼が降参した姿を達成感あふれる目で見る様子は、この季節行事の大切さを感じさせる。参加者には、年男・年女の子どもから福豆が配られた。親子で「今年も元気でいられるね」と話している姿も見られた。本年度は、開始時間を30分繰り上げて15時30分からとした。参加者は、28日260人、29日386人。（プレイホール）
〈ファミリープレイタイム〉 親子であそぼうパペットランド～チューチュープレイランドの巻～	2.11・12 12:30～16:00 （受付時間）	口がパクパク動く、ねずみの紙コップ人形を作った。「チューチュープレイランド」（人形劇遊び／宝探し／穴遊び／食べ物はこび／冒険遊び＝階段・一本橋）のなかでは、作った人形で親子でおはなしごっこをして楽しんだ。参加約150組（2日間計）。（プレイホール）
〈ひなまつり〉 みんなでひなまつり	2.25・26 11:00～16:00 （受付時間）	日本の伝統行事「ひなまつり」の由来やそこに込められた願いを紹介し、親子のコミュニケーションをはかることが目的。奈良時代から上巳の節（桃の節句）には「自分の災厄を代わりに引き受けさせた紙人形を川に流す」という風習があった。この風習に習い、雛人形を折り紙でつくり、川（プレイホールの中に造作）に流すというワークショップを展開した。あわせて、全国各地で行われている「流し雛」の様子を、写真で紹介した。（プレイホール）
第37回バンバー大会	3.21 小学生の部 10:00～12:30 中高生の部 14:00～15:00	高学年コーナーにある人気遊具『バンバー』（ビリヤードに似たニュースポーツゲーム）の大会。夏の大会同様、高学年コーナーに集まる子どもたちのさらなる交流のきっかけ作りを目的に行った。中・高生の部の参加者増と、幅広い参加者募集のために音楽・体育部門の講座受講生にも積極的に声をかけた。小学生の部10人、中高生の部5人が参加。（プレイホール）

《特別期間》

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 時空の旅人～タイムントラベルン～	4.29～5.1、5.3～5 11:00～16:00 （受付時間）	レクリエーションゲーム大会。ふしぎが丘に設定されたさまざまな時代でゲームを行う。例えば、古代エジプトでは設計図どおりにピラミッドを作るゲーム、江戸時代では“かごかき”になって殿様を送迎するゲームなど、参加者は遊びながら過去から未来までのいろいろな時代をタイムトラベルするという設定のゲーム大会を行った。（ふしぎが丘）
〈　〃　〉 ゴールデンウイーク 人形劇フェア	4.29～5.1 公演＝13:00／14:15／15:30 5.3～5 ワークショップ＝ 11:00～16:00 公演＝11:30／13:30／15:30	開館20周年を記念して、これまでの「人形劇フェア」を拡大して実施。前半は、プロの人形劇団による公演。後半は、大学の児童文化研究会などのネットワーク「じゃんぐるじむ」の学生とそのOBなどで構成されている「パペットマーケット」の協力を得て、「人形を“作る”、作った人形で“遊ぶ”、人形劇を“みる”」ワークショップを実施した。 人形劇の公演は、会場が落ち着いた雰囲気の研修室であったためか、ゆったりとした様子で、リラックスした雰囲気のなかで子どもはもちろん大人も人形劇を大いに楽しむことができた。出演団体＝人形劇団パンタルカ、人形芝居燕屋、ぱぴぷぺぽ劇場、童心座、トントン劇場。 ワークショップでは、手袋人形と牛乳パック人形を作った。完成した人形をもって三々五々集まってきた子どもたちは、冒険ごっこや運動会ごっこなど、おはなしの世界を楽しんだ。「わくわくパペットショー」と題した人形劇の公演では、子どもたちが作るものと同じ人形が登場し、人形劇をより身近に感じたり、おはなしの世界により入り込めたりしたようだ。また、見終わった子どもたちは、人形を作り始めたり、遊び始めたり――人形を媒体に遊びを継続、広げていたようだ。（研修室）

名　称	日　時	内　容
〈夏休み〉 ウォーターアドベンチャー〜宝さがしの大航海〜	8.13〜17 11:00〜15:00 （受付時間）	ふしぎが丘を大海原に見立てた水を使ったごっこ遊び。盾係、水鉄砲係、水ばくだん係などの役割を分担し、6人1組で冒険に出発。幽霊船や巨大な人食いくじら、くもの巣だらけのジャングルが行く手をふさぎ、リーダー扮する悪い海賊が水鉄砲で撃ってくる。最後の神殿では悪者海賊対子どもたちによる水鉄砲を使った大決戦が繰り広げられ、激しい戦いの末、伝説の宝の地図を手に入れるというストーリー。特に小学生の参加が多かったが、幼児も保護者と一緒に楽しんでいた。実施期間中は毎日これを目当てに来館する子も多く、大変なにぎわいだった（300人／1日平均）。（ふしぎが丘）
〈開館記念〉 あそびのおもちゃ箱スペシャル〜わくわくパペットランド	10.29・30 工作＝11:00〜16:00 参加劇公演＝13:00／15:00	ボランティアが毎年行っている「あそびのおもちゃ箱」とプレイ事業部の「人形あそびのワークショップ〜わくわくパペットランド」との共同企画。わくわくパペットランドではオニの紙コップ人形を作り、人形劇公演「こぶとり爺さん」でオニ役として参加劇を楽しんだ。けこみのなかと客席という通常の人形劇の形態ではなく、進行役が客席に入って同じ場所で人形を使って遊ぶことを試みた。「オニはこわいからイヤ」といっていた子どもも、手足がブラブラと動く愛敬のある人形とおはなしの展開に入り込み、演じることを楽しんでいた。（プレイホール）
〈冬休み〉 2006年 新春あそびのお年玉〜遊んで笑って福あつめ〜	H18.1.3 13:00〜16:00 1.4〜9 11:00〜17:00 （屋上は16:30まで）	屋上遊園では、投げゴマと三ツ馬。プレイホールでは、紙相撲や坊主めくりのほか、お正月にちなんだ2種類のチャレンジゲーム「駅伝ゲーム」「年賀状配達ゲーム」も設置した。それぞれのコーナーで遊ぶと、コマなら目玉、坊主めくりなら口というように福笑いのパーツが手に入り、いろいろな場所で遊んでパーツをたくさん集めると、家に帰ってからも福笑いが楽しめるという内容。三ツ馬やコマは小学生から大人までが熱中し、チャレンジゲームは幼児にも参加しやすいものとなり、さまざまな年齢層が楽しめる行事となった。特に紙相撲は年齢にかかわりなく人気が高いコーナーであった。（プレイホール・屋上遊園）
〈春休み〉 空気砲バン☆バン	3.25〜4.5 10:00〜17:30	空気砲という空気を飛ばす不思議なおもちゃを素材にして、空気の不思議さを感じながら楽しめる遊び場を設置した。遊びは、「まとあて」「ボーリング」「サッカー」「バレーボール」「大空気砲」の5種類。見えない空気でボールを動かしたり、まとをゆらしたり——ゲームそのものを楽しむのはもちろん、空気砲の不思議さも感じていたようである。期間中の土・日曜日には、ペットボトルを使った「ミニ空気砲作りワークショップ」（3月25・26日／11時30分と12時30分）や、大人数でダイナミックに遊ぶ「空気砲大会」（4月1・2日／15時）も実施した。（プレイホール）



2006新春あそびのお年玉〜遊んで笑って福あつめ



ゴールデンウイーク人形劇フェア（ワークショップ）

〈パソコンルームのプログラム〉

名　称	日　時	内　容
パソコンことばあそびのA★B★C	4.12～24	パソコン入れ替え工事のため、コンピュータプレイルームで実施。
魔法のグラフィックス	4.26～6.5	「多角形」「うずまき」「ホーマ（うずまき状スタンプ）」の項目から模様を選び、マウスをクリックすると自由に画面に模様が描けるプログラム。ペンの色を替えたり、スタンプの形を替えると同じ模様でも表現が変わる。画面いっぱいにいろいろな模様を描いて遊んだ。
ネイチャークイズ	6.7～7.12	パソコン用の鳥と花の図鑑を使って、色や大きさなどの特徴からそれぞれの名前を調べようというプログラム。問題の種類を増やしたため、すべての問題をクリアしようと、期間中に何度も遊びに来る親子の姿が印象的だった。
マジック・ピクチャー	7.13～9.15	グラフィックスソフトのフィルターやエフェクトの機能を使い、写真画像の加工をして遊ぶプログラム。絵の具で描いた絵のように変化させたり、画像をくねくね曲げてみたり、光らせてみたりして加工を楽しんだ。絵画的な作品を作ったり、動物や人の表情をグニャグニャにしてみたり――複数の加工を混ぜ合わせていろいろな変化をさせることを楽しんでいる様子もみられた。
パソコンことばあそびのA★B★C	9.16～10.18	言葉遊びを楽しむプログラム。パソコンと対決する「しりとり」、文字を並べ替える「アナグラム」、自分が作った文章がほかの人が作った文章と入れかわる「4Wあそび」、用意された暗号を“解読機能”を用いて解く「暗号解読」の中から選んで遊べるようにした。幼児から小学校低学年の子どもたちは「しりとり」「アナグラム」といった単純なことば遊びを、中学年以上の小学生からは「4Wあそび」「暗号解読」といった少しひねりのあるものにおもしろさを見つけだし楽しんでいた。保護者も十分に楽しめるもので、子どもたち以上に「しりとり」の勝敗にこだわる姿もみられた。
うつしとるとるなぞってアート～とれとれマーケットの巻～	10.19～11.30	食べ物の写真から好きなものを選び、ペンタブレットを使って輪郭をなぞり、色をつけて印刷。ペンキやスプレー、エンピツなどの道具や選ぶ太さによって、タッチの異なる作品が生まれた。小学校高学年や保護者が夢中になっている姿が見られ、作品も本物さながらのでき映え。
ミニクリスマスツリーをつくろう	12.1～25	ツリーの台紙に、リースや☆（星）、長ぐつなどのイラストを飾りつけて印刷。ハサミ、のりを使用して加工し、クリスマスの飾りを作製した。色画用紙にはりつけるカードタイプの「つるツリー（平面型）」「おるツリー（半立体型）」とパラソルのようにまるめて土台に立てて飾る「パラソルツリー（立体型）」の3種類。イラストのレイアウトはパソコンで容易にできるので、小学生以上の子どもたちは工作が入る「おるツリー」や「パラソルツリー」を作っていた。また、はりつけるカードの色を選ぶときに親子で楽しそうに相談をする姿も印象的であった。
わくわく☆カレンダー2006	12.26～H18.1.31	マークやイラスト、文字情報を自分で選び、デザインするオリジナルカレンダー作り。定番になっている「ミニカレンダー」のほかに、1年分が1枚に収まる「いちねんカレンダー」を用意した。友だち同士で同じイラストを入れようと相談しながらデザインしたり、できあがってから記念日やマークなどを見せ合ったりと“自分だけのカレンダー”を楽しんでいた。
君もパソコンアニメーター	2.1～3.21	パソコン上に複数枚（2枚か4枚）の絵を描き、できあがった絵を交互に映し出してBGMをつけ、簡単なアニメーションを作った。ソフトはマイクロワールドを使用。幼児は単純な模様の明滅、高学年になると凝ったストーリーを考えたりと、年齢に合った遊びを楽しんでいた。
フレンドシップカード	3.22～4.8	16のデザインされた名刺の中から1枚選び、名前や住所、趣味、特技などを入力、イラストを選んでレイアウトし、オリジナルの名刺の完成。また、パソコンに取りつけたカメラを使い、自分の写真を入れた名刺作りに挑戦している子どもも多く、名刺ができあがると、さっそく友だちや親子で交換している姿が印象的だった。

〈サタデー・ラボラトリー〉

名　称	日　時	内　容
4コマまんが道場	4.16	おもしろい物語を4つの場面で構成する「4コマまんが」を創作する。セリフを考えて、ふきだしに記入するプログラムも実施。参加：18人。（担当：AV事業部）
あぶりだしのふしぎ	4.23、5.21	レモン果汁やミョウバン水溶液、食塩水、牛乳など身近にあるさまざまな液体を使ってあぶり出しを行う。参加：4月23日＝29人、5月21日＝27人。（担当：プレイ事業部）
空飛ぶおもちゃ大集合！	5.7	画用紙と割りばし、ストローを使って、2種類の飛行機を作って飛ばした。飛行機がどうして“空”を飛ぶのかという秘密にせまった。参加：5月7日＝56人。（担当：プレイ事業部）
サタラボベーカリー～発酵の秘密～	5.14	なぜパンはふくらむのか？　パン作りをとおして発酵の秘密を体験するプログラム。生地をこねるところからはじめ、電子レンジを使って発酵工程を短縮。全員がまんじゅう大のパンを焼き上げた。参加：5月14日＝32人。（担当：AV事業部）
混虫（まぜむし）工場	5.28、6.25、9.24、H18.2.11	〔こどもの城〕オリジナルペーパークラフト「混虫（まぜむし）工場」シリーズから、サタラボ用に簡略化したカブトムシ、ショウリョウバッタ、アゲハチョウ、スズメバチ、オオハサミムシ、サソリなどを制作。参加：5月28日＝22人、6月25日＝39人、9月24日＝74人、2月11日＝42人。（担当：AV事業部）
ニットに挑戦	6.4、10.1、H18.1.21	身近な材料で作った編み器を使い、毛糸で四季折々のマスコット作り。梅雨時期はカエルの「けろリン」、秋はどんぐりをかたどった「どんぐリン」、新年は干支をモチーフに「わんこリン」を制作。参加：6月4日＝39人、10月1日＝50人、1月21日＝27人。（担当：AV事業部）
クイズ100問答えてラリー	6.11、10.22	館内にはられた100問のクイズを探し、それに答えるクイズラリー。解答用紙はマークシート方式を採用し、その場で得点ランキングを発表。毎回数問ずつ問題をかえ、繰り返し参加しても楽しめるものとした。参加：6月11日＝31人、10月22日＝28人。（担当：プレイ事業部）
君の絵がぐるぐる動く!!「驚き盤」を作ろう	6.18、11.26、H18.2.25	映画発明以前に存在した視覚がん具の中から、構造が簡単なフェナキスティスコープ（驚き盤）を制作。絵の苦手な参加者向けに見本や塗り絵の充実を図った。参加：6月18日＝67人、11月26日＝58人、2月25日＝57人。（担当：AV事業部）
ぱらぱらマンガをつくろう！	7.2、10.8、H18.1.28	絵がアニメのように動いて見えるぱらぱらまんがを作る。絵が苦手な参加者用に塗り絵も用意した。参加：7月2日＝46人、10月8日＝69人、1月28日＝34人。（担当：AV事業部）
スーパー糸電話	7.9	紙コップと木綿糸の糸電話から、さらによく聞こえるように材料を工夫した糸電話まで、さまざまな糸電話を作った。参加：50人。（担当：プレイ事業部）
ロープワーク入門	7.16	ロープと木の棒を使ってブランコや縄ばしごを作ったり、シートとロープでタープを張ったり――キャンプで使える「ロープワーク」を体験。参加：27人。（担当：プレイ事業部）
赤青アニメ	9.10、12.10	赤と青のフィルターをとおしてビデオに撮影すると絵が動いてみえる、2コマの簡単アニメを作る。参加：9月10日＝16人、12月10日＝41人。（担当：AV事業部）
紙を漉（す）く	9.17、H18.2.18	牛乳パックを解体してパルプを作り、紙すきを体験。資源のリサイクルなど“エコロジー”“地球にやさしい”を考えるきっかけとなるプログラム。参加：9月17日＝15人、2月18日＝55人。（担当：プレイ事業部）
火を考える～火おこし体験～	10.15	まいぎり式火起こし器を使って火起こし体験。火種を作り、それをおがくずにのせ、息を吹きかけ、火が起きるまでを体験した。参加：26人。（担当：プレイ事業部）
石こうで遊ぼう	11.12	石こうで「型どり」を体験。自分自身の手形をとり、「手形プレート」を作った。参加32人。（担当：プレイ事業部）
のこぎりをひこう	11.19、H18.3.4	さまざまなのこぎりを紹介した後、実際にのこぎりで丸太を切った。参加：11月19日＝40人、3月4日＝54人。（担当：プレイ事業部）
おどろきマジックの秘密	12.13	トランプやコイン、ペットボトルなど身近なものから手品の“秘密”を考える。スタッフの行う手品を見た後、その種（タネ）を知り、自分で演じるプログラム。参加：49人。（担当：プレイ事業部）

名　称	日　時	内　容
ろうそく工房	12.17	いろいろな色・形のろうそくを作り、ろうそくが燃える仕組みを知る。参加：41人。（担当：プレイ事業部）
回転のふしぎをさぐる〜こまであそぼう〜	H18.1.14	地球ゴマや逆立ちゴマで遊んだり、ダンボールを好きな形に切り出し「丸くないコマ」を制作。さまざまな形のコマから“回転するもの”の性質を知る。参加：42人。（担当：プレイ事業部）
あったかいぞ！カイロをつくろう	2.4	鉄粉や食塩水などを材料に、使い捨てカイロを作る。鉄が酸化するときに熱を出すこと、材料の調合具合で温度変化に差があることを体験する。参加：90人。（担当：プレイ事業部）
紙コップでパペット・アニメ	3.11	紙コップで人形を作り、グループでアニメを制作。これまでは撮影機材を1人1セット使用するために待ち時間が長くなってしまった。この問題を解決するためグループで撮影することを試みた。参加：21人。（担当：AV事業部）

2. 講座・クラブなど

《講座》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
キッズクラブ	（人） 小1〜4 （30）	（人） ① 30 ② 30 ③ 30	隔週土曜日 15:00〜17:00 （原則）	小学1〜4年生の遊びのクラブ。（1）家庭や学校では体験できない活動を行う（2）地域や学校とは違う新しい人間関係作りをめざす（3）子どもたち自身がプログラムを考え作り上げることで、自発性や発言力を養う——を目的としている。本年度は〔こどもの城〕開館20周年記念行事「ドルッチャタウン」に参加。フリーホール全体を使って、体験参加型人生ゲーム「人生いろいろ冒険ゲーム・ドリームEX」を実施。2期前半の活動をその企画・準備・運営に当てた。ゲームでは、ツアーコンダクターやゲームインストラクターとして一般来館者・児との交流をはぐくみ、メンバーも大きな自信と達成感を得ることができた。 1・2期各6回、3期5回。受講料＝各9,000円（1・2期）、8,000円（3期）。
ユースクラブ	小5〜中3 （40）	① 39 ② 40 ③ 37	隔週日曜日 13:30〜15:30 （原則）	小学5年〜中学3年の遊びのクラブ。10代前半の心の成長期に集団活動をとおし豊かな人間形成をはかるのがねらい。（1）いろいろな活動をとおしさまざまな直接体験をする（2）仲間をとおし人間関係を学ぶ（3）計画から実施をとおし夢を実現する——を目的とする。学年を重ね継続して参加するメンバーが多く、下級生のめんどうを自然にみたり、仲間の交流はさかんである。また、自分たちの希望をかなえる夢の実現に向けて、意見交換や企画会議でも積極的に取り組んでいる。“仲間と一緒に取り組んで楽しいこと”を基準に、さまざまなジャンルの遊びを取り上げている。 1・2期各6回、3期5回。受講料＝各9,000円（1・2期）、8,000円（3期）。

《短期講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
小学生パソコン教室スペシャル〜ロボットプログラミング入門〜	（人） 小4〜6 （15）	（人） 15	8.22〜25 （4日連続） 10:15〜12:45	子ども向け用のプログラミング言語、LOGO（ロゴ）で、コンピュータプログラミングの初歩を学んだ上で、ブロックを組み立てて作ったロボットをうまく動かすためのプログラムを作る。グループごとに作ったロボットを操作し、設定されたコースをはみ出さずに進んだり、オーバルコースを一周する所要時間を競うゲームなども行った。受講料＝7,500円。

〈野外活動〉

名　称	日　時	内　容
ちびっこ冒険団2005	7.31～8.3（3泊4日）	小学1～3年生のための舎営キャンプ。豊かな自然に恵まれた那須高原を舞台に、班ごとに考えたさまざまなグループ活動を楽しむ。班の仲間と共に“何をして遊ぼうか”“どうやって遊ぼうか”などを相談したり、協力しあうなかで、自己と他者との関係を学んでいったり、協調性や社会性を獲得していくことを大きなねらいとしている。本年度はかっぱの子どもを捜そうというファンタジックな動機付けを行い、阿武隈川まで往復5時間の冒険ハイキングをメインプログラムとした。参加者71人、ボランティア20人、職員3人。参加費38,000円。（福島県国立那須甲子少年自然の家）
フェローシップキャンプ2005	8.9～13（4泊5日）	小学4～6年生のためのキャンプ。基本は舎営とし、1泊は自分たちの作り上げた基地にビバークする。小グループによる活動を基本として、仲間との連携や思いやりなどの社会性を豊かにすることを目的の中心に考えて実施している。本年度のメインの冒険プログラムは、「茶臼岳トレッキング」を予定していたが、荒天のため中止、別プログラムを行う。参加者42人、ボランティア14人、職員3人。参加費45,000円。（福島県国立那須甲子少年自然の家）
ゆきんこ冒険団2005	12.24～27（3泊4日）	小学1～3年生のための舎営キャンプ。冬の自然を感じ、その中で遊ぶことをとおして、仲間との交流を広げる活動を行う。本年度は、23日から3連休となって冬休みが早くなったことを受けて、開催を1日早めて土曜日に出発した。現地へは昼前に到着。遊びの時間も例年より多く取ることができた。また、大雪に恵まれ思い切り遊ぶことができた。冬の大自然の中、ソリ遊びやかまくら作り、ネイチャースキー、大雪合戦などの活動を楽しみ、仲間と話をしながら遊びを決めていく班活動をとおして関係も深まったようだ。参加者73人、ボランティア21人、職員3人。参加費38,000円。（福島県国立那須甲子少年自然の家）



ちびっこ冒険団2005



フェローシップキャンプ2005



ゆきんこ冒険団2005

3. その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
レクリエーションゲーム大会の演出プラン （忍者マスター決定戦）	6.3　研修会 6.4　プログラム実施	沖縄県南部地区児童館連絡会の児童厚生員を対象とした講習会。具志頭村社会体育館で実施。1日目に講習会とプログラム準備を行い、2日目には、子どもたちの交流を目的としたレクリエーションゲーム大会『忍者マスター決定戦』を実施した。
みんなで遊ぼうパペットランド （みんなであおむしくん）	6.28 研修会／プログラム実施	福島県会津市健康福祉課で実施している「のびのび子育て塾」の活動の一環として3歳児の親子を対象にプログラムを実施。午後には、保育士、児童厚生員、保健師を対象に指導者向けの研修会を実施した。
〃	10.18　研修会	埼玉県所沢市立みどり児童館で、近隣の11の児童館の児童厚生員を対象に、指導者のための実技講習会を行った。幼児、小学生以外にも、子育て支援事業として乳幼児のプログラムのニーズがあったため、2～3歳児の親子向けの「みんなであおむしくん」と、4～5歳児以上を対象とした「紙コップで作るパクパク人形」を組み合わせて実施した。約20人が参加。
レクリエーションゲーム大会の演出プラン （モンスターグランプリ）	10.22　研修会 10.23　プログラム実施	熊本県本渡市の児童館交流事業として、わくわく本渡児童館で実施。児童厚生員向けの研修会を実施するとともに、児童館に遊びに来ている子どもたちには交流を目的としたレクリエーションゲーム大会「モンスターグランプリ」を実施した。

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
福井県児童科学館「児童支援ボランティアセミナー」	5.22　10:00～12:00	福井県児童科学館での児童支援ボランティアを対象にした研修会。「親睦タイム～ゲームや歌で仲間づくり～」と題し、ゲームや手遊びの指導のポイントを織り交ぜながら、実際にプログラムを紹介、体験を行った。福井県児童科学館。
豊島区学童クラブ指導員研修会	7.13　9:30～12:00	区内の学童保育を担当する指導員を対象にした研修会。実技指導の講習「みんなであそぼう」で、じゃんけんを使ったさまざまなゲームと新聞紙を使った遊びを紹介した。豊島区雑司が谷社会教育館（東京都）。
静岡県放課後児童指導員研修会	H18.1.31 13:00～15:30	静岡県東部の指導員を対象にした研修会。「みんなでつくって、みんなであそぶ」をテーマに、グループで遊べる活動「スーパー糸電話」を題材に、基本の作り方や発展の仕方など、仲間を感じるクラフトプログラムについて紹介した。静岡県東部総合庁舎研修室（沼津市）。

〈動くこどもの城〉「レクリエーションゲーム大会の演出プラン」（忍者マスター決定戦）



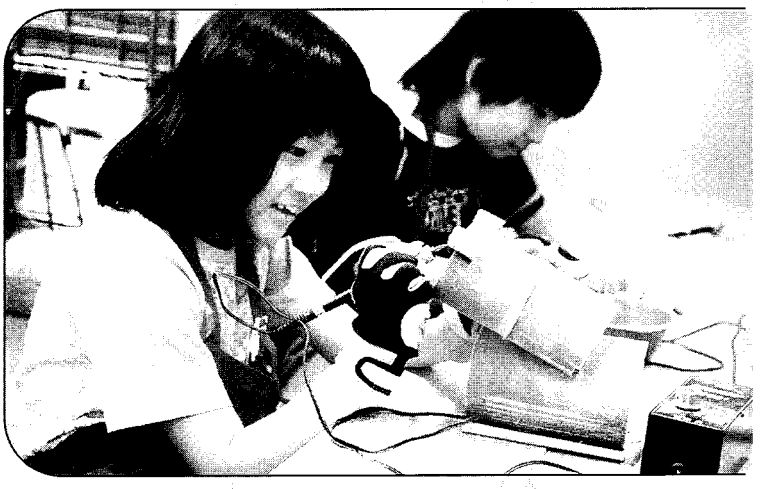
□キッズクラブのプログラム一覧□

日　時	プログラム名	内　容
4.16	ようこそキッズへ わくわくゲーム大会	初回は、ジャンケンチャンピオンや博士クイズ、3億円ゲームなどで親睦をはかった後、今後やりたいプログラムの話し合いを行った。
5.14	館内ビデオしりとり	館内のいろいろなものをビデオ映像のしりとりでつなげるゲーム。なかには愉快な演技でしりとりをつなげる子も登場し、楽しい上映会となった。
5.28	みんなで作ろう！ パ・パ・パ・パ・パフェ	アイスクリームの上にいちごやりんごなどを煮つめて作った手作りジャムをのせて、パフェを作成。おいしいパフェにみんな大喜び。
6.11	キッズ・ザ・ミニ遠足	代々木公園に行く予定があいにくの小雨。そこで科学技術館に行き、館内見学を楽しんだ。
6.25	手作りブーメランを飛ばそう！	工作用紙を切ってブーメランを制作。ブーメラン協会の人の指導で体育室で班対抗ブーメラン競技大会を実施した。
7.16	ウオータープロジェクト2005	水鉄砲を使った対戦ゲームを実施。ひたいにつけた金魚すくいのポイが破られたらアウト。リーダーも子どももびしょぬれになって遊び回った。
9.10	班対抗！アメリカンドッジボール	ボールに当たったらアウト、ノーバウンドで相手に球を捕られた人もアウトという、テレビで流行していたアメリカンドッジボールを実施。
9.24	館内インタビュービンゴ	人が答えてくれそうな回答をビンゴカードに記入し、館内の来館児・者にインタビューしながらマスを埋めていくゲーム。
10.15	陣取り & ドルッチャタウン企画会議	〔こどもの城〕の建物の裏でバッカンなどを楽しんだ後、ドルッチャランドの出店内容について協議し、体験型人生ゲームに決定。
10.29	ドルッチャタウン準備作業	人生ゲームのコースをピラミッド、墓場、火山、海の4つのエリアに分け、好きなエリアに分かれて装飾やゲームなどの準備を行った。
11.5	開館20周年記念行事 「ドルッチャタウン」	講座やクラブの子どもたちによる遊びの祭典。キッズクラブは「人生いろいろ冒険ゲーム・ドリームＥＸ」をオープン。
11.19	キッズ・ザ・秋の遠足	秋晴れのもと、紅葉祭で大にぎわいの高尾山に遠足に行った。もみじ台で昼食をとり、帰りには追跡ハイキングを楽しんだ。
12.10	ちょっと早めの X'masパーティー	飾りつけ、食べ物、プログラムの3つの係りに分担し、家族を招いてX'masパーティーを実施。子どもたちの手品やゲームで楽しんだ。
H18.1.21	新春お年玉ゲームクエスト	いろいろな場所に隠されたゲームにチャレンジして、お年玉カードを集める館内ラリーを実施。最後にお年玉カードで手作りのおみくじが引ける。
2.4	燃えろ！ドッジボール大会	今日の目標、チーム決め、当日進行などを最高学年の4年生が担当して進行。1期に比べ、格段に自主性や思いやりの成長ぶりがうかがわれた。
2.18	代々木公園の決戦・冬の陣	代々木公園に出かけ、「かくれ鬼」や陣取りの一種「ナンバーコール」を思い切り楽しんだ。
3.4	トリノオリンピック記念 手作りピザに挑戦！	ダンボール箱の内側にアルミホイルをはりつけてオーブンを制作し、粉から練ったピザに具をのせて調理。できたてのピザは味も最高！
3.11・12	こどもの城に泊まって うーんと遊んじゃおう！	代々木公園で夕方まで遊んだ後、夜の〔こどもの城〕館内でトランシーバーを使った「怪盗ルパンを探せ」を実施。その日はプレイホールに寝袋を敷いて宿泊し、翌日は子どもたち手作りの卒業式で1年を締めくくった。

□ユースクラブのプログラム一覧□

日　時	プログラム名	内　容
4.10	**はじめまして!! ヨロシクゲーム大会**	ジャンケンゲームや宝探しなど手軽にみんなで遊べる活動を行い、後半は自己紹介を行った。新入会員も多く、早く慣れるように活動を工夫した。
4.24	**思い切り遊ぶゾー！ 代々木公園へ行こう!!**	広い公園で思い切り体を動かして「オリジナル氷鬼」「クマ狩り」などのゲームを仲間とおもいきり楽しんだ。
5.15	**こどもの城の城下町へ!! 探検！動物ハンティング**	デジタルカメラを持ち、〔こどもの城〕の周辺にでかけて、動物の彫刻や写真、絵などを撮ってくるという活動。
6.6	**おいしいゴハンに挑戦だ！ 野外炊事の極意に迫る**	横浜・こどもの国で野外炊事。いろいろな炊き込みご飯「カレーピラフ」「五目御飯」「中華ちまき風」「パエリア」のメニューにグループで挑戦。
6.26	**ピコピコまゆ玉転がし!! 究極のコースづくり**	薬のカプセルに色を付け、鉄球を入れるとピコピコと転がるまゆ玉になる。転がすための専用コースを考えて作った。
7.17	**こどもの城の謎を追え!! 「リーダーからの挑戦状」**	メンバーが主人公になり、なぞを解いていく推理ゲーム。仲間の知恵を集めて「あぶりだし」「双眼鏡」などを使った課題に挑戦した。
9.11	**どんなことやりたい？ 企画会議（雨天変更）**	突然の雷雨のため、屋外での活動予定を変更して、急きょ行った作戦会議。以降の活動の希望についてまとめを行った。
9.25	**Oh！城DEビンゴ（雨天変更）**	雨天のため館内活動に切り替え、全館を使ったビンゴ形式のクイズを行った。グループで館内を巡り問題を見つけ、ビンゴ用紙に答えを並べビンゴを作るゲーム。
10.16	**お店の企画・準備 & ユースバンパー大会**	11月に予定している「ドルッチャタウン」の出店に向けて企画を考え、準備を行った。終了後、班対抗のバンパー大会（ビリヤードの一種）を実施した。
11.5	**ドルッチャタウン準備作業**	全館事業である、子どもたちのお祭り「ドルッチャタウン」の初日に、2日目の開店をめざし準備を行った。班ごとに4つのコーナーを担当し完成した。
11.6	**ドルッチャタウン 「ホラー占いの館」**	一般来館児・者を対象に「怖い占い」の店を実施。「びっくりカラー占い」「心の口」「井戸の花子さん」「ユックリさんの占い」の各コーナーを運営した。
11.20	**最終回作戦会議 & 秋を探して！デジカメ大作戦**	青山の街にでかけて班ごとにデジタルカメラで秋を探し撮ってくる活動を行い、みんなで鑑賞会を行った。後半は最終回の内容を話し合い決定した。
12.17・18	**「ハロスマスパーティー」 プロジェクト大作戦**	メンバーが考えた企画を実現する夢の活動。〔こどもの城〕に泊まり、1日目は代々木公園で日暮れまで思い切り遊び、夜はパーティーの企画会議、2日目は早朝に全館を使った「ドロケイ」を行い、その後、パーティーを準備・実施した。
H18.1.15	**思い切り遊びぞめ！ 代々木公園で遊ぼう!!**	雨が多く2期に遊べなかったフィールドゲーム「クマ狩り」を思い切り楽しんだ。何度も遊びこむなかで、白熱したゲームとなった。
2.5	**焚き火でポカポカ！ 焼きイモで井戸端会議!!**	班ごとに地図を調べ〔こどもの城〕から約1時間離れた区立総合福祉施設「せせらぎ」にたどり着き、そこの広場を借りて、焼き芋を楽しんだ。
2.19	**イケイケ街探検!! 横浜はじめて探検隊！**	班ごとに取材費の範囲で横浜の街を訪ね回り、いろいろな“はじめて”を探し出し取材をする活動。街の人との交流や博物館への聞き込みなどを行った。
3.5	**次回が最終回！ 何をしようか会議 & 準備**	午前中から集まり、企画会議と準備を行った。自分たちの手で遊びの企画を立てて運営することを決定、具体的な進行について考えた。
3.18・19	**ユースクラブ最終回 「みんなの夢プロジェクト」**	「仲間と最後までユースらしく遊ぼう」をテーマに自分たちで企画し運営する夢を実現した2日間の活動。「代々木公園でのフィールドゲーム（クマ狩り・ドッジボール・Sケン・ナンバーコール）」「班対抗バンパー大会」「館内ドロケイスペシャル」などメンバーがすべて運営した。特に代々木公園には2日ともでかけて、思い切り遊ぶことを実現した。

造形事業部



平成17年度の活動

1．はじめに

開館以来、造形スタジオでは、子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかに発育してゆく方法として、(1) 新しい視点で素材を探究して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせるワークショップ　(2) そのままでは素材になりにくい音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形感を新しくするワークショップ　(3) 制作活動の基本となる“素材と道具と技法”の関係を理解できるように視覚化したワークショップ――これらを軸に活動を展開。3種類のワークショップを順次くりかえしながら、スタジオの運営をしている。

ワークショップの構成要素である「展示・体験・制作」という基本コンセプトを効果的に実施するため、プログラムに応じて環境設定を行い、子どもたちが積極的にプログラムにかかわっていけるようにした。



こども歳時記～節分～（おりたたみ鬼）

前年度に引き続き、布をテーマに夏休み特別期間プログラム「素材との出会い展～布と造形2」を実施した。また、開館20周年記念事業「ブルーノ・ムナーリ～もっと豊かにもっと自由に」展（以下「ムナーリ展」）を実施した。

（ア）一般来館児・者へのワークショップ

本年度の一般来館児・者への活動は、私たち人間にとって身近な素材である“布”に焦点を当て、自然素材から化学素材までのさまざまな種類の布を、制作活動をとおして体験できるよう企図した。夏休み特別期間には「素材との出会い展～布と造形2」を開催、9月以降は開館20周年記念「ムナーリ展」に関連した「やってみよう！つくってみよう！～アートとあそぼう」と季節感を題材にした「こども歳時記」を実施した。また、3月から次テーマ「造形発見展～アートと造形」のワークショップも開始した。

（イ）講座・クラブ

講座・クラブの活動では、「こどもクリエイティブクラブ」5コースを実施。成人を対象にした「大人のための造形表現教室」も前年度に続き実施した。

（ウ）グループ活動

平常期間の午前中は、「かげをうつそう」「木をつくろう」「ねんどのジャングル旅行」「竹体験ワークショップ」を実施した。プログラム進行は、スタッフ全員が交代で進行を担当し、前年度に引き続き事前の打ち合わせを当日の進行担当者が行えるよう調整した。

対象年令や人数が、設定してある受け入れ条件と合わな

い場合もあった。要望の多い、大人数・低年齢向けのプログラムを引き続き検討していく必要がある。また、実技研修として、高等学校保育科の利用があり、「粘土でジャングル旅行」を実施。研修目的にかなったようなので、今後このようなケースが増えていくことも予想される。受け入れ方法や内容などを検討し、積極的に受け入れたい。

また、敬宮愛子内親王殿下とお友だちのグループも年間をとおして造形のグループ活動に参加された。

2. 造形活動のテーマについて

布の原材料は、絹、麻、綿、獣毛など、動植物の柔軟性に富んだ繊維によって成り立っている。これらの繊維は、一本一本だと脆弱だが、数本から数十本を撚る、紡ぐ、績ぐなどしていくと、柔軟性を残しながらもある程度強くて長さのある糸に変化していく。古来から私たちの祖先は天然の繊維を糸にし、そしてこれら糸を経と緯に交互に形成する（織る）ことによって、しなやかで軽く、柔軟性に富んだ布を生み出してきた。

糸の太さや織り方、素材によって、できあがる布の厚みや柔らかさ、風合いなどが変化することも見逃せない。こうして作られた布は、人間が生活していく上で重要な三大要素の“衣・食・住”の“衣”の部分として、外敵や暑さ寒さから身体を守るため、世界各地の気候風土に合わせてそれぞれ発達してきたと考えられる。

古来から私たちの身近にある“布”を造形活動のテーマに取り上げたのが「布と造形」。織り上がった布を使って造形活動に生かすだけでなく、繊維から糸、そして布になる過程にも注目して造形活動を展開した。

〔こどもの城〕にやってきた子どもたちは、エレベーターで3階に降り立つと、まず、ロビーに通じる廊下の壁面に、幅1.2m×長さ6mほどのグラデーション模様のタペストリーを見つけることになる。反物に幅5～10cmの布帯を交互に織り込んでいったもの（平織り）で、色と素材と技法とで、「ここは何だろう、この奥に行くと何があるのだろう」と、子どもたちに興味を引かせる最初の展示物である。



素材との出会い展～布と造形2
体験コーナー「どうして? どうなる?! なに布広場」

ロビーに進むと、スロープ部分に幅1.1m×長さ11mの竹のアーチが組まれている。アーチには直径1mほどの、紗で放射状に織られたオブジェが10個、配置されている。中を通ると、紗からこぼれる色とりどりの光に全身を包み込まれる。

造形スタジオの入口には、夏休み特別期間中に行う6つの布のプログラムを巨大化した作品をにぎやかに配置し、触って遊べる環境も整えた。スタジオ内の壁面、柱、パーテーションなどの垂直面はすべて布でおおい、廊下壁面部分と同じグラデーション模様のタペストリーを配置し、造形スタジオ内外のつながりを持たせた。

造形スタジオ奥には、展示コーナー「古代布の郷」を設け、日本では古来からどのような素材を布の原材料にしてきたのか、また原材料の動植物のどの部分をどのようにすると糸になり、さらに布の形に姿を変えるのか――実物やイラスト、写真で、原材料の繊維から糸に、そして布にかわる行程を紹介した。古くから日本の人々の周りに自生しているカラムシを中心に取り上げ、葛や藤、和紙からできる布もあわせて紹介した。また、古来から高級織物とされてきた絹、江戸時代になってようやく一般に普及した綿、そして明治時代になって外国からもたらされた羊毛も紹介した。また、それぞれの布の手触りの違いを確かめる「さわってみよう」コーナーも設けた。

展示準備のために、5～6か月前から地方の民芸館や織物研究家に連絡をして、企画主旨を理解してもらった上で、資料や情報提供を受け、より深い展示を行うことができた。

体験コーナー「どうして? どうなる?! なに布広場」では、どのような行程をふまえると布ができあがっていくのかを“つむぐ”“よる”“織る”の3つの要素に分けて体験できるように、さまざまな仕掛けがある広場風の環境を設定した。綿から糸を指先で紡ぎ出す「つむぎの壁」や、細い布帯どうしを撚りかけして糸にする、高さ3mの「よりの木」、そして経糸を張った木枠に布帯を平織りしながら裂き織り風の壁や天井を作っていく「織りの家」など、布ができるまでの仕組みを遊びを通じて体験できる場とした。

制作の場では、布が持つ特性を造形的可能性から考えた計6つのプログラムを実施した。

また、毎日夕方4時から「どうして? どうなる?! なに布広場」で小学1年生以上を対象に行った「つむぐ・よる・織る」体験ワークショップでは、子どもたちが自らの手で綿を紡いだり麻の繊維や羊毛などに撚りをかけたりして糸

素材との出会い展～布と造形2（オリジン）



グループ活動（ねんどのジャングル旅行）



を作り出し、その糸を使って経糸を張った小枠に織り込んで布に仕上げ、10 cm角ほどの布を作った。大人からみればつたないものかもしれないが、その布には子どもたちの布に対する体験と想いが織り込められた、世界にたった1枚の布となっていた。

これらの展示・体験・制作をとおして子どもたちが、ふだん何気なく接している布を改めて考え直す場となれば幸いである。

3. まとめ

開館以来20年間、造形スタジオでは常に、子どもたちが豊かな造形体験ができるように、また感性を健やかにはぐくんで行けるように、さまざまな試みを行ってきた。本年度は前年度に引き続き“布”に焦点をあて、「素材との出会い展～布と造形2」を実施した。自然素材から化学素材まで多様な“布”を使い、どのように造形表現へと結び付けるかを考え、実践してきた。今回は古代布に焦点を当て“布”の集大成となるワークショップが展開できた。

日曜日に高学年を対象に、日常ではあまり使うことの少ない材料、道具、技法などを体験できるように実施してきた「造形実験室」（断続的ではあるがＡＶ事業部との共催で“造形”と“映像”といったジャンルを超えたワークショップも含む）は、残念だが、諸事情により年度内で終了した。今後は、イベントとして行うなど実施回数や方法などを検討し、実施して行きたい。

また、「第9回図工大好き子ども美術展」や「鉄はうたうvol. 4」を実施するなど、〈動くこどもの城〉をはじめとした普及活動でも、外部の社会福祉施設や教育施設と協力して事業を行った。造形スタジオの活動に新しい風を吹き込む、外部との共同事業を今後も継続して実施していきたい。

平成17年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
やってみよう! つくってみよう! 「布と造形」	4.9～24、5.7～6.19、7.8～20、9.4～10.2	夏休み特別期間プログラム「素材との出会い展～布と造形」に向け、プログラム試行のステップとしてプログラム開発、実施、再考を行いながら、布を体験的に学ぶワークショップ活動を実施した。
〃 「アートとあそぼう」	10.4～11.13	開館20周年記念「ムナーリ展」に向け、ムナーリの「アートとあそぼう」のプログラムや関連したプログラムを実施した。
〃 「アートと造形」	H18.3.4～24	春休み特別期間プログラム「やってみよう！ つくってみよう！ ～アートと造形」に向けたワークショップ活動を実施した。
こども歳時記		
端午の節句	4.20～5.5	「布と造形」期間中なので、布を中心とした展示構成とプログラムを実施。前年度に引き続き、端午の節句にちなんだ全国各地の伝統的な民芸品をスタジオ内に展示した。それぞれの地方固有の形態や色彩、素材感を十分に感じてもらえるように、民芸品を図案化してタペストリーに描いたり、「張り子の金太郎」の巨大版を制作したり、展示物にも民芸品の要素を取り入れた。スタジオ全体に水色の布をはり、空にみたてて、そこに布で作ったレリーフ状の柏もち、しょうぶ、雲、型染めで作った布の鯉をにぎやかに飾った。天井には、布で作った鯉のバナーや雲をつるした。また、クリエイティブコーナーのプログラム「タンゴ・メタル」と関連づけた金属レリーフ状のかぶとと異なった素材の布を組み合わせて展示。スタジオ奥に体験コーナーを設け、親子プログラム「ぐるぐるゴイ」に合わせ、“動く、回る”ことで遊べるオブジェ――スイッチを押すと壁面に取り付けた鯉がモーターで風車のように回るもの、ハンドルを回すと布の帯がグルグル回転して鯉が滝登りのように動くものを設置した。
七夕	6.23～7.7	親子プログラム「天の川☆ブレス」の材料と同じ長い紗の布を天井や壁面に設置し、天の川にみたてて飾った。その周りをラメ入りの布や金銀の布で作った星、切り紙で制作した織り姫と彦星で飾った。
クリスマス	12.20～25	2枚のベニヤ板を差し込んで作ったツリーをスタジオ入り口に設置。ミラーボールや紙で作ったプレゼントボックス、イルミネーションなどを飾り、クリスマスの楽しい雰囲気作り。スタジオへの誘導とした。スタジオ内壁面は、紙で作ったプレゼントボックス、布で作ったレリーフ状のサンタクロース、となかいをダイナミックに飾り、制作のきっかけ作りとした。
お正月	12.26～H18.1.15	全国各地の凧とその説明をパネル化したものをロビースロープに展示し、お正月のにぎやかな雰囲気を演出した。スタジオ入り口には布で作った約2mのレリーフ状の羽子板、その周りやスタジオ内の壁面には布や紙で作った羽子板のはね、コマ、干支にちなんだいろいろな種類の犬のシルエットを飾った。スタジオ天井にはレプリカの凧を飾り、壁面には布で作ったレリーフ状の獅子舞、親子プログラム「お正月わんだーかめん」のいろいろな見本を飾った。前年度に引き続き、お正月や干支にちんなんだ全国各地の民芸品も展示した。
節分	1.17～2.3	スタジオ入り口に布で作った鬼と福の神を飾り、その周りに布で作った豆、ます、こん棒を飾った。スタジオ壁面には、幾何形態で抽象化した豆やますを紙で作り、飾った。その周りや天井に、親子プログラム「おりたたみ鬼」の巨大版をいろいろな折り方で作り飾った。プログラムの見本として制作の足がかりになっていた。スタジオ奥のコーナーでは、特別企画「鉄はうたうvol. 4」の展示を行った。
桃の節句	2.4～3.3	ロビーのスロープには全国各地の民芸品のひな人形を図案化したものを布で作り、タペストリーとしてつるした。スタジオ入り口には布で作ったひな人形、その周りにはレリーフ状の桃の花やだいだい、ひしもちを飾った。スタジオ壁面や天井には、親子プログラム「テトラびな」をいろいろなサイズで作り飾った。スタジオ奥のコーナーには「テトラびな」に合わせて、紙、プラスチック、木で作った筒のなかに、小石や小豆などを入れて鳴らす音具を置いた。箱の素材や形と中身の違いで音の響きが変化することを体験した。何が入っているかを当てるクイズも掲示した。前年度に引き続き全国各地の民芸品のひな人形も展示。

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈夏休み〉 素材との出会い展 「布と造形2」	7.17～8.31、9.5～7	天然素材としての布から化学素材の布まで、特に古代布を体験できるように環境を整備し、展示・体験・制作のワークショップを展開した。
〈開館記念〉 第12回親子体験ワークショップ	11.1～13	親と子が積極的にかかわるプログラム「親子ワークショップ」の12回目。プログラムは「ムナーリ展」に関連した「おたがいにみつめあおう」を実施。
〈　〃　〉 開館20周年記念 「ブルーノ・ムナーリ～もっと豊かにもっと自由に」展	11.15～12.18	造形、デザイン、建築、評論、子どものための造形教育など幅広い領域で優れた制作活動をしたミラノのアーティスト、ブルーノ・ムナーリ（1907～98）の活動をワークショップも含めて総合的に紹介する展覧会。ギャラリーに作品、遊具、絵本などを展示し、造形スタジオでムナーリが考案した遊具の体験や造形ワークショップを実施した。レクチャー「ムナーリが教えてくれたこと～ミラノのラボラトリオでの活動」（講師＝ベバ・レステッリ氏／11月23日）、ギャラリートーク「ムナーリを知ろう」（講師＝岩崎清氏／12月2、9、16日）も実施した。子どもだけでなく、児童館や美術・造形の指導者など多くの大人も作品を鑑賞し、子どもたちの活動を楽しんでいた。 共催：日本ブルーノ・ムナーリ協会、後援：イタリア大使館、イタリア文化会館、助成：独立行政法人国際交流基金、協力：小海町高原美術館、富山県立美術館、協賛：アート・パイ・ゼロックス、中川ケミカル（株）、山田ダンボール（株）、リンテック（株）。
〈春休み〉 やってみよう！つくってみよう！ 「アートと造形」	H18.3.26～4.5	日常のなかにひそむアートを体験的に学ぶワークショップ活動を実施した。



開館20周年記念
「ブルーノ・ムナーリ～もっと豊かにもっと自由に」展
会場風景



開館20周年記念
「ブルーノ・ムナーリ～もっと豊かにもっと自由に」展
レクチャー「ムナーリが教えてくれたこと」
（講師＝ベバ・レステッリ氏）

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	(人)	(人)		
こどもクリエイティブクラブ　A 土の冒険〜クレイワーク	小1〜中3 (20)	① 16 ② 14 ③ 13	火曜日 16:00〜17:30	土に触れ、たたいたり、のばしたり、ひもにしたり、道具を使って変化させる。表現の材料として土を用い、子どもたちが造形表現の可能性を広げられるよう指導した。1期は「かたまりからの変化」。大きな粘土の塊を使い、体全体を使った活動。粘土はどうすればできるのかを体験するために、3種類計60kgの土の粉に水を入れ、手で混ぜたり踏んだりして大量の粘土を作った。各自の制作では、つまみ出し、くり抜き、ぞうがん、磨き、型押しなどの技法を使いわけながら表現していった。2期は「板からの変化」。こねて立方体にした粘土を、たたら板と切り糸を使って切っていくと、粘土の板「たたら」ができあがる。これを自由な形に切ってつなげる、型に沿って丸める、箱状に組み立てるなどして制作。3期は「ひもからの変化」。ひも状にした粘土を渦巻き状にしたり、積み上げたりしながら制作した。これらの体験をとおして、自分たちが使う粘土が何からどうやってできているのか、また粘土どうしの組み合わせ方や土の変化の過程、触感の移り変わりなどを、体全体を使って感じとることになった。
〃　B 素材の楽しみ〜ゆかいな造形	〃 (20)	① 23 ② 20 ③ 19	水曜日 16:00〜17:30	布、木、金属、プラスチックなどのさまざまな素材と素材に見合った道具を使い分け、遊びをとおしてより深い造形体験をすることが基本。1期の素材は“布”。自分たちで布を張ったキャンバスに描画材の代わりにひもを使って絵画表現、各種絞り染めの技法で染めた布を使ったあんどん作り、羊毛を縮毛させてフェルト化した上で仕立てるマペット人形などの表現活動を行った。2期は造形素材として“木”を選び、電動糸のこぎりや電気ドリルなどの工具を用途に合わせて使用しながら制作した。3期には、全9回を通じて制作する「宝箱」。金属素材の体験として、彫金、鍛金、磨き、鋳物といった技法を用いて制作に取り組んだ。年間をとおしてさまざまな素材や道具、技法に接し、個人の造形表現の幅を広げながら、それぞれに楽しみを見い出していた。また、回を重ねるごとに取り組み方や制作技術も向上していったことも見逃せない。
	(組)	(組)		
〃　C わくわくアート〜親子でアート	5歳児と親（10）	①　4 ②　6 ③　3	木曜日 15:30〜16:30	身近にある材料、素材に変化をあたえ、新しい触感や視覚を体験しながら、親子が協力して制作、あるいは親と子がそれぞれに制作するといった方法をくり返し、新しい親子のかかわりかた、大人とこどもの関係を見つめ直すクラブ。1期は日常目にする素材「紙」を中心に、ビリビリとちぎったり、水につけてドロドロに溶かしたり、紙粘土にしたりと、同一素材での表情の違いなどを体験しつつ、石こう、スポンジなどの素材にも触れて制作を楽しんだ。2期はかなづち、ドリル、電動糸のこぎりなど道具を積極的に取り入れ、アルミ板の打ち出し、羊毛でのフェルト作りなどのプログラムを実施した。3期は光と音をテーマに、金網とゼラチンシートを組み合わせて干支にちなんだ犬を作って、影を使って遊んだり、中身の素材をいろいろ変えて音色の変化を楽しみながらマラカスを作ったりした。
	(人)	(人)		
〃　D イメージする楽しみ〜絵本の世界へ	小1〜中3 (20)	① 11 ②　9 ③ 10	金曜日 16:00〜17:30	製本された絵本だけでなく、さまざまな素材や表現方法で造形物を制作した。また、絵本制作に必要な、想像する力を養うために、“おはなし”的な要素を取り入れた。1期では、共同制作で大きな透明ボードにチョークで絵を描く、釘やひもで絵を描く、コラージュ技法で新種の動物を制作し、その図案をシルクスクリーン印刷で刷る、石こうを使って自分たちの指を型取りし、指人形とその人形の住む街や背景、箱などを制作する——など、いろいろな素材や技法体験をとおして、自分たちの中にある“おはなし”的なイメージを視覚化する表現力を身につけることに重点を置いた。2期は、紙すきをして作った紙に、いろいろな種類の野菜のスタンプで絵を描いた。その後、関節が動く木のオリジナル人形を作り、館内や屋外、スタジオ内など、いろいろな場所を背景に撮影し、人形が冒険するストーリーの本にした。3期には、竹や木、紙などいろいろな素材と技法を使い、共同で街の模型を作り、いくつかの場面を撮影して構成、1冊の本にまとめた。共同制作したことで、子どもたちのコミュニケーションが深まっていた。

※「クレイワーク」「ゆかいな造形」「絵本の世界へ」「ハンズワーク」：1期11回（27,500円）、2期12回（30,000円）、3期9回（22,500円）。
※「クレイワーク」は、各期ごとに焼成費8,000円が必要。
※「親子でアート」：1期11回（33,000円）、2期12回（36,000円）、3期9回（27,000円）。
※指導は、すべて〔こどもの城〕職員。

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
こどもクリエイティブクラブ　E 創造探検～ハンズワーク	小4～中3 （20）	①　4 ②　6 ③　5	土曜日 16:00～17:30	紙、木といった一般的な素材に加え、石こう、金属、樹脂など抵抗感のある素材や新素材を積極的に取り込み、日常にひそむ物の形、色、法則、不思議さの発見をめざした、小学4年生以上の高学年向けクラブ。プログラムの内容、子どもの着想、目的などに合わせて、手道具から電動式の工具までと幅広く活用し、キット的に組み立てるのではなく、構造や仕組みなどの理解を深め、じっくりと思考して制作。素材、技法、道具などについて、より良い知識を蓄積し、造形表現の力を養った。日常にひそむ物の形、色、法則や不思議さを発見し、一般的な素材から新素材までを積極的に取り入れたプログラムを実施した。
大人のための造形表現教室	保育士、児童厚生員、学校教員、児童の造形教育、表現教育に興味のある人 （30）	①23 ②21 ③21	木曜日 18:30～20:00	児童の造形教育の新しい方法論を開拓したブルーノ・ムナーリの造形思考を柱に、造形スタジオで行った子どものためのワークショップ「アートとあそぼう」をはじめ、造形スタジオで実施してきたプログラムなどの資料と活動をとおして、造形表現とは何かを体験していく講座。本年度は開館20周年事業「ムナーリ展」と関連させ、ムナーリの「アートとあそぼう」のプログラムを主に実施した。 受講料＝1期（9回）18,000円、2期（12回）24,000円、3期（7回）14,000円。 講師は、岩崎清・元こどもの城造形事業部長（ギャラリーTOM副館長／武蔵野美術大学非常勤講師）

〈短期講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
夏休み造形教室　A ホワイ邸	小3～高3 （5日間 計75）	延べ 76	7.23～27 10:00～16:30	石こう帯を使って、家や木、池、小山などがある箱庭を制作。中に仕込んだ光を点灯させると、家や池などがさまざまな色で幻想的に浮かび上がる。 受講料5,000円。
〃　B うきうき☆ファブリックバッグ	〃	延べ 71	7.30～8.3 10:00～16:30	ミニクッションや小物入れ、ハンガーなどがつまったうきうきバッグ。布どうしをぬい合わせる、フェルト作り、布地へのプリント、刺しゅうなど、さまざまな布の技法を用いて制作。受講料5,000円。
〃　C フェルドール	〃	延べ 32	8.6～10 10:00～16:30	しん材に巻いた羊毛をフェルト化させて、手や足、身体などのパーツを作り、関節が動かせるオリジナル人形を制作。受講料5,000円。
〃　D カムライダー	小3～高3 （5日間 =2回/日= 計150）	延べ 85	8.13～17 10:00～12:30 14:00～16:30	カム構造を使ったからくりがん具。ハンドルを回すと、箱の上の人形がクルクルと回転しながら上下に動き出す。受講料3,000円。
〃　E プルプルX	〃	延べ 112	8.20～24 10:00～12:30 14:00～16:30	のこぎりやなたなどを使って、竹を切る、割る、削るなどして作った人形にモーターを組み合わせる。スイッチを入れると、しっぽや鼻などがプルプルと動き、その振動につられて本体自体も少しずつ移動する、電気仕掛けのがん具。 受講料3,000円。
〃　F 映・造ワークショップ～マイ・キャラクター・ワールド	小4～高3 （8）	8	8.25～27 13:30～16:30 （3日間連続）	自分だけのキャラクターを設定し、物語などを考え、粘土、布、針金などいろいろな素材を使ってフィギュアや背景などを制作。ビデオでコマ撮り撮影、パソコン編集などでキャラクターの世界を表現。受講料10,000円。

3. その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
造形ワークショップ	10.19	「こども歳時記」の一般親子向けプログラムの中から、「リンリンクリスマス」「パクパクししまい」「にょっきりオニ」「のぼりこい」を実施した。児童厚生員など90人参加。（新潟県児童育成指導者研修会／新潟県立こども自然王国）
〃	12.15	「こども歳時記」の一般親子向けプログラムのなかから、「パクパクししまい」「にょっきりオニ」「のぼりこい」を実施した。児童厚生員、放課後児童クラブ指導員など119人参加。（富山県児童育成指導者講習会／富山県民共生センター「サンフォルテ」）
〃	H18.1.8	同上。児童厚生員など20人参加。（埼玉県児童館北部ブロック）

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
和歌山県児童厚生員等資格認定研修会	6.28	一般親子向けのプログラムの中から、「マペット」「竹のぼり」「ひかりのチューブ」を取り上げて紹介。参加50人。（和歌山県福祉保健研修・人材センター研修室）
第9回図工大好き子ども美術展	9.13～10.10	東京都小学校図工専科教師の有志団体「東京児童幼画堂」との共催で、都内公立小学校の子どもたちの作品展をギャラリーで開催。テーマは「子どもの見る夢・子どもの見る世界」。学年別に展示。今回初めて、「こどもクリエイティブクラブ」の子どもたちの作品も展示。〔こどもの城〕では5回目。（ギャラリー）
福井県児童館連絡協議会第3回児童厚生員 研修会「児童文化活用法」	10.25	人気の高かった一般親子向けプログラムのなかから、「パクパクししまい」「のぼりごい」などのプログラムを取り上げて紹介。57人参加。（福井県児童科学館）
横須賀市立美術館準備室「出前ワークショップ」	12.9	平成19年度開館予定の横須賀市立美術館からの要請で、ブルーノ・ムナーリのワークショップ「直接の映写」を実施。小学5年生36人が参加。（横須賀市立津久井小学校）
日本保育協会地域子育て支援センター担当者研修会	12.15	日本保育協会主催の実技ワークショップ。参加50人。（造形スタジオ）
鉄はうたう vol.4	H18.1.18～2.13	ユーラシア大陸を中心に世界中に分布し、生活に密着した音具“口琴”の展示とコンサート、クリニックを行った。今回は、ロシア連邦バシコルトスタン共和国のローベルト・ザグレッヂーノフの作品を中心に、ユニークなアイデア満載の“世界の新発明口琴”を展示した。コンサートは1月21日、クリニックは22日に実施。主催は日本口琴協会、こどもの城造形事業部。（造形スタジオ）

平成17年度プログラム一覧表

1．親子プログラム

	名称	内容
布と造形	コパックン	手のひら大の四角いフェルトの両端に、別のフェルト帯をそれぞれはり付けたら、袋状にする。飾り付けをして小物を作れば完成。袋口の両端をつまんで開いたり閉じたりすると、小物をパクリと飲み込む。
	オリジン	ハガキ大のフェルトを半分に折り、中央から外に向かって数本の切り込みを入れる。違う色のフェルト帯を、切り込みに交互にくぐらせて織り、飾り付けをする。織り目模様が鮮やかな平面人形ができる。
	ヨリコットン	しの竹をのこぎりで1cm幅程度に2個切り、紙やすりで仕上げる。次に長さ30cmの布帯2本をのりでつなぎ、しの竹を2個ともとおしてから、両端をのりでとめて輪にする。2個のしの竹に指を入れてきつくねじり、中央で半分に折ると、ねじれた布に自然とよりがかかる。最後に飾り付けをする。
	ゆらりーふ	5×10cmほどのフェルトの中央につり糸用の小さな切り込みを入れ、まわりに任意の形の穴を開ける。吊り糸をとめ、飾り用の布を数枚つなぎ合わせたものをフェルトの両端にはり、糸を竹ひごにとめると本体の完成。あとは自由に飾る。
	フリッ布パタッ布	布帯の両端に段ボール片をはりつけ、中央に竹ひごを置いて別の布帯ではさみこむようにはり付ける。飾り付けをして竹ひごをクルクルと回すと、布帯が段ボール片の重みでパタパタと動く。
	ロープナー	長さ12cm、太さ1cmほどの綿ロープを、ほどいたり、いくつかにまとめなおしたりして作る人形。
	布糸コラージュ	さまざまな色や柄、材質の布と毛糸やひも、糸などを、15cm角の台紙にのりではりながら絵や模様を制作するコラージュ遊び。
	さく蔵まく蔵	ハガキ大のケント紙に好きな形を描き、切り取る。布にはさみで切り込みを入れ、帯状に引き裂いてから、切り取ったケント紙に巻き付け、飾り付けをする。
	テ・ヨール	3本の布帯をまとめて、両端を結ぶ。布帯の間に指を入れてしっかりねじり、中央で2つ折りにすると、自然によりがかかる。後は自由に飾り付けをする。
こども歳時記	〈端午の節句〉 ぐるぐるゴイ	3枚の布の端を帯状の布にはる。帯状の布は筒状にのり付けする。3枚の布にコイの飾りをし、輪の中に指を入れてグルグル回すと、鯉が回転する。
	〈七夕〉 天の川☆ブレス	輪ゴムを端に取り付けた帯状の布に、七夕の飾りをする。布を輪にし、反対端を輪ゴムにとおし、とめる。そこに紗の布をとめ、切り込みを入れ天の川の飾りをする。腕に着ける七夕版ブレスレットの完成。
	〈クリスマス〉 クリス窓（まど） カード	紙を半分に折る。一枚目に切り込みを入れ窓を作る。紙やペンでクリスマスカードの飾り付けをする。窓をめくるとカードの中身がのぞけるクリスマスカードになる。
	〈お正月〉 お正月 わんだーかめん	紙にポンチで穴を2つ開ける。紙やペンで干支にちなんだ犬の飾り付けをする。かぶれるように帯状の布紙を付けると、犬のお面の完成。
	〈節分〉 おりたたみ鬼	紙を2回、半分に折る。開いてじゃばらに折り返し、折り目に切り込みをいれる。鬼の飾りをして、閉じた状態から開くと、鬼の鼻や口が飛び出す。
	〈桃の節句〉 テトラびな	紙を袋状にのり付けする。中に砂を入れ、テトラ型になるように閉じる。お雛様の飾りをして振ると音が鳴る。

	名　称	内　容
ムナーリ展	さまざまなかたち	さまざまな形にちぎられた紙の形が持っているイメージから、子どもたちがそれぞれにイメージを広げて描く。
	テクスチャー	凸凹、ザラザラ——感触の違ういろいろな素材に紙を当て、クレヨンなどで表面の凸凹を写し取り、絵を描く。素材を選んでこするだけで自分のイメージにあった絵の表現ができる。
	コラージュ	手触り、材質感などの違ういろいろな素材を切って、1枚の紙にはって絵を描く。色はほとんどないが……。
	おたがいに みつめあう	家族、友だちなど誰かとペアになり、互いに見つめあう。3つの穴の開いた正方形の紙に顔を描いて、もう一度見つめあう。
	ステロタイプ	家、花、顔など、題材を決めて鉛筆、フェルトペン、ボールペンなど太さ、濃さなどが異なる10種類のペンで細長い紙に描く。
	サラダのバラ	いろいろな野菜を包丁で切った断面をスタンプにして、絵を描く。
アートと造形	メガーテン	ケント紙をメガネの形に切り取り、目の部分にポンチで直径2mmの小さな穴をいくつもあける。小さな穴から、ふだんと違った風景と視覚を楽しむ。
	すりすり こすりだし	さまざまな素材の表面にB5サイズのコピー用紙をあて、クーピーを使って表面の凸凹をこすりだす。絵を描いたり、模様だけを集めたり、触った感じと模様の出かたを比較したりと触覚と視覚の両方が楽しめる。



ムナーリ展（さまざまなかたち）



こどもクリエイティブクラブ
（わくわくアート〜親子でアート）

2. 子どもだけのプログラム

	名　称	内　容
布と造形	スケテーラー	15×30 cmほどの紗を半分に折って下書きを写し、線に沿ってなみ縫いをする。4～5 cm残したところで裏返し、わたを包んだ布を入れ、最後まで縫い上げる。飾り付けをすると、ミニぬいぐるみクッションになる。（小3以上、1時間）
	布レール	6×15 cmの布を筒状にはり、飾りをつける。土台になるベニヤ板の対角線上に2か所、手回しドリルで穴を開け、最初に作った筒状の布を通したアルミ線を差し込んでとめる。全体に飾り付けをすると完成。筒状の布を動かすと、アルミ線の曲がりに沿ってユーモラスな動きをする。（小2以上、1時間）
	織り布レーム	平竹をしならせて両端をアルミ線でとめ、ゲージにあわせて10か所の溝を棒やすりでつける。たこ糸を溝に引っ掛けながら順番にしばって放射状の経糸を作ったら、布帯を交互に織り込んでいく。最後は飾り付けをする。（小3以上、1時間）
	アムーア	10×30 cmの布を3枚重ねて数本の切り込みを入れ、それぞれ三つ編みをしていく。飾り付けをするとできあがり。（小3以上、1時間）
	ヨーモール	長さ25 cmほどのアルミ線に羊毛を巻き付けて縮毛させる。土台になる四つ割りの丸太をのこぎりで2～3 cm幅に切ったら、手回しドリルでアルミ線を差し込む穴を開ける。最後にアルミ線をドリル穴に差し込み、飾り付けをすると完成。（小3以上、1時間30分）
	フェル棒	太い木の枝にドリルで穴をあけて、手足となる竹ひごを差し込み、羊の原毛をからませて石鹸を溶かした湯につけ、よく揉んでフェルト化させる。飾りつけをすると、フェルトを身にまとったような人形の完成。（小3以上、1時間30分）
	フェルトサック	指に羊毛を巻き、縮毛させてフェルトの指人形を作る。直径3～4 cmの木の枝を10 cm程度に切り、手回しドリルで穴を開けた、竹ひごを差し込む。指人形と土台の枝に飾り付けをすると完成。指にはめたり、土台に飾ったりする。（小3以上、1時間30分）
	ホツレ・コレクション	段ボールを布で覆って台紙を作る。別の布を織り目に沿って縦横に切ってパーツを作り、それぞれの端を指でほつれさせて台紙にはって形に仕上げる。最後にタイトルをつけるとできあがり。（小3以上、1時間）
こども歳時記	〈端午の節句〉タンゴ・メタル	金属板を端午の節句のモチーフ型に切り、布をはった板に釘で固定する。金属にたがねを打ち模様をつけると、鯉やかぶとなど端午の節句にちなんだレリーフの完成。（小3以上、1時間30分）
	〈七夕〉七夕☆染めの川	湿らせた布をカップに巻き付け、凧糸でしばる。ギャザーを中央に寄せ、布用の絵具を刷毛でつけて染める。乾燥後、広げた布の上下に竹ヒゴとひもを取り付け、七夕の飾りをする。絞り染めふうの短冊のできあがり。（小2以上、1時間）
	〈クリスマス〉クリスマス・プリントカード	クリスマスのモチーフ型にスポンジを切り、厚紙にはって版を作る。版にローラーでインクを付け、紙をのせてバレンで刷る。紙やペンで飾り付けをしてカードの完成。（小3以上、1時間）
	〈お正月〉お正月板犬（ばんけん）	板をノコギリで切り、持ち手と頭、足を作る。持ち手と頭に穴を開け、ひもでしばる。干支にちなんだ犬の飾りをして、上下に動かすと音の鳴るがん具となる。（小3以上、1時間30分）
	〈節分〉鬼ピョコ	太さの違う2本の竹に穴を開け、ひもでつなぐ。ひもを引っ張ると、太い竹の中から細い竹がピョコっと現れるからくりがん具の完成。（小3以上、1時間30分）
	〈桃の節句〉くるりびな	紙におひな様の飾りをし、中央に竹ひごを取り付ける。厚手の紙で貯金箱型を作り、おひな様を取り付ける。竹ひごを回すとおひな様がクルクルと回転する。（小2以上、1時間30分）

名称		内容
ムナーリ展	直接の映写	スライドのマウントに羽根、糸、葉っぱの葉脈、色セロハンなど、いろいろなものを構成してはさむ。プロジェクターでスクリーンに拡大して映し出して見る。（小3以上、1時間）
	テンション	くもの巣のように、自然の木の枝や切り口などにたこ糸を結んでいく。ピンと張った糸と糸の間の力を使って切った枝などを固定。糸と枝が空間を構成し、台座を取り付けると立派な彫刻になる。（小2以上、1時間）
	タイルをつくろう	四角い木枠に粘土をつめて粘土の板を作る。貝がら、ボルト、木など身の回りにあるものを押し当てて模様をつけ、タイルを作る。（小3以上、1時間）
	ゼログラフィーア	コピー機の移動する光に合わせて、写し取るものをわざと動かす。伸びたり、縮んだり、ゆがんだり、できあがった不思議なコピーを使ってコラージュ。本来、同じ形に写し取るための機械が“アートマシーン”に変わる。（小4以上、1時間）
アートと造形	発掘！ホネラージュ	恐竜や生き物の骨のコピーを好きな形に組み合わせ、A4サイズのケント紙にコラージュして新たな生き物の骨格を完成させる。上からトレーシングペーパーをかぶせて色鮮やかな肉付けをして、不思議な新種生物の発掘が終了。（小2以上、1時間以上）
	触覚塔（しょっかくとう）	5×5×20cmの発泡スチロールのかたまりを、ヒートカッターで2～3回カットし、組み合わせ塔を作る。塔のまわりにはいろいろな触感の違う素材をはりつけて、鏡面仕上げの紙をはった12cm角の台座に取り付ければ、触感を楽しむ塔の完成。（小3以上、1時間以上）
造形実験室	織物体験～裂織に挑戦	15cm角ほどの厚紙に1cm幅でたこ糸を巻き付けたら、指の幅程度に裂いた布を交互に織り込んでいく。最後にたこ糸を厚紙からはずして端の処理をすると裂織布ができあがる。（小4以上、1時間）
	染め物体験～縫って染める	布を任意の形に折って自由になみ縫いをして行き、最後に糸を引っ張ってギャザーをよせる。水に浸してよくしぼった後、染料に浸し、乾燥させる。糸を取り去ると、縫い目のところに模様が浮かび上がっている。（小4以上、1時間）
	染め物体験～身の回りにある自然素材を使って布を染めてみよう	カモミール、ローズヒップ、パセリ、ターメリック、緑茶など10数種類の中から好きな染材を選び、煮出して染め付け、みょうばんで定着させる。ワークシートを使った、子どもの実験的要素の強いプログラム。（小4以上、1時間）
	アニメーションスペシャル	(1) スポンジにアルミ線を通してしんにし、布で飾り付けをしてキャラクターを作る。そのキャラクターをテーブルの上で少しずつ動かしながら、コマ撮りしてアニメーションを作る。 (2) ムナーリの「木をつくろう」を応用し、接写台の上で紙の木を少しずつ成長させ、葉っぱや虫のスタンプを使って動きに変化を加えながら、コマ撮りしてアニメーションを作る。（第3日曜日、小4以上、1時間以上）

音楽事業部



平成17年度の活動

1．はじめに

音楽事業部の活動は、音楽ロビーを一般活動の拠点とし、2つのスタジオは特別な催しと講座・クラブの活動の場という形となっている。音楽ロビーは、長年の実験的プログラムの積み重ねで、ユニークな音楽遊びが展開されるオープンスペースとして、〔こどもの城〕のなかでもなくてはならない遊びの場となっている。

手作りの楽器や民族楽器などをそろえ、いかに音楽の楽しさと共感する喜びを子どもたちに伝えることができるかをコンセプトに、プログラム開発を行い、環境整備に工夫をしてきた。平常期間の平日は、一日1回の音楽遊びのメインイベントを核に、ストリートオルガンの体験と童謡コンサート「うたってハッピー」を数回実施している。音楽遊びのプログラムでは、特に親子のスキンシップをはかる歌遊びやダンス、そしてパネルシアターなどを取り上げている。1回30分プログラムの流れで、“動”と“静”のめりはりをつけたプログラム構成としている。

日曜日・祝日は、12時30分から17時までの間に、7つのプログラムが組まれている。ストリートオルガンの体験、童謡コンサート「うたってハッピー」、音楽遊びプログラム「音楽広場」、そして世界の民族楽器が体験できる「いろいろ楽器コンサート」、さらにそれらの催しの合間をぬって、管楽器や打楽器で編成されるバンドが、マンボ・ポルカ・サンバなどの楽曲を演奏。自然に体が動き出すような楽しい選曲で、子どもたちも自由に楽器を鳴らし、常に音楽で遊べるスペースとなっている。

スタジオの一般来館事業の核となるのが、Bスタジオで行われる「わいわいスタジオ」である。 世界各地の民族音楽などを定期的にとりあげたり、手作り楽器のワークショップを開催するなど、来館する親子にさまざまな音楽体験の場を提供している。

特別期間の催しは、特に来館児・者が多いことと、学童の来館も増えることを念頭においたプログラムを実施し、大人数異年齢の来館児・者に、幅広い音楽体験の場を提供した。このほか夏休み特別期間には、インドネシアやアフリカの楽器をベースにした「手作り楽器のワークショップ」を実施。充足率100％で人気企画として定着している。

講座・クラブは、ほかでは体験できない音楽活動をめざして、邦楽や民族音楽系のコースなども含む、ユニークなラインアップで運営している。

グループ活動は、個々の参加団体の要望にフレキシブルに対応できる、柔軟で積極的な姿勢と応用力のあるプログラムを用意している。

2．世界をあそべ！わんぱくツアー

夏休み特別期間に実施した新規プログラム。音楽事業部では世界の楽器や音楽を紹介したり、音楽を遊びながら体で感じるゲーム、ダンスなどを長年にわたって実施している。今回はそのノウハウを生かし、国や地域別にテーマを設定して、総合的に楽しめるプログラムを作った。

担当スタッフが音楽的に特徴のある国や、興味のもてる地域などを選び、約40分間のプログラムに構成できる可能性がある国（地域）を絞り込んだ。楽器の演奏などは行ってきたが遊びを取り上げたことがない国・地域、遊びを取り上げたことはあるが楽器の演奏などは取り上げていない国・地域、全く取り上げたことのない国・地域、とさまざま。どの部分を補えばプログラムとして成り立つのかが

課題となった。

作業は各地の音楽や風土、祭事の情報収集から始まった。集めた情報から使えるものを探し出し、プログラムとしてどのようにアレンジするか、試行錯誤を繰り返した。結果としてアフリカ、ハワイ、アルプス、ロシア、スペイン、ブラジルの6地域をテーマにした音楽遊びのプログラムを構成することができた。

プログラムはこれからその国（地域）に旅行するという設定で、リーダーはツアーコンダクターの役割。オープニングは共通で、テーマとなる国の言葉で「こんにちは」とあいさつを交わし、その国の特徴的なもの（川、動物、花、食べ物など）をポーズにしたオリジナルジャンケンで雰囲気を盛り上げる。それぞれのプログラムは以下のとおり。

【ロシア】

ロシア民話「おおきなかぶ」と「ロシア民謡」を軸としたプログラム構成。始まりは、「おおきなかぶ」の絵本を子どもたちと一緒に読むところから。「うんとこしょ、どっこいしょ」は子どもたちが大好きな掛け声。布製の“おおきなかぶ”が会場に出現すると、子どもたちは大喜び。しかし“かぶ”には、茶色の全身タイツを着て“土”に扮したスタッフがしがみついている。「うんとこしょ、どっこいしょ」と一生懸命に“かぶの葉”を引っぱると、やがて“かぶ”が抜け、皆で大喜び。最後は“土”に子どもたちがしがみ付き、子どもたちが“かぶ”になる。

ここからはロシア民謡をモチーフとした「おおきなかぶの歌」に合わせて遊びが進行。イメージがふくらむように物語性を持たせた。保護者が収穫する農民役として参加。歌に合わせて、子どもたちの周りを回る「収穫の踊り」、子どもたちをくすぐり「かぶのようす」をうかがう、収穫となると「子どもかぶ」を農民役の親たちが抜きに行く。遊びの物語性と音楽がうまく一体となり、子どもたちの遊びを大いに盛り上げる演出ができた。

また、白い布製のふわふわとした“おおきなかぶ”は子どもたちに大人気であった。最後はコサックダンスの要素を取り入れた振り付けで、ロシア民謡「カリンカ」に合わせてダンス。国の特色が上手く生かされ、遊びとしても緩急のついた良い構成内容となった。

【アフリカ】

（1）ア パサ パサ

もとは2人組で行うウガンダの遊び。幅広い年齢層で遊べるように手の合わせ方を単純にした。円になって隣の人とも手を合わせていくようにしたので、大人数でも一体感が生まれる遊びになった。歌も特徴的な部分だけを繰り返すことで子どもたちがすぐに覚え、一緒に歌いながら参加できた。すぐにできてしまう年齢の高い子どもたちのために、テンポアップするなどのバリエーションをつけた。のりの良いリズムで気分も高揚し、達成感を得られる遊びとなった。

（2）ミスターライオン

ライオン役を一人決めて逃げ回る鬼ごっこのようなケニアの遊び。子どもたちは「今何時？」と聞きながらライオンの後ろをついてまわる。ライオンがお昼の時間「12時」と言ったら、食べられないよう床に寝そべり固まるゲーム。

音楽を効果的に使った遊びにするため、「サバンナに探検」という設定で歌を歌いながら部屋を歩いた。さらに歩くだけでなく、いろいろな動物に変身するようにした。変化を持たせることで動きの幅が広がり、子どもたちはイメージをふくらませて楽しんでいたようだ。最後は皆で力を合わせ、ライオンが目を回して追い返されるという集団活動としても楽しめるユニークな遊びになった。

（3）チェッ チェッ コリ

フォークダンスでもお馴染みのガーナの歌。動きの種類を減らし、幼児から参加できるようにした。アフリカの太鼓の生演奏で雰囲気を高め、子どもから大人までリズムにのって踊ることができた。

【アルプス】

日本人がアルプスを連想する曲（必ずしもアルプス地方の民謡ではない）を中心に構成。「アルプス一万尺」による親子遊びでは、親が羊飼い・子が羊、という設定で進行。誰もが知っているこの歌に合わせて親子で手を合わせる。その後はリーダーが「羊！」と言えば「羊（子ども）が、羊飼い（親）にくすぐられる」。逆も同様。当初は、“くすぐる”ではなく、“走って逃げる”設定にしていたが、スペースの都合と子ども同士の衝突が危険なため、くすぐるという方法に変更。校庭など広い充分なスペースのある場面や、年齢層が高い場合は、走って逃げる相手を追いかけるという方法がより適していると思われる。その他には「ひつじかいのペーター」（クレヨンハウス出版・音楽広場シリーズ8より）という曲によるヨーデル遊び。また、TV番組「アルプスの少女ハイジ」主題歌によるダンスやアルペン・ホルンの演奏も組み込んだ。

【ブラジル】

音楽ロビーの定番となったサンバ。はなやかなダンスと迫力のある演奏、子どもたちとの楽器遊びなど、今までの活動に根ざした確実なプログラムとなった。

【スペイン】

スペインの都市バレンシアで毎年行われる「トマト祭り」をモチーフに遊びを構成。子どもたちが赤いスカーフを結んでから丸めて“トマト”を作る。会場内を二手に分け、中央をネットで仕切ると、トマト投げ対決の始まり。演奏とともにトマトを投げあい、一定時間で終了。「陣地に多くトマト（スカーフ）が多く残っている方が負け」という設

定にした。勝敗がつくため、子どもたちも自然とヒートアップしてくる。小学生ともなると、本気で投げ、競うため、必ず年齢層ごとの対決として、２～３歳の幼児は親子で参加することとした。

その他には、ギターの生演奏に合わせてのダンス。曲は90年代にスペインのみならず全米でもヒットした「マカレナ」。既存の振り付けがあったが、親子ですぐに楽しめるようなオリジナルの振り付けをし、「オレ！」という掛け声を加えるなどアレンジした。明るいメロディーとユニークなダンスで、元気いっぱいに体を動かすことができた。フラメンコ・ギターを演奏できるスタッフがいる日は、フラメンコ音楽の鑑賞も取り入れた。

【ハワイ】

オアフ島で行われている「キング・カメハメハ・セレブレーション」からヒントを得た。キングカメハメハ像に４m近くもあるレイを、クレーンでかけるセレモニーがある。これをゲームにできないかと考えた。

レイの台（リボン状の布で作った約５mの輪）を中央に置く。子どもたちはこれを囲んで座る。その外側に何色かのハイビスカスの造花を散らしておく。音楽に合わせてレイの台の周りを歩いたり走ったりし、笛の合図でストップ。リーダーの指示した色の花をできるだけたくさんレイの台に着ける。何度かくり返し、レイの台が花でいっぱいになったら完成。子どもたちに手伝ってもらい、像にかける。

最初はスタートからストップまでの時間を十分にとり、ルールを理解してもらう。これを繰り返しながら、徐々に時間を短くする。注意深く指示を聞くことで緊張感が生まれる一方、夢中になって花を飾ることでその緊張を解く。バランスの良い緩急で、子どもたちは最後まで集中して遊んでいた。

続いて、ベニヤ板でできた大きなサーフボード状の板を床に置く。サーフボードの周りをいろいろな海の生き物になり、緩やかな音楽に合わせて泳ぐように動く。サメが来たという合図のシンバルがなったら、サメから身を守るため近くのサーフボードに乗る。サーフボードの上では、思わず体が動き出すようなロック調の音楽に合わせて波乗りポーズでリズムにのる。波をよけてしゃがんだり、ジャンプする動きも加えた。これを繰り返す。サーフィンという題材と音楽を組み合わせて、たくさん体を使った活動的な遊びになった。

最後はダンス。ハワイから連想される南の島をテーマに、子どもたちにもよく知られている『南の島のハメハメハ大王』の歌を用いた。踊りには歌詞に合わせたフラダンスの型を取り入れた。歌のテンポをゆっくりにしたので幼児から踊ることができた。大人の参加率も高く、親子で真剣に取り組む姿が多く見られた。会場全体が心地よい南国の雰囲気に包まれていた。

世界を遊べ わんぱくツアー（スペイン）



国や地域の特徴を出しつつ、遊びの内容が単調にならないようにするために、それぞれのテーマの中で工夫した。遊び、ダンス、一つずつを取り出しても日々の活動で行えるだけのボリュームのあるものができたことは、成果と言えるだろう。また、ビデオライブラリーの映像資料、図書館、各政府観光局、地域の催し、インターネットなどを駆使した情報収集は今までにはあまりないことであり、その後の活動にも大いに役立った。

本年度は試験的に20日間の実施であったが、次年度は期間を延長し、世界ツアーの雰囲気をより強く打ちだすために、パスポートなどを作成してみたいと計画している。テーマとなる国（地域）をさらに増やせるように研究していきたい。

3. まとめ

本年度は、世界の音楽をベースにしたオリジナルの音楽遊びを作ることに力を入れてきた。バリエーションも増えてさまざまな素材を遊びの中に取り入れることができ、成果があったものと思っている。次の課題としては、提供する遊びの要素を、いかに子どもたちの、より能動的な遊びにつなげていくかの工夫である。

スタッフのまねをして動きやダンスをするだけでなく、イメージをふくらまして、いろいろなシチュエーションを想像しながら表現したり、音やリズムを遊びとして心から楽しむことができるか、が課題である。それらを演出するには、一つのイベントの時間的な流れのなかで、遊びのパーツをどのように組み立てていくかも大切である。順番や時間的な配分、言葉の選び方も同様である。集中や開放のバランスやタイミングなど、毎日違う子どもたちの人数や年齢構成に合わせて適時判断してフレキシブルに構成・演出することも必要で、それを理想的な形で行うためには、スタッフが経験を重ねてそれぞれの資質を高めていかなければならない。

平成17年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
みんなでライブ	火曜日　14:30～15:00	子どもたちのよく知っている手遊び、季節に合わせたパネルシアター、童謡、体を動かす遊びのプログラム。音楽を楽しむ中で、親子のふれあいを感じるものを取り入れている。担当スタッフがそれぞれの個性を生かし、幅広い年齢層に対応するプログラム作りに取り組んだ。（音楽ロビー）
ストリートオルガン やってみよう！	火曜日　13:30～14:00 16:00～16:30 水曜日　13:30～14:00 15:30～16:00 木曜日　16:00～16:30 金曜日　13:30～14:00 16:30～17:00 土曜日　11:30～12:00 日曜・祝日　12:30～13:00	音楽ロビー常設のオランダ式手回しオルガン。親子、兄弟、友だち同士などでペアになり、演奏を楽しんだ。（音楽ロビー）
うたってハッピー	火曜日　15:00～15:30 16:30～17:00 水・金曜日　14:00～14:30 16:00～16:30 木曜日　14:00～14:30 土曜日　12:30～13:00 日曜・祝日　13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか、アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しめる。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。（音楽ロビー）
すいようパチパチパーク	水曜日　14:30～15:00	歌遊び・手遊びを中心とした参加型プログラムと、アフリカ、インドネシア、ブラジルなどの音楽を聞かせる鑑賞型プログラムの2種を実施。後者は鑑賞型であるが、使用した楽器にふれたり、スタッフと演奏する参加部分も設け、子どもと一体になって音楽を感じあえるイベントを行っている。（音楽ロビー）
なにがでるかな？ うきうきタイム	木曜日　13:45～14:00	平成15年度から開始したプログラムで手遊び・パネルシアターが中心。来館児・者の認知度もあがり、コンスタントに集まるようになってきた。“15分のミニイベント”という特性を生かして、新人研修の場としても活用した。（音楽ロビー）
木曜なかよし広場	木曜日　14:30～15:00	遊び歌を中心としたプログラム。親子でじっくりふれあう、大勢で盛り上がる、パネルシアターや絵本を見る――など。担当スタッフの個性やレパートリーに合わせて内容は変わるが、子どもたちが楽しめる、おもしろがるプログラム構成で行っている。（音楽ロビー）
みんなの楽器屋さん	木曜日　15:30～16:00	世界各地の楽器を紹介する、鑑賞と体験のプログラム。子どもたちが気軽に参加できるように音楽スタッフが店長・店員になって“楽器屋さん”という遊びの演出を行っている。本年度は一緒に活動する女性ボランティアの活動が軌道にのりはじめ、女性ボランティア主体の演奏活動も取り入れるようになった。（音楽ロビー）
みかんちゃんズの オバオバサンバ！	金曜日　15:00～15:30	サンバのリズムに合わせて体を動かす女性ボランティア中心の活動。親子でともに活動することに重点をおく「楽器でチュー」と、音楽にあわせて体を動かす「サンバ新聞」というプログラムに取り組んだ。新しいボランティアメンバーが、プログラムリーダーとしてさらに積極的に活動できるように取り組んでいる。（音楽ロビー）
赤ちゃん特等席 ばぶりんパラダイス	火～金曜日　開館時間中 （催し開催時間を除く）	0～1歳児と保護者のコーナー。特別期間に実施している乳幼児向けプログラム「ゆったり親子のおんがく園」の利用者や「赤ちゃんサロン」（月2回／火曜日）の参加者の間に定着した。赤ちゃんを囲んで、初対面の母親同士が自然に交流をもてる場になっている。（音楽ロビー）

名　称	日　時	内　容
ハートフルライブ	土曜日　13:00～13:30 14:00～14:30	演奏を聞く・楽器にふれて演奏してみるという体験をとおし、さまざまな音楽を楽しむ鑑賞・体験合体型のコンサート。さまざまなテーマ（アフリカ、日本、インドネシア、弦楽器、筒、竹、金属など）にそって楽器を紹介。（音楽ロビー）
高学年楽器体験コーナー	土曜日　10:30～11:00 13:30～14:00 14:30～15:00	4年目を迎える高学年向けの楽器体験コーナー。小学3年生以上が対象。箏、エレキギター、金管楽器、中国の楽器を体験。本年度は、新たに口琴を加えた。参加者は集中して取り組んでいたが、ロビーの活動との音の重なりあいが気になった。さらなる参加者の獲得と効率のよい運営のために工夫できる点がないか考えたい。（音楽ロビー）
マンボ・ポルカ	日曜日・祝日 13:45～14:00 14:30～15:00 15:45～16:00	マンボ、ポルカ、テキーラなどのリズミカルな楽曲を、マリンバ、ギター、フルート、トランペットなどの楽器で演奏。子どもたちはそれらの楽曲に合わせて手作り楽器や木琴などを自由に演奏する。オリジナルアレンジの新曲に挑戦して、レパートリーを増やしている。「みんなであそぼう！音楽広場」を実施する日は、14:30の回はなし。（音楽ロビー）
みんなであそぼう！音楽広場	日曜日・祝日（ほぼ隔週） 14:30～15:00	担当スタッフの個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした内容に、パネルシアターやダンスなども加えたバラエティー豊かなプログラム。「わいわいスタジオ」のある日は実施しない。（音楽ロビー）
いろいろ楽器コンサート	日曜日・祝日 16:30～17:00	世界各地の楽器を演奏し、紹介・体験する参加型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、楽器の特徴を分かりやすく紹介。コンサート終了後は、使用した本物の楽器をゆっくり体験してもらう。（音楽ロビー）
わいわいスタジオ	日曜日・祝日（ほぼ隔週） 13:30～14:00 15:30～16:00	来館している親子全般を対象にしているプログラムで、幼児でも楽しめるように構成。アフリカ、ブラジル、中国などの民族音楽、マンドリン、和太鼓、ア・カペラ、草笛、生演奏と読み語りなど、演奏者を招いて行うコンサートと、フィルムケースを使っていろいろな笛を作る手作り楽器のワークショップがある。幼児も参加できるワークショップも加え、多くの参加者を集めた。（Bスタジオ）
ぼくらのサウンド2006	3.17　17:30～18:30	「和太鼓グループ」「レッツ・プレイ・サンバ」「レッツ・プレイ・サンバ初級」の公演。サンバの演奏には、女性ボランティアも参加。（青山円形劇場）
	3.18　13:30～15:00	「リズム・ムービング」「リズム・ムービング＆パーカッション」「パーカッション・アンサンブル」の公演。（青山円形劇場）
	3.18　17:30～18:30	「三味線」「ガムラン講座」の公演。（青山円形劇場）
	3.19　13:30～14:30 15:15～16:15 18:00～19:30	「みんなで楽しいリトミック」「おんがく大好きミュージックパーク」「合唱講座」「こどもの城児童合唱団」「混声合唱団」の公演。18:00の回は合唱団のみ。（青山円形劇場）

《特別期間》

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉ストリートオルガンやってみよう！	4.29～5.1、3～5 12:30～13:00	平常期間と同じ。（音楽ロビー）
〈　〃　〉うたえ！ゴールデンライブ！	〃　13:00～13:30 16:00～16:30	バンド形式による弾き語り。レパートリーは童謡ほか、アニメのヒットソングなどのリクエストも多く、子どもたちが積極的にロビーの楽器を楽しんだ。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することができた。（音楽ロビー）
〈　〃　〉マンボ・ポルカ！	〃　13:45～14:00 15:15～15:30	平常期間と同じ。（音楽ロビー）
〈　〃　〉めずらし楽器にチャレンジ	〃　14:30～15:00 16:30～17:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。アフリカの太鼓、ブラジルのサンバ、インドネシアのアンクルン、カリブ海のスチールドラムを演奏。コンサート終了後、使用した楽器を体験できる。（音楽ロビー）

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 家族みんなで歌っちゃおう！ロード・オブ・ザ・シング！	4.29～5.1 14:00～14:30 15:30～16:00	前年度に登場し、好評だったプログラム。いつもはスタッフがステージで演奏しているが、同じステージに立ち生演奏をバックに家族で歌うというもの。100曲を超す曲目リストから選曲し、エントリーしてもらう。歌番組というコンセプトで司会者が進行し館内のテレビに生中継された。生バンドならではの臨場感あふれるステージに、ロビーの来館児・者もポンポンなどの応援グッズを手に熱のこもった応援で参加。延べ47家族が参加した。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 おどれ！さけべ！いち、にの、サンバー!!	5.3～5 14:00～14:30 15:30～16:00	スタッフ3人組のサンバダンサーが繰り広げるダンスプログラム。オリジナルの曲「1・2・3羽（いちにのサンバ）」に合わせ、色とりどりのポンポンを手に元気に踊る子どもたちの姿が印象的だった。サンバ演奏のデモンストレーション、楽器紹介、リズム遊び――長年蓄積してきたサンバプログラムを新しく発展させた形となった。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんがく園	4.29～5.1、3～5 開館時間中	0～3歳の乳幼児と保護者がゆったりと音のでるおもちゃ“音具”で遊ぶことのできる部屋。親子のふれあいを楽しむためのスペースと位置付け、大勢の親子に利用された。（Aスタジオ）
〈 〃 〉 こどもフェスティバル おんがくがスキ！	5.5　13:00／15:00	毎年恒例の〔こどもの城〕オリジナルプログラムのコンサート。6人のメンバーによるバンド演奏。オリジナルの曲や歌遊び、打楽器演奏など親子、家族で楽しめる内容。（青山円形劇場）
〈夏休み〉 ストリートオルガン やってみよう！	7.21～8.31 12:30～13:00	平常期間と同じ。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 あそびまつり ウリバダオ！	7.21～31 13:00～13:30 15:00～15:30 8.22～31 15:00～15:30	歌遊びの“ウ”、リズム遊びの“リ”、パネルシアターの“パ”、ダンスの“ダ”、おもしろ遊びの“オ”――頭文字をとって名付けた、遊び満載のプログラム。スタッフの個性を生かして日替わりで多種多様な内容となった。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 夏のごいっしょライブ	7.21～31 14:00～14:30 16:00～16:30 8.22～31 13:00～13:30 16:30～17:00	バンド形式による弾き語り。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 めずらし楽器にチャレンジ	7.21～31 16:30～17:00 8.22～31 15:30～16:00	世界の民族楽器を紹介するコンサート。定番の楽器に加え、“手作り楽器のワークショップ”受講生による演奏も行った。大人数による演奏の迫力に子どもも大人も引き付けられていた。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんがく園	7.21～8.7　開館時間中	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間と同じ。（Aスタジオ）
〈 〃 〉 世界をあそべわんぱくツアー	8.1～21 13:00～13:40 14:30～15:10	新プログラム。世界のいくつかの地域にスポットをあて、その地域の歌遊び、ダンス、ゲーム、祭りなど、音楽に重点をおいた遊びにアレンジした。詳細は本文参照。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ちょっとぼん踊り～な	〃　14:00～14:30	久しぶりに復活した盆踊り。曲はオリジナルソング。小さなやぐらに和太鼓を乗せ、大人も子どもも輪になって楽しんでいた。振り付けはリニューアルし、スタッフも新鮮に取り組めた。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 クイズ！めざせ！ミュージッ子	〃　16:30～17:00	音楽を題材にしたクイズ大会。たくさん遊んできた子どもたちが、夕方のひとときをのんびりすごせるように進めた。進行役は保護者にも話しかけ、全体が和やかな雰囲気で進行した。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 おはなしホッとタイムII	8.22～31 14:00～14:30	パネルシアターを中心としたおはなしの時間。主にオリジナル作品の「べにとロク」を上演。（音楽ロビー）

名　称	日　時	内　容
〈夏休み〉 インストプッちん ライブ！	8.22～31 14:40～15:00	マンボ・ボルカ・テキーラなど、リズミカルな楽曲をマリンバ・ギター・フルート・トランペットなどの楽器で演奏。子どもたちは楽曲に合わせて手作り楽器や木琴などで自由に参加する。（音楽ロビー）
〈冬休み〉 わいわいスタジオ クリスマススペシャル	12.23～25 13:30～14:00 15:30～16:00	23日は「ア・カペラコンサート」。5人組のア・カペラグループ、ペンギンフィッシュがクリスマス・ソングを演奏。24日は音楽スタッフによる「ハッピー！サンタカーニバル」。演奏やいろいろな遊びのプログラムを行った。最終日25日は「モーモーずのようこそクリスマス」。牛に扮した2人組が繰り広げるお話と遊びのコンサート。3日間とおして多くの親子に楽しんでもらえた。（Bスタジオ）
〈 〃 〉 ロックンクリスマス	〃　13:00～13:30 14:00～14:30 15:00～15:30 16:00～16:30	歌の弾き語りのコーナー。聞き慣れた曲をロック調にアレンジ。特に、ギターを取り入れ、その演奏を強調した。いつもは歌ったり太鼓をたたく子どもがほとんどだが、思わず立ち上がって踊り出す子どもが多かった。ギターサウンドの効果かもしれない。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 新年おんがく祭！ お正月だよ！ ウリパダオ！	H18.1.3～9 12:30～17:00	色とりどりの紙風船を装飾に用い、華やかな新年の気分を演出。手回しオルガンの体験「ストリートオルガンやってみよう」（12:30～13:00）／アニメソングや童謡を一緒に歌い、楽器を鳴らす「うたってハッピー」（13:00～13:30／15:00～15:30／16:00～16:30）／マリンバ、管楽器、ギターなどによる演奏「リズムのりのりミニライブ」（13:45～14:00／15:45～16:00）／おはなしとダンス「パネルシアター&ダンス」（14:00～14:30）／世界の楽器にふれる「おもしろ楽器にチャレンジ」（14:30～15:00／16:30～17:00）。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ゆったり親子のおんがく園	1.3～9　開館時間中 （9日は16:00まで）	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間と同じ。（Aスタジオ）
〈春休み〉 花よりだんす! ダンスはすんだ?!	3.25～4.5 14:00～14:30 15:00～15:30	このタイトルで2年目。前年の課題を踏まえ、少しずつだが内容に変化を加えることができた。3月はインドネシアの音楽で踊る「マリリンとインドネシアの午後」、輪になって踊るフォークダンス「みんなで踊ろう！ハッピー・フォークダンス」、フォークダンスと手遊び「ずっきーとモーモーずのダンスバザール」、かっこいいリズムにこだわった「ヘイMOW！たかちゃんのグルグルぐる～び～」、さくら姫と王子のワルツ「はるになったら？舞踏会!!」。4月は体育事業部と共同で「親子であそぼう～体育室からお兄さんお姉さんがやってきた～」。前年度の経験が刺激になり、共同事業を行った。このような経験を重ねたことで、事業部間のスタッフの意思の疎通がより円滑になった。今後もいろいろな形で共同事業をしていきたいと思う。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 うたってハッピー	〃　13:00～13:30 14:30～15:00 16:00～16:30	平常期間と同じ。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 インストプッちん ライブ！	〃　13:45～14:00 15:45～16:00	夏休み特別期間と同じ。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 めずらし楽器に チャレンジ	〃　16:30～17:00	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間と同じ。（音楽ロビー）
〈 〃 〉 ゆったり親子の おんがく園	〃　開館時間中	児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間と同じ。（Aスタジオ）
〈 〃 〉 太鼓部屋	4.1～5　開館時間中	大きな和太鼓を自由にたたいてみることのできるスペース。子どもたちに混じって大人も真剣にたたく姿が多く見られた。（Bスタジオ）

2. 講座・クラブなど

〈講座〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
リズム・ムービング	(人) 3~5歳児 (20)	(人) ① 18 ② 17 ③ 13	火曜日 15:30~16:20 (全32回)	身の回りのさまざまなことからリズムを感じさせ、子どもたちの眠っている感覚を揺り動かし、創造性をはぐくむことをめざして活動。主にコンガ、ボンゴなどの打楽器、リズムやメロディー、ハーモニーを即興で演奏できるオルフ楽器を使用。そのほかに音を全身で表現したり、造形活動を行ったりしている。楽譜は使用していない。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
リズムムービング&パーカッション	小1~3 (15)	① 10 ② 8 ③ 8	火曜日 16:30~17:20 (全32回)	リズムによる自己表現を行う。さらに読譜力など、音楽的基礎力の理解、打楽器演奏法の導入、オルフ楽器を使った即興演奏をするなど一歩踏み込んだ指導を行う。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
パーカッション・アンサンブル	小4~高3 (15)	① 13 ② 11 ③ 13	火曜日 17:30~19:30 (全32回)	さまざまな打楽器をふんだんに使い、演奏したり、体を楽器にしてリズム打ちを行ったり、子どもたちのはじけるようなリズム感を表現する。初心者もていねいな指導で、すぐに楽しんで演奏している。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
みんなで楽しいリトミック　I	(組) 3歳児と親 (20)	(組) ① 22 ② 19 ③ 18	水曜日 14:00~15:00 (全32回)	子どもの発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動をとおして親子のコミュニケーションを図り、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養うことをめざしている。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
〃　II	4歳児と親 (20)	① 17 ② 18 ③ 18	水曜日 15:00~16:00 (全32回)	「I」で培ってきた感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心がけ、それぞれの成長の実際に合わせながら、個性豊かな発達を促すような活動へとさらに高めていっている。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
〃　III	5歳児と親 (20)	① 15 ② 17 ③ 17	水曜日 16:00~17:00 (全32回)	就学を迎えるころになると感受性も親離れが始まり、子どもたち同士の接触の機会が多くなる。生き生きと目を輝かせて音楽を楽しみながら学び、遊んでいる子どもたちが印象的。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
おんがく大好きミュージック・パーク~ダウン症児のための楽しいリトミック	2歳6か月~6歳のダウン症児と親 (10)	① 12 ② 12 ③ 12	木曜日 14:30~15:45 (全29回)	ダウン症児とその保護者を対象としたクラス。音楽を使って無理なく楽しみながら療育の手助けをすることをめざしている。さらに、音楽での保護者の心身開放も目的の一つ。受講料＝1・2期各19,000円、3期17,000円。
和太鼓グループ	(人) 小3~高3 (12)	(人) ① 15 ② 14 ③ 13	土曜日 14:00~15:30 (全32回)	湯島（東京都文京区）に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。口唱歌で指導している。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
レッツ・プレイ・サンバ初級~演奏とステップ~	小1~3 (10)	① 9 ② 8 ③ 7	土曜日 13:00~14:00 (全15回)	「レッツ・プレイ・サンバ」の低学年向けの初級コース。サンバ楽器を使った演奏と踊り（ステップ）の指導を行っている。サンバをとおして、音楽の楽しさや仲間と演奏することの楽しさ、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを感じてもらうことをめざしている。受講料＝各期6,500円。
レッツ・プレイ・サンバ	小4~高3 (10)	① 13 ② 12 ③ 11	土曜日 15:30~17:00 (全15回)	ブラジルの独特な打楽器を使い、サンバのリズムを楽しくアンサンブルするコース。より高度で力強い演奏を展開している。 受講料＝各期6,500円。

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
合唱講座	（人） 小1～4 （30）	（人） ① 37 ② 37 ③ 36	土曜日 14:00～15:30 （全32回）	遊ぶことをとおして無理なく体を動かしたり、声を出したりすることを体験する。体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動プログラム。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
こどもの城 児童合唱団　I	小2～3 （合唱講座修了者・30）	① 47 ② 45 ③ 43	土曜日 15:30～17:30 （全32回）	音楽をとおし、協調性・創造性・幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験し、総合的なプログラムを展開。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
〃　II	小4～中3 （合唱講座修了者・60）	①120 ②115 ③109	土曜日 17:00～19:00 （全32回）	
混声合唱団 こどもに聞かせる おとなのコーラス	高校生以上 （15）	① 71 ② 68 ③ 65	土曜日 19:30～21:00 （全32回）	子どもたちに豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめざし、合唱を楽しんでいる。メンバーは、高校生から社会人まで幅広く、コンサートや合宿などのときは、「こどもの城児童合唱団」と活動をともにしている。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
三味線講座　A （初級）	小2～高3 （12）	① 10 ② 9 ③ 10	日曜日 10:00～11:30 （全32回）	新講師を迎えて、気持ちも新たに講座がスタートした。前年度に卒業生が多かったため、世代交代のような感がある。その分、それぞれの演奏技術のアップをめざし、きめ細やかに指導。音楽ロビーでデモンストレーション演奏を行った。受講生が自分たちの楽器をていねいに来館児に体験させる姿が印象的だった。 受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。
〃　B （経験者）	小2～高3 （12）	① 11 ② 11 ③ 7	日曜日 11:30～12:45 （全32回）	
ガムラン講座	小1～高3 （15）	① 9 ② 9 ③ 9	日曜日 13:30～15:00 （全32回）	インドネシアの青銅の打楽器アンサンブル「ガムラン」の初心者と継続者のクラス。さまざまな音楽的要素が潜在し、アンサンブルすることでその特異さがわかる民族音楽。受講料＝1期18,000円、2期19,000円、3期14,000円。

《講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
おんがく星みつけた～就園前のリトミック～	（組） 2歳児と親 （30）	（組） ① 29 ② 35 ③ 35	木曜日 10:30～11:30 （1・2期10回、3期9回）	就園前の幼児と親が対象で、リズム遊びを中心に、造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。母親とスキンシップをしながら楽しく音楽と遊べることをめざす。受講料＝1・2期各16,000円、3期15,000円。



ぼくらのサウンド2006（こどもの城児童合唱団ほか）

〈短期講習会〉

	名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
親子で作ろう手作り楽器のワークショップ	インドネシアの竹の木琴?! “ガンバン”	（人） 小1～高3の親子 ※小4以上は子どもだけでの参加も可。 （各日19）	（人） 延べ 57	8.9、12、24 13:00～16:00	ジャワ島のガンバンは、木琴に似た竹製の楽器。“ドレミファ……”の聞きなれた音階と独特な民族音階の両方が楽しめる。 受講料＝親子ペア 9,000円、子どものみ 4,500円。
	ベトナム式の金属で作る“口琴（コウキン）”	〃 （25）	25	8.10 13:00～16:00	世界各国、さまざまな地域で使われている小さな楽器。その音色は人々を楽しませてくれる。指ではじいて中央の弁を振動させ、半開きのくちびるにあてると、口腔や頭に共鳴して音を出すというユニークな楽器。“宇宙人のような声が出せる楽器”と紹介。受講料＝親子ペア 5,200円、子どものみ 2,600円。
	アフリカの太鼓 “ジェンベ”	〃 （各日30）	延べ 90	8.13、20、31 13:00～16:00	「講義」＋「製作」＋「演奏」のワークショップ。子どもが演奏しやすい小型のジェンベを作った。セネガル出身のパーカッショニスト、ワガン・ンジャエローズさんの合奏指導も、前年度以上の白熱ぶりだった。6年目を迎えた大人気プログラム。 受講料＝親子ペア 9,400円、子どものみ 4,700円。
	アフリカのトーキングドラム “タマ”	〃 （各日30）	延べ 60	8.16、30 13:00～16:00	西アフリカのウォロフ族に伝わる奏法をワガン・ンジャエローズさんに指導してもらう。太鼓の胴にたくさんのひもが張られていて、ひもをコントロールすることで音程が変化し、しゃべっているかのような音を表現できる。 受講料＝親子ペア 9,800円、子どものみ 4,900円。
	インドネシアの竹のハンドベル “アンクルン”	〃 （30）	30	8.18 13:00～16:00	“竹のハンドベル”ともいわれ、大人数で演奏するほど魅力を発揮する楽器。初めての試みとして、完成したアンクルンを持って、アトリウムで演奏（発表会）を行い、盛況だった。7年目を迎える不動のプログラム。 受講料＝親子ペア 5,600円、子どものみ 2,800円。
	インドネシアの竹のリコーダー “スリン”	〃 （各日30）	延べ 60	8.19、23 13:00～16:00	竹のたて笛を2種類製作。インドネシアの6穴のたて笛「スリン」は、インドネシアの多くの地域で演奏され、ジャワ島のガムラン音楽にも使われている。細い棒をスライドさせて、鳥の鳴き声をまねできる「スライドホイッスル」も制作。6年目のプログラム。受講料＝親子ペア 5,600円、子どものみ 2,800円。
	オクターブ8台つくっちゃう “BIGアンクルン”	（組） 小1～高3の親子ペア　（10）	（組） 10	8.21 13:00～16:00	これまで一人1台のアンクルンを作る講座を行ってきたが、前年度から、1オクターブ（8台）を作るコース（2日間）を設けた。本年度は1日コースに改編。楽しそうに作業する親子は職人顔負けだった。受講料＝親子ペア 15,000円。
	ブラジルのサンバ楽器 “タンボリン”	（人） 小1～高3の親子 ※小4以上は子どもだけでの参加も可。 （各日20）	（人） 延べ 40	8.25、29 13:00～16:00	本年初登場。リオのカーニバルで有名なサンバの楽器「タンボリン」（小型の太鼓）を作成。できあがったタンボリンと他のサンバ楽器とで“合奏”。一段と気分は盛り上がった。受講料＝親子ペア 9,200円、子どものみ 4,600円。



親子で作ろう手作り楽器のワークショップ「アフリカの太鼓“ジェンベ”」（作ったばかりの楽器でミニコンサート）

〈専門指導者向け講習会等〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
（人）	（人）	（人）		
大人（指導者・一般）のための手作り楽器　トーキングドラム“タマ”	指導者・一般（30）	30	8.14 13:00～16:00	大人（指導者・一般）が参加できるコース。前年度はアンクルンとスリンを取り上げ好評だったので、本年度は、アフリカのトーキングドラム「タマ」を取り上げ、制作だけでなく子どもへの指導方法などをレクチャー。指導者にとって魅力のある内容で、意欲的に取り組んでいた。受講料＝4,900円。
感じる心を育てる～感性の重要性	一般・講座受講生（80）	80	11.3 13:30～16:00	3回目となる今回も日本ダウン症協会理事長の玉井邦夫山梨大学助教授を招いて障害児教育について講演も行い、事前に募集した質問に対しても解答をいただいた。またワークショップでは「おんがく大好きミュージックパーク～ダウン症児のための楽しいリトミック」の講座内容の紹介や「こどもの城児童合唱団」とのジョイントコンサートも実施。協力:日本ダウン症協会

3. その他

〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
手作り楽器のワークショップ&アンクルンコンサート	10.8	身の回りにある廃材（フィルムケース）を利用して音具を制作する児童館職員向けのワークショップ。コンサートは3歳以上を対象に行い、55人が参加。アンクルンの鑑賞だけではなく、実際に手に持って体験したり、演奏にあわせて歌を歌ったりして異なる年齢の子どもたちにも幅広く楽しんでもらえる内容に工夫した。（山形県糠野目児童館）

〈講師派遣〉

名　称	日　時	内　容
民族音楽講義と演習	4～7月	小学校の国語と理科と音楽の教師になるためのコースの大学生に対し、民族音楽の講義と演習を行った。「インドネシアのガムラン音楽」「ブラジルのサンバ」「手作り民族楽器」など、ほとんどの学生にとっては初めて体験する音楽ばかりであったと思われるが、非常に熱心で演奏の質も高い内容であった。短時間の授業ではあったが彼らが教師となった時、この経験はなんらかの形で子どもたちに展開されるだろうという、小さな確信を持てた。〔こどもの城〕で行っている民族音楽の活動の新しい一つの広がりであったように思われる。（東京学芸大学）
親子で楽しく	6.1、H18.3.15	0・1歳児と保護者を対象にした親子遊びプログラム。歌遊び、手遊び、パネルシアターやフルートの演奏などを行った。31組が参加。初めて外出したという乳児から、よちよち歩きの幼児まで、なごやかな雰囲気のなか、音楽遊びで親子のスキンシップを深めた。（東京都世田谷区森の児童館）
親子で楽しい音楽会	6.17	保護者会主催の音楽イベント。内容は手遊び、楽器の演奏、リクエストの歌、ダンス。保護者も一緒に参加できる内容にし、親子で楽しめるコンサートにした。4歳児向け、5歳児向けと二度に分けて公演。延べ園児130人、保護者120人が参加。（東京都世田谷区中町幼稚園）
それいけオルガン探検隊	7.19	常設されているパイプオルガンを使ったウオークラリーとレクチャー、コンサートの企画で、オルガン演奏者とともに参加親子の応対、司会を行う。本年で5年目。（サントリーホール）
民族音楽講義と演習	8.3、5	教員免許取得課程の大学生に対し「ブラジルのサンバ」を中心に民族音楽全般の講義と演習を行った。確実に知識としても、演奏技術としても身に付け、それを子どもたちに指導できるようにする、という目標を前提に行った。その場の音楽体験にとどまらず、何らかの形で子どもたちに展開していくだろうという期待のもてる授業となった。（千葉大学）
子育て支援の輪づくり講座	9.9	6年目を迎える新潟市主催の子育て支援講習会。テーマは「乳幼児の手遊び、歌遊びと関わり方」。受講者は遊びを体験しながら、グループごとに乳児向けの親子ダンスを創作。パネルシアターの製作や上演についても講習した。参加者は約80人。（新潟市総合福祉会館）

名　称	日　時	内　容
親子向け音楽あそび	9.27	0～2歳の子どもとその保護者のための音楽遊び。歩き初めの子どもが中心だったので、親子で動ける音楽遊びや、手遊び、パネルシアター、ダンスなどを行った。約80組が参加。（東京都江戸川区共育プラザ小岩）
リズムにのってらんらんらん	10.4、12.13	6か月～3歳の35組を対象とした音楽プログラム。12月は季節柄、さまざまなクリスマスの曲をプログラムとして取り上げて遊びに使用した。他にも楽器の演奏、絵本なども題材にし、保護者にも楽しんでもらえるようにした。（東京都調布市深大寺児童館）
新潟県児童育成指導者研修会	10.19	音楽表現活動をテーマに、打楽器で遊ぶワークショップ・がらくた楽器演奏などを紹介。（新潟県立こども自然王国）
子育て広場リズムにのって	10.25	親子でリズム遊びをしながらスキンシップを深める、を目的としたプログラム。1～3歳の子どもと保護者、25組が参加。（東京都調布市緑が丘児童館）
気軽に音楽あそび	11.11	保育士を対象とした講習。テーマは乳幼児向けの音楽活動、簡単にできる音の出るおもちゃの作り方。約70人が参加。（埼玉県三芳町立藤久保公民館）
児童館等職員研修会	H18.1.19	茨城県児童館連絡協議会主催の研修会。「児童文化財活用法」の実技科目として「絵本と音楽」をテーマに講習。受講生が朗読をしたり、楽器を演奏しながら絵本と音楽を身近に感じてもらえるようにした。児童館職員約50人が参加。（茨城県立児童センター）
Let's エンジョイ親子de音楽会	1.25	保護者会主催の音楽イベント。内容は手遊び、楽器の演奏、リクエストの歌、ダンス。保護者も一緒に参加できる内容にし、親子で楽しめるコンサートにした。4～5歳児約110人が参加。（東京都港区立青南幼稚園）

《演奏依頼》

名　称	日　時	内　容
プッチガドコンサート	6.11	〔こどもの城〕の音楽プログラムから生まれたミニバンド形式の参加型童謡コンサート。音楽遊び、ダンス、民族楽器紹介、がらくた楽器の演奏なども盛り込んだプログラム。（埼玉県上福岡市西公民館）
〃	11.8	同上。（東京都杉並区八幡幼稚園）
〃	11.19	同上。約200人の親子が参加。（茨城県土浦市都和公民館）
〃	12.4	同上。さいたま市神戸幼稚園主催。（さいたま市民会館）
〃	12.14	同上。（東京都府中市おともだち幼稚園）
ガドガドコンサート「おんがくがスキ！」	H18.1.12～24	毎年恒例となった欧州公演。6か国8公演を行い、延べ約2,700人の親子が参加。開催都市はパリ、ジュネーブ、ブリュッセル、フランクフルト、デュッセルドルフ、ロンドン、ローマ。(株)全日空主催。
プッチガドコンサート	3.30	(財) 幼少年教育研究所主催による、新人幼稚園教諭向け講習会でデモストレーション演奏。（アルカディア市谷）

《その他》

名　称	日　時	内　容
こどもの城児童合唱団夏季合宿	8.19～24	夏合宿にあわせて、山口県内3か所で公演。公演のほか、児童館での宿泊、宇部市厚南小学校の生徒たちとの仲間作り交流会、金子みすず記念館での詩の勉強、山口県の自然とのふれあいなども体験。公演は周南市新南陽ふれあいセンター（21日）、宇部湖水ホール（22日）、山口県立児童センター（23日）。

AV（オーディオ・ビジュアル）事業部



平成17年度の活動

1．はじめに

ＡＶ事業部は、映像を“見る”“知る”“つくる”という観点からさまざまな活動を行っている。

【見る】

「ビデオライブラリー」には１～５人用のブース（小部屋）が35設置され98人が同時に視聴することができる。自然科学や歴史、アニメーション、映画など幅広い分野の映像作品が20,000タイトル以上用意されている。利用者はそれらの映像作品をカタログなどから選んで見ることができる。また、特集などを組むことであまり利用されない映像作品の視聴促進にも積極的に取り組んでいる。

一方で、国内外の良質な作品をぜひ子どもたちに見せたいという思いから「こどもの城映画劇場」や「おもしろビデオ館」といった上映会を行っている。単に見せるということだけでなく、導入として作品の見どころや画面のおもしろさ、作者の紹介などを行うことも重要と考えている。

【知る・つくる】

“知る”“つくる”活動では、映画発明以前から存在した絵が動いて見える“視覚がん具”を実際に作るワークショップや、ビデオ機材を使った映像作りのワークショップなどを行っている。これらの映像の原理を理解するための活動全般は「ふしぎな映像実験室」という名称で行っている。

【その他】

最近は、〔こどもの城〕利用者の年齢層の幅を広げる方策として、科学的な要素を含んだプログラムや講座にも力を入れている。小学生以上を対象に土曜日に行っているプレイ事業部との共同プログラム「サタデー・ラボラトリー」、「走れ！キャッスルトレイン」や「夏休み映像・科学ワークショップ」などがそれにあたる。

2．上映活動

子どもたちがふだんあまり目にすることがない優れた映像作品を紹介していくことを目的として、ビデオライブラリーの活動とは別に、Ｂスタジオで16 mm映画などによる上映活動を行っている。

上映活動での主力メディアは16 mm映画（映写機）。その理由は、主たるスペースとして使用しているＢスタジオで上映をするにあたって、広さに見合った100インチ前後のスクリーン（横２m×高さ1.5 m程度）に映写したとき、鑑賞に耐える画質を得られる媒体が、開館当時の文教用メディアでは16 mm映画であったためである。

当時すでにビデオプロジェクターも製品化されていて、〔こどもの城〕にもそれなりに高価なビデオプロジェクターがあったが、両者を比較すると圧倒的に16 mm映画のほうが高画質であった――開館時点では「16 mm映画のほうがやや高画質であった」というべきかもしれない。それは当時〔こどもの城〕で使用していた16 mm映写機はそれほど高性能なものではなかったからである。

〔こどもの城〕で使用していた16 mm映写機はハロゲンランプを使ったもので、学校の授業などで使用することを前提に作られたもの。この映写機で100インチ程度のサイズまで引き伸ばして映写すると、画面が暗く、色彩的にもややオレンジがかった画面となってしまう。90年代前半に、クセノンランプ使用の映写機を導入したことでこの問題は解決し、16 mmでの映写が、事実上もっとも高画質な上映手段となった。

一方、ビデオプロジェクターは、近年でこそ高画質で安

価な製品が市場に多く見られるが、開館時にはそのようなプロジェクターはなかった。16 mm映画の映写に匹敵する画質で、なおかつ数千万から１億円単位の高額にならない機材が登場するのは90年代後半から00年代前半まで待たなければならない。とは言っても、今日のビデオプロジェクターの画質が16mm映画の画質を凌駕したかといえば、残念ながらまだのようである。解像力、色彩のきめ細かさの点で、16mm映画におよばない。現在普及しつつあるＨＤ＝ハイビジョンであっても、解像力の点で16 mm映画とほぼ同程度である。

上映メディアの画質について詳述したのは、「優れた映像作品の紹介」を目的にしている上映会というイベントにとって、より良い上映条件を検討することは、より良い映像作品を選ぶことに匹敵する課題であると考えているからである。それは、より良い音楽を録音よりも生演奏で、より良い美術作品を複写・複製品よりも実物で、と考えるのと同じである。もちろん上映メディアとして、フィルムのみが優れているというのではないが、フィルムメディアとして作られた作品はフィルムで、同様にビデオメディアとして作られた作品はビデオでの上映を原則としている。

要はいかにオリジナルに近い形での上映ができるかという点にある。作品を作った人のおもいが、見る人に伝わりやすい環境で上映することが大切ではなかろうか。

平成４年（92年）に設立された武藤行雄記念文庫の主力メディアが16 mmフィルムである理由は、ビデオライブラリーとの区別化や収蔵作品のほとんどを占めるカナダ国立映画制作庁（以下、NFBC）が，販売形態として16 mmフィルムをとっていたという以外に、映写メディアとして16 mmフィルムの方がビデオよりも優れた画質が得られるという理由がある。

その16 mmフィルムも近年需要が減り、販売が減少してきている。NFBCも近年では、新作を16 mmフィルムでは販売しなくなってしまった。

映像作品自体もフィルムで作られるケースは年々減少して、オリジナルに近い状態での映写という意味ではビデオ上映が望ましい機会が増えてきている。そのような状況の中でＡＶ事業部のビデオ映写機器は、クセノンランプ搭載の16 mm映写機に比べ、上映品質の点で見劣りする機材しかなく、機材の更新などが今後の課題となっている。

本年度は平常期間の「カナダのアニメーション」のほかに２つのプログラムで数本の16 mmフィルム作品を紹介する機会を得ることができた。

【こどもの城映画劇場～世界の絵本とアニメーション～】

５月３～５日に絵本作家、矢玉四郎原作のアニメーションを特集。『ぼくときどきぶた』『ぼくへそまでまんが』『おばけうんどうかい』を東映（株）教育映像部と矢玉四郎さんの協力を得て16 mmフィルムで上映。

この作品はテレビアニメなどに多く見られる、セル画を使ったアニメーション作品。日本のアニメーション産業を支える制作方法で作られている。現在でこそ、セル画の作画や撮影といった行程はコンピュータに置き換わってしまったが、この作品はセル画をフィルムに撮影していく、従来の方法で作られている。当日は映画で実際に使われたセル画の展示も行い、作品への興味をより引き出すことができたのではないかと思う。

【中国の墨絵アニメーション】

（財）児童健全育成推進財団主催の平成17年度「こども映画祭」の協力を受けて実施した。NFBCの作品だけでなく、世界にはたくさんの優れたアニメがあり、その中には自国に伝わる伝統的な芸術表現をアニメーション作りに生かした作品も多い。今回は、中国に古くから伝わる水墨画（墨絵）の大胆な構図や繊細な筆致が動く画面として表現され、中国の楽器が奏でる荘厳な音楽を伴って、美しい墨絵調のカラー画面が絵巻のように展開されるすばらしい作品である。

「こども映画祭」は、16 mmの映画やアニメを児童館などの施設に貸し出して上映会を催す企画で、毎年約300か所で実施されている。施設側がリストから作品を選ぶとい



おもしろビデオ館

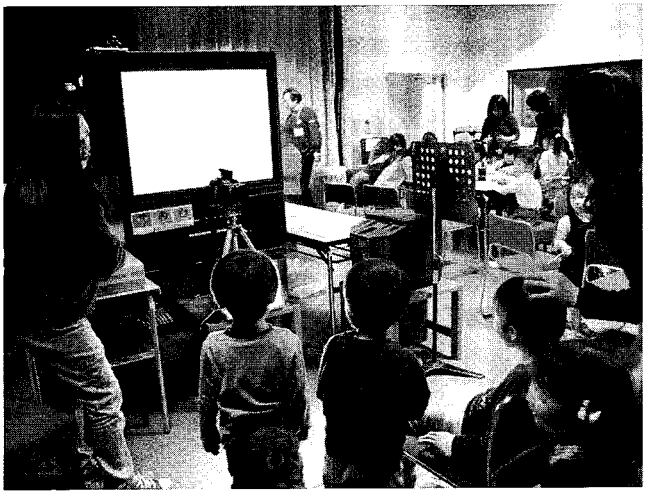


くるくるアニメをつくろう

びっくりビデオ広場



ミラクルスタジオ



う方法なので、ディズニー・アニメなどの貸し出しが多いが、一般に知られていない中国アニメなどの上映希望は皆無。作品の質よりも知名度で選択されてしまう。そこで、〔こどもの城〕もこの企画に参加、知られていないけれどすばらしい作品を選んで特別企画として上映した。

「こども映画祭」は、DVDなどの個別視聴ではなく、16mmフィルムを暗闇で映写して、みんなで見るという映画ならではの鑑賞方法を推薦しているが、整った上映設備がない、にわか仕立ての会場では、遮光の問題や映写機の光量不足などで映写画面が損なわれてしまうことが多い。今回は、子どもたちに映像作品を鑑賞させる方法の一事例として「こども映画祭」の啓発的事業の参考になればという意図から、「こどもの城映画劇場」と同じスタイルで上映を行った。

多目的な空間に、機材を仮設する方法で会場作りを行うが、その制約の中で最良の映写画面となるような準備や工夫を行うことが、映画の上映には大切であり、それを長年実践してきたのが「こどもの城映画劇場」だと自負しているからである。

3. その他の活動

【講座】

○成人向けビデオ講座

開館以来、映像制作を恒常的に手掛けていて、さまざまな機器を使いこなすコツや映像制作のノウハウを蓄積してきた。そこで、児童健全育成施設などの指導者などを対象にして、撮影方法やビデオ・ソフトの上手な作り方などを伝える講習会を平成7年度から実施したところ、好評で他にはない講座として注目を集めた。設備されていた映像機器が当時としては標準的なフォーマットであったことも、多くの参加を促した要因であったと思われる。

平成7年に家庭用のデジタル・ビデオ（DVC）が発売され、業務用機器もデジタル・フォーマットへ移行し、編集なども専門の機器を使わずに、パソコンとアプリケーション・ソフトで安価に行えるようになった。映像の世界もアナログからデジタルへと変わっていった。〔こどもの城〕に設備されたアナログ機器をベースにした講習会は、一般の興味・関心との間にズレが生じ、平成12年ごろから参加者が年々減少していった。そこで、音声収録の方法など、現場で必要な知識を深める内容に改訂して実施したが、参加者の減少がとどまることはなかった。

〔こどもの城〕では、映像機器の設備更新は行われていないので、当然講座を実施するためのデジタル・ビデオ機器はほとんどなく、現状ではデジタル関係の講座に移行することは不可能であり、成人向けの講座は本年度限りで終了することとなった。

○アニメーション・セミナー

学術団体である日本アニメーション学会と共催した「現代アニメーション講座」と題する講演会形式の成人向け講座は、教養の一部としてアニメーションを捉えて考察する内容が好評で、いろいろなテーマで毎年開催を続けてきた。本年度は諸般の事情から共催ではなくAV事業部のみで開催し「アニメーション・セミナー」と改題した。

アニメーション作家の米正万也さんを講師に迎え、文化庁在外研修員としてバルト三国のエストニアに滞在して作品を制作した経験を踏まえて、制作の意味や目的などを講演。一般的にあまり知られていないエストニアについての内容とあって、関心を持った多くの参加者でにぎわった。

【映像制作】

マスターコントロール室には、撮影・編集・変換・複製・受信・館内放送など、〔こどもの城〕の映像にかかわるすべての基幹システムが集約されている。ここでは、Bスタジオをサポートする映像調整室とともに、備えられた制作機材を使い、さまざまな映像制作を行っている。

青山劇場・青山円形劇場の公演のビデオ収録業務では、年間20～30本程度の、自主公演を中心とした公演を収録

する。本年度は、「デーモン小暮の邦楽維新」に加え「こどもの城開館20周年記念シンポジウム」など、26本の公演を収録した。

いくつかの公演では、収録内容をパッケージ化し関係者に頒布している。『ぼくらのサウンド2006』や『まんぷく村のハムスターキック』などは、出演者（＝購入者）も多いことから、貴重な収入源にもなっている。

版権的に問題のないものは、パッケージ化したものをビデオライブラリーで二次公開している。『とびこむ絵本』などのシリーズは、年代をさかのぼって見ることができる。

劇場収録以外に、〔こどもの城〕内外で行われる講座や野外活動（母と子のすくすくランド、チャレンジキャンプ、スキースクールなど）に撮影専門スタッフとして同行し、記録ビデオを撮影、パッケージとして頒布。これらは、参加者自身や家族にとっての記録（記念）であると同時に、活動の様子を他施設の指導者に伝える役目も担っている。

そのほか、各部からの要請により、イベントなどで使用する映像の制作に協力する場合がある。

ギャラリー企画「オーストラリア絵本展」のために作った絵本ビデオ『ぶたばあちゃん』（ワイルド作）は、前年度制作した『イップとヤネケ』（シュミット作）と同じく、企画研修部・音楽事業部・ＡＶ事業部３部の共同制作で、期間中に会場で上映された。

企画研修部制作、館外配布を目的としたのＤＶＤ『いきいきママ　にこにこ赤ちゃん』では、撮影の手配や周辺の技術協力を行った。体育事業部「サッカーフェスティバル」におけるミニＰＲ番組の館内放送も、恒例となってきた。

本年度は館内テレビが、開館以来約20年振りに整備され、壁掛けの大型液晶テレビとなった。これを受けて制作体制を強化したので、速報性を生かした館内放送の効果は、これまで以上に高まると思われる。

4. まとめ

テレビ、ビデオ、映画、ゲーム、そして携帯電話――映像は、私たちの生活の中に幅広く深く入り込んできている。どの家庭でも部屋のメインポジションにテレビ（ディスプレー）が置かれているように、映像が生活になくてはならないものになっている。

一方、家に帰ってくると無目的にもかかわらず、何となくテレビの電源を入れてしまうことがあるのではないか。そして、ただ漫然と見てしまうことがある。母親は家事をする時、息抜きをする時、子どもをなだめる時にテレビを見せたりビデオを見せたりする。核家族社会の現在では、やむを得ないところかもしれない。

ビデオライブラリーの入口の扉には、《お父さん居眠りしないで　僕と一緒にビデオ見てね》のポスターを掲げている。これは、ただ漫然と見てしまう、あるいは漫然と見せてしまう傾向がある映像を、作品の持つ意味を親子で話し合い、そのおもしろさや楽しさ、悲しさを親子で共有する媒体としても活用してほしいという思いで掲げている。

映像に接している時の子どもの様子で、その子の気持ちや考え、性格などがわかることもある。漫然と見るだけでなく、ちょっとした意識を持つことで映像と接する意味が広がってくる。私たちは優れた作品を提供することとともに、映像を最大限生かす大切さを今後も呼びかけていきたい。

平成17年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
ビデオライブラリー自由利用	開館時間中	趣味、教養、娯楽、スポーツ、アニメなどさまざまなジャンルにわたるビデオソフトを、20,000タイトル以上所蔵するビデオの図書館。利用者は、ビデオライブラリー内に設置された35のブース（小部屋）で好みのソフトを視聴できる。（ビデオライブラリー）
おもしろビデオ館	金曜日　15:30～16:00	ビデオライブラリーにある上映可能なビデオソフトから、テーマを決めて作品を選び、上映。作品に興味を持ってもらうため、上映のあいまにクイズやゲームをはさんだ。（Bスタジオ）
サタデー・ラボラトリー	土曜日　13:00～16:00（受付時間）	小学生～高校生を対象とした、身近な不思議を体験するプログラム。クラフト、科学遊び、映像遊びなどを週替わりで実施。新規のプログラムも増やしてフレッシュなイメージを保つことに留意している。プレイ事業部と共同で主催（プレイ事業部の項参照）。（フリーホールほか）
不思議な映像実験室	土曜日　15:30～17:30	2枚の絵を描いて作る簡単なアニメおもちゃ「くるくるアニメ」と、表と裏の絵が重なって見える「ソーマトロープ」を実施。ボランティアスタッフが参加する日には、簡単な視覚がん具の展示コーナーも併設。（音楽ロビー）
わいわいスタジオ「不思議な映像実験室」	日曜日・祝日（月1～2回）11:00～17:30	映画発明以前からあった、絵が動いて見えるおもちゃ（視覚がん具）の展示とワークショップを行った。展示と、幼児向けのくるくるアニメコーナーは開場時間中は随時参加できるようにしてある。ワークショップは、時間枠を決めて実施。「ソーマトロープ」（11:30～12:30）、「ピンホールカメラを作ろう」（13:30～14:30）、「フィルムに絵を描こう」（15:30～16:30）を実施した。（Bスタジオ）
こどもの城映画劇場 カナダのアニメーション	日曜日・祝日（月1～2回）	フィルム・ライブラリー「武藤行雄記念文庫」収蔵のNFBC（National Film Board of CANADA）のアニメーション映画を1日4回上映（11:35、13:35、14:35、15:35）。（Bスタジオ）
館内放送テレビ中継録画	日曜日・祝日、特別期間	Bスタジオで実施される音楽事業部担当「わいわいスタジオ」などを館内のテレビへ中継および録画。特別期間には、「こども活動エリア」の催し物案内を中心とした映像情報の作成・送出も行った。（Bスタジオ・映像調整室）
走れ！キャッスルトレイン～こども鉄道模型運転会（第23回）	6.25・26	プラレールコーナーやパソコンコーナーを設置し、鉄道関連の遊びができるようにした。（フリーホール）
〃　（第24回）	10.15～23	鉄道模型（Nゲージ）の運転を体験できるプログラム。鉄道関連のパソコンコーナーやプラレールコーナーなども設置。（フリーホール）
おもしろビデオ館スペシャル～楽しい海外アニメーションスペシャル	11.23	「おもしろビデオ館」のスペシャル版として、病院を舞台に動物たちが活躍する粘土アニメーション『マシュー先生～ゆかいなヒルトップ病院～』シリーズから4作品、子どもならではの世界を色鉛筆で描いた『アントン』シリーズから2作品を上映。協力＝（株）ギャガ・コミュニケーションズ。（Bスタジオ）
特別企画「中国の水墨画アニメーション」	H18.3.12	（財）児童健全育成推進財団平成17年度「こども映画祭」の協力を得て実施。中国の水墨画の雰囲気を生かした3作品を1作品ずつ3回に分けて上映。『ママ!? ママはどこ？』（盛特偉監督／15分／1960年）、『山の音・琴の詩』（盛特偉監督／19分／1988年）、『仔鹿と少女と鈴の音』（唐澄監督／20分／1982年）。（Bスタジオ）
サタデー・ラボラトリーまつり／「くるくるアニメをつくろう」	3.17～19	音楽ロビーを2つに区切り、幼児から参加できる「不思議な映像実験室～くるくるアニメをつくろう」（3月17～19日）と、小学生以上対象の「サタデー・ラボラトリーまつり」（科学遊びのプログラム／3月18・19日）を実施。「サタデー・ラボラトリーまつり」では、クイズ100問答えてラリー（3月18・19日）、ピンホールカメラを作ろう（3月18日）、おどろきマジックの秘密 てじなの“て”（3月19日）を実施。（音楽ロビー）

《特別期間》

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 こどもの城映画劇場 世界の絵本とアニメーション	4.29～5.5	4月29日～5月1日は、“世界絵本箱”シリーズから、ふだん上映することが少ない20分程度のミュージカル調の作品を上映。5月3～5日は、絵本作家の矢玉四郎さんの絵本を原作としたアニメーション作品と特集。作品内容は小学生以上向けだが、幼児でも楽しめたようだ。協力＝東映（株）教育映像部／矢玉四郎。（Bスタジオ）
〈夏休み〉 サタデー・ラボラトリーまつり　夏の陣	7.22～25	「君の絵がぐるぐる動く!!　“驚き盤”を作ろう」（7月22日）、「ふわっとスーパーシャボン玉」（7月23日）、「ニットに挑戦～金魚リン」（7月24日）、「スチームパワーだ！すすめポンポン船」（7月25日）に加え、「クイズ100問答えてラリー」（22～25日）を行った。また幼児コーナーとして、夏休み特別期間向けに作った用紙を加えた「ソーマトロープ」を実施。（Bスタジオ）
〈　〃　〉 びっくりビデオ広場	7.27～8.2	ビデオカメラやビデオの特殊効果装置を使ったビデオインスタレーションを実施した。特別期間に行うのは12年ぶり。AV事業部のもう一つの面を見せる催しになった。（Bスタジオ）
〈　〃　〉 第13回キンダー・フィルム・フェスティバル	8.4～7、9～14	本年度は運営体制を見直し、Bスタジオでのイベントをav事業部で担当。プレフェスティバル的な上映会（8月4～7日）として、過去に上映した作品のリバイバルや来館児・者の年齢層にあわせた幼児向け作品の上映を中心に行った。コンペティション作品の上映ほかは8月9～14日に青山円形劇場で実施。（Bスタジオ、青山円形劇場）
〈　〃　〉 不思議な映像実験室	8.9～31	視覚がん具の展示とワークショップ。展示コーナーは本格的な視覚がん具の再現品から、夏休みの宿題のヒントになるような身近な材料で作れる視覚がん具を展示。ワークショップコーナーは、幼児から小学生低学年を主な対象に「くるくるアニメ」を実施。（Aスタジオ）
〈開館記念〉 ビデオどうぶつえん	11.4	「赤ちゃん大集合」に合わせて、乳幼児向けプログラムを実施。ビデオライブラリーの8ブースを8種類の動物のおりに見立てて、映像で見る動物園にした。動物のおもちゃで遊べるコーナーも設置。（ビデオライブラリー）
〈冬休み〉 ビデオライブラリー 「クリスマス特集」	12.13～25	クリスマスに関連したビデオソフトの視聴促進活動を目的に行った特集。12月23～25日は、ビーズを使った「クリスマスリースを作ろう」を実施した。（ビデオライブラリー）
〈　〃　〉 ミラクルスタジオ	H18.1.3～9	音楽事業部と共同で映像と音をテーマにした展示を実施。これまで映像をテーマに、視覚がん具やビデオを使った展示を数多く実施してきた。今回は、音を加えて内容に広がりをもたせた。既存のプログラムからアレンジしたものもあるが、いくつかの展示はミラクルスタジオのために新たに制作した。共同企画という試みに、新鮮味があったのではないか。（Bスタジオ）
〈春休み〉 こどもの城映画劇場 「カナダのアニメーション特集」	3.25～28	フィルム・ライブラリー「武藤行雄記念文庫」収蔵のNFBC（National Film Board of CANADA）のアニメーション映画から、児童の権利条約（児童の権利宣言）をテーマにした作品を中心に、10タイトル3プログラムを組んで上映。（Bスタジオ）

2. 講座・クラブなど

《短期講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
アニメーション 制作セミナー	一般（20）	9	7.23・24　（2日間）	アニメ作りでの撮影技術にスポットをあて、カメラや照明機器の選び方とその使用方法などを講義するセミナー。受講者が短い切り紙アニメを作るワークショップを実施。また、アニメ作家の木村光宏さんを特別ゲスト講師に迎え、毛糸を素材とした作品の制作についてもレクチャー。受講料＝10,000円。（会議室）
16mmフィルム 撮影初歩セミナー	〃（20）	4	7.30・31　（2日間）	16mmフィルムでの映画撮影入門セミナー。フィルムの取り扱いから撮影技術まで、基礎的な専門知識を習得する講座。ボレックスやアリフレックスなどのポピュラーな16mm撮影機の取り扱いをとおして、フィルムについての基礎知識や露出の計測までを初心者に分かりやすく講義。受講料＝10,000円。（会議室）

名称		対象・定員	受講数	日時	内容
映・造ワークショップ～マイ・キャラクター・ワールド～		(人) 小4～高3 (8)	(人) 8	8.25～27 (3日間)	映像と造形の合体による新しいプログラム作りをめざし、オリジナルのキャラクターを作って人形化し、アニメ撮影。造形事業部と共同で実施。 受講料＝10,000円。 (造形スタジオ)
夏休み映像・科学ワークショップ	いきもの図鑑	小4～高3 (4日間 =2回/日= 計96)	計 97	8.8～11	オリジナルペーパークラフトで“いきもの”を再現する。「アブラゼミ」「ヘラクレスオオカブトムシ」「トノサマバッタ」を交互に制作。他に数種類のおまけの型紙つき。受講料＝1,800円。 (Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」キノーラ	小1～高3 (4日間 =2回/日= 計96)	計 96	8.12～15	ばらばらマンガをアニメのように連続して見ることができる装置、キノーラを制作。装置を組み立て、15～30枚の動く絵を描いてセットする。 受講料＝2,000円。 (Aスタジオ)
	天体望遠鏡工作教室	小4～高3 (4日間 =2回/日= 計96)	計 96	8.16～19	塩化ビニールパイプやボール紙など、身近な材料を使って天体観察用望遠鏡、マックロースコープを作る。受講料＝2,200円。 (Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」プラクシノスコープ	小1～高3 (5日間 =2回/日= 計120	計121	8.20～24	映画が発明される前にあった視覚がん具、プラクシノスコープを制作。帯状の紙にアニメのように絵を描き、その絵を多面体の鏡に映して絵がアニメのように動いて見える映像おもちゃ作りを体験。受講料＝2,200円。 (Aスタジオ)
	手作り映像おもちゃ「映画のしくみを体験！」ムービーミエール	小3～高3 (2日間 =2回/日= 計48)	計 48	8.30・31	35mm映画フィルムを動かして見る簡易フィルムビューアーを制作。ムービーミエール本体の組み立てと、ピエロがパントマイムをする白黒映画フィルムへのダイレクトペイントを体験。受講料＝2,700円。 (Aスタジオ)

〈専門指導者向け講習会等〉

名称	対象・定員	受講数	日時	内容
児童厚生員講習会	(人) 静岡県東部地区児童館職員	(人) 15	12.2 10:00～12:00	視覚がん具のソーマトロープ、くるくるアニメ、フェナキスティスコープを取り上げ、それぞれの仕組みやプログラムの展開方法を紹介した。ライトパノラマ、プラクシノスコープ、ピンホールカメラ、ヘリオシネグラフを展示。 (研修室)
アニメーション・セミナー	指導者・一般(60)	64	H18.2.11 18:30～20:30	米正万也京都精華大学講師（アニメーション作家）を講師に招き、自身の作品制作、エストニアのアニメーション事情などを豊富な映像資料をまじえて紹介してもらった。受講料＝2,000円。 (Bスタジオ)
プロフェッショナルビデオ講座「デジタルビデオの信号管理」	〃 (30)	3	2.18 13:00～17:00	アナログ機器に必須なビデオの信号管理と実際の技術を、各種モニターを実際に使用しながら詳細に解説。ウェーブフォーム、ベクトル、ピクチャーの各モニターを受講者が体験使用する時間も設定。受講料＝5,000円。 (会議室)
〃「音声入門」	〃 (30)	6	2.19 13:00～17:00	ビデオ撮影における音声収録についての講座。録音についての基礎的な解説から、ロケでの実践的なノウハウ、音響機器の取り扱いなどを解説。受講料＝5,000円。 (会議室)

3. その他

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
パルテノン多摩アニメ・ワークショップ	4.1～3	毎年恒例の「パルテノン多摩アニメ・ワークショップ」を実施。今回は簡単な「ぱたぱたアニメ」からはじまる初級コース、紙コップ人形のアニメを作る中級コースを開催。東京都多摩市パルテノン多摩。
〃	8.11～13	4月に開催した中級コースのワークショップ修了者を対象にした上級コース。人形を作ってパソコンでアニメを制作。声や音楽をアフレコして作品を完成させた。東京都多摩市パルテノン多摩。
児童健全育成推進財団こども映画祭	H18.1.20・21	(財)児童健全育成推進財団平成17年度「こども映画祭」上映の視察、指導。劇映画『機関車先生』を上映。西成児童館（大阪府)。
〃	1.29	同上。CGアニメ『Mr．インクレディブル』を上映。さくら橋コミュニティーセンター（東京都)。
日野市中央公民館アニメ教室	3.30・31	紙コップ人形や自分の姿をコマ撮りして、アニメ作りを体験するワークショップを実施。学童クラブなどの小学生15人が参加。日野市中央公民館高幡台分室（東京都)。

〈映像記録〉

名　称	日　時	内　容
館内活動の記録	通年	講座などをビデオ取材しソフト化して参加者に販売。体育事業部「母と子のすくすくランド」（Part 1～3）の3本。同作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。
館外活動の記録	夏休み、冬休み、春休みの各特別期間	〔こどもの城〕の館外活動に同行してビデオ取材、ソフト化して参加者に販売した。 体育事業部「チャレンジキャンプ2005」「スキースクール」(Part 1－1期、同－2期、およびPart 2)／プレイ事業部「ちびっこ冒険団2005」「フェローシップキャンプ2005」「ゆきんこ冒険団2005」／企画研修部「ジュニア・アウトドア・スクール2005」「ジュニア・スプリング・キャンプ2006」 上記作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。視聴できる。
劇場公演の記録	通年	青山劇場・青山円形劇場で行われた公演・講座発表会をビデオ記録し、編集の上ビデオライブラリーで公開。また一部を出演者などに販売。 ◎青山劇場＝貸し公演「少年隊PLAYZONE 2005」。 ◎青山円形劇場＝自主公演「こどもの城開館20周年シンポジウム～子どもはどこで育つ？」「ア・ラ・カルト」「デーモン小暮の邦楽維新　collaboration青山本場所」など19本。 ◎青山円形劇場＝共催公演「月猫えほん音楽会2005」「こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ　とびこむ絵本V」など6本。



走れ！キャッスルトレイン～こども鉄道模型運転会

保育研究開発部



平成17年度の活動

1．はじめに

平成元年の合計特殊出生率1.57のショック以来、少子化の歯止めとして国はいろいろな対策をとってきたが、効果は上がらず、平成15年にはついに1.29になってしまった。社会の変化に伴う少子化対策が必要ということから、平成16年6月には、10年をめどに「子ども・子育て応援プラン」の推進に向けて政策目標を設定。4つの重点課題が示されている。(1) 若者の自立とたくましい子どもの育ち (2) 仕事と家庭の両立支援と働き方の見直し (3) 生命の大切さ、家庭の役割などについての理解 (4) 子育ての新たな支えあいと連帯、である。

開館20周年を迎えた本年度も“子ども家庭支援プログラム”を3つの事業に分けて行った。保育事業（「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」）、一般来館児・者事業（「親子工房」「よちよちクラブ」「1・2歳児の遊び場」）および研修事業（「保育セミナー」「子育て相談研修会・基礎編／応用編」「子育て支援のニュースレターの発行」）である。事業の中では保育事業の占める割合が大きい。

〔こどもの城〕の保育は、家庭とともに子どもの育ちを考えるということを開館以来大切にしてきている。利用者は、在宅で子どもを育てている家庭がまだまだ多い。就業している母親より専業主婦のほうが、子育てで悩むことが多いと言われているが、「親子教室」「保育クラブ」「幼児グループ」のプログラムでは、保育を中心にすえながらも親との対話やコミュニケーションを意識的に組み込んでいる。

本年度は〔こどもの城〕の保育に参加している保護者の子育ての実際の様子や子どもについての思いや悩みなどについて取り上げてみた。

2．3つの保育事業

（ア）親子教室

1歳児親子の家庭を対象にした、講座形式の子育て支援プログラム。本年度から土・日曜日のプログラムの一部には兄姉、場合によっては祖父母の参加も認めることとした。

家族同士の交流も視野に入れて、テーブルを囲んで小麦粉粘土を楽しむ企画も初めて行った。小麦粉粘土で遊ぶのは初めてという父親がほとんどであったが、事前に母親をとおして父親用のエプロンも用意してほしいと伝えておいたので、当日は両親ともにエプロン姿で参加した。リラックスした雰囲気の中で、家族同士で小麦粉粘土を楽しんでいた。このプログラムには、家族の参加も受け入れていたので、1歳児にとっては自分より年長の子どもとふれあう



親子教室

2歳児保護者の気持ち（保護者懇談会から）

「保育クラブ」2歳児保育を利用する保護者に対して、春と秋に保護者同士の交流と情報交換を兼ねて保護者懇談会を保育者主導で行っている。春は保護者の自己紹介や「保育クラブ」に参加したときの子どもの様子や親の感想などを聞く。2歳児の一日の定員は14人。月曜日から金曜日まで保育に参加する子どもは約70人（当日欠席もある）。保護者懇談会は各曜日別に行っている。保護者の出席率は65～70%。春の懇談会に出席した保護者（月曜日と水曜日）の発言から。

○Hさん　母親が高年齢で一人っ子。親子で友だちがいない。幼児教室などに行っていた。人見知り、場所見知りがない。自分の両親以外に預けたことがない。母子分離は「保育クラブ」が初めて。観察室からみた時、一人で遊んでいて思い出したようにメソメソしていた。保育者が話しかけると立ち直っていたが、今後、みんなと遊べるようになるのかとても心配。

○Mさん　幼稚園年長児の兄がいる。兄の友だちはいるが同年齢の子どもが周囲にはいない。「保育クラブ」にきて友だちと遊ぶことを楽しみにしている。前の日から「○○ちゃん、あした〔こどもの城〕へいく」という。親の方は、どうしても兄の方が中心の生活になってしまうので反省している。

○Oさん　保育室に入ると子どもから「ママ行かないで」としがみつかれて泣かれる。でもお迎えの時は「また、遊びにくる」と別人のようにいう。子どもと離れるタイミングが分からない。幼児教室とは違うので、母親としては離れてみたい。毎日子どもとずっーと一緒なので、子どもといるのは苦痛な時もある。観察室からみたらのびのび遊んでいたのでちょっと安心したが、大丈夫でしょうか。

○Fさん　4月に職場復帰をした。母親の仕事上、朝、子どもが起きたらママがいないということがある。仕事でヘトヘト、クタクタ。子どもはかわいいが疲れる。世のお父さんたちが疲れている気持ちが分かる。母親も父親も送り迎えできない時は、ベビーシッターにお願いしている。子どもなりに「ママはお仕事なの」とか、夜中に「ママ行かないで」と言われたりすると、働くことはいいことなのかと考えることがある。保育クラブは大好きで友だちや保育者のことをよく話してくれる。

○Nさん　一人っ子、子育てに悪戦苦闘している。理由は、夫が忙しくて子育てはほとんど母親の自分一人でやってきた。子どもを育てることに行きづまる毎日だった。今、少し落ち着いた。「保育クラブ」のことは近所の人から聞いた。いつか子どもを預けて、自分の時間をちょっとでも作りたいと思っていた。「保育クラブ」にきて「遊び着、いや」「リュックはいや」というのでこれからどうなることかと思っている。月齢も低いので他のお友だちのおもちゃを取ったり、泣いたりしているのをみるとそれも心配で思い切って離れることもできない。今日も実は後ろ髪を引かれる思いでここに参加している。

○Tさん　小3の兄がいる。「保育クラブ」が楽しいのが分かる。お母さんがいないのはさびしいというが、家に帰ると〔こどもの城〕でがんばってきたんだという。保育者のこともよく話す。離れる時、少し泣く。「保育クラブ」に来るようになってから自分で靴を履く、手を洗うなどの変化が見られる。反面よく甘える。まあいいかなと思うけれど母乳もほしがる。

○Aさん　一人っ子で1歳から体操教室、親子教室など行っていた。親がいるのによく泣いていて本当にどうしたらいいか困った。両親とも高年齢（40歳代後半）で生まれた子ども。親の体力が勝負。母親の私は10人のいとこの中で育った。他人に優しく、いじわるな子どもになってほしくないと夫婦で話している。「保育クラブ」はだんだん馴れてきて楽しみに来ている。

○Sさん　一人っ子。「保育クラブ」に来て、他の子どもがパンツだったのをみて、スーパーでキャラクター入りのパンツが欲しいと言って3枚買った。親も驚いた。今、外ではおむつの上からパンツをはいている。靴下、タオルなどに名前をつけて〔こどもの城〕に持っていくのがうれしいらしい。渋谷駅に着いたら泣き、〔こどもの城〕に着いたら泣いている状態だが、20分ぐらいで落ち着き、遊びだす。家の周辺には子どもがいないので集団を楽しんでほしい。離乳食の時、いっぺんに食べさせていたら大口になった。食べ方豪快。生活リズムが少しずれてきた。遊び疲れて寝てしまった時は無理にお風呂に入れなくてもいいか、と思うようになった。「保育クラブ」に来て、他のお母さんや保育の先生たちと話していて母親の私は気が楽になった。

○Kさん　2歳2か月の早生まれ。一人っ子。悩みはつきない。1歳4か月で「親子教室」に参加。親が一緒なのに泣いて泣いて、もう一回参加しませんかと保育者に言われた。「親子教室」を落第したが、やっと最後の方で泣かなくなった。両親以外の人に安心できるようになった。「保育クラブ」は心配していたが大丈夫そうだ。私の方が逆に離れがたい。悩みは言葉が遅く、自分の気持ちを言葉にできない。義理の父母に「言葉はまだか」「オムツは取れたか」といわれるのはつらい。実の父母はもっときついことを言う。一時は子どものことを思うとノイローゼ気味になった。「保育クラブ」に通うようになって、他のお母さんたちといろいろ話した。保育の先生もいつも私の話を嫌がらずに聞いてくれた。私だけではないんだと思ったら少し楽になってきた。

○Rさん　下に2歳違いの弟がいる。年子になる。子どもは3月まで保育園に行っていた。保育園では毎日友だちと遊んでいたので、今も公園につれていくと「ママ、バイバイでしょう」ということがある。母親の私が仕事をやめたら、朝も家族全員遅くなった。私は仕事をしていたころのバタバタにはもう戻れないという感じで、今はのんびり子育てをしている。こういうのもいいのかなと思っている。

親子遠足（春）



機会ともなった。

一人っ子の家庭にとっては、兄弟を育てている親からの子育てのアドバイスは具体的で、参考になったという声も聞かれた。また、数少ない孫とのふれあいを求めて地方から上京してくる祖父母に対しても、できるだけの配慮をした。

親子教室修了後のアンケートからは、大人も子どもとともに楽しく参加できたという声が寄せられている。本年度から土・日曜日の活動を増やしたため、父親の参加回数も増えることになったが、年間をとおして両親の出席率は高かった。課題は兄姉への対応。ファミリープログラムとしているものの、兄姉が満足するまでの内容には至らなかった。

年３期（各10回）行い、１期の定員は16組。年間の応募総数は69組。抽選で48組が参加。21組は参加できなかった。本年度は「親子教室」への関心が高く、問い合わせも近年になく多い年となった。応募理由の主なものは「母子で過ごすことが多く、母子ともに友だちが欲しい」「子育てについての専門家のアドバイスが欲しい」「父親の参加があるのが魅力」など。

（イ）保育クラブ

「保育クラブ」（２～５歳児）に登録をする会員数は、約420人。本年度も「子どもによりよい保育環境や集団遊びの体験をさせたい」との応募理由が多かった。

会員には、保育プログラム、家族プログラム、情報プログラムの３つのサービスを提供している。保育プログラムは、異年齢児混合保育・チーム保育・保育ボランティアの参加――などが特徴であることと利用法などを入会の際にていねいに説明している。家族プログラムでは「親子遠足（春・秋）」、「親子工房」などを行っていること、情報プログラムでは「保育クラブ通信“おやとこ”」（年４回）の発

親子遠足Ｐａｒｔ Ⅱ（秋）



行、小児保健部と連携した「健康診断（春・秋）」などがあることを伝えている。

■2歳児の保育■

３年保育を意識して、集団遊びの雰囲気に慣れさせたいという理由から、１年間、曜日を固定して定期的に保育を利用したいという家庭が年々多くなっている。そのため、年度途中から定期的に利用したいという家庭の要望にはなかなか応えられない。

集団遊びを中心にしているが、２歳児の保育はまだまだ養護の部分が大きい。各家庭の生活様式も変化してきていることから、親との緊密なコミュニケーションは欠かせないものとなる。２歳児の定期的な保育は週１回、３または４時間の保育参加となる。

本年度の子どもの育ちを生活面から見てみると、靴をはいたり、脱いだりを自分でやろうとする子どもが早くからみられた。１期の終わりごろからはおむつがとれる子どもが少しずつ増えていき、年度末には取れていない子どもは各曜日とも１～３人となっていた。昨年に比較してかなりの子どものおむつがとれた。給食の食べ方を見ても、食べこぼしや道具の扱いがうまくない子どもも、３期には上手に扱い食べていた。

〔こどもの城〕の保育は、保育所のように毎日来るわけではないのだが、週１回の定期的な集団参加だけでも、他の子どもからの刺激を受け、子ども自身が自立に向けて学ぶことには大きい。同時に、家庭で子どもを育てている母親にとっては、保育者に相談をしたり、子育てを見直したりする絶好の機会になっている。

２歳児の集団遊びは、３期に入り「あぶくたった」の伝承遊びを繰り返し楽しんだ。「おおかみなんかこわくない」の歌とごっこ遊びも、最初は保育者がリードしていたが次第に子どもたちがドレスを着たり、「音楽かけて」と言ってきたりして、自由に遊ぶ姿が見られるようになった。集

保育参加したあとの親の感想

○4歳児（男の子）一人っ子の母親

子どもと遊ぶのが苦手なので参加する前はやや緊張していました。息子もそれを察したのか事前にいろいろとアドバイスをしてくれました。「分からないことがあったら、ぼくが教えてあげる」「トイレにも連れていってあげる」「この間、友だちにパパとママが大声でケンカしたこと話しちゃったよ」ということまで事前に告白しました。

保育室に入ると子どもたちが話しかけてくれて、自然にリラックスできました。ドッジボールの遊びで我が子が「イェー！」と、皆と一緒に手を振り上げて動いているのにはびっくり。意外な一面を見た気がしました。保育参加したことを、息子はとても喜んでくれました。

主人も少し前に保育参加したことで、夫婦で話すことが増えました。私だけでなく、父親も分かっているということはとても心強く思います。楽しく参加させていただき先生方には感謝いたします。ありがとうございます。

○5歳児（女の子）二人姉妹の父親

当日は保育の各種活動を純粋に楽しませていただきました。自分の子どもに対しても、親というよりは、友人の一人として接するような形となり、その点が非常に新鮮でした。

屋上で鬼ごっこ（高鬼）をしました。何十年ぶりかの鬼ごっこで、幼少期が懐かしく思い出される一方で、鬼に捕まることを子どもたちがあまり恐れていないというのを見て、時代の違いを感じました。私の子どものころは、鬼にされるイコール負けを意味していました。ですから、一生懸命逃げたものですが。

子どもたちにはぜひ、日本古来の素朴な遊びを覚えてほしいと思います。かくれんぼ、缶けりなど。勝敗のつく遊びも、ルールや秩序を学ぶ点では有効なのではないかと個人的に考えます。最後に保護者の立場を忘れて楽しんだおかげで、わずか一日の間に友だちがたくさんできました。また、参加したいと思います。

大成として、「おおきなかぶ」を劇ごっことして月～金曜日の子どもたちで遊んだ。それぞれの役割に子どもたちが扮して、言葉も添えて動いてみた。子ども同士で声をかけあうなど友だちを意識してかかわる姿が随所にあった。この様子は観察室から親に見てもらい、子どもの成長を感じとってもらった。

夏休み、冬休み、春休みの特別期間の保育は、全員がフリー予約の保育となるが、本年度は夏休み特別期間の利用は1日の定員（12人）を割ることが多く、平均7～8人となった。兄姉のいる2歳児の利用が減ったことから、夏休みは2歳児よりも兄姉を中心に行動するようすがうかがえた。

■3～5歳児の保育■

3～5歳児の保育活動は、週4日（火～金曜日）保育する「幼児グループ」の4・5歳児を核として進めている。保育クラブの2歳児から進級してくる子どもと、外部から3歳児として初めて保育に参加する子どもの生活面での自立度をみると、本年度は外部から入った子どもの月齢が高く、兄弟がいる子も多いためか、食事、手洗い、着脱、排泄などが身についている子どもが多かった。また、精神的にもしっかりしており「保育クラブ」から進級してきた子どもとの違いはあまり見られなかった。

「保育クラブ」の入会を希望する理由の一つに異年齢児混合保育の中で遊ばせたいという家庭が多い。異年齢児混合保育の中での子どもの育ちを具体的に見てみると、次のようなことがあげられる。

遊びでは年少の子は年上の子どものまねをよくする。例えばフィギュアスケートごっこがはやった時、大きい子たちから観客として誘われた3歳児は、最初は花を投げることを楽しむだけだった。そのうち一緒に踊ってみたくなった様子だったが、大きい子どもたちの中にはなかなか入れずにいた。親からは保育者に、家で一生懸命踊っていますと知らせてきた。

5歳児が「ひもこま回し」などをするのを、そばで3歳児がじっとみている。こまを手にとって見る子どももいるが、その場ではすぐには遊び出さず、少したってからその子なりに遊びだす姿があった。3～5歳児が一緒に「かるた取り」をした時、3歳児が札をたくさんとって、5歳児が年下の子に対して「年少の子でもすごいなー」という気持ちになったようだった。

2期からは、給食の食卓の準備や配膳をする係を3～5歳児がグループになって行っている。互いが声を掛け合い、5歳児がやさしく3歳児に教えてあげるなどしながら進めている。3～5歳児が一緒のテーブルで食事をするため、互いに興味がある、例えば家族の話や「ムシキング」の話題などになると一段と会話がもりあがっていた。

食事にかんしては、大きい子が何でも食べているのをみて、年少の子が嫌いだった物も食べてみようという姿が例年見られる。仲間意識も出てきて5歳児が3歳児に椅子の用意やコップや箸を自然に準備している場面もみられた。

3～5歳児は、定期的に曜日（週1～2日）を決めてくる子どものほかに、幼稚園が休みの時などに来るフリー予約の子どもが常時保育に参加している。毎月保護者向けに配布しているお便り『キゾラ』を、フリーで利用する保護

者にも渡して、保育に参加するときには担当のスタッフが誰になるのか、どんな保育内容なのかをていねいに説明をしている。

フリーで保育を利用する親から、通常は幼稚園にいっているが、一人っ子で近所に友だちもいないので、幼稚園のお休みや特に夏休みなどに参加させたいという家庭が年々増えて常連の子どもたちがでてきた。

3～5歳児の保護者は、2歳児の保護者ほど子育ての悩みを保育者に相談することは少なかった。子どもが言葉を話すようになり、ある程度の身の回りのことも自分でできるようになることで、保育者への相談も少なくなっていくようだ。3～5歳児の保護者懇談会などでは、親同士が育児を語り合ったり、子どもの送り迎えの機会に親子同士が早くから親しくなって、友だちになっていったりすることもあった。

■3～5歳児の延長保育■

「保育クラブ」の3歳児以上の子どもは、保護者が希望すれば、原則午後4時までの延長保育を受けられる。通常は火～金曜日。夏休みなどの特別期間は月曜日も利用できる。一年間定期的に曜日を決めて延長保育を利用することもできる。

フリー参加もできるシステムであることから、年間をとおして常時定員が埋まる。子どもの遊びのためと親の都合から延長保育を申し込む家庭がほとんど。1日の定員は8人としているが、親の緊急の用事などで8人以上となる日もあった。延長保育を利用したいという家庭は常に多く、キャンセル待ちがでる状態であった。

午前の保育とは異なり、少人数の保育活動となるが、保育のねらいは“遊び”を重視して、ゆったりとした雰囲気のなかで好きな遊びを十分楽しんだり、充実した“ごっこ遊び”ができるように配慮。午後の保育は、午前中の様子を見ながら無理がないように進めているが、戸外にある砂場などにも積極的に出かけてダイナミックに遊んだ。

少人数のグループなので、〔こどもの城〕のプログラムにみんなで参加することもあった。“遊び”の核をなす存在として、「幼児グループ」の子どもの延長保育への参加は頼もしい。特に4月、5月のごろに延長保育に幼児グループの子どもがいると、「保育クラブ」の新メンバーの遊びの手本のようになって、遊びが広がっていく効果があることが分かった。

（ウ）幼児グループ

2年間定期的に週4日保育に参加する、4・5歳児のグループ。「保育クラブ」の3～5歳児を交えた異年齢児混合保育で、保育活動の基盤になる子どもたちである。「幼児グループ」の保育のねらいは、家庭と協力して人間性豊かで自発的な子どもを育てることにある。

本年度は通常の保育活動のほかに、開館20周年の催しが加わった。11月に全館が協力して行った「ドルッチャタウン」に参加。「キゾラカフェ」という食べ物屋を幼児グループの子どもたちを中心に運営した。ベランダ栽培で子どもたちが収穫したサツマイモを使って「サツマイモケーキ」と「おいもおにぎり」を用意。子どもたちは、ウエートレスとウエーターになり、給仕・接客をした。保護者も、店の雰囲気作りに側面から参加した。

例年、親子・家族同士の交流をねらいに、バーベキューを兼ねた親子遠足を春に行っている。本年度も昭和記念公園（東京都立川市）で行った。今回は親たちがグループを決め、積極的に行動した。保育の視点からは、子どもが経験することにも重点を置きたかったが、親の動きが目立ち、親子プログラムの難しさが出てきた感じであった。

「幼児グループ」は個人面談のほかに、月に一度は保護者会を開き、子どもの成長をさまざまな側面から一緒に考えるようにしている。保育者と保護者の懇談会をはじめ、〔こどもの城〕の各事業部（小児保健、体育、造形事業部ほか）のスタッフを講師に招いて、子育てについて最新の情報を聞いたりワークショップをしたりしている。また、就学に向けての関心も高いことから、近隣の小学校長の講演会や幼児グループを修了した保護者に集まってもらい小学校生活などを話してもらっている。国立、公立、私立、インターナショナルなど各種の小学校に通わせている親たちからの具体的な話は、生の情報として参考になるとの声が多い。

この他、「幼児グループ」の親に対しては積極的な保育参加を勧めている。保育参加は保育の場で、親が子どもと遊びと生活をともにすることで、子どもを肌で理解することができる。子どもたちにとっては、いろいろな大人（親）の存在を感じることに意味がある。本年度もほぼ全員の親が仕事や用事の都合をつけて参加した。



ドルッチャタウンの「キゾラカフェ」

親の子どもへの思いを込めた「川柳」

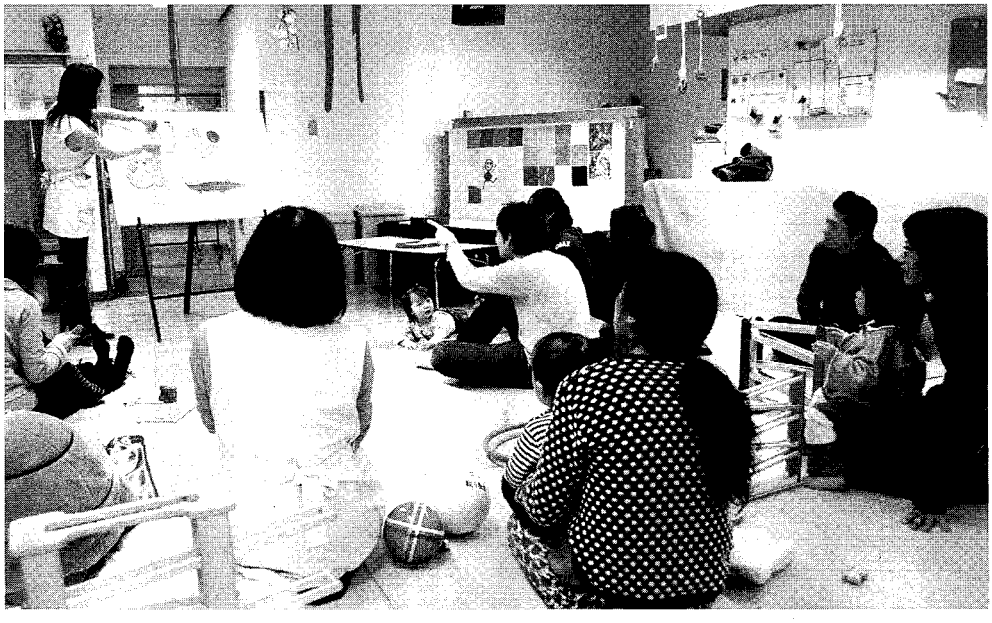
本年度は保育活動展「こどももようパートⅢ」で、親の子どもへの思いを川柳として寄せてもらい、カルタ風にして展示・紹介した。(約200句から抜粋)

○朝夕は 抱っこの 充電が必要です (4歳児の母／40代)
○あきらめた 遺伝だもんね のんびりやさん (5歳児の母／30代)
○いただきます どうしていうのと 子に聞かれ (4歳児の父／40代)
○いらいらも 子どもの寝顔 見て直る (5歳児の母／40代)
○いばりんぼ 誰に似たのか 腹がたつ (3歳児の母／40代)
○幼き日 夢中になったキャラクター 子どもと一緒に遊んでる (5歳児父／40代)
○お父さん 帰ってからが 子と運動会 (3歳児母／30代)
○家事育児 いつになったら 終わるやら (2歳児母／30代)
○肩たたき 肩より心が ほぐれます (3歳児母／30代)
○かるたとり 今や子どもと 真剣勝負 (5歳児の父／40代)
○くいしんぼ 年末年始 やすみなく (5歳児の母／40代)
○消しゴムで しみとしわを 消したいな (5歳児の母／40代)
○声からし 怒ってみても 上の空 (5歳児の母／40代)
○子の熱に 医者の夫が 医者を呼べ (2歳児の母／30代)
○咲いた桜の数よりも つかんで欲しい 子の幸せ (4歳児の父／40代)
○四月から 子は小学校 胸つまる (5歳児の母／40代)
○背くらべ 実家の柱 線だらけ (5歳児の父／30代)
○抱っこしてと いつまでいって くれるやら (4歳児の母／40代)
○どんな歌 息子の歌では 分からない (3歳児の母／40代)
○涙して 一緒に読んだ ごん狐 (4歳児の母／40代)
○一人っ子 遊びの相手は いつも母 (2歳児の母／30代)
○保育室で パパ行かないで あそぼうよと子 (2歳児の父／30代)
○ママのこと 古くなっても 大好きだよ (3歳児の母／30代)
○ムシキング 殺虫剤かと 思う父 (4歳児の父／40代)
○ろうそくの 本数増えて誕生日 5本のままでいて欲しい (5歳児の父／40代)

3. まとめ

子どもが、事件や事故に巻き込まれることが多発している。子どもの安全を守る上からも、いろいろな立場からの取り組みが必要になってきている。保育研究開発部は「子ども家庭支援プログラム」を実践しているなかで、日々親が子どもを育てるのに難しさを抱えながらも、一生懸命子育てしている姿を目の当たりにしている。

〔こどもの城〕の保育に参加している家庭の母親は、専業で子どもを育てているケースがほとんどを占めている。情報過多や子どもを取り巻く環境が大きく変わるなかで、少しでも子どもの安全をはじめ、発達などにも気になることがあると親は不安になる。気軽に相談するところや助けを求めるところが、「あるようでないのが実情なんですよね」と保育クラブの懇談会で発言した親に、他の親も一斉にうなずいたことがある。保育事業はますます一人ひとりの子どもの育ちを親と一緒に考えながら、ていねいに進めることが求められてきていることを実感している。



よちよちクラブ

平成17年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
親子遠足（春）	5.14	「保育クラブ」「幼児グループ」の2～5歳児の家族プログラム。家族同士の交流をはかるのがねらい。保育スタッフ側から家族に積極的にかかわるようなプログラム（保育スタッフにかんするゲーム）、親子一緒のじゃんけん列車や輪くぐり競争、家族同士で遊ぶパラバルーンなどを行った。参加した父親、母親から楽しかったとの感想。2歳児が一時的に迷子になり、会場の広さ、管理事務所との連絡の取り方などを含め安全対策の再考をせまられた。代々木公園（渋谷区）、親子223人参加。
親子遠足Part II（秋）	10.8	「保育クラブ」「幼児グループ」の2～5歳児の家族プログラム。家族同士で体を動かして遊ぶことがねらい。ミニ運動会の要素も取り入れ、パチパチ体操、ジャンプしてゲットする菓子食い競争、じゃんけんおんぶなど。保育スタッフは20周年を記念して作ったおそろいのTシャツを着用し、親子へ存在をアピール。交流もなごやかに行われた。天候不順が続くなかで行ったこともあり例年になく少ない参加者となった。代々木公園（渋谷区）、親子84人参加。
保育活動展	H18.2.1～12	前年度に引き続き、テーマは「こどもものようパートIII」。「幼児グループ」を中心に、「保育クラブ」の2～5歳児の保育活動をさまざまな絵や協同制作、作り物、写真などで紹介。20周年行事「ドルッチャタウン」で幼児グループの子どもたちが行った「キゾラカフェ」の活動も展示した。また、今回は保育クラブ会員の保護者から子育てへの思いを川柳にして寄せてもらった。約200句が集まり「子育てかるた」として展示した（100ページ参照）。保護者以外の一般の来館者の関心も高く熱心に見入る見学者が多かった。期間の延長を希望する声も聞かれ、来年度の課題となる。（ギャラリー）
よちよちクラブ	土曜日　11:00～12:00 13:30～14:30	一般来館の1・2歳児の親子のための子育て支援プログラム。年間20回。延べ約500組の親子が参加。定着したプログラムになってきた。参加した親に子どもの名前の由来、思い出の絵本などについて話してもらうと、親同士が和やかになり場が盛り上がる。熱心にビデオ撮影する父親、子どもをながめているだけの親などもいるが、両親参加が増えている。プログラムの内容の見直しが検討課題。遊びの内容は1歳児と2歳児の参加人数に合わせて工夫をし、進めた。ソフトブロック、ボールなど体を使って遊ぶコーナーと静かにおもちゃなどで遊ぶコーナーとの環境設定が難しい。1歳児前後の親子の参加が増えて、作り物は子どもより保護者が楽しく作ることが多いが、作ったもので親子が遊ぶ場面は少ない。保育者への相談や質問は多い。「親子教室」「保育クラブ」につながるプログラム。予約制だが、当日参加も可。（保育室1）
保育室の一般開放	土・日曜日・祝日 10:00～17:00	1・2歳児のためのおもちゃや絵本を用意して、〔こどもの城〕に来館する親子に遊べる場を提供した。定期的に遊びに来る親子もいる。こどもの城ボランティアグループが定期的に絵本の読み語りを親子に行っている。（保育室2）



親子工房

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 つくって遊ぼう親子工房「ワンダーバード」	5.3～5　10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00 （5日15:30の回は休み）	ポリエステル綿を事前にカラフルな色に染めておき、綿菓子のような、フワフワの鳥を作った。488人の親子が参加。（保育室1）
〈夏休み〉 つくって遊ぼう親子工房「ファンタスティック・ダンボールスティック」	8.12～14 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00 （14日15:30の回は休み）	ダンボール箱を板状に広げて、絵の具でいろいろな色を塗り、乾かす。完全に乾いたところでさまざまな形にカットする。少し固めの紙を細く巻いて、15～20cmの長さのスティックをたくさん作っておく。作りたいもののイメージが決まったら、気にいった色、形のダンボールをいくつか選び、スティックをボール紙の空洞部分に差し込んでつなぎ、人物、動物、植物などを立体的に組み立てていく。一度組み立てた物をバラバラにしたり、別の形に組み立て直したりすることができるのがこの作り物のおもしろいところ。321人の親子が参加。（保育室1）
〈開館記念〉 つくって遊ぼう親子工房「顔・かお・この石どんなカオ」	11.3～5 10:30～12:00 13:30～15:00 15:30～17:00	河原で集めてきた、いろいろな石を“顔”に見立てて絵の具などで彩色し、オブジェを作った。素材としての石の存在感を高める効果を考え、初めて会場を〔こどもの城〕の裏庭に移して行った。“石”の形、色、感触、重量感などを親子で手に取り味わいながら“顔”のオブジェを楽しむ姿があった。裏庭までの案内図、参加の親子への誘導が加わった。20周年のプログラムがほかにもあったためか、参加親子は171人と少なめだった。（こどもの城裏庭）
保育室の一般開放	特別期間中の土・日曜日 10:00～17:00	一般来館の1・2歳児の親子が、おもちゃなどで自由に遊べる場を提供した。午前中は、利用する親子は少ないが、午後にかけて多くなる。とりわけ祖父母の同伴が目立った。ベビーカー利用者が増えて、避難経路や安全上からも置き場の設置を考慮しなければならなかった。午後は閉館間際まで込み合うことが多いが、「おかたずけ」の声をかけても、そのままで退出する親子は相変わらず多い。（保育室2）

2. 講座・クラブなど

〈クラブ〉

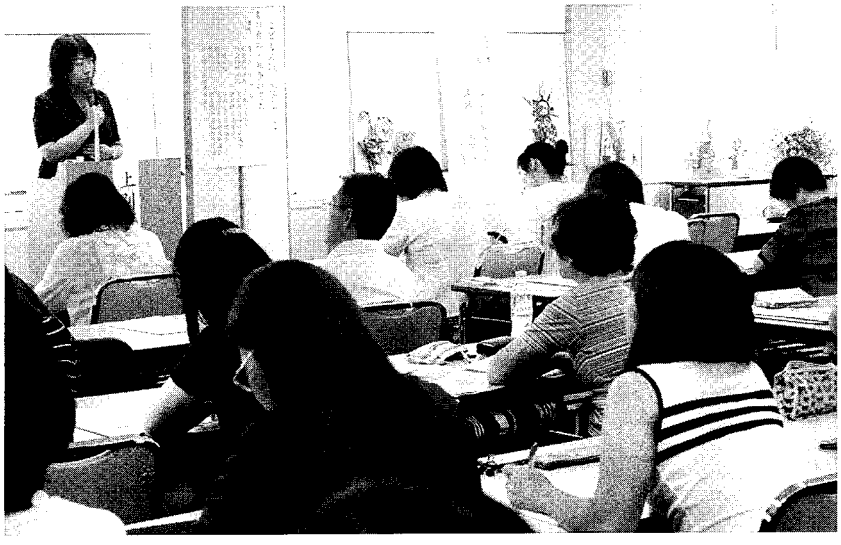
名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
幼児グループ	（人） 4歳児 （11） 5歳児 （11）	（人） 11 9	火～金曜日 10:00～14:00	〔こどもの城〕を保育の場とする週4日、2年間にわたる継続的な保育活動。「保育クラブ」の主に3歳児が曜日別に加わり、異年齢児保育となる。多様な人間関係を体験するため、ボランティアとも遊ぶ。チームで保育を行い活動を深める。プール活動など、体育事業部などと連携。就学に対して親の関心が高く、小学校校長の講演会、小学生の親を交えての懇談会を行っているが、例年に増して参加者が多かった。開館20周年プログラム「ドルッチャタウン」に参加し、軽食喫茶「キゾラカフェ」を開いて、子どもたちがウエートレス、ウエーターになった。保護者も準備活動を手伝った。「保育クラブ」に連動している。保育料41,000円、給食費4,800円（いずれも月額）。延長保育を希望する家庭が多い（別途保育料）。
保育クラブ	2～5歳児 （登録数 420）	14 9	月～金曜日（2歳児） 10:00～13:00 10:00～14:00	登録をして利用する会員制の保育活動。日時を選べる。集団遊びを希望する2歳児の家庭、幼稚園に行きながら夏休みなどの保育に参加したいという3～5歳児の家庭が多い。入会時に、個人情報を大切に扱うことを伝えながら家庭環境調査票、児童調査票の提出を義務付けている。これは、親とともによりよい子育てを考えることがねらい。保育のほかにイベント、通信の送付、家族プログラムのサービス実施。希望で延長保育（3～5歳児）も受けられる。入会金10,000円、年会費5,000円。保育料：2歳児1,200円（1時間）、3歳児以上850円（1時間）。昼食代600円、おやつ代200円（1回）。
		14 6 （1日 あたり）	火～金曜日（3～5歳児） 10:00～14:00 10:00～16:00	

《講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（組）	（組）		
親子教室　34期	1歳児親子	16	月曜日	親子遊びを中心に子育ての楽しさを両親で体験するプログラム。スタッフの援助で、ほかの親子との交流もはかれるようにしている。本年度は、土・日曜日は兄弟姉妹の参加も可とした。医学・心理発達にかんする講義、栄養士などからのアドバイスもある。父親（家族）の参加4回を含む。受講料35,000円。
35期	（各期16）	16	10:00～12:30	
36期		13	（全10回。月曜7回、土曜1回、日曜2回）	

《専門指導者向け講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
子育て相談研修会（基礎編）　春	育児相談担当者（110）	65	5.28 10:00～17:00	テーマは「保育所や児童館が行う子育て相談の基本と実践」。春・秋とも「保育行政の動向」（永瀬哲郎・厚生労働省保育指導専門官）と「基本的な相談の技法」（山崎美貴子・神奈川県立保健福祉大学）の基本講義。春は「家族を支える相談とは」（青木紀久代・お茶の水女子大学）、秋は「近年の家族の状況」（金子恵美・日本社会福祉事業大学）について学習。〔こどもの城〕子育て相談研修会の企画委員の事例報告を題材に、事例を分析・把握するための手法「エコマップ（環境関係図）」「ジェノグラム（家族関係図）」で書き表し方を学んだ。事例や具体的な説明が多く分かりやすいと参加者には好評。受講料6,000円。※敬称略　（研修室）
〃　秋	〃（110）	71	10.22 10:00～17:00	
子育て相談研修会（応用編）	〃（50）	33	6.11、9.10、H18.1.14 14:00～20:00	テーマは「保育所や児童館が行う育児相談とは何か」。スーパーバイザーは、山崎美貴子（神奈川県立保健福祉大学）と山田美和子（元全国社会福祉協議会高年福祉部）の両氏。参加者が持ち寄る事例を中心に、具体的な子育て支援のかかわり方を学んだ。受講料30,000円。※敬称略　（研修室）
第19回こどもの城保育セミナー「子どもの育ち・社会の育ち」PART Ⅰ	保育関係者など（150）	70	8.6 10:00～17:00 8.7 10:00～15:00	全国の保育所、児童館、行政の児童福祉担当者などが対象。毎回、児童福祉が現代社会の中でどのような動きとなっているのかを取り上げている。※敬称略 【1日目】 基調講演「考えてみよう家族援助」／演習「保護者とのコミュニケーション」 講師＝上別府圭子（東京大学） 【2日目】 分科会「コミュニティーの中の児童福祉」 助言者＝山崎美貴子（神奈川県立保健福祉大学） 〃　「今、求められる園の運営管理」 助言者＝杉山治子（社会福祉法人茶々保育園） 〃　「明日から活かせる保育実技」 助言者＝菊地政隆（江東区白川かもめ保育園：公設民営）　（研修室）



第19回こどもの城保育セミナー

3. その他

〈講師派遣〉

名　称	日　時	内　容
ファミリーサポート会員ステップ講習会	5.13	ファミリーサポート会員のためのスキルアップ講習会。身近な素材を使ったおもちゃを作る。親子工房で取り上げたプログラムなどから紹介、指導を行った。日用雑貨の生かし方次第で生まれるおもちゃは、現場ですぐ生かせると好評であった。主催は埼玉県朝霞市健康福祉部。
現任保育士研修会「4・5歳児造形、表現活動」	9.1	4・5歳児担当保育士が一人ひとりの発達を的確にとらえ、適切な表現活動の援助を行うことが目的。「保育クラブ」の事例をもとに実践的に指導。参加者からはマンネリになりがちな保育内容が新鮮なものになるとの声があがった。主催は宮城県子ども総合センター、参加者50人。
子どもの発達「これからどうなる、遊び方」	11.9	6～12か月の親子（父親も一緒）を対象に、前半は子どもの心と体の発達について話をし、後半は手遊び、体を動かして遊ぶ遊びを紹介。初めての子育てで「夜泣き」「食べてくれない」「便秘がち」などでとまどっているという親からの質問が相次いだ。主催は東京都港区生涯課。
〔こどもの城〕における保育の実際と保育士の活動	12.5	保育研究開発部で行っている保育、研修、一般来館児・者事業について講義。保育士は保育のみを行うのではなく、保育をベースにそれぞれの事業を担当していることを説明。保育士のイメージが変わったと学生の感想。男子含む50人の学生。主催は玉川大学文学部教育学科。
親子でたのしく	12.9	保育研究開発部で行っている親子遊びの実践から、トークと遊びを紹介した。主催は埼玉県川越市児童センター。
〔こどもの城〕とこどもたち	12.13	〔こどもの城〕の設立と由来、合わせて保育研究開発部で行っている子どもたちの活動を具体的に紹介した。主催は鶴見短期大学部保育科。
公開講座「子育てサポーターリーダー研修」	12.15・16	地域の子育て支援の一環で登録保育士と児童委員が協働して行っている一時保育、PTAなどの子育て活動で行われている一時保育の内容を高めるために、具体的なプログラムと構成の考え方を〔こどもの城〕を例に、講義とワークショップで説明した。主催は東京都中央区地域家庭教育推進協議会。
ワークショップ～食育に関連した事例を通して～	H18.2.16	児童福祉施設に勤務する栄養士、調理師を対象に、幼児にとって楽しく食べるにはどんな配慮と工夫が考えられるのかを、保育研究開発部のベランダ栽培などの事例をもとに紹介した。主催は、神奈川県社会福祉協議会。
一時保育のプランニング	3.16	一時保育を行っている保育士、幼稚園教諭などを対象に、保育計画の立て方などを助言した。主催は東京都中央区教育委員会社会教育課。

〈その他〉

名　称	日　時	内　容
ニュースレターの発行	第35号（7.15） 第36号（H18.1.15） 第37号（3.15）	行政、経済界、利用者にかんする情報および子育てをめぐる情報、子育て相談研修会の内容の概要などを紹介。本年度は児童福祉施設における次世代の子育てを支える支援策など、行政の動きをはじめ各地の実践などを中心に取り上げた。児童福祉施設の果たす役割の大きさを実感させられるとの読者の声。〔こどもの城〕で行っている「親子工房」、「子どもと絵本」など保育セミナーの内容なども紹介。主な配付先は、市長会、見学者、関係所管課。年間講読料2,000円（郵送費、印刷代一部負担金）

小児保健部



平成17年度の活動

1．はじめに

開館当初から、子どもたちの心身の健やかな健康を願って、成長・発達の心配ごとに対応する小児科の診療・相談、肥満の子どもの健康教室などに取り組んできた。〔こどもの城〕が20周年を迎えた現在でも、それらの活動を継続し、さらに妊娠中から乳幼児期の“子育て支援”を目的とした活動にも重点をおいている。

この20年で子どもを取り巻く生活環境はかなり変化した。“食育”が国の施策として取り上げられるようになったが、子どもの体と心の健全育成のためには、身近な生活の状況をとらえて子どもや家族への援助を行っていかなければならない時代に入ってきていると思われる。

当部の活動は整理すると次のように分けられる。

(1)「小児保健クリニック」で子どもの健康上の心配ごとについて診療・相談の場を提供する
(2) グループで行う講座や催しなどで、子どもの生活習慣病予防や保護者への子育て支援の活動を行う
(3) 子育て支援の現場にかかわる専門職への啓発活動を行う
(4) 活動の成果を報告・研究する

本年度の特色は、乳幼児とその保護者が対象の事業がにぎわったことであった。小児保健クリニックにおける乳幼児健康診査（公費）の受診者は、前年度に一度減少したが再び大幅に増加し、乳児の保護者向けの講習会も参加者が増えた。一般来館の乳幼児親子を対象とした「赤ちゃんサロン」は、前年度に比べ年間の合計で約1,000人の増加であった。これは乳児・幼児を対象とした“子育て支援”施設としての〔こどもの城〕の側面がより広く知られるようになったためと思われる。小児保健部だけではなく、全館で低年齢の子どもたちとその保護者を多く見かけるようになった。この状況を〔こどもの城〕のさらなる活気につなげていきたい。

なお、子どもの食生活習慣のゆがみが話題となり、マスコミで肥満やせの問題を取り上げることも多くなっている。肥満を主訴とした外来受診者や「健康スポーツ教室」の希望者は相変わらず多い。しかし、これまで行ってきた「小児肥満のための指導者講習会」は、本年度の35回をもって終了することにした。

2．20年続いた「小児肥満のための指導者講習会」

〔こどもの城〕が開館した昭和60年（85年）当時、小児医療の分野では心身の健康状態が不安定な子どもが増えている状況にどう対応するか、保健予防的な考え方に変わりつつあった。

全国的な資料では、肥満症の子どもが増加し、さらにコレステロール値が高い子どもも増える現象が当時から指摘されていた。そこで、東京女子医科大学附属第二病院（現・東医療センター）の協力を得て、開館前から肥満児を対象とした小児科診療や運動指導・心理相談・レクリエーション指導などのシミュレーションを行った。それを踏まえて、開館時から毎週土曜日の講座として「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」を開設した。以来20年間、その経験を生かして、小児肥満にかかわる指導者（養護教諭・栄養士・保健師・医師など）向けに年1、2回の講習会を開催し全国に広める啓発事業としてきた。

講習会の内容は、小児医学（子どもの成長のみかたと肥

満の判定など)、栄養学(太りすぎ予防のための食育と食事のあり方など)、運動(運動指導の実際と実技)、心理学(子どもの心の健康と事例)の各分野の講義・実習を盛り込んでいた。時には、全国各地からの参加者の情報交換や「健康スポーツ教室」運動指導の見学をとり入れたこともあった。

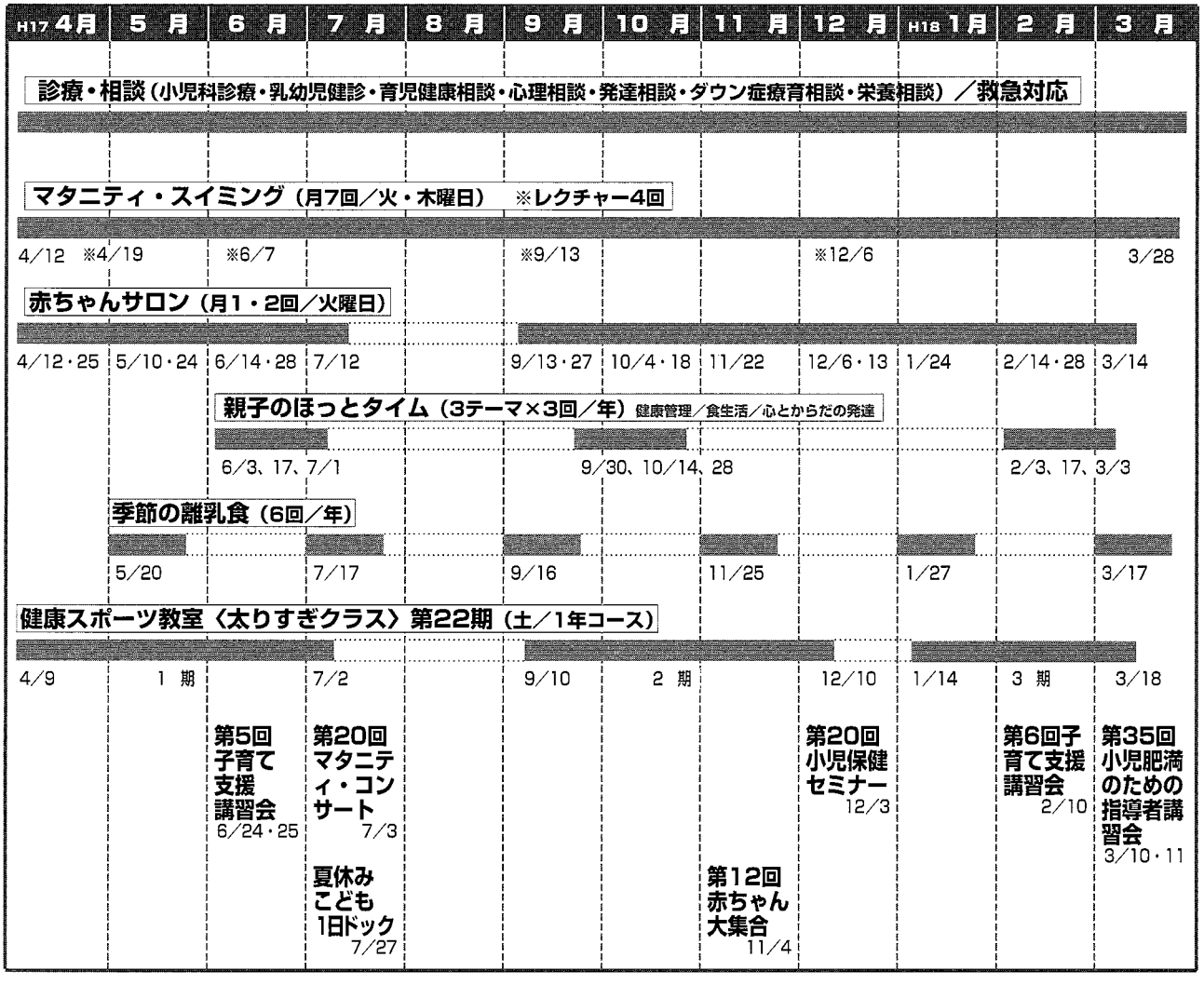
講師は、「健康スポーツ教室」開設当初からかかわる専門家である。特に村田光範東京女子医科大学名誉教授(小児科学)や坂本元子和洋女子大学教授(栄養学)は、小児肥満の研究・指導の第一線で活躍し、20年間にわたりこの講座と歩みを共にされてきた。村田教授は、この間に我が国における小児肥満の判定方法を確立した。一方、坂本教授は現代の食品流通や家族関係など食の背景にある側面も考慮した栄養指導のあり方に一貫して取り組み、生活習慣病対策を方向付ける役割をも果たされてきた。長年にわたって、新しい情報と示唆に富んだ講義を提供することができた。

肥満の指導の難しさは、学校の養護教諭や保健センターの保健師など専門職員が個々にがんばっても効果があがりにくいことである。学校のなかでは、子どもの健康のためと思って本人・保護者に“肥満”と告げることが、かえっていじめの原因になってしまうこともある。地域の医師や保健センター、学校・保育所、スポーツ関係施設などが連携・協力して、子どもと保護者に意識を持ってもらい、息長く続けることが必要である。そうした専門機関の連携のあり方や予算の必要性も話題になることがあった。

この講習会では、肥満や生活習慣病の基礎知識や指導・援助の方法を参加者に広めることを続け、数年前までは、全国からの申し込みが定員を上回る盛況ぶりであった。しかし、地域での必要に迫られて受講するというより、個々人が肥満予防の知識を学びたいという参加理由に変わってきたため、一時期より受講生が減少した。さらに、小児肥満についての基礎知識や予防・対策方法などをこの20年で確立し、伝えることができた。そのため〔こどもの城〕としての役割は終了したと考えた。

しかし、本年度に至って、国の掲げる「健康日本21」の中間見直しの時期となり、そのなかで子どもの肥満が減少しないこと、大人の生活習慣病“メタボリックシンドロ

【小児保健部の年間活動表】



ーム”が増加していることに注目が集まった。低年齢の時期からの対策も求められるようになり、マスコミなどを含めて急に普及活動が高まり、最終回の第35回には定員以上の参加申し込みがあり、地方ではまだまだ肥満の子どもへの対策は不十分であるため継続を望む声が多かった。

今後の展開として、肥満対策だけに留まらず、逆にやせや子どもの生活習慣全体の問題も浮かび上がってきているので、子どもの健康を考える新たな講習会を開催していきたいと考えている。

小児肥満のための指導者講習会



3. 診療・相談活動

(ア) 統計にみる診療・相談の特徴

表1に本年度の「小児保健クリニック月別診療・相談件数(初診・再診内訳)」について示した。診療(予約制・健康保険扱い)の総件数は1,089件で前年度より48件減少、心理・発達相談の件数も27件ほど減少した。これらは主に再来の診療・相談件数であり、新規来所件数は350件と前年度より58件増加している。そのうち診療・相談を目的とするものが21件、乳幼児健康診査(公費)の件数が37件であり、むしろ初めて受診する人は増えているといえる。

「小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳」(表2)では、前年度には東京都内の利用者が210人に減っていたが、本年度は286人に回復し、特に近隣の渋谷区・世田谷区が増えている。これは公費の健康診査件数の増加と関係しているだろう。「小児保健クリニック新規来所者の年齢内訳」(表3)でも、0～3歳が106人から164人に増え、乳幼児の受診が大幅に増加している。本年度、「赤ちゃんサロン」の参加者が親子合わせて999人の増加をみたことなどとも関連し、乳幼児の子育て支援施設としての知名度が大幅にあがってきたということができるだろう。

「新規来所者の診療・相談の内容別内訳」(表4)では、発達についての相談が多く、この総数は変わらない。しかしここ数年多かった学習障害・注意欠陥多動性障害の主訴で来所する人数は減少傾向(25人→20人)にある。

情緒・行動面の相談は、数としては大きな変動はない。前年度と同様、ひとり親家庭・再婚家庭の増加など、家族関係が複雑化していることが感じられる。また、情緒障害・情緒不安定のなかには、経済的には安定していても、親子の間で温かい情緒的な関係が持てず、子どもが厳しく不安定な状況におかれているケースがみられる。3番目に身体的・心身症的な相談があるが、この相談件数の順番は変わらない。

【小児保健クリニック月別診療・相談件数(初診・再診内訳)】(表1)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療		89	77	74	101	69	111	106	76	101	95	80	110	1,089
健康診査(公費)		10	8	10	15	13	11	7	14	5	9	9	11	122
健康診断(自費)		2	0	8	1	0	2	0	1	0	4	5	1	24
育児・健康相談		1	1	2	2	0	0	1	0	0	1	0	0	8
心理・発達相談		115	107	110	111	83	102	93	122	109	93	113	115	1,273
ダウン症療育相談		8	6	4	8	7	8	9	4	4	8	7	5	78
合計		225	199	208	238	172	234	216	217	219	210	214	242	2,594
内訳	初診(新規)	31	23	43	47	33	25	28	24	18	29	22	27	350
	再診	194	176	165	191	139	209	188	193	201	181	192	215	2,244

【小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳】(表2)

居住地域	渋谷区	世田谷区	港区	杉並区	大田区	その他の23区	市郡部	計	神奈川県	埼玉県	千葉県	その他	計	合計
人	88	34	16	13	13	102	20	286	28	18	14	4	64	350
(%)	(25.1)	(9.7)	(4.6)	(3.7)	(3.7)	(29.1)	(5.8)	(81.7)	(8.0)	(5.1)	(4.0)	(1.2)	(18.3)	(100)

【小児保健クリニック新規来所者の年齢内訳】(表3)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12~17歳	18歳以上	合計
人	59	51	25	29	26	20	22	22	24	20	17	12	17	6	350
(%)	(16.9)	(14.6)	(7.1)	(8.3)	(7.4)	(5.7)	(6.3)	(6.3)	(6.9)	(5.7)	(4.9)	(3.4)	(4.9)	(1.6)	(100)

【新規来所者の診療・相談内容別内訳】（表4）

内容		件（%）
発達の相談（疑いも含む）	精神遅滞	29（ 8.3）
	学習障害・注意欠陥多動性障害	20（ 5.7）
	言語発達遅滞	19（ 5.4）
	自閉症・自閉的傾向（広汎性発達障害）	13（ 3.7）
	ダウン症、その他先天異常	10（ 2.9）
	小　計	91（26.0）
情緒・行動面の相談	情緒障害・情緒不安	47（13.4）
	不登園・不登校	11（ 3.2）
	神経症（強迫神経症・恐怖症など）	5（ 1.4）
	集団不適応	5（ 1.4）
	育児不安	3（ 0.9）
	小　計	71（20.3）
身体的・心身症的な相談	肥満（心理的な問題を含む）	39（11.1）
	身体疾患（低身長・アレルギー疾患など）	16（ 4.6）
	夜尿症・遺ふん・頻尿など	8（ 2.3）
	心身症（脱毛・チック・吃音など）	7（ 2.0）
	小　計	70（20.0）
合　計		232（66.3）
健診	乳幼児健康診査（公費）	91（26.0）
	健康診断（自費）	27（ 7.7）
合　計		118（33.7）
総　計		350（100）

本年度の特徴は、肥満（心理的な問題を含む）が再び増加（25人→39人）していることである。これはすでに述べたように、肥満を含む生活習慣病対策に再び注目が集まっているからであろう。

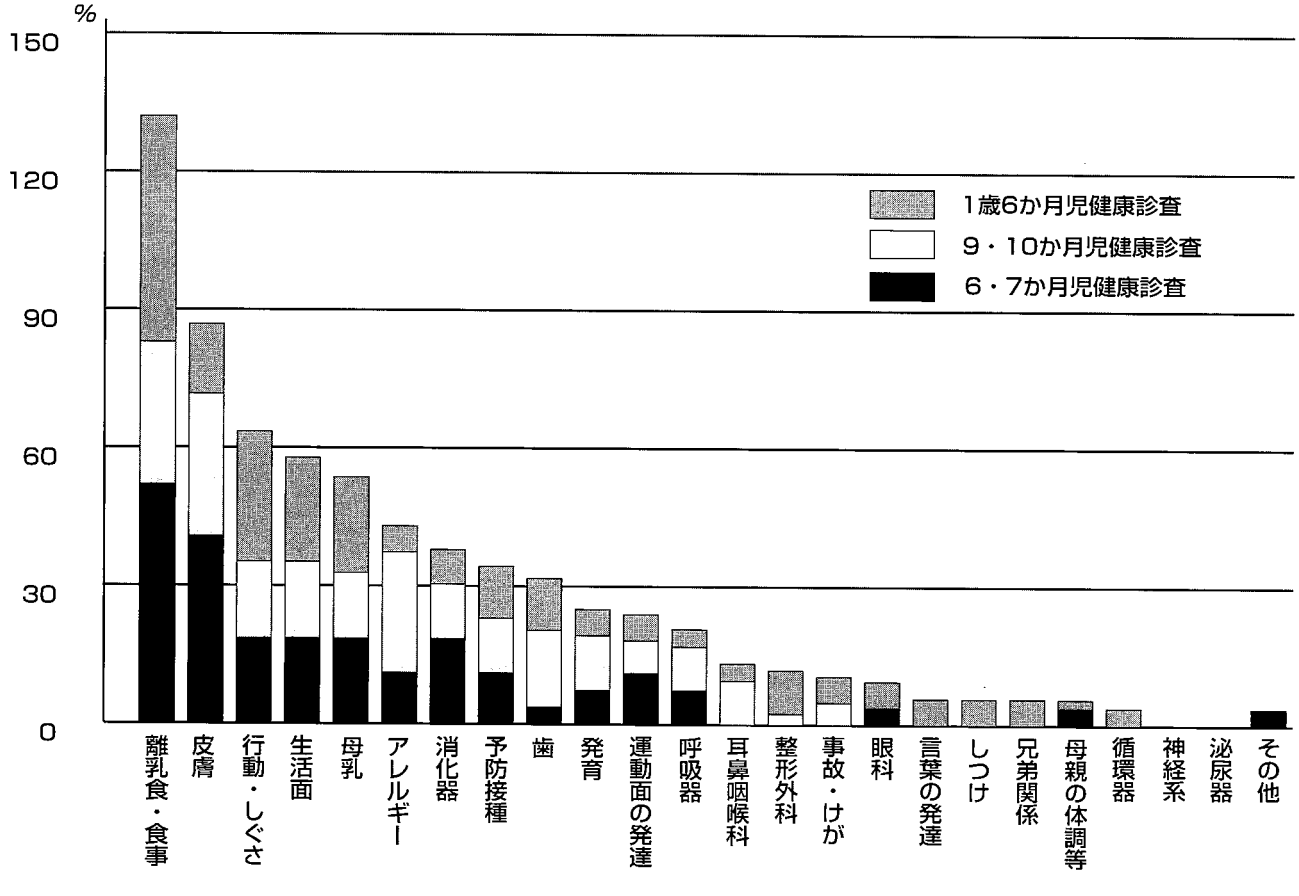
（イ）乳幼児健康診査から

【受診者の動向】

小児保健クリニックでは、「6・7か月」「9・10か月」「1歳6か月」児の乳幼児健康診査（以降健診と略す）を実施している。「1歳6か月児健診」は渋谷区民のみが対象である。公費で行われるため健康診査受診票を持参すれば無料である。診療時間は30分で、子どもの健康チェックはもとより、親の子育ての悩み・気がかりについてアドバイスしている。

本年度の受診者数は「6・7か月児健診」27人、「9・10か月児健診」42人、「1歳6か月児健診」53人の計122人で、前年度の81人の約1.5倍であり、平成15年度以前の数にもどっている。前年度より増加したのは、「健診票とともに配布される医療機関リストを見て」「赤ちゃんサロンで知ったから」「前回も健診を受けたから」が多かったことによる。特に渋谷区民だけの受診になる「1歳6か月児健診」では、「保健所の医療機関リスト」が著明に増えていた。その理由として、区内に小児科医院が少ないことや前

【乳幼児健康診査相談内容】（図1）



述したように〔こどもの城〕の知名度があがったことなどが考えられるだろう。

「6・7か月」「9・10か月」児健診の受診者の居住地は、渋谷区が50～60％を占めていて、これは毎年変わらない。その他は世田谷区・杉並区などの近隣が多い。

父親の年齢は34.7～37.5歳、母親は31.9～34.3歳とやはり高めであり、世相を反映しているといえる。また、就労中の母親（育休中を含む）は約20～37％であった。

【保健師からみた最近の子育て事情】

○子育ての心配はつきない

本年度の「乳幼児健康診査相談内容」を図1に示した。集計を始めた平成14年度から、常に相談件数の1・2位を占めているのが、皮膚と離乳食・食事である。本年度は1・2位が逆転して、離乳食・食事の相談件数が最も多くなった。相談内容は、小食、ムラ食い、好き嫌いが相変わらず多い。

最近増えているのがアレルギー（食物）の相談である。例えば、7か月児の場合、湿疹がみられるので親の判断で卵を控えているというのがあった。父が花粉症、母がアトピーのためそのように判断をしたようだ。6か月から湿疹が続いている10か月児の場合、他院で1歳まで卵を控えるように言われたが、近々入園する保育所で食物アレルギーを起こさないか心配という相談もあった。また1歳6か月児では、ミルクや卵を食べたら口の周りに湿疹が出たがアレルギーではないかという質問もあった。

アレルギーについてはいろいろな考えがあるので、さまざまな情報がとびかい、このように親が漠然とした不安を感じるのも当然のことといえる。特に食物アレルギーは、1日3回の食事と密接に関係しているだけに気になるところである。当クリニックでは、できるだけ親の話を聞き、情報を整理して親が必要以上に気をもまないよう努めていきたいと思っている。



親子のほっとタイム

乳幼児健康診査（本文とは関係ありません）



2番目に多かったのが、皮膚の相談である。湿疹、かさかさ、かぶれなどで、これらはアトピーではないかという疑いや不安によるものが多かった。赤ちゃんの皮膚は薄いので乾燥しやすく、拭いたり擦ったりなどの刺激にも弱いから、少々の皮膚のトラブルはしかたがない。このような乳児の皮膚の特徴と具体的な日常のスキンケアについて話すことで、少しでも安心してもらえるようかかわっていきたい。

行動・しぐさの相談で目に付くのが指しゃぶりで、止めさせた方がいいのではないかというものであった。

○赤ちゃんのさらなる発達を願う？母親たち

10か月児の母親の質問を紹介したい。「お座りはできるが変な癖はないか。いつになったら補助しなくていいのか」「いないいないばーを分かってきたが、叱ったことを覚えているかわからない。さらに記憶力を身につけさせる練習は？」「指2本で小さい物をつかめるようになったがもっと器用にさせる練習は？」「つたい歩きを始めたが能力をあげるおもちゃはある？」など。このように0歳の段階から既に子どもの能力の向上を思う母親たちもいるようだ。



季節の離乳食

「ここまでハイハイしたね。すごい、すごい！」という単純明快な喜びだけでは、満足できないのだろうか。親子の情緒的な関係が育つ時期だからこそ、子どもの発達のペースに合わせて、ゆっくりかかわっていってほしいと感じている。子どもの成長は自然に営まれていくのだから、強いることなくあくまで見守るという姿勢が大切といえるだろう。

○母親が考えて決断していい場合もたくさんあるはず

「1歳6か月児健診」では、卒乳について「そろそろやめたいのだけど」「夜だけがどうしてもやめられない」という相談がみられる。以前、母乳は1歳ごろまでにやめようという指導がされていたが、今では子どもの様子をみながら判断していけばいいという、緩やかな方向に変わってきている。そのため、おっぱいから離れる時期が自然に来るから大丈夫、と周りから言われる機会が増えているようだが、やはり卒乳の時期を決めるのは母親になるだろう。

卒乳を考えたら生活の中で工夫をこらしながら行動していってほしい。泣いたから仕方なくあげるのではなく、泣かせたくないからあげるのではなく、親の一貫性をもった態度も重要なことに気づいてもらいたいと思う。

○子育てへの迷い・不安を軽減するために

健診の役割は、と考えてみる。あふれる子育ての情報で少し迷っている母親の不安を整理し、解決へ導くようサポートすることがその役割になってくるだろう。

親が主体的に考え行動できる自信を、さらに持ってもらえればと思う。今の赤ちゃんの発達や状況をきちんと知れば、「何だ、そうなんだ」と安堵し、おそらく不安の半分以上は軽減されると思われる。

また、親たちが多くの赤ちゃんと親たちに接する機会があれば悩みを共有する機会も増える。そのため、必要と感じたら、親子の集まりである「赤ちゃんサロン」「季節の離乳食」「親子のほっとタイム」を紹介している。今の子育てを楽しめるよう、この健診で少しでも働きかけていきたい。

4. まとめ

本年度は第35回で終了とした「小児肥満の指導者講習会」について紹介した。この講習会は終わったが、実際には、子どもの生活習慣病予防に対しては関心が高まっており、肥満を主訴に外来を受診される方は増えている。今後も子どもの生活と健康を守るための啓発活動をなんらかの形で続けていきたい

本年度の受診統計では、全体の総受診件数は減ったものの、新規の来所件数とくに乳幼児健康診査の利用や、乳幼児関連の講座等の参加者が多いことが特徴的だった。そこで、当クリニックの乳幼児健康診査からみえてくる最近の子育て事情について詳しくとりあげた。子育て支援の活動についても、子どもの健康な成長・発達に必要なかかわりや保護者への援助のあり方を常に模索しつつ取り組んでいきたい。

平成17年度活動一覧表

1．一般利用

〈平常期間〉

名　称	日　時	内　容
小児保健クリニック （診療・相談） 小児科診療 育児・健康相談 乳幼児健康診査 健康診断 栄養相談 心理相談 発達相談 ※専門相談 ダウン症療育相談	月曜日を除く毎日 9:30～17:00 木曜日・金曜日（各月1回）	診療・相談は予約制。小児科医師・保健師・看護師・管理栄養士・臨床心理士が診療・相談にあたる（週2回小児精神科・月1回小児耳鼻科を含む）。 小児科医師の診療には、原則として健康保険が適用される。乳幼児健康診査は、東京都乳幼児健診委託機関のため受診票で受けられる。 育児・健康相談は相談料1回5,000円。心理・発達相談は担当者1人の場合1回50分5,000円、医師の診察を受けずに直接相談に入る場合、初回のみ7,000円、専門相談のダウン症療育相談は、相談料8,000円。 専門医師が担当。
赤ちゃんサロン	火曜日（年18回） 12:30～14:00	対象は3～18か月の乳幼児とその保護者、妊婦。参加者同士の自由な交流（井戸端会議）の場で、赤ちゃん同士がふれあったりする場である。小児科医師・保健師・管理栄養士・臨床心理士が加わり子育て相談を行う。本年度は延べ3,365人が参加した。入館券対応。（音楽ロビー）
第20回マタニティ・コンサート	7.3　15:00～17:00	妊娠中に、楽しくリラックスできるひとときをすごしてもらい、出産を迎えようという主旨のコンサート。ピアノデュオ Duetwo の木内佳苗さんと大嶋有加里さんの演奏、絵本のスライド上映と朗読とのコラボレーションを行った。このほか、野末源一山王病院産婦人科医師と巷野悟郎こどもの城小児保健クリニック医師の話、体育事業部スタッフによるリラックス体操などを行った。公募、無料招待。241人参加。劇場事業部との共同事業。（青山円形劇場）

〈特別期間〉

名　称	日　時	内　容
〈開館記念〉 第12回 赤ちゃん大集合 ～赤ちゃんサロンスペシャル～	11.1　10:30～15:30	対象は3か月から2歳未満の乳幼児と保護者。小児保健部は9階研修室の「赤ちゃんサロンスペシャル」会場で「小児科医師の話」や「井戸端会議」「子育て相談」を行う。また8階で育児用品関係業者・団体による「情報・展示コーナー」を開催。他の事業部もそれぞれ「親子ふれあい遊び」「にこにこパーク」「にこにこ広場スペシャル」「うたってバブりん・おどってバブりん」「子育てビデオ特集」「すくすく体操」などを実施した。参加者は788人（386組）。全館行事として実施。（研修室ほか）

2．講座・クラブなど

〈講座〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
健康スポーツ教室 〈太りすぎクラス〉 第22期	（組） 太りすぎの 小学生とその親（20）	（組） ① 20 ② 19 ③ 19	土曜日 14:00～17:00	太りすぎの改善のために医学指導（東京女子医科大学東医療センター医師）・栄養指導（和洋女子大学ほか）・体育指導（体育スタッフ。水泳と体育を交互に）を行う。保護者向けレクチャー（医学、食事、運動の年3回）、親子で屋外活動（サイクリング、フィールド・アスレチック、〔こどもの城〕からお台場までウオーキングの年3回）、朝霧高原で夏合宿（8.10～12）なども実施。体育事業部との共同事業。 受講料1・2期（各12回）各22,000円、3期（9回）18,000円。 （小児保健クリニック／体育室／プールほか）

〈クラブ〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
マタニティ・スイミング	（人） 妊娠16週以降の妊婦 （35）	（人） 4月25 5月21 6月22 7月24 8月22 9月25 10月24 11月19 12月17 1月 9 2月 8 3月11 （計227）	火・木曜日 （月7回／4月は6回） 11:00～12:00 ※夏休み特別期間中 （7月21日～8月31日 は10:30～11:30）	妊娠中、心身ともに健康に過ごすことを目的として水泳を行っている。母になる人の友だち作りにも役立ち、妊娠期からの子育て支援の意味も大きい。水泳前後の検診は、日本赤十字社医療センター産科医師、助産師と小児保健スタッフが担当。年4回レクチャーも実施。体育事業部との共同事業。 入会金10,000円、月謝12,000円。（プール）

〈短期講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
季節の離乳食	（組） 5～15か月の乳児とその親（10）	（組） 5月12 7月13 9月11 11月13 1月15 3月13	金曜日（隔月） 13:30～14:30	離乳食の作り方・与え方に悩む母親たちに、実際に調理した食材などを見せながら、ちょっとした工夫でできる調理法などを紹介。互いに疑問点を質問し合い、話し合う母親同士の交流も大切な要素になっている。受講料1回2,000円。 （小児保健部プレイルーム）
親子のほっとタイム	3～18か月の乳児とその親（10）	6月3日 9 17日 7 7月1日 9 9月30日 7 10月14日12 28日13 H18年 2月3日12 17日10 3月3日 8	金曜日 13:30～14:30	「健康管理」「食生活」「心とからだの発達」の3つのテーマを各3回。親同士の輪に小児保健部のスタッフが加わり、子育ての疑問や悩みなど話し合う。話を聞いて正しい情報を知ることで、不安を解消し子育ての自信をつけてもらうことが目的。受講料1回2,000円。（小児保健部プレイルーム）
こども1日ドック	小・中学生 （10）	7	7.27 12:00～17:00	対象は小・中学生。医学と体育の両面からの総合健康診断。小児科医師による診察、尿検査、血圧測定、身体計測、生活習慣調査、食生活調査、性格テスト、体力測定の結果に基づいて診断・指導を行う。料金10,000円。 （小児保健クリニック／健康開発室）

〈専門指導者向け講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
第20回小児保健セミナー「気になる親へのかかわり方～上手な話の聴き方・伝え方～」	（人） 保育士・児童厚生員・保健師・看護師・養護教諭など子育て支援の専門家 （100）	（人） 113	12.3 10:00～17:00	親（家族）の心の問題をどうとらえればいいのか、また現場での実際の対応にはどのように気をつけたらよいのかを学び、さらに私たち自身の言葉の話し方をみがくという内容だった。「親の心の問題への対応」（春日武彦東京都立墨東病院精神科医師）のほか、「現場での対応」（西田知佳子聖路加国際病院ソーシャルワーカー）、「言葉・わかりやすい伝え方」（岡部晃彦ＮＨＫ放送研修センター・日本語センターエグゼクティブアナウンサー）の3氏の講演を行った。受講料7,000円。 （研修室）

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
	（人）	（人）		
子育て支援講習会（第5回／第6回）「最新の小児保健の基礎と実際～0.1.2歳児の心とからだの健康～」	保育士、栄養士、看護師、保健師、など（50）	46 86	6.24・25（第5回）10:00～16:00 H18.2.10（第6回）10:00～17:00	子育て支援の活動にたずさわる現場の職員の研修会。「最近の子育ての問題点」のほか、「健康管理や応急処置」「離乳食や食生活一般」「気になる子どもの理解とその対応」などの講義、「子育て支援の方法と実際」の説明や質疑応答による情報交換の時間を持った。講師は小児保健部スタッフ。保育所、児童館、保健センターなど全国各地から中堅の職員が多数参加。第5回（2日間）は受講料13,000円、第6回（1日）は受講料7,000円。第6回は定員の2倍以上の申し込みがあった。（研修室）
小児肥満のための指導者講習会（第35回）	栄養士、養護教諭、保健師、保育士、医師など（50）	52	H18.3.10・11 10:00～17:00	2日間コース。全国から肥満児の指導について学習したい栄養士・養護教諭らが集まった。「子どもの成長のみかた 肥満の判定と指導―小児医学の立場から」（村田光範和洋女子大学院教授）、「太りすぎ予防のための食育と食事のあり方―栄養学の立場から」（坂本元子和洋女子大学教授）、「子どもの運動指導の実際・実技紹介―運動の立場から」（羽崎泰男こどもの城企画研修部長）、「子どもの心の健康 太りすぎの子どもの事例から―心理学の立場から」（井口由子こどもの城小児保健部長）。最後に、情報交換、健康スポーツ教室の体育指導の見学を行った。受講料18,000円。（研修室／体育室）

3. その他

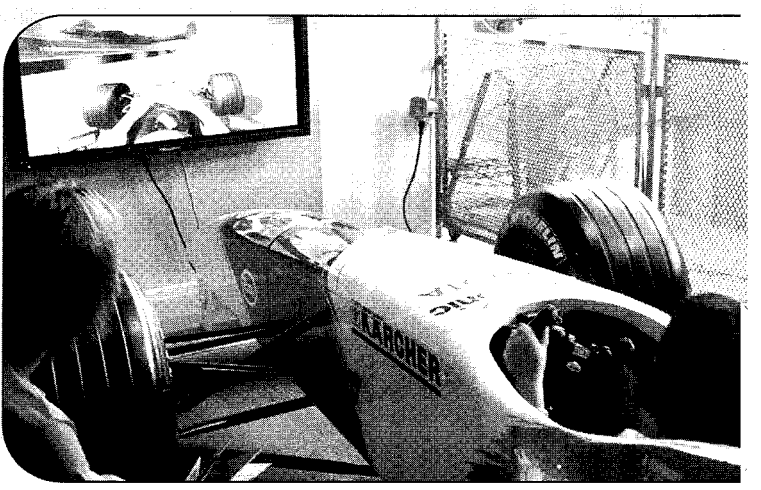
〈動くこどもの城〉

名　称	日　時	内　容
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	6.21	親子向けの体育プログラムに臨床心理士が同行。「赤ちゃんサロン」のように、親同士の交流の場に援助者が加わって相談ができるようにする方法を実際に行った。発達などについて親向けのトークを行った。午後は職員向けに乳児を持つ親子への子育て支援の方法について研修会を実施した。（青森県黒石市黒石公民館）
〃	6.22	〃（青森県つがる市生涯学習交流センター「松の館」）
中越地震アフターケア	7.15	〈動くこどもの城〉音楽プログラムに臨床心理士が同行、乳幼児の親の子育て相談などを行った。（新潟県長岡市リリックホール）
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	9.30	親子向けの体育プログラムに臨床心理士が同行。「赤ちゃんサロン」のように、親同士の交流の場に援助者が加わって相談ができるようにする方法を実際に行った。発達などについて親向けのトークを行った。午後は研修会を行い、地域の広場型子育てサロンの実情・悩みを一緒に話し合った。（埼玉県北本市市民交流プラザ）
中越地震アフターケア	10.7	〈動くこどもの城〉音楽プログラムに臨床心理士が同行、子育て相談や保育所職員との被災体験の話し合いなどを行った。（新潟県長岡市みずほ保育園、子育てセンター、中之島保育所）
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	10.24	親子向けの体育プログラムに管理栄養士が同行。乳児の離乳食の作り方与え方などについてトークを行った。午後は、職員向けに研修会。（兵庫県宝塚市東公民館）
〃	H18.3.11	親子向けの体育プログラムに臨床心理士が同行。子どもの発達などについて親向けの話をした。午後は、子育て支援のあり方について、地域の職員向けに研修会を実施した。（島根県益田市子育て支援センター）

〈講師派遣など〉

名　称	日　時	内　容
渋谷区保健所幡ヶ谷保健相談所「両親学級」	5.21	初産の妊婦とそのパートナーを対象に、妊婦の心がけや出産後の子育てについて看護師が講演。（東京都渋谷区幡ヶ谷保健相談所）
藤沢市教育委員会相談指導教室研修会	6.23、7.21、9.22、11.24	不登校の児童・生徒の相談・指導にあたっている教職員の研修会に、定期的に臨床心理士が出向いて助言・指導を行った。（神奈川県藤沢市教育委員会相談指導教室）
富山県母子保健推進員連絡協議会研修会「親と子の関係性と子育て支援～子どもの心身の発達」	7.14	母子保健推進員対象に、親子関係と子どもの心の発達について、臨床心理士が講演した。（富山県サンシップとやま）
(社) キリスト教保育連盟夏期講習会「生きる喜び～子どもが・保育者が・保護者が」	7.28	幼稚園・保育所・養成校の管理者・保育士・教師を対象に、子どもの成長・発達と保育者のかかわりなどについて臨床心理士が講演。（京都府京都ホテルオークラ）
産業経済新聞社「子育てはたのし…子育てナウトークセミナー」	10.10	0歳からはぐくむ親子のきずなについて、乳幼児にかかわる人を対象に臨床心理士が講演。（東京都児童会館）
富山県児童館連絡協議会「児童の発達理論」	10.14	子どもの発達について、児童厚生員の研修会で臨床心理士が講演。（富山県民共生センター サンフォルテ）
(財) 児童健全育成推進財団研修会「気がかりな子どもたちへの対応～軽度発達障害の理解」	10.27	中堅児童厚生員を対象に、軽度発達障害の基礎知識を対応のしかたについて臨床心理士が講演した。（東京都国立オリンピック記念青少年総合センター）
宮崎県児童館連絡協議会「いま・こどもたちは～発達障害児の理解と支援について」	11.15	児童厚生員と対象に、発達障害についての理解と対応について、臨床心理士が講演。（宮崎県ホテルプラザ宮崎）
(社福) 日本保育協会保育所保育・保健推進セミナー「食育の問題」	H18.3.12、19	保育所職員の保健についての研修会で、「食育」の分科会の助言者として管理栄養士が参加。（12日＝東京都日本薬学会長井記念ホール、19日＝大阪府大阪国際交流センター）

企画研修部



平成17年度の活動

1. はじめに

本年度も、「企画部門」と「研修部門」の2部門の事業と〔こどもの城〕事業全体のとりまとめを行った。

企画部門では、「こども活動エリア」での一般来館児・者を対象とした事業、グループ活動、野外活動などの企画調整、業務部総合案内課とともに「こどもの城友の会」の運営、ギャラリーや研修室を使用した外部関連団体との協力事業などを実施している。また、国庫補助事業〈動くこどもの城〉の事務局、全国の児童館などの情報の収集、ホームページの運営のほか、独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金の助成を受けた全国レベルでの子育て支援に関するモデル事業、(財)こども未来財団の委託を受けた子育て支援に関する研修会を実施した。(「こどもの城から全国へ」＝143ページ＝の項参照)。

研修部門では、ボランティアの養成と日常活動のコーディネートのほかに、夏休み・春休み特別期間の野外活動、高校生の社会参加を目的としたグループ活動（L. I. T.)、児童厚生員などを対象とした実技指導講習会などの企画運営にあたった。

2. 事業全体のとりまとめ

企画部門での中心的な業務は、劇場事業本部を含めた複数の事業部にわたる事業調整にある。この事業調整の基本になるのが、「事業計画書」および「事業報告書」のとりまとめ、事業内容をまとめた小冊子『こどもの城事業と運営』の年次改訂、特別期間ごとの事業計画のとりまとめ、日常的なものでは週間事業予定表や週末や特別期間の館内掲示用事業予定“デイリー版”の作成などである。

変更の見落としや場所の調整など、細心の注意を払うことはもちろん、単に従来の形式を踏襲するだけでなく、冊子や案内の内容が利用者の立場にたち、分かりやすく、使いやすいものであるように改良をしていきたい。

（ア）来館児・者を増やすために

年間をとおした小学校開校記念日の全児童招待（渋谷・港の2区）を本年度も継続して実施した。春休み特別期間の新1年生招待（渋谷・港・目黒・世田谷の4区）は、経費削減のため、実施を見合わせた。

開校記念日の招待券回収率は、渋谷区が6. 8％（前年度8. 7％)、港区が7. 0％（昨年度6. 4％）だった。地元とのかかわりを持ち続けていくためにも、開校記念日招待は次年度も継続したい。

児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間に渋谷・港の2区の公立小学校に全児童分のちらし約10,000枚を送付。夏休み特別期間には、23区と三鷹・武蔵野市の小学校、幼稚園、保育所、児童館にちらし(合計約52, 000枚)を送付した。なお、冬休み特別期間以降は、経費削減のためちらしの発送を中止した。

優待パスなどの利用は、平日の大人用「平日ゆうゆうパス」357枚（前年度186枚)、「小中学生土曜日パス」は50枚（前年度42枚）とやや増加した。夏休みフリーパスの子ども用「ドキドキパス」118枚（前年度150枚)、おとな用「わくわくパス」106枚（前年度128枚）で、前年度より若干の減少であった。

（イ）グループ活動

受け入れ件数は、206団体3, 443人。本年度も件数、利

用者ともに過去最高となった。数字的には満足するものだが、特定利用層への偏り、年度末への集中などの問題点は本年度も残された。

（ウ）〈動くこどもの城〉

※「こどもの城から全国へ」（151～159ページ）参照。

（エ）こどもの城友の会

「こどもの城友の会」は、家族単位で入会してもらい、〔こどもの城〕の施設を積極的に利用し、さまざまな催しに参加してもらう会員組織で、本年度も別表のように一般の催しへの優待や友の会独自の催しを行ってきた。

会員のための会報「こどもの城友の会通信」を年12回発行し、7月で通巻100号となった。毎回、会員から「最新情報が得られてうれしい」「小学生の子どもたちと情報を見て興味のあるイベントを見つけ、目的を持って城に行く」など好意的な意見が寄せられている。「こどもの城ニュース」（年11回）、講座募集や催しの案内なども、会員あてに毎月1回発送した。

年度末での会員数は、1,236家族（前年度1,227家族）で、若干ながら増加がみられた。劇場事業部との連携で、劇場招待・優待を頻繁に行うほか、外部協力による映画試写会などの友の会特別招待イベントも増え、キャンペーン効果をあげている。

開館20周年の秋まつりイベント「ドルッチャタウン」では、店舗の一つ「昔ばなしハウス」を友の会会員家族とスタッフで運営した。当日参加できない会員からは、装飾用の絵を描いて送ってもらい、さまざまな形で会員がかかわれるように工夫した。

（オ）〔こどもの城〕ホームページ

本年度の総閲覧ページ数は4,744,805ページ（前年度比1.39倍）であり、年々利用も増え、案内媒体としての重要性も増してきている。次年度からは外部向け広報の統一を図るため広報部で所管とすることになった。

【「こどもの城友の会」の活動】

プログラム名	日　時	内　容
催し招待	6.4	外苑前・テピアプラザで実施の『でんじろう先生のおもしろ科学実験ショー』に、友の会優先枠を設け招待。協力：TEPIA。
〃	6.18・19	『オーストラリア絵本展 南半球からのメッセージ』の一環で実施したオーストラリア絵本作家とのワークショップへの申し込み優先。36組の申し込みがあった。
特別試写会招待	7.13	映画『ロボッツ』試写会を六本木の20世紀フォックス映画会社試写室で実施。54席。協力：20世紀フォックス映画会社。
催し招待	8.12・16	APASパントマイムほかのワークショップに優待。参加費1割引。
〃	8.9・10・11・13	「キンダーフィルムフェスティバル」ソワレの長編作品上映に、各日5組招待。
「山中湖ファミリーキャンプ」優先受付	9.17～19	「山中湖ファミリーキャンプ」申し込みに際し、友の会を優先。33組の申し込みがあった。
特別試写会招待	10.1	映画『ミリオンズ』特別試写会（銀座ヤマハホール）に30席の提供をうける。協力：アスミックエース
〃	12.9	映画『チキン・リトル』特別試写会をブエナビスタ試写室で実施。定員50席。協力：ブエナビスタ インターナショナル（ジャパン）、新通。
催し招待	H18.2.11	外苑前・テピアプラザで行われた『古田貴之先生によるロボット解体ライブ』に、友の会優先枠を設け招待。協力：TEPIA。
劇場公演などに招待・優待	通年	以下の公演に抽選で招待。（青山＝青山劇場／円形＝青山円形劇場） こどもフェスティバル（円形）／月猫えほん音楽会2005（円形）／DANCE★NOEL 2005 クリスマスの贈物（青山）
		そのほか、自主公演の料金割引などの優待を以下のように行った。 少年隊PLAYZONE（青山・優先予約）／VICTORIA（円形）／青山太鼓見聞録（青山）／とびこむ絵本『くるくるグリムのおかしな家』（円形）／青山・パフォーミング・アーツ・セミナー2006 コメディア・デラルテ（Bリハーサル室）／演劇ワークショップ『meet your clowns』（研修室）

（カ）特別期間などに実施した事業

特別期間などには、ギャラリーや青山円形劇場などを使って、外部関連団体との提携事業などを積極的に行った。

3. ボランティアの活動と養成

〔こどもの城〕には、施設内でスタッフとともに、子どもの健全育成活動を行う「こどもの城ボランティア」がいる（登録制）。このボランティアを養成し、活動に参画してもらうことも大切な事業の一つである。

〔こどもの城〕のボランティアとして、活動を希望する人に対し、年3回の講習会を実施している。講習会は対象別に2種類。大学生と社会人を対象とした「ボランティア講習会」（年2回）と、主に平日昼間に参加しやすい女性を対象とした「女性ボランティア講習会」（年1回）である。本年度は、女性ボランティアの活動を見直すため、「女性ボランティア講習会」を中止にした。

「ボランティア講習会」を修了した47人が新規登録した。前年度からの継続者を含め、年度末までの登録人数は、青年ボランティアが269人、女性ボランティアが100人、合計369人となった。

これら登録ボランティアは、毎月延べ500～700人余りが、さまざまな活動を行っている。

（ア）ボランティアの活動

児童福祉週間（ゴールデンウイーク）、夏休み、開館記念ファミリーウイーク、冬休み、春休みなどの特別期間に、3～7日の連続した日程で行う活動を“特別期間活動”と呼んでいる。主にプレイ事業部、企画研修部スタッフとともに、約2か月前から数人のボランティアがプロジェクトチームを編成し、企画、準備、実践までのすべてのプロセスにかかわった。

本年度は、主に学生のボランティアが中心になって活動した。若い世代のボランティアのユニークな発想と行動力が生かされる活動となった。



時空の旅人～タイムン・トラベルン～

【時空の旅人～タイムン・トラベルン～】

年間をとおして、いちばん来館児・者の多い児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間に、プレイ事業部と共同で企画、準備、実施した。本年度は2月から企画会議を行い、5人のボランティアを中心に実施に向けて準備を行った。カードを媒介として子どもたちの仲間作りを促進させることを目的として実施した。

□準備日程とボランティア参加人数□

2月23日＝第1回ミーティング

3月4日～4月28日＝計12回の準備活動を行う（延べ144人参加）

4月29・30日、5月1、3～5日＝プログラム実施（延べ94人参加）

【マックのおはなし広場】

年間をとおして、土・日曜日に活動している「パネルシアター」と「青年人形劇」のグループが共同で企画、準備、運営を行った。〔こどもの城〕のオリジナルキャラクター、マック・マックローの誕生日が5月5日であるため、それにちなんだ人形劇などを実施した。

□準備日程とボランティア参加人数□

1月15日＝第1回ミーティング

2月6日～5月2日＝計3回の打ち合わせ、準備活動（延べ20人参加）

5月3～5日＝プログラム実施（延べ30人参加）

【ウオーターアドベンチャー2005　宝探しの大航海】

夏休み特別期間プログラムとしてプレイ事業部と共同で企画、準備、運営。5月16日に第1回のミーティングを行い、4人のボランティアが中心になって準備を進めた。講習会を終えたばかりの第52期ボランティアを中心に計画を進めることとなった。

□準備日程とボランティア参加人数□

5月21日＝第1回ミーティング

6月9日～8月12日＝29回の準備活動（延べ231人参加）

8月13～17日＝プログラム実施（延べ80人参加）

【ドルッチャランド／マジックアワーパーティー】

〔こどもの城〕開館20周年を記念し、全館あげて行ったイベント。“ドルッチャ”はチャイルドを逆から読んでもじったもの。ボランティアは、体育室での「ぽけっとスティッキー」の企画・準備・運営を中心に、「バブバブベビータウン」ほか、各種遊びの店の運営サポート。また期間中に行われた「マジックアワーパーティー（夜祭）」では、ふしぎが丘に食べ物と遊びの屋台を設置。10店の遊びの屋台のうち3店をボランティアが主催し、総動員で他の店のサポートを行った。

新春あそびのお年玉～遊んで笑って福あつめ～



□準備日程とボランティア参加人数□
7月12日＝第1回ミーティング
7月29日～8月25日＝5回の準備活動（延べ47人参加）
8月26～28日＝ドルッチャランド実施
8月27日＝マジックアワーパーティー実施（延べ62人参加）

【あそびのおもちゃ箱スペシャル】

〔こどもの城〕開館20周年を記念して、本年度はプレイ事業部と共同で実施。年間をとおして人形劇などの表現活動を中心に活動している「青年人形劇」「パネルシアター」「青年絵本」「女性絵本」「紙芝居」「影絵」「女性人形劇」「ひまわりさん」「みかんちゃんズ」の9つのグループが参加した。

プレイホールでは子どもたちが作った、紙コップ人形を使って、1日2回、『こぶとりじいさん』の参加劇をプレイ事業部スタッフが行った。フリーホールでの公演は毎回参加する子どもたちが少なく、この時期に実施することについて、再考する必要があると意見交換された。

□準備日程とボランティア参加人数□
7月9日＝第1回ミーティング
9月4日～10月28日＝7回の準備活動（延べ82人参加）
10月29・30日＝プログラム実施（延べ88人参加）

【ドルッチャタウン】

〔こどもの城〕開館20周年記念事業として、全館で行ったプログラム。子どもたち自身が来館する子どもたちに向けて遊びの店を提供する。講座・クラブに通う子どもたち400人がかかわり、館内さまざまな場所に35店舗が出店された。参加者は銀行からお金を受け取り、各店で使って参加するシステム。ボランティアは、働いて“ドルッチャ（お金）”をもらうことができる「ドルッチャお仕事案内所」のほか、各活動グループの企画、準備、運営を行った。

□準備日程とボランティア参加人数□
10月13日＝第1回ミーティング
10月18日～11月4日＝6回の準備活動（延べ43人参加）
11月5・6日＝プログラム実施（延べ73人参加）

【新春あそびのお年玉～遊んで笑って福あつめ～】

プレイ事業部と共同で企画、準備、実施した。11月から企画会議を行い、7人のボランティアのメンバーを中心に実施に向けて準備を行った。伝承遊びをモチーフに、その遊び方と楽しさを伝えると同時に、従来からある遊びをアレンジして、より多くの子どもたちが意欲的に取り組めるように配慮した。本年度は紙相撲をプログラムに取り入れ、江東区在住で、長く紙相撲を研究している村杉輝治さんの協力を得て行った。

□準備日程とボランティア参加人数□
10月26日＝第1回ミーティング
11月10日～12月27日＝16回の準備活動（延べ152人参加）
平成18年1月3～9日＝プログラム実施（延べ116人参加）

（イ）L．I．T．の活動

「L. I. T.」（Leader In Training）は、高校生の社会参加活動プログラム。前年度の9月から継続しているメンバーが8月まで。そして、9月から新しいメンバーで本年度の活動を行った。

例年「L. I. T.」の活動は、イベントプログラムのメイキングを中心にしてきた。プログラムを作る過程で、子どもの立場に立って物事を考え、子どもの遊びの本質や子どもと遊ぶことの喜びや意味に気付くこと、そして遊びという手段を用いて、自分たちがどれだけ子どもたちの健全な育ちにアプローチできるかが大切なポイントだった。さらに、準備過程をとおして、メンバーの相互関係の活性化をはかり、リーダーシップ、メンバーシップのあり方を考える機会ともした。

一連の体験学習をとおして、ボランティア活動の意義と喜びを感じることはある程度達成していったものの、次のような課題も同時に明確になってきた。

○毎年、同じ流れであるというマンネリ感から生まれる積極的姿勢の欠如。
○同時に、暗黙の規範やルールが生まれ、「L. I. T.」のグループ像、メンバー像が単一なものになり、それにそぐわないメンバーを排除する傾向にある。
○同じメンバーとかわらない活動をしていることで、互いがなれあいの関係になり、新しい人間関係を結んだり、新しい可能性を探したりする努力をしなくなってきている。
○ボランティア活動は、社会に開かれた活動であるにもかかわらず、自分たちの安定した人間関係、安心できる活動内容に逃げ込み、社会から閉ざされた活動になってしまっている。

○〔こどもの城〕の施設内容、プログラム内容を知り、ボランティアやスタッフとの緊密な人間関係を結ぶ機会にはなっているが、それだけでは、〔こどもの城〕のボランティアになるためのオリエンテーションになってしまう傾向にある。

今までの「L. I. T.」が、児童健全育成のテーマの一つでもある“子ども・遊び”にこだわりすぎて、多様な活動を生み出す機会を失っていた。特定のメンバーとの安定した活動は、彼らの居場所にはなったかもしれないが、自我を目覚めさせ、自己実現に向けて他者とのよりよいパートナーシップを結びながら、自律した個人として社会に飛び立っていく機会とはなりえなかったと考えられる。そこで、本年度の「L. I. T.」は、個々の居場所としての機能は果たしながらも、そこで自律した個を育てる機会となることを狙いとして次のような目標を掲げ実施した。

(1) 「L. I. T.」は高校生のボランティア活動であり、ボランティアの原則である“自発性と主体性”“社会性と連帯性”“無償性と無給性”“創造性と開拓性と先駆性”を忘れてはならない。また、ボランティア活動は多様であることも大事な要素である。多様な活動内容、多様な人材を生かして活動することが非常に大切である。それを実行するためには“パートナーシップ”がなによりも大切であることを忘れてはいけない。

(2) 行政が行う福祉サービスとボランティアが行う福祉サービスの違いは“一人ひとりの対象者にあわせた温かさを提供できる”ことである。そのためには、相手の気持ちを感じること、イマジネーションする感受性を訓練することが重要である。

(3) ボランティア活動は、“気づき”“学び”“成長”の場である、そのためには何よりも、学ぼうとする積極性と、あらゆる人、事柄から学び取る謙虚さである。

（ウ）野外活動

野外活動へのボランティアの参加は、単にキャンプへの同行にとどまらず、準備からキャンプ後のフィードバックまで一貫して活動にかかわり、長期間にわたる活動のなかで、それぞれが自分の位置を確認して主体的にかかわりを深めていくことになる。本年度は、「ジュニア・アウトドア・スクール」「ジュニア・スプリング・キャンプ」の2つのキャンプと、山中湖で行われた「ファミリーキャンプ」に参加した。

【ジュニア・アウトドア・スクール】

ボランティアから28人の応募があり、全員に参加してもらった。大学1・2年生のメンバーが12人と、若い世代が中心の組織となった。16人の社会人の内、13人は3回以上キャンプに参加した経験者で、こうした経験豊かな社

アティエル族と5つの力（L.I.T.）



会人ボランティアと、学生ボランティアが、それぞれの持ち味を生かしたキャンプ組織となった。男性9人、女性19人の計28人が参加した。

□活動の概要□

6月12日＝第1回リーダーミーティング（自己紹介、役割発表、トレーニングキャンプ打ち合わせ）

6月17～19日＝トレーニングキャンプ（野外活動技術習得ほか。千葉県大神保キャンプ場）

7月8日＝第2回リーダーミーティング（事前講習会の確認、準備活動打ち合わせ）

7月10日＝事前講習会（参加者の把握、班会議、保護者会、係会議の実施）

7月17日＝第3回リーダーミーティング（L. I. T. との準備活動、詳細な最終打ち合わせ）

7月31～8月6日＝ジュニア・アウトドア・スクール

10月5日＝第4回リーダーミーティング（全体フィードバック、異年齢集団を援助するリーダーのあり方を考えるワークショップを実施）

10月9日＝事後講習会（記録ビデオ上映会）

【ジュニア・スプリング・キャンプ】

ボランティアの関心が高く、毎年25人程度のボランティアが参加してくれている。しかし、多くのボランティアが参加して援助にあたることが、かえって子どもたちの自主自律のキャンプ作りを阻害している要因になっているのではと懸念され、今回は定員を18人と定め、上回ることが無いように調整をした。また、ボランティアの人数を必要最低限に絞ることで、ボランティア個々人が最大限に能力を発揮できる環境作りも考えた。L. I. T. 11人を含む、男性8人、女性21人の合計29人が参加した。

□活動の概要□

2月12日＝第1回リーダーミーティング（今後の準備日程、各係の打ち合わせほか）

2月24～26日＝リーダートレーニング（各プログラムに沿った知識・技術伝達／施設生活体験／本部組織運営体験。

新潟県国立妙高少年自然の家）
3月5日＝第2回リーダーミーティング（事前講習会の確認、L. I. T. のとらえ方、プログラム検討）
3月12日＝事前講習会（班会議、係会議、保護者会の打ち合わせ）
3月18日＝第3回リーダーミーティング（L. I. T. トレーニング、L. I. T. との共同準備、詳細な打ち合わせ）
3月27～31日＝ジュニア・スプリング・キャンプ
5月21日＝リーダーミーティング（全体フィードバック、全体でのグループ討議）

【山中湖ファミリーキャンプ】

“ファミリーキャンプ”は、参加者の年齢層が幅広いこと、家族という基礎集団が持つニーズが多様なことなどがその特性としてあげられる。したがって、キャンプのプログラム指導、生活支援にあたるボランティアには、野外活動にかんする十分な指導力と、幼児から大人までも含めた生活援助の技術が要求される。

こうした条件を加味し、「山中湖ファミリーキャンプ」のボランティアには、野外活動、生活支援のある程度の技術を持っていることを条件に募集した。結果的に10人のボランティアが応募をしてきた。他のキャンプと大きく違う点は、このメンバーの中に、女性ボランティアが含まれていたことだ。キャンプ未経験者ながら、対人関係作りの能力、料理などの生活指導には豊かな経験を生かし活躍してくれた。“ファミリーキャンプ”ならではのボランティアによる援助だったと考えられる。男子3人、女子7人の計10人が参加。

□活動の概要□
7月1、8、21日、8月7、15日、9月11日＝リーダーミーティング（計6回）
7月12・13日＝実地踏査
9月17～19日＝山中湖ファミリーキャンプ

この他、他事業部からの活動依頼を受けて、下記の野外活動に多くのボランティアが参加した。

チャレンジキャンプ（体育事業部）／ちびっこ冒険団（プレイ事業部）／フェローシップキャンプ（プレイ事業部）／ゆきんこ冒険団（プレイ事業部）／スキースクールパートⅡ（体育事業部）

（エ）ボランティアの養成

ボランティア活動を希望する人を対象とした講習会を以下のとおり行った。

【ボランティア講習会】

大学生以上（社会人を含む）の青年層を対象とした講習会を2回実施した。第52期講習会は5～6月に行い、26人が受講、登録した。第53期講習会は10～12月に行い、21人が受講、登録した。

第52期の登録者には、夏休み特別期間のプログラムの企画・運営に積極的に参加をうながし、中心的にたずさわってもらった。進行の方法などで課題は残ったものの、既存のボランティアと新規ボランティアがより多くかかわりを持つことができた。

第53期講習会は、前年度同様に時期を3か月早めて10～12月に実施した。開催時期を早めることで、講習会終了後の冬休み特別期間に実施するボランティアプログラムと、春休み特別期間に実施するキャンプへ積極的に参加してもらい、継続的で意欲的なボランティア活動につなげることをねらいとした。この取り組みにより、グループの核となるメンバーが生まれ、全体の活性化へとつながった。しかし、学生の試験時期にあたり、受講者数が定員に満たなかった。今後、講習会の実施時期について、講習会の運営とその後のボランティア活動への導入のバランスを配慮する必要があるだろう。

【ボランティアグレードアップ講習会】

例年実施している野外活動の技術講習を目的としたものを、6月と平成18年2月に実施した。

6月の講習会は、「ジュニア・アウトドア・スクール」の事前トレーニングと位置づけ、船橋県民の森キャンプ場（千葉県）で実施した。野外活動の技術の再確認とともに、キャンプ組織運営のシミュレーションも行った。「ジュニア・アウトドア・スクール」は実施地が遠方のため、現地でのリーダートレーニングは実施していない。しかし、今回使用したキャンプ場は実施地の環境に近く、初参加者にとって、実際のキャンプのイメージをつくりやすかったようだ。

2月は「ジュニア・スプリング・キャンプ」のための現地トレーニングをかねて、新潟県国立妙高少年自然の家で実施した。経験者の知識、技術を生かし、イグルー作りのトレーニング、ネイチャースキーの指導法、スキーハイキング指導法などのトレーニングを自然観察を兼ねて実施した。こうした取り組みは、参加者一人ひとりのより積極的な姿勢の醸成と、初参加者との人間関係の活性化などの面でもその効果をあげている。

4. 講座・クラブ

【社会福祉講座「じょいんクラブ」】

“手話”に親しみながら、手話を仲間と共に行うなかで仲間作りをしたり、社会のさまざまな状況の中で生活をしている人たちのことを気づき、次代を担う子どもが、どんなことができるかを考えるきっかけを作る目的で前年度に開講したのが「じょいんクラブ」である。

手話習得には、前年度外部から中野佐世子さん（手話通訳士）を講師に招いた。本年度は、子ども同士のグループ活動を増やし、手話の学習とグループ活動の両面を活動の柱とした。前期は広報活動の遅れから、申し込みが４人であったため、開講を中止。後期のみの実施となった。参加者は前年度の継続者がほとんどで、新規者１人を含む６人で活動を展開した。

講座期間中に開館20周年記念事業「ドルッチャタウン」が実施されたため、これもカリキュラムの一つとして取り入れ、他講座生との交流をとおして活動の活性化をめざした。「じょいんDEポン」を出店し、的あてゲームに参加した人に、好きな手話カードを選んでもらってプレゼントし、あわせてその手話を伝える活動をした。また館内放送を使って、イベント開催を手話を使ってお知らせするビデオも作った。

手話を習う立場のメンバーが、ゲームに参加してくれた子どもたちに堂々と手話を教えたり、その意味が分かるように工夫して伝える姿が印象的であった。こうした日常の活動を実際の場面で生かす活動を通じて、また、他の講座生の店と比較（売り上げや内容など）をして、「もっと次回はお客さんに参加してもらえる店にしたい」といった意欲的な意見も出された。

この活動を契機にメンバー同士の人間関係も深まり、最終回に向けて、館内で行うワークショップの企画準備に取りかかった。なかなか意見を出せなかった子どもたちが、「ドルッチャタウン」の経験から、積極的に意見を出すようになり、クリスマスを要素に入れた「ゲーム＆クイズのつどい」を計画した。手話を使ったジェスチャーゲームやクイズ、手話ソングなどをおりまぜて、約30分間のイベントを２回実施した。

２年目を迎え、やっとメンバー同士の関係性が深くなり、グループ活動でも、一人ひとりが主体的に参加したり、協力の度合いも深まった。帰属意識の高まりもあり、ワークショップの内容を考える際に、“手話”を意識して使ったり、また、他者へ手話を伝えたい、理解してもらいたいといった言葉が多く語られるようになった。受講生が少ないことは難しい課題であるが、子どもたちからも「メンバーを増やしたい」という声があったり、また逆に「少人数だからできることがある」という意見も飛びかうなど、彼らなりに「じょいんクラブ」の方向性や、使命感を感じている発言もあった。

子どもが参画するプログラム作りをめざして、歩み始めた２年目だが、次年度はさらに子どもたち自身が、来館する子どもたちに向けて、社会提言していくようなグループ活動の充実を図りたい。

5. まとめ

本年度は開館して20年の節目を迎え、今までの総括と今後の活動の指針を示すべき年であったが、記念行事が先行して総括と検討を十分行うことができず、持ち越しの課題となった。〔こどもの城〕が来館児・者にどのようなことを求められているのか、そのことに的確に対応していくとともに、５年先、10年先どのような〔こどもの城〕であるべきなのかも検討していかなくてはならない。

ボランティアの育成については、施設ボランティアを中心とした考え方から、子どもの社会参加の一環としてのボランティア活動、〔こどもの城〕以外でも活動できるボランティアの育成へと変化してきて、ボランティアの活動の幅も年々広がってきている。これからも社会に参加し、そのことに目的や喜びを見出すことのできる人材の育成に努めていきたい。

20周年記念事業では、全館事業として行うものについてはプロジェクトチームを結成して実施した。企画部門主導型の全館事業から、事業部の各々が主体性を持って参加する形へと変化し、〔こどもの城〕が成熟してきたことがうかがえた。今後も全館のスタッフの持つ力を生かして、コーディーネートできるよう心がけていきたい。

企画研修部の仕事は多岐にわたっており、あることは出来ていても、あることは放置したままということになりかねない。仕事には優先順位をつけなくてはならないが、全体のバランスを考慮して、しかも一つひとつていねいに対応していきたい。

平成17年度活動一覧表

1．一般利用

〈展示・ワークショップなど〉

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉 こども探偵団	4.26・27、29、5.3~5	探偵団員をめざして、隠された文字を探し、謎を解くゲーム。前回好評だった文字探しを前半に行い、文字をすべて探すと次のステージに進めるようにした。第2ステージでは、繰り返し挑戦できるように3つのコースを設け、謎を1つ解くごとにヒントを1つ得られるようにした。最初は謎解きの要領を理解できずにとまどっている子どもも多かったが、2度、3度と挑戦する子どもが多かった。(ギャラリー)
〈 〃 〉 こどもフェスティバル	5.4・5	来館児・者の多いゴールデンウイークに、家族で、劇場で気軽に楽しめる質の高い催しとして、青山円形劇場で毎年実施している。「ガドガド」は、音楽ロビーの一般活動から生まれたバンドで、音楽事業部スタッフと協力してくれているミュージシャンがメンバー。10年以上続いているコンサート。今年は6人で演奏。聴かせる曲、遊べる曲、踊れる曲、コントのような楽器紹介シーンもあり、毎年趣向を凝らしている。おもしろく、質が高い演奏と演出で、すべての年齢の来館児・者が共有できる、音で遊べる時間・空間を提供している。 ◇4日「ざん・ばら・りん劇場」アフタフ・バーバン ※(財)児童健全育成推進財団優良巡回劇事業 ◇5日「おんがくがスキ！」ガドガド(青山円形劇場)
〈 〃 〉 アイスクリームのプレゼント	5.4	5月9日のアイスクリームの日にちなんで、来館児・者にアイスクリームをプレゼント。協力は(社)日本アイスクリーム協会。(フリーホール)
〈児童福祉週間 &開館記念〉 マックローグリーティング	5.5、11.3	〔こどもの城〕のマスコット、マック・マックローの誕生日である5月5日の「こどもの日」に、アトリウムで子どもたちを出迎え、握手をした。11月3日には開館20周年記念バッジを配ったり握手をした。「マックロー・バッジ」シリーズ、本年度は「ウザエモン・バッジ」500個配布。また、マックロー缶バッジ1000個も作成、配布した。(館内各所)
オーストラリア絵本展 南半球からのメッセージ	6.11~26	ロン・ブルックスさんとアリソン・レスターさんを中心に、オーストラリアの絵本作家たちとその作品を紹介。原画80点と、絵本・読み物約300冊を展示。日本でも人気の作品もあり、来館児・者は熱心に鑑賞。期間中の入館者数は11,698人。搬入予定の日に荷物が届かないというトラブルがあり、苦労してオープン当日を迎えたが、質の高い作品とその原画にあわせ、オーストラリア文化の一端を紹介するよい機会となり、少ないながら来館児・者に楽しんでもらうことができた。 ワークショップには、合計約210人の参加があった。アリソンさんは、オーストラリア一周の家族旅行をテーマにした彼女の最新作を紹介しながら、小さな絵本作りを指導。ロンさんは絵本を作る過程を詳しく語り、原画を間近で見せてくれた。 展覧会場内で行ったワークショップは、オーストラリアの地図の形を生かした簡単なミニ絵本作りで、延べ230人が参加。また、オーストラリア関連プログラムとして紙ブーメランを作ってとばすプログラムを体育室で実施。協力：日本ブーメラン協会。延べ380人が参加した。(ギャラリーほか)
〈夏休み〉 夢をのせて走れ！F1カー特別展	7.21~8.31	世界では、さまざまな形態のスポーツが行われている。モータースポーツほど選手（ドライバー）と道具（クルマ）の双方の高いレベルが要求されるものはないのではないか。モータースポーツに視点をあて特別展を実施。モータースポーツの最高峰と言われているフォーミュラ1（F1）を取り上げ、ドライバーとクルマ、それを取り巻く関係者などについて可能な限り実物の展示と画像などで紹介した。展示物では、最新技術を駆使して作られたタイヤ、ブレーキ、シートなどを一般的な市販車の物と実際に触れて比較できるように展示。ふだんでは見ることも珍しく、ましてや触れることはほぼ不可能なこれらの展示物に、来館した子どもも、大人も、一様にその違いに驚き見入っていた。実際に走行していたF1カーを展示し、1日3回子どものみ人数限定でF1カーのコクピット体験を行った。ふだん乗っている車とあまりにも違う姿勢など、とにかくいかに速く走るかを追求した車体と、それでも市販車をはるかに越える安全性を両立させた車体にただただ驚いていた。協賛：トヨタ自動車株式会社(ギャラリー)

名　称	日　時	内　容
〈開館記念〉 第12回おりがみカーニバル／全国児童館おりがみ作品展	10.15～11.6	子どもからお年寄りまで、気軽に楽しめる折り紙を幅広い年齢の人に親しんでもらうための催し。日本折紙協会と共催。児童館交流と児童館活動紹介として「全国児童館おりがみ作品展」を同時に開催。“あそび”をテーマに25館から出品された作品を展示した。関連企画「おりがみにつよくなる講習会」を開催した。（ギャラリーほか）
〈冬休み〉 つくろう！ 飛ぶおもちゃII　えい凧づくり／紙ヒコーキ	H18.1.3～9 ※紙ヒコーキは1.5～	紙ヒコーキは「へそ飛行機」を指導。長時間熱中する親子の姿は、「遊びとはこういう単純なものでよいのだ」と原点に返らせてくれるものだった。ただし、単純ではあっても、翼や機体の微妙な調整ひとつで飛び方が変わる。奥深い紙ヒコーキに大人も子どもも熱心に取り組んだ。「えい凧づくり」は正月らしさが出るだけでなく、和紙に触れる機会であり、また幼児でも自作の凧が持ち帰れるので、今後も続けたい事業である。約300人が参加。（ギャラリー）
〈　〃　〉 新春もちつき大会	1.4	日本の風習を子どもたちに伝えていきたいと、毎年行っている伝統行事の一つ、もちつきを実施。もち米50kgを2つのうすでついた。女性ボランティアが、つきたてのもちをまるめ、あんときなこをまぶして、もちつきを体験した子どもに配付。約500人が参加。部門を超えて、多くの職員が協力して運営。大変意義深いものと考える。（ピロティ）
〈春休み〉 第13回ニッサンゆかいな絵本と童話展「道　満ちて」	3.25～4.5	「第21回ニッサン童話と絵本のグランプリ」で入賞した作品の原画、国際アンデルセン賞受賞作家の絵本などを展示。童画家の青木貴子さんが、会場全体の装飾をてがけた。日産自動車の工場から出る内装材や緩衝材などの廃材を使って、子どもが作品を作るワークショップも開催。共催は（株）日産自動車。（ギャラリー）

〈その他〉

名　称	日　時	
おもちゃ図書館マックロー	年末、年始を除く水曜日	心身に障害のある子どもたちが気軽に利用できる遊び場として、昭和62年（97年）に開設された「こどもの城おもちゃ図書館マックロー」。本年度も4人のボランティアを中心に運営され、延べ49回開催した。年間300人を超える利用者があった。「夏休みのお楽しみ会」や「クリスマス会」などの催しも行った。（会議室）
アートスケープ2006	H18.2.22～3.12	〔こどもの城〕での開催が今回で21回目となった、首都圏のインターナショナルスクール、アメリカンスクール12校と日本校1校の合同美術作品展。500人におよぶ生徒が制作した絵画、版画、素描、ステンドグラス、陶芸、建築模型、写真などさまざまなジャンルの作品を展示。（ギャラリー）



全国児童館おりがみ作品展

新春もちつき大会



2. ボランティアの活動

〈平常期間〉

※名称欄のカッコ内は活動担当部門

名　称	日　時	内　容
保育活動（保育研究開発）	月～金曜日 9:45～16:00	保育スタッフとともに、2歳児クラス、または3～5歳児グループに入り、運営補助をする。（保育室ほか）
赤ちゃんサロン（小児保健）	月2回火曜日 12:30～14:00	小児保健スタッフとともに、乳幼児とその親を対象にした事業の運営サポート。（音楽ロビー）
紙芝居（プレイ）	水曜日 15:00～15:30（第1・3水曜日）	プレイホールで親子を対象に紙芝居を行う。練習も毎週水曜日。（プレイホール）
新体操（体育）	水・金曜日 15:30～18:00	新体操のジュニア、シニアクラスの指導補助。（体育室）
女性人形劇（企画研修）	第2水曜日 15:00～15:30	手作りの人形を使い、脚本作りから上演までを行う。昔話や音楽に合わせて人形が踊る人形劇を実施。練習は毎週木曜日。（プレイホール）
影絵（企画研修）	第3水曜日 15:00～15:30	手作りの人形、背景、脚本で、昔話や童謡をオリジナルで演出して上演。練習は毎週火曜日。（プレイホール）
おりがみあそび広場（プレイ）	木曜日 14:00～15:00	毎回2～3種類の折り紙遊びを子どもやその親を対象に伝える。（プレイホール）
みんなの楽器屋さん（音楽）	木曜日 15:30～16:00	プログラム導入の手遊び、音楽スタッフが行うプログラムに参加する子どもたちをサポート。（音楽ロビー）
みかんちゃんズのオバオバサンバ！（音楽）	金曜日 15:00～15:30	スタッフとともにサンバのリズムを中心に、子どもたちと一緒に演奏、プログラム指導を行う。（音楽ロビー）
絵本であそぼっ（企画研修）	第1・3金曜日 14:30～15:00	幼児や親子を対象に、絵本の読み語りを実施する。（Aスタジオ）
布おもちゃ（企画研修）	第2・4金曜日 10:30～15:30	プレイホールの幼児コーナーで子どもたちが遊ぶ「抱き人形」を制作。また幼児コーナーの環境作りとして、遊具や装飾の手芸関係の活動を行う。（ボランティアオフィス）
ビッグサタデー（体育）	土曜日 10:00～12:00	小学4年生以上の高学年を対象にしたスポーツプログラム。バスケット、バレーボール、サッカーなどを実施。（体育室）
手足の不自由な子の水泳（体育）	土曜日 17:00～18:00	講座の子どもたちにボランティアが一人ずつ付き、水泳の補助を行う。（プール）
不思議な映像実験室（AV）	土曜日 15:00～17:30	視覚がん具作りのワークショップの運営補助。（音楽ロビー）
こどもの城アドベンチャー（企画研修）	第1・3土曜日 14:00～17:00	こども活動エリア全体を使って、与えられたヒントをもとに進んでいく、ウオークラリー形式のゲームを実施。（全館）
土曜昔あそびの会（企画研修）	第2・4土曜日 14:00～17:00	屋上を中心に、子どもたちとその親を対象に、コマや三つ馬などの伝承遊びを実施。（ふしぎが丘ほか）
キッズクラブ（プレイ）	月2回土曜日 15:00～17:00	小1～4を対象にした講座の運営補助。プログラム開発、グループワーカーとしての役割を担う。（会議室ほか）
じょいんクラブ（企画研修）	月2回土曜日 14:30～16:30	子どものための社会福祉講座。手話を中心にした講座の運営補助。（会議室）
青年人形劇（企画研修）	月1回土曜日 13:00～15:00	〔こどもの城〕のマスコット、マック・マックローの棒使い人形を使ってオリジナル人形劇を実施。（プレイホール）

名　称	日　時	内　容
つくってあそぼう（企画研修）	第1・3日曜日 14:00～17:30	小学校低学年を対象に廃品や身の回りの材料を使用して、手作りおもちゃのワークショップ。手作りおもちゃの開発も行っている。（プリーホール）
パネルシアター（企画研修）	第2・4日曜日 13:00～15:30	パネルシアターの公演とその合間にパネルを使って遊ぶワークショップを実施。絵本などをモチーフにした、オリジナルパネルシアターも実施。（プレイホール）
絵本の読みかたり（企画研修）	第2日曜日 14:00～15:00	おはなし会の後、子どもたちに自由に絵本を読んであげる時間も実施。（保育室２）
ユースクラブ（プレイ）	月2回日曜日 13:00～17:00	小５～中３を対象にした講座の運営補助。プログラム開発、グループワーカーとしての役割を担う。（会議室ほか）
L.I.T.（企画研修）	月2回日曜日 10:00～16:00	年間をとおして高校生が行うボランティア活動を支援する。ボランティアはプログラムを企画、準備、運営する際のアドバイス、よりよいグループ活動を行うためのワーカーとして働きを担う。（会議室ほか）
日曜クラブ（企画研修）	月2回日曜日 14:00～17:00	縄跳び、フラフープ、ドッジボールなどを実施。七夕、クリスマス、ひなまつりの時期にはクイズ大会も実施。（屋上ふしぎが丘）
ファミリープレイタイム（プレイ）	2か月に１回日曜日 12:30～16:00	ファミリーを対象に、クラフト、プレイ、クッキングなどのプログラムを実施。ボランティアは運営のサポートを行う。（プレイホール）
バンパー大会（プレイ）	年に2回日曜日・祝日 10:00～15:00	小学生～高校生を対象にしたビリヤードのような遊具“バンパー”を使った試合形式のプログラム。ボランティアは運営のサポートを行う。（プレイホール）
手作り楽器（音楽）	夏休み特別期間 12:00～16:00	手作り楽器のワークショップの運営サポート。（Bスタジオ）

〈特別期間ほか〉

※名称欄のカッコ内は活動担当部門／参加ボランティア人数はいずれも延べ数

名　称	日　時	内　容
〈児童福祉週間〉時空の旅人～タイムントラベルン～（企画研修・プレイ）	4.29～5.1、3～5 11:00～16:00（受付時間）	タイムトラベルをテーマにしたゲーム大会をふしぎが丘で実施。参加ボランティアは、144人（準備）、94人（当日運営）。（ふしぎが丘）
〈 〃 〉マックのおはなし広場（企画研修）	5.3～5 11:00～16:00（受付時間）	人形劇、パネルシアターの公演。参加ボランティアは、50人（当日運営）。（研修室）
〈夏休み〉夢を乗せて走れ！ F1カー特別展（企画研修）	7.21～8.31 10:00～17:30	ボランティアはさまざまな体験コーナーで、子どもたちのサポートを行った。参加ボランティアは、30人（当日運営）。（ギャラリー）
〈 〃 〉ウォーターアドベンチャー2005 宝探しの大航海（企画研修）	8.26～28 11:00～15:30（受付時間）	水遊びをテーマにしたロールプレイゲームを実施。参加ボランティアは、231人（準備）、80人（当日運営）。（ふしぎが丘）
〈 〃 〉ドルッチャランドマジックアワーパーティー（企画研修）	8.26　17:00～20:00（受付時間）	こどもの城20周年を記念してこどもの城全館をあげて行ったイベント。参加ボランティアは、47人（準備）、62人（当日運営）。（ふしぎが丘）
魔法使いチャンピオンシップ（プレイ）	10.8～10 10:00～16:00（受付時間）	魔法使いになるための様々なゲームにチャレンジ。ボランティアは運営のサポートを行う。参加ボランティアは、20人（当日運営）。（ふしぎが丘）

名　称	日　時	内　容
〈開館記念〉 あそびのおもちゃ箱 （プレイ）	10.29・30 11:00～16:00 （受付時間）	紙コップ人形を作るワークショップと参加劇やパネルシアター、人形劇、絵本などの公演活動を行う。参加ボランティアは、延べ82人（準備）、延べ88人（当日運営）。 （プレイホール、フリーホール）
〈　〃　〉 ドルッチャタウン （企画研修）	11.5・6 11:00～16:00 （受付時間）	開館20周年記念事業の全館プログラム。子どもたち自身が来館する子どもたちに向けて遊びの店を提供する。参加ボランティアは、延べ108人（準備）、延べ56人（当日運営）。　（全館）
ダイアログ・イン・ザ・ダーク　（企画研修）	11.19～12.10 10:00～17:00	開館20周年記念事業の全館プログラム。真っ暗な空間の中で、子どもたちが視覚障害者の案内で、さまざまなワークショップを行う。そのサポートとして活動。参加ボランティアは、延べ22人（準備）、延べ60人（当日運営）。 （フリーホール）
〈冬休み〉 新春あそびのお年玉～遊んで笑って福あつめ～　（企画研修・プレイ）	H18.1.3～9 11:00～16:00 （受付時間）	伝承遊びをテーマに、さまざまな遊びのワークショップを展開する恒例の行事。学生ボランティアを中心に意欲的な取り組みをみせた。参加ボランティアは、延べ152人（準備）、延べ116人（当日運営）。 （プレイホール／屋上遊園）
節分会大まめまき大会 （プレイ）	1.25・26　16:00～	恒例の豆まき大会。鬼に扮したボランティアを子どもたちが退治するというプログラム。参加ボランティアは、延べ29人（当日運営）。 （プレイホール）



オーバーナイトハイキング（L.I.T.）

〈高校生プログラム＝L. I. T.（Leader In Training）〉

名　称	日　時	内　容
春のイベントの準備	4.3、10、17 10:00～16:00	春イベント「春一番　作って動いてわいわい祭り！」の準備活動を3日間かけて行う。参加は、3日22人、10日17人、17日23人。
春のイベント実施	4.24　9:00～19:00	「春一番　作って動いてわいわい祭り！」を地下1階フリーホール、屋上ふしぎが丘で実施する。参加22人。
活動方針の話し合い	5.8　10:00～16:00	午前中に「ジュニアスプリングキャンプ」の反省会、午後から現在のグループの状態について話し合いを行う。参加19人。
〃	6.12　10:00～16:00	スタッフが開館20周年事業への参加について提案し、それについて話し合いを行なう。参加18人。
プログラム準備	7.18　10:00～16:00	今後の準備スケジュールと組織作り、役割分担を行う。参加19人。
〃	7.18　10:00～16:00	プログラムの内容をつめるとともに、有志が合宿のプログラム、食事、物品に分かれて話し合いを行う。参加14人。
〃	8.13、20、21 10:00～16:00	開館20周年事業の一環として行うプログラム『アティエル族と5つの力』の準備活動を行う。参加は、13日16人、20日14人、21日15人。
〃	8.26・27（合宿） 8.28　10:00～16:00	26日から宿泊をして、最終準備活動を行う。プログラムは翌日27日と28日の2日間で実施。今期のL. I. T.にとっては最後の活動となる。参加は、26日18人、27日20人、28日22人参加。

名　称	日　時	内　容
平成17年度L.I.T.開校式	9.23　13:00～16:00	開校式、個人面談、自己紹介を中心にしたグループワークトレーニング、年間計画と活動の主旨を話す。参加23人。
プログラム準備	10.10 10:00～16:00	開館20周年記念事業「ドルッチャタウン」で出店するゲーム屋の活動内容と、グループメンバーが決定した。参加21人。
ドルッチャタウン準備	10.23 10:00～16:00	前回に引き続き、3チームに分かれ準備作業を行う。ルールや内容の確定を行い、その後準備作業の洗い出しを行い、具体的な作業を行った。参加19人。
〃	11.3　10:00～17:00	ゲーム屋の製作活動を行う。また、「あそびつくり隊」の小学生約30人、「じょいんクラブ」のメンバー小学生約6人とともに活動を行う。参加21人。
ドルッチャタウン実施	11.5　10:00～17:00 11.6　10:00～19:00	開館20周年記念事業に参加する。コリントとボーリングを合わせたゲーム「THEコリング～ドキドキ ハラハラ 倒すっチャ～」、紙を折って作る財布作りのワークショップ「おるっチャ・はるっチャ・いれっチャ ドルッチャウォレット」、プレイホールの真ん中でパフォーマンス「秋だ！遊びだ！芸術だ！アートdeクイズ」を5日は2回、6日は3回実施する。参加は、5日16人、6日24人。
今後の活動計画	11.20 10:00～16:00	例年の活動は、館内で子どもの遊びプログラムの企画、実施という活動にとどまっていたが、もっと幅広くボランティア活動について考え、実践していけるような活動をめざすために、「ボランティア活動とは」（レクチャー）、「活動計画アイデア出し」（ワークショップ）、「年間計画の立案」（グループ作業）を実施した。参加17人。
今後の活動計画	12.18 10:00～16:00	春に実施予定の、ボランティア関係団体の施設訪問について情報交換を行い討議した。また、1月に実施予定のオーバーナイトハイキングのオリエンテーションも実施。参加23人。
オーバーナイトハイキング（三浦半島）	H18.1.14・15	真冬の時期、1晩33kmを歩く活動をとおして、自己の限界にチャレンジし、自分をふりかえり、自己認知のきっかけとする。仲間とともにはげまし合いながら、共通の目標を達成することによって他者への理解を深め、グループとしての凝集性を高める機会とする――を目的に神奈川県三浦半島、33kmを夜どおし歩くオーバーナイトハイキングを実施。当日は悪天候のため、途中8kmに短縮。代替プログラムとして、宿泊施設で野遊び実習、グループワークトレーニングを実施。参加23人。
今後の活動計画	1.22　10:00～16:00	午前中は参加者が少なく、こうした状況を踏まえて現在のグループの課題を話し合う。午後は施設訪問先のしぼりこみを行う。参加14人。
〃	2.11　10:00～16:00	見学施設と日程の決定、各施設への連絡、見学希望調査、依頼書の作成を行う。参加11人。
〃	3.21　13:00～16:00	見学活動の日程とメンバーの調整、見学のスケジュールとインタビュー内容の決定、依頼書の発送準備、見学活動の形態、5月の活動内容を話し合う。参加18人。
「ジュニア・スプリングキャンプ2006」参加	3.27～31（4泊5日）	班付と本部リーダー付、2つの役割に分かれて活動する。キャンプ初参加者が多いメンバー構成だったが、高校生らしい若さあふれる取り組みが行われた。参加11人。

3. 講座・クラブなど

《講習会》

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
じょいんクラブ	（人） 小4～中3 （20）	（人） 6	第2土曜日 14:30～16:30	2年目の活動となる。前期は4人のため、講座を中止。後期のみの活動となった。手話の習得に外部講師中野佐世子先生（手話通訳士）を招き、講座開講日を2日増加して、子どもたちが考えるグループ活動を増やした。本年度は、開館20周年事業「ドルッチャタウン」にも参加した。受講料8,000円（12回）。

〈専門指導者向け講習会など〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
第52期ボランティア講習会	（人） 18歳以上 （高校生不可） （30）	（人） 26	5.14～7.7 18:00～20:30 （5.27～29 宿泊研修）	大学生と社会人ほぼ同数の講習会となった。平均年齢26歳。「子どもの施設を支えるボランティア」（児童健全育成推進財団 阿南健太郎）、「今 野外活動が大切」（東京小中学生センター 柴田俊明）、「つながり 広がる コミュニケーション」（ともこ塾 今井登茂子）のほか、「遊びの支援とボランティア」「こどもの城のボランティア活動」の講座、主に人間関係トレーニングを中心にした宿泊研修を実施した。宿泊研修は、手賀の丘少年自然の家（千葉県）で実施。　※敬称略
ボランティアグレードアップ講習会「夏季野外活動」	野外活動に参加するボランティア （30）	19	6.17～19	小4～中3を対象にした「ジュニア・アウトドア・スクール」に参加するボランティアリーダーが対象。内容は「単独野外炊事」「鬼ごっこはおもしろい」「森の仲間の祭典研究」「徹底的にキャンプクラフト」など。また、2泊3日のキャンプの運営を、食事、物品、プログラムとそれぞれの係に分かれて運営。本番のキャンプ本部運営の動きをシミュレートした。船橋県民の森キャンプ場（千葉県）。
第53期ボランティア講習会	18歳以上 （進路決定の高校生可） （30）	31	10.15～12.13 18:00～20:30 （11.11～13 宿泊研修）	学生と社会人の比率が2：1の講習会で、平均年齢26歳。「ボランティア活動その魅力は？」（明治学院大学 平野幸子）、「ここが大切！児童健全育成活動」（児童健全育成推進財団 鈴木一光）、「昔遊びに挑戦！～遊びの本質を探る～」（日本独楽博物館 藤田由仁）のほか、「こどもの城のボランティア活動」「子どもが歓ぶ遊びのリーダー」の講座と、主に人間関係トレーニングを中心にした宿泊研修を実施した。宿泊研修は、足柄ふれあいの村（神奈川県）で実施。　※敬称略
ボランティアグレードアップ講習会「冬季野外活動」	野外活動に参加するボランティア （30）	13	H18.2.24～26	小3～中3を対象にしたキャンプ『ジュニア・スプリング・キャンプ』に参加するボランティアリーダーが対象。内容は「森をあそぶ　ネイチャースキーの実際」「ナイトプログラム実践研究」「スキーハイキング実習」「イグルー作りの実際」「雪の妙高を再発見」「雪遊びの実際」など。経験豊かなメンバーを活用したトレーニングメニューを多く取り入れ、相互関係、相互援助の活性化をめざした。国立妙高少年自然の家（新潟県）。

〈野外活動〉

名　称	日　時	内　容
ジュニア・アウトドア・スクール2005	7.31～8.6 （6泊7日・テント泊）	小学生42人、中学生36人、高校生9人、ボランティアリーダー28人、スタッフ3人の合計118人が参加。全てのプログラムについて7割以上が「よかった」と回答している。「祭典」にかんしては、「食事がまずい」「売れ残った」「たりなかった」など、料理に対する満足度の低さが自由回答に目立つ。オリジナリティを求めるあまり、食べられないものがあったり、デザート系が多く、夕食として満足できるものが少なかったことがあげられる。初めて取り組んだ小学生は、一番楽しかったプログラムのトップ。活動のおもしろさは十分に感じているので、キャンプ中の子どもたちの意見とアンケートをあわせて今後検討していきたい。「一番楽しかったプログラム」は、小学生が「祭典」「沢のぼり」、中学生は「アウトトリップ」「南蔵王縦走」の順。チャレンジメニューは、ともに満足度が高かったようだ。国立南蔵王青少年野営場（宮城県）。
山中湖ファミリーキャンプ	9.17～19 （2泊3日・宿舎泊）	3歳児以上のファミリー・祖父母32組（男59人、女47人）、ボランティア10人、スタッフ8人の合計124人が参加。キャンプの目的の一つは、野外活動の意義を保護者向けに提案すること。自然や環境への配慮・集団行動・人との触れ合いなど野外活動を通じて得られるようなプログラムを考慮した。また、家族が協力し合い一つのものに取り組むことで改めて家族を見直し、より絆を深める機会とした。さらに、さまざまな年齢層に対応できるように、各部門の協力を得て「フリーチョイスプログラム」を実施。「できるだけたくさんのプログラムに参加したい」という声も多かった。山中湖ＹＭＣＡセンター（山梨県）。
ジュニア・スプリング・キャンプ2006	H18.3.27～31 （4泊5日・宿舎泊）	小学生51人、中学生33人、高校生11人、ボランティアリーダー18人、スタッフ4人の合計117人が参加。雪上でのさまざまな活動――クロスカントリースキー、ネイチャースキーを使ったスキーハイキングや自然探索プログラム、ソリやチュービングでの雪遊び、雪の造形活動イグルー作りなどを実施。子どもの参画によるキャンプ作りと異年齢集団の効果を最大に発揮するキャンプ運営を目標にボランティアとプログラムを計画。キャンプ4日目の「プロジェクトX」は、実行委員会を組織し、子どもたち自身の手で雪上運動会を企画、準備、実施。小3～中3の17人が意欲的な取り組みを見せた。ボランティアから、子どもと対等な関係を結びながらプログラムを構成する難しさが課題としてあげられた。国立妙高少年自然の家（新潟県）。

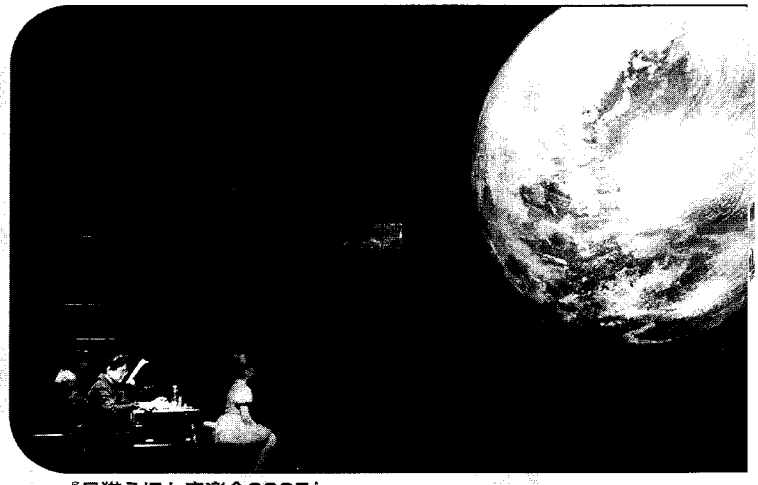
平成17年度「グループ活動」プログラム一覧表

	プログラム名	対象年齢	時間	内容
体育	すてきな新体操	3歳児～中3	60分	ボール・リング・なわなどの手具を使って楽しく体操。
	楽しい体育・運動	〃	〃	身近な道具を使った運動、マット・とび箱などを使ったサーキットなど。
	レクリエーション	〃	〃	鬼ごっこやしっぽとり・フライングディスク・パラバルーンで楽しく運動。
	球技で楽しく汗を流そう	〃	〃	ウオールサッカー（室内サッカー）・ユニホック・タグラグビーなどの球技から一種目を選択。
プレイ	劇遊び「森へ行こう」	4歳児～小2	60～80分	森のお姉さんや木こりと一緒に森の中を探検。ごっこ遊びのプログラム。
	劇遊び「忍者修行道場」	〃	〃	悪者忍者の挑戦を受け、さまざまな忍者修行に挑むごっこ遊び。
	みんなであそぼうパペットランド	〃	〃	紙コップ、封筒などの身近な物で人形を作り、お話の世界で遊ぶプログラム。
	みんないっしょに	3歳児～小2	〃	歌やレクリエーションダンス、パネルシアターなどをスタッフと一緒に楽しむプログラム。
	こどもの城オリンピック	小1～	〃	オリンピック種目を愉快にアレンジしたレクリエーションゲーム大会。
	パソコンであそぼう	5歳児～	60～90分	コンピュータグラフィックス・パソコンクラフトなど、パソコンを使ったさまざまな遊びを体験。
造形	かげをうつそう	4歳児～小6	60～80分	自分の影をプレイングボード（大きな白い壁）に写しとって、その影の中を絵の具でデザイン。
	木をつくろう	〃	〃	グループ全員が協力して、床に大きな紙の木を作る。計画の楽しさを知ろう。
	粘土でジャングル旅行	5歳児～小2	〃	粘土で飛行機・テント・木・動物などを作り、みんなでジャングル旅行。
	竹体験	小1～	〃	日本の伝統的な植物“竹”の特質、しなる、かたい、筒状などを体験しながら、竹の造形を楽しむプログラム。
音楽	忍者ってほんとうにいたの?	3～5歳児	60分	子どもたちのイマジネーションによる忍者ごっこ遊び。
	スカーフであそぼう	〃	〃	スタジオの照明にはえるスカーフで楽しく遊ぶプログラム。
	まつりばやし	〃	〃	お祭り広場になったスタジオで、楽しく和太鼓をたたくプログラム。
	ガムランで遊ぼう	3歳児～	〃	インドネシアの打楽器オーケストラ、ガムランを演奏したり、踊ったりするプログラム。
	サンバでおどろう	4～5歳児	40～50分	ブラジルのカーニバル気分でサンバに挑戦。自分で作った楽器を持って踊るプログラム。
	たたいてみよう日本の太鼓	〃	〃	いろいろな種類の和太鼓を思いっきりたたいてコンサート。リズムは簡単!
	タムタム大王と遊ぼう	〃	〃	アフリカの太鼓の名人、タムタム大王と一緒に太鼓の大合奏。
	インドネシア・アンクルン	小1～	〃	インドネシアの珍しい竹の楽器を紹介。みんないっしょに合奏体験。
	めずらし楽器大集合	3歳児～	〃	アフリカ・中国・インドネシア・ブラジルなどから集めた珍しい楽器のコンサート。

	プログラム名	対象年齢	時間	内容
A	みんなでつくろう“ぱたぱたアニメ”	4歳児～	60~90分	みんなが描いた2枚の絵を交互に映し、絵の動くアニメを体験。
	フィルムに絵を描いてみよう	小2～	60分	透明な映画フィルムに着色してから映写すると、楽しい図柄がスクリーンに映し出される。
V	ビデオであそぼう	小3～	60~120分	突撃インタビュー・ビデオでしりとり・伝言ゲーム。ここではみんながカメラマン。
	ピンホールカメラをつくろう	小1～	60分	針穴をあけただけのカメラ、ピンホールカメラを作るプログラム。

※障がい児対応のプログラムについては、障がいの程度によって実施するプログラムを相談。
体育部門の活動は、各プログラムを組み合わせることも可能（打ち合わせ時に相談）。

劇場事業本部



『月猫えほん音楽会2005』

平成17年度の活動

1．はじめに

劇場の運営は、劇場を貸すことと自主（提携）公演を行うことに大別される。本年度の稼動日数は、青山劇場が使用可能日数343日中309日、青山円形劇場が使用可能日数364日中337日とフル稼働の状態であった（公演演目一覧表参照）。しかしながら、その大半を貸し劇場に負っているのが実情なので、数年の内にライバル劇場の出現が決まった現在、今後この数字を維持していくことは困難であろう。劇場費の見直しなどの営業努力はいとわないが、現在直面している問題を解決しない限り、この数字は上回れないと思われる。

青山劇場は、コンピュータ制御のハイテク舞台機構劇場として世に売ってきたが、機構の老朽化に伴い、その機構のメンテナンス・更新にかかる費用負担が重くなり、完全な整備が不可能になってきている。青山円形劇場も同様である。「本番中はセリを動かしてはダメ、吊り物バトンの昇降はダメ」などと、完全な姿では貸せなくなってきている。このままでは顧客が離れていっても不思議ではない。

このままのハイテク舞台機構路線でいくのか、別の路線を歩むのか等、今後取るべき道について、早急に検討しなければならないと思う。

自主（提携）公演については、昨年も触れたが、その意義について改めて考えてみなければならない。自主公演を文化の発信ととらえるか、興業としてとらえるか、議論の分かれるところではある。平たく言えば、赤字覚悟でも文化の発信ということを優先させるのか、収益事業として公演をとらえるかだ。

〔こどもの城〕の劇場は、本来、文化施設と文化機関としての側面を併せ持つものだから、文化を発信していかなければならないが、赤字たれ流しというわけにもいかない。文化機関としての創作事業が、収益を生むことが理想だと思う。本年度の自主（提携）公演のなかには、もちろんそのような公演も存在しているが、力およばず収益を生めなかったものもある。

さまざまな動員の努力は認めるとしても、制作担当者が心のすき間に「良いものを上演するから、啓発運動だから、人は入らなくても良い」とか「助成金をたくさんもらえたから、入場料収入はそのぶん少なくて良い」などという思いを、よもや抱きはしなかっただろうか——。なぜ収益を生めなかったかについて、今一度、謙虚に考えなければならないと思う。公演を文化の発信ととらえようと、収益事業ととらえようとも、あくまでも、「たくさんの人に観てもらうために公演を打つ」という、〔こどもの城〕の劇場の公演制作者としての、あたりまえの心構えを忘れてはなるまい。

2．主な自主・提携公演

（ア）青山劇場

■こどもの城開館20周年記念「青山太鼓見聞録」

『青山太鼓見聞録』第2回のテーマは、「永久保存版“太鼓の名曲”」。“太鼓”の約半世紀の歴史の中で、人々に愛されその時々を彩ってきた、金字塔的な太鼓曲を集め演奏した。伝統ある民俗の太鼓と現代の創作太鼓から選りすぐった、いわば“太鼓名曲アルバム”とでも呼ぶべき構成。

太鼓は戦後生まれの“もっとも新しい日本の伝統音楽”。古来から、祭りや民俗行事、古典芸能などに用いられてき

たが、それ自体が音楽として独立するのは戦後のこと。イベントや地域の活動などで、心を弾ませ、気軽に楽しめるものとして広まった。聞いて楽しく、自ら打ってなお楽しい。『青山太鼓見聞録』は、この“若き伝統芸能”のさらなる発展を願って企画された。太鼓グループ個々のライブやリサイタルは毎週のように見られるが、民俗の太鼓から創作太鼓の現在までを横断的に扱う公演は少なく、さまざまな切り口から太鼓の魅力に迫り、多くの観客とその楽しみを分かちあった。

〈曲目・出演〉

○西馬音内盆踊り／寄せ太鼓＝矢野栄太郎、藤原哲郎、斉藤敦、佐藤良友（秋田県西馬音内・北の盆社中）

○三国の大太鼓・百花の乱＝地下朱美、木下千恵子、山田瑞恵（炎太鼓）、一噌幸弘（笛）

○春雷・白梅・まつり・助六四段打ち＝小林正道、永田泉、糸原昌史、石塚由有、座古瑞穂、若山和之（大江戸助六太鼓）

○鐘鼓（作曲：井上一路）＝地下朱美、木下千恵子、山田瑞恵、山本綾乃、堂本英里。徳多康予、岡崎寿沙、香城麻美（緑光）

○モノクローム －作品No.26（作曲：石井眞木／指導：藤井むつ子）＝浅野町子、藤井里佳、山本綾乃、山本愛香、木下千恵子、山田瑞恵、徳多康予、岡崎寿沙、香城麻美

○三宅島神着木遣り太鼓＝津村明男、津村秀紀、津村春快、野仲啓明（三宅島芸能同志会）

○大太鼓・屋台囃子＝藤本吉利、今福優、一噌幸弘。新井貴、澤田彰、新井満、篠塚翔、新井勝、伊古田泰（秩父屋台囃子・杉山社中）

〈主催〉（財）児童育成協会・こどもの城、（財）浅野太鼓文化研究所

〈助成〉芸術文化振興基金

〈後援〉財団法人日本太鼓連盟

〈協力〉鼓童　林泉

〈制作協力〉アートウィル

〈企画・構成〉太鼓見聞録編纂委員会：浅野昭利（財団法人浅野太鼓文化研究所 所長）、小野晋司（こどもの城劇場事業本部）、平沼仁一（アートウィル、東京打撃団主宰）、茂木仁史（平凡社新書「入門日本の太鼓」著者）]

〈スタッフ〉舞台監督：金子芳浩（ニケステージワークス）／照明：片田光彦（青山劇場）／音響：武藤一郎（青山劇場）／機構操作：河野学（青山劇場）／宣伝デザイン：野村高志＋KACHIDOKI

（イ）青山円形劇場

■こどもの城開館20周年記念 Aoyama First Act #6 KAKUTA「南国プールの熱い砂」

■こどもの城開館20周年記念 Aoyama First Act #7 innerchild「PANGEA（パンゲア）」

若手新進劇団および、パフォーマンス集団支援育成プロジェクトとして、平成14年度から始まった「Aoyama First Act」。青山円形劇場の特殊な空間が、多くの若手劇団にとって、その芸術的目標となっているが、“円形”の特性を生かせる企画を持ちながら、資金難などで公演を実現できない劇団は数多い。そこで才気と熱意にあふれる青山円形劇場未経験の劇団を選び、最初の1回だけのチャンスとしてさまざまな支援を行い、公演を実現させ飛躍のきっかけをつかんでもらう。そして将来、青山劇場、青山円形劇場はもちろんのこと、演劇界の担い手として精進してもらうのがシリーズの目的である。

今回は第6弾として、KAKUTAの『南国プールの熱い砂』、第7弾として、innerchildの『PANGEA（パンゲア）』を上演した。

桑原裕子（作・演出）のKAKUTAは平成8年（96年）結成。“日常と地続きの別世界”をテーマに、日常生活における些細な“生きにくさ”に焦点をあてて普遍的で等身大な人間模様を描き、その背景に“やや非日常な設定”を盛り込むことで独自の世界観を展開。また劇場空間に限らず、野外やギャラリーなどさまざまな空間で、その空気感を生かした作品作りを試みてきた。

『南国プールの熱い砂』は、青山円形劇場を南国のリゾートホテルに仕立て、そこで繊細なタッチで展開される等身大で、時にミステリアスでほろ苦い青春群像劇が、多くの人の感動を与え、青山円形劇場初進出とは思えない大きな反響を呼んだ。

innerchildは、NODAMA P、劇団☆新感線などで客演としても精力的に活躍している小手伸也（主宰・脚本・演出）が平成10年（98年）に旗揚げした。『PANGEA』は、解離性同一性障害（多重人格）の症状と治療過程を、数億年周期で分裂と統合を繰り返す地球大陸になぞらえて描く、一人の多重人格者を巡る物語。登場人物全員が一人の人間の一人格という、今までに無いスタイルでこの病理にまつわる心理世界を描写し、大変な好評を得た。

本年度は、ともにレベルの高いものとなった。Aoyama First Actも各方面に広がりを見せ、趣旨に賛同する人々からさまざまな協力を得られるようになってきた。『南国プールの熱い砂』は、制作会社の協力を得て平成18年度に再演が決定している。これからもこのシリーズを通じて、さまざまな個性を展開させるとともに、演劇界に新たな枠組みを生み出すべく努力したい。

○南国プールの熱い砂＝作・演出：桑原裕子／出演：田村友佳、桑原裕子、成清正紀ほか／主催：KAKUTA／提携：こどもの城劇場事業本部

○PANGEA（パンゲア）＝作・演出：小手伸也／出演：古澤龍児、菊岡理紗、真柄佳奈子、前田剛、小手伸也ほか／/主催：innerchild／提携：こどもの城劇場事業本部

■青山円形劇場＆玉川大学芸術学部 提携公演
舞踊詩「お春の夢」

平成15年6月のミュージカル『ドリーミングボーイ』公演（青山円形劇場）から“劇学提携事業（劇場と大学とのコラボレーション）”としてスタート。青少年の健全育成をめざす〔こどもの城〕と、舞台芸術分野の人材を育成し、幼・小・中・高・大学と一貫制教育を行っている玉川大学が連携した。次の時代の文化を担う青少年育成のための新しいタイプの連携事業で、それぞれの知識・技術的資源をもって連携・交流し、“開かれた劇場”と“開かれた大学”のこれからのあり方を両者がそれぞれに模索して継続的に取り組んでいる。

第3回となる今回は、日本各地に根づいた独自の舞踊を、生演奏・歌・芝居とともに円形舞台で繰り広げ、より“生”の日本を、そこに生きる人間の温かさとひたむきさを表現していく舞台に、これからの芸術文化を担う若者たちが全力で挑戦した。

〈主催・企画制作〉玉川大学芸術学部／こどもの城
〈構成・演出〉小山正（いさぶろう）（玉川大学）
〈出演・振付・演奏・製作〉玉川大学芸術学部学生
〈スタッフ〉舞台装置：佐藤千啓（4年）／照明：水頭友佳子（4年）／音響：荻原えれな（3年）／音楽：高瀬文（4年）／衣装：加賀彩乃（4年）／舞台監督：岩渕幸恵（4年）／制作：神前玲未（3年）
〈監修・指導〉こどもの城劇場事業本部／玉川大学芸術学部パフォーミング・アーツ学科

■こどもの城開館20周年記念「ヴィクトリア」
supported by ケフィア倶楽部

夢があたえてくれるもの……すべての瞬間が再出発のチャンス。90歳の主人公ヴィクトリアおばあさんにとって、車椅子は揺り椅子であり、監獄であり、タンゴを踊るパートナーであり、空飛ぶ馬車……。アルツハイマー症を患いほとんど何もかも失ったヴィクトリアに残されたものは、気まぐれな想像力だけ。「生きるも死ぬもなかなか難しい。でも一瞬一瞬が人生」と、悲劇的かつ喜劇的な現実に立ち向かう年老いたヴィクトリアはやさしく愛らしい。

劇場、映画、音楽、ミュージカルの振付家、女優として活躍するマルチアーティスト、デュルシネア・ラングフェルダーが90歳の老女ヴィクトリアを演じた。チャップリンやバーンズ・アンド・アレンなどの名作喜劇に彼女らしいひねりを加えた、デリケートでほろ苦いヒューマン・シアター。日本語字幕付き。1999年フランス語で初演後、カナダ、米国、欧州、南米の各地でそれぞれ英語、フランス語、スペイン語で上演。各地で賞賛されている。

カナダ・ケベック州は、世界から注目を浴びるオリジナルな舞台芸術の秀作を生み出す宝庫と称されている。ケベック州政府在日事務所設立30周年にあたる2003年夏、青山劇場とケベック州政府在日事務所は、ケベック州のダンス、演劇、人形劇、マルチメディアアーツなど、数々のオリジナル作品を『ケベック・ア・トーキョー（ケベック文化週間）』として紹介。その際に日本で初演し好評を博した『ヴィクトリア』の再演。高円宮妃殿下に御臨席いただき初日を迎えた青山円形劇場公演の後、名古屋（7月13日：名古屋市天白文化小劇場）、京都（15日：京都府立府民ホール・アルティ）、神戸（18日：神戸アートビレッジセンター）で巡演した。

〈原案・原著〉シャルル・ファリアラ
〈日本語訳〉盛口弥生
〈出演〉ヴィクトリア：デュルシネア・ラングフェルダー／介護士：エリック・ジングラ
〈スタッフ〉振付：デュルシネア・ラングフェルダー／装置・照明デザイン：アンナ・カプルート／電子アコースティク音楽作曲：クリスティアン・カロン／ビデオ：イヴ・ラベル／ビデオ上映コンサルタント：ジミー・ラカトス／演出指導：マリーズ・ピジョン／介護士の演出：レアル・ボス／芸術監督：デュルシネア・ラングフェルダー／制作総括：カトリーヌ・ドゥボスト／製作ディレクター：エリック・ジングラ／技術ディレクター：ヴァンサン・サンテス・ゴンザレス／制作：シルヴィー・マルテル／音響：ダニス・ルヴァッサー／映像技術：サチュナン・ゴワイエ，


『ヴィクトリア』

エリック・ラピエール／エージェント：John Lambert & Assoc
〈主催〉こどもの城（青山円形劇場）／ケベック州政府在日事務所／TBS
〈特別協賛〉ケフィア倶楽部
〈助成〉ケベック・カウンシル／カナダ外務・国際貿易省
〈協力〉Q−FRONT／コムスン
〈日本側スタッフ〉テクニカルコーディネート：中嶋 英樹（こどもの城・青山円形劇場）／照明コーディネート：片田 光彦（青山円形劇場）／音響コーディネート：武藤 一郎（青山円形劇場）／舞台監督：小野 哲史／照明：小山田 忠史、加藤 学、石橋 健二郎、篠木 一吉、豊田 恵治／舞台監督助手：中原 和彦、大津 英輔、山田 祥子／制作・通訳：浜口 彩子／プロデュース：小野 晋司(こどもの城劇場事業本部)

■月猫えほん音楽会2005
えほん×ジャズ＝めちゃ² 楽しいシアターライブ

“絵本”と“読み聞かせ”の持つ魅力を新しい側面から取り上げた企画で、親子（小学生）を対象とした招待公演。

内容は、大きな月（スクリーン）に絵本を映しながらの読み聞かせと、ジャズ・ピアノの即興演奏を組み合わせた、絵本とジャズとのセッションライブ。さらにパントマイムを加え、観客参加で作るシーンなど、他に類を見ない画期的なステージを展開した。また、希望する観客には、フェイス・ペインティングで猫に扮し、“猫道”と呼ぶ長いトンネルをくぐり抜けて入場するなど、さまざまな趣向で生の楽しさを演出することに成功した。

近年、“絵本”と“読み聞かせ”の魅力が注目され、いろいろなところで取り上げられている。その理由のひとつには、何かと暗い世相のなかで絵本の持つ美しさと奥深さに人々が改めて目を向け始めたからであり、親子のコミュニケーション不足が指摘される中、絵本の読み聞かせがそれを深めるのに役立つと多くの人が気づいたからではないだろうか。

『月猫えほん音楽会』は平成11年（99年）に始まり、今年で7回目を迎えた。毎回たくさんの応募があり、今回は定員1,750人のところ約2,535世帯7,639人の応募数となった。

〈出演〉佐山雅弘（ピアノ）、波多雅子（進行）、本多愛也（パントマイム）、能祖将夫（朗読）
〈スタッフ〉演出：吉澤耕一／構成：能祖将夫／美術：小竹 信節
〈協力〉東京動物園ボランティアーズ
〈主催〉（財）こども未来財団、（財）児童育成協会

■こどもの城開館20周年記念「日韓友情年2005」記念
K−Jダンスフェスティバル／平成17年度文化庁国際交流支援事業

○日韓ダンスコンタクト〜日韓の若い才能たちの出会い〜

日韓の劇場間ネットワークとして、2003年にスタート。青山円形劇場（日本）とシアターゼロ（韓国）とが共同で公演を企画・制作。毎年両都市で開催し、若手アーティストの作品上演の機会・アーティストコミュニケーションの場を創出している。アーティストは、ソウルと東京で連続して作品を上演。これまでに、黒田育世、ユン明希、岡本真理子などが参加している。今回は、昨年のソウル公演に参加したアーティストを中心に、日本からは森下真樹、高野美和子、JOU、康本雅子が参加。さらに、昨年初の試みとして共同制作を行い好評を得た、イ・キョンウンと斎藤栄治による作品の日本初演を行った。

〈演目・出演〉
9月27日＝「そのまま」（振付・出演：イ・ユンジョン）／「眠れないマクベス」（振付・出演：ユン・スンヘ）／「二足動物」（振付・出演：ユ・ソンシク）／「デビュタント」（振付・出演：森下真樹）／「fragment vol. 4」（振付・出演：高野美和子）
29日＝「空」（振付・出演：ハン・ヒョリム）／「sunrise, sunset」（振付・出演：イ・ジウン、イン・ジョンジュウ）／「Hanabi」（振付・出演：JOU）／「トランジット・ズット」（振付・出演：康本雅子）／「SAI−間−」（振付・出演：イ・キョンウン、斎藤栄治）
〈スタッフ〉舞台監督：川上大二郎／照明：アイカワマサアキ、光野直美（ライトシップ）／音響：武藤一郎（青山円形劇場）／舞台技術コーディネート：中嶋英樹（青山円形劇場）／インターン協力：玉川大学芸術学部／通訳：李周伊／宣伝デザイン：藤森文胡（undo）／制作：小野晋司（青山円形劇場）、平岡久美（Dance in Deed!）、李周伊、木村典子、ハン・ヨンベ／統括：高谷静治、シム・チョルジョン（シアターゼロ）
〈主催〉（財）児童育成協会（青山円形劇場）／シアター・ゼロ／日韓ダンスコンタクト実行委員会
〈後援〉駐日韓国大使館 韓国文化院

○コリアンダンスミュージアム〜日韓ダンス交流と韓国ダンスのいま〜

韓国舞踊界パイオニアであるユック・ワンスン女史は、韓国女性として初めてアメリカの専門大学および舞踊団に留学し、帰国後は韓国初の大学舞踊学科（梨花女子大学）を創設して指導者に就任。以来、アメリカ現代舞踊を韓国に紹介するとともに、自身の活動のほか、若い才能の発掘・後進の育成に務めている。

その系譜からは、自国はもとより国際的に活躍する人材が育っている。ヨーロッパ、北米などのカンパニー活動に参加したり、バニョレ国際振付賞グランプリ受賞者などを輩出。本プログラムでは、現在の韓国ダンスを牽引し国際的にも活躍する振付家10人の作品を一挙に紹介した。

〈演目・出演〉
10月1日＝「シルクロード」(振付：ユック・ワンスン)／「Farewell Image」(振付・出演：キム・ユンジョン)／「決定的な瞬間」(振付・出演：キム・ソンハン)／「Being Involved」(振付・出演：キム・ウォン)／「Exchange」(振付：キム・ヨンジン)
3日＝「Fashion」(振付：チョン・ミョンジ)／「Underground People」(振付：チェ・キョンシル)／「On Time」(振付：アン・エスン)／「The Edge」(振付・出演：リュウ・ソッフン)／「Red」(振付・出演：ジャン・ウンジョン)
〈スタッフ〉舞台監督：川上大二郎／照明：キム・チョリ、片田光彦（青山円形劇場）／音響：武藤一郎（青山円形劇場）／舞台技術コーディネート：中嶋英樹（青山円形劇場)／インターン協力：玉川大学芸術学部／通訳：李周伊、木村典子／宣伝デザイン：藤森文胡(undo)／制作：小野晋司(青山円形劇場)、平岡久美(Dance in Deed!)、李周伊／協力：高谷静治／総芸術監督：ユック・ワンスン
〈主催〉(財)児童育成協会(青山円形劇場)／(社)韓国現代舞踊振興会
〈助成〉韓国国際交流財団
〈後援〉駐日韓国大使館 韓国文化院

■こどもの城開館20周年記念
DEBUT 15th ANNIVERSARY YEAR VOL.2〈秋・冬編〉
ROLLY Glory Rolly～進化するローリー、退化するロウリー、変化するRolly～

2004年の『ア・ラ・カルト』公演でゲスト出演し、多くの観客を魅了したエンターティナー、ROLLYによるデビュー15周年を記念したコンサート。ジャンルを問わず多種多様な音楽を取り入れ、自分ならではの音世界を追求してきたROLLYが、『ア・ラ・カルト』で出会った音楽家、中西俊博を音楽監督に迎え、ジャズを軸にした新しいROLLYミュージックを展開した。ロックバンド“すかんち”時代の曲もフレンチ・ジャズ風のアレンジでよみがえり、昔ながらのファンも新しい観客もその軽やかでユニークな世界に酔いしれた。ROLLYと中西俊博という、一見畑違いな二人の音楽家のセッションで、青山円形劇場の空間が濃厚で上品な音のシャワーで満たされた。
〈スタッフ〉演出：小池竹見／音楽監督：中西俊博
〈出演〉ROLLY(Vocal・Guitar)／中西俊博(Violin)／クリス・シルバースタイン(Bass)／楠均(Percussion)／林正樹(Piano)
〈共催〉ソニー・ミュージックアーティスツ
〈後援〉ソニー・ミュージックダイレクト、TBSラジオ
〈宣伝協力〉フリップサイド
〈制作協力〉ミュージックハウス・モズ

『胎内』(撮影：加藤　孝)



■こどもの城開館20周年記念　青山円形劇場＋ゴーチ・ブラザーズ共同プロデュース公演「胎内」

青山円形劇場の空間を自在に使いこなす演出家・鈴木勝秀と、役者として青山円形劇場に初めて立つ阿佐ヶ谷スパイダース主宰の長塚圭史。初顔合わせの2人が選んだ作品は、戦中戦後に活躍した劇作家・三好十郎の『胎内』。扉が開かなくなった防空壕を舞台に、極限状態に置かれた人間の本性を暴いていく作品である。

終戦直後の、生きることへの意識がとても高かった時代を描いたこの作品は、戦後60年経った現代にまん延している無気力で閉塞的な感のある我々に、警鐘を鳴らしているように思えてならない。今回、奥菜恵、長塚圭史、伊達暁という若い刺激的な3人が演じることで、多くの観客に、さらに創り手である我々も、この厳しいテーマを正面から受け止めることになったと思う。
〈作〉三好十郎
〈演出〉鈴木勝秀
〈出演〉奥菜恵、長塚圭史、伊達暁

■こどもの城開館20周年記念
日本におけるドイツ2005／2006「ドイツのダンス－新しい世代」～多様と多面そして変容～
平成17年度文化庁国際芸術交流支援事業

今、ドイツのコンテンポラリーダンスがおもしろい。ポスト・モダニズムや冷戦の終結を経た現代の文化は、その地政学的な中心を消失した。世界のダンスシーンに鮮烈なインパクトをあたえた1980年代のピナ・バウシュやウィリアム・フォーサイスに続いて、1990年以降のドイツのコンテンポラリーダンスシーンは、ベルリン、ハンブルク、フランクフルトなど大都市の非公立の劇場や、タンツプラットフォルムをはじめとするフェスティバルにその舞台を移した。担い手は、若いフリーの振付家、ダンサーたち。また、EUの統合を背景に、国境を越えて拡大した劇場やフェスティバルのネットワークは、もともと外国人のアー

ティストたちにオープンなドイツでは、彼らにいっそう活躍の場、活動の拠点を提供することになった。

今回の「ドイツのダンス ― 新しい世代」は、日本におけるドイツ年を記念して、現在、欧米で最も活況を呈しているドイツのコンテンポラリーダンスを、その広がりのまま、初めて紹介するプログラム。

○Aプログラム『バック・トゥー・ザ・プレゼント』（コンスタンツァ・マクラス、ドーキーパーク：ベルリン）

〈演出・振付〉コンスタンツァ・マクラス

〈クリエーション・出演〉クヌート・ベルガー、ダイアン・ブスティル、ジョリス・カメリン、ニル・デーヴォルフ、ジル・エマーソン、クラウス・エルプスコーン、ジャレド・グラディンガー、アリー・ハユット、イワサ・ヒロミ、マイケ・メラー、ラヘル・サボルデリ、デーヴ・テイラー、イェリ・アナリカ・バガス・サンチェス

〈スタッフ〉ドラマツルギー：カルメン・メーナート／衣裳プラン：ギルバン・コエルホ・デ・オリビエラ／舞台装置プラン：パトリス・ウィニエフスキ／音楽：クラウス・エルプスコーン、アリー・ハユット／映像：ケヴィン・スラヴィン、コンスタンツァ・マクラス／マネジメント：アンティエ・パプケ／技術監督・照明：ヨルク・ビットナー／音響：シュテファン・ヴェーマン／舞台監督：アントン・ルカス／衣裳：ユリア・ヴァイス

○Bプログラム『自分のこだわり』（アンティエ・プフントナー：ハンブルグ）

〈振付・出演〉アンティエ・プフントナー

〈スタッフ〉音響デザイン：デイトン・アレマン／舞台装置・衣裳：ザビーネ・コールシュテット／照明：H.W.アーレンス／技術監督：クリスチャン・ゼリン／マネジメント：ウルズラ・タイヒ

○Cプログラム『モノ・サブジェクツ』（トーマス・レーメン：ベルリン／初演：2001年4月5日、ベルリン・ダンス工房）

〈コンセプト・振付〉トーマス・レーメン

〈振付・音楽・出演〉マリア・クララ・ヴィラ・ロボス、ガエタン・ブーラーデ、トーマス・レーメン

〈スタッフ〉アシスタント：メラニー・モーレン／ビジュアル・デザイン：カトリン・ショーフ／技術監督：ゲーツ・ディールマン／アーティスティック・アドバイザー・製作：ペトラ・ロッジェル／制作：トーマス・レーメン、ペトラ・ロッジェル

※各公演初日にポスト・パフォーマンス・トーク開催。

○ダンスフォーラム「ドイツのダンス―新しい世代」

〈パネリスト〉高谷静治（フェスティバルディレクター）、副島博彦（舞踊評論家）、貫成人（舞踊評論家）

〈開催日〉11月11日

〈会場〉こどもの城研修室

○トーマス・レーメン ダンスワークショップ

〈開催日〉11月14日

〈対象〉ダンサー、ダンスに関心を持つパフォーマー

〈主催〉（財）児童育成協会（青山円形劇場）、東京ドイツ文化センター、ドイツダンス05上演実行委員会（高谷静治／副島博彦／貫成人／岩淵多喜子）

〈スタッフ〉舞台技術総合コーディネート：中嶋英樹（青山円形劇場）／照明コーディネート：片田光彦（青山円形劇場）／音響コーディネート：武藤一郎（青山円形劇場）／舞台監督：原口佳子／舞台監督助手：鈴木康郎、酒井詠理佳、小野哲史／通訳：浜口彩子／制作助手：川崎陽子／制作：小野晋司（こどもの城劇場事業本部）、平岡久美（Dance in Deed!）

■こどもの城開館20周年記念　青山円形劇場プロデュース

ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン

クリスマスの時期を迎えた老舗のレストランの開店から閉店までを、ショートショートの芝居とバイオリニストの中西俊博を中心としたバンドマンの生演奏でつづる「ア・



『自分のこだわり』（「ドイツのダンス―新しい世代」から）



『ア・ラ・カルト』（撮影：北村光隆）

ラ・カルト」は、役者と音楽家が一体となって創り上げるしゃれたエンターテインメントショーとしてすっかり定着している。

17年目の今回は、ゲストにフランス人のミュージシャン、パトリック・ヌジェを迎え、フレンチレストランでフランス人の客が繰り広げるおかしくもおしゃれな話を展開した。ショータイムでは、パトリックがアコーディオンやトランペットを演奏し、バンドメンバーと意気投合しながらも新鮮な空気が流れる素敵なショーになった。

全27ステージが完売し、約9,300人を動員した。大阪公演も大阪ビジネスパーク円形ホール(旧ＭＩＤシアター、12月29～31日)で4ステージ行い、年末の大阪をにぎわせた。

〈スタッフ〉演出：吉澤耕一／構成：白井晃／台本：高泉淳子／音楽監督：中西俊博

〈出演〉高泉淳子、白井晃、陰山泰 ＋ パトリック・ヌジェ(ゲスト)、中西俊博、クリス・シルバースタイン、竹中俊二、林正樹

〈協賛〉キリンビール株式会社、富士通株式会社

〈制作協力〉遊機械オフィス、ミュージックハウス・モズ

〈大阪公演主催〉関西テレビ放送、株式会社ハートス、キョードー大阪

■こどもの城開館20周年記念

第18回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「とびこむ絵本Ⅴ～くるくるグリムのおかしな家～」

オリジナルの童話を、歌やバレエ、生演奏でつづるお正月恒例のファミリーオペレッタ。〔こどもの城〕のスタッフで創作するこの作品は、今年で18回目を迎え、大人も子どもも楽しめるファミリー向け公演として、常に高い人気と安定した動員を保っている。

上演は、第14回からとなる『とびこむ絵本』シリーズ第5弾で、今回が最終回。絵本「ぷっかりタウン」に住む天使たちと、その世界に飛び込むことができるクルクルが巻き起こす物語。第5弾は「ヘンゼルとグレーテル」のおはなしがキーワード。

大好きな友だちがいる、大好きな街から引っ越すことになってしまった女の子が、くるくるとぷっかりタウンの天使たちを巻き込んで、大騒動を起こす。ぷっかりタウンでの冒険や別れをとおして、一人の女の子が成長していくようすをていねいに描いた。

また、シリーズとおしてのテーマを“絵本の読み聞かせ”とし、親と子が語り合うこと、ふれあうことの大切さを考えた。温かで楽しい登場人物たちが繰り広げる童話の世界と、観客参加型の演出により、観客を物語の中に引き込み、子どもだけでなく大人からも多くの反響を得ることができた。今後も、現代社会では忘れられがちな心の豊かさ、大切さを感じとれるような良質な舞台作品を創作し、より多くの人に提供したい。

なお、この作品は、厚生労働省社会保障審議会児童文化財に選定された。

〈脚本〉山下哲

〈演出〉高谷静治

〈出演〉オペラクリエーション・イン・青山、こどもの城児童合唱団、平多正於舞踊研究所、岸辺バレエスタジオほか

〈共催〉キリン福祉財団

■こどもの城開館20周年記念　デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration青山本場所

“音楽で語り、朗読で歌う”朗読パフォーマンス、邦楽の古典から現代曲、洋楽器と競演する古典曲そして邦楽器で味わう洋楽……他のどこでも見ることのできない、アートとエンターテインメントの絶妙なバランスにより、邦楽の既成概念を打破し続けるCollaboration シリーズ。邦楽のトップアーティストたちとデーモン閣下＆黒船バンドが向き合い、従来の音楽の枠にとらわれることなく、真摯な編曲と稽古を経て競演を展開、日本の音楽の可能性をさらに追求する公演。邦楽啓発プロジェクト“デーモン小



『とびこむ絵本Ⅴ～くるくるグリムのおかしな家～』



『デーモン小暮の邦楽維新 Collaboration青山本場所』

暮の邦楽維新Collaboration”シリーズ第14～16弾の公演となった。

○絢爛の巻（1月27～29日）

〈出演〉デーモン小暮閣下（朗読・歌唱）、木乃下真市（津軽三味線）、田中悠美子（義太夫三味線）、黒船バンド（松崎雄一：編曲・キーボード／雷電湯澤：ドラムス／石川俊介：ベース）

○開国の巻（1月31～2月1日）

邦楽維新Collaborationシリーズ実験の中の実験。朗読を英語で行った。

〈出演〉デーモン小暮閣下（進行・朗読）、吉永真奈（箏・十七絃箏）、高橋佳子（地唄三絃・箏）、久本桂子（十七絃箏）、三橋貴風（進行・尺八）

○風狂の巻（2月3～5日）

〈出演〉デーモン小暮閣下（朗読・歌唱）、三橋貴風（尺八）、福田千栄子（箏・三絃）、黒船バンド（松崎雄一：編曲・キーボード／雷電湯澤：ドラムス／石川俊介：ベース）

〈主催〉（財）児童育成協会・こどもの城

〈協賛〉株式会社宮本卯之助商店、財団法人ヤマハ音楽振興会

〈制作協力〉吉本興業株式会社

〈スタッフ〉プロデュース：三橋貴風／舞台監督：山村唯史（Waltz）／照明：雑賀博文（ステップアップ）／音響：渋谷博（オフィスクロコ）／宣伝デザイン：藤森文胡（undo）／制作協力：小田島明博（吉本興業）、宮田大輔（吉本興業）／制作：小野晋司（こどもの城劇場事業本部）

■こどもの城開館20周年記念　青山円形劇場オブジェクトシアターvol.9「KOUSKY III」～「モノ」と「ヒト」と「オト」の不思議空間～沢則行 Meets 中西俊博

“オブジェクトシアター”とは、人形だけではなく、さまざまな“モノ（オブジェクト）”や仮面や俳優自身（肉体）も舞台に登場し、総合的に作品を作り上げる方法で、チェコやポーランドで生まれ、世界に広がっている新しい舞台様式。フィギュアシアターとも呼ばれ、衝立の影に隠れて人形を操るパペットシアター（いわゆる人形劇）とは異なる表現方法。

『KOUSKY』とは、部品・部分を意味するチェコ語の複数形。ここでは、チェコを拠点に活躍している人形劇作家・沢則行の小作品集のことで、いくつかの短編作品を中心に構成されている。

今回はOHPの投射による影絵の新作『桜の園』も上演され、人形の魔術師・沢則行とバイオリン（音）のファンタジスタ・中西俊博とのコラボレーションが、人形が音楽を、音楽が人形の動きを引き出し、前回にも増しておしゃれで美しい舞台になった。

初めて沢則行のオブジェクトシアターを見た人は、これが人形劇？　と思うかもしれない。それは、人形や仮面やオブジェという生命の無い“モノ”と生命を持つ沢という“ヒト”によるせりふの無い芝居だから。そこにバイオリニスト・中西俊博の即興的な“オト”が加わることで、摩訶不思議な舞台空間が見事に現出された。

公演アンケートから、観客の声を抜粋する。

・人形劇というカテゴリーにとらわれない、いろんな可能性を感じたステキな舞台でした。

・人形劇・影絵ははじめてです。感激しました。小さな世界に、どうしてか大きさを感じます。日本にあまりないのはなぜでしょうか。子どもに早くから見せたいと思います。

・想像していたものとちがいました。びっくりしました。笑いました。泣きました。驚きました。

・人形劇と聞いていたので、はじめは「なんだこれ」とびっくり。でも、だんだん独特の世界に引きこまれてしまいました。

・パンフレットにある「モノ」による新しい表現の意味が、沢さんの劇を拝見してわかりました。

・魔法のかかった空間に来れた気分でした。

■こどもの城開館20周年記念　中西俊博Leap ingbow2006～音の実験室～

メロディーメーカーとして人気の高いバイオリニスト・中西俊博が、“音の実験室”をテーマにメロディーを捨てて音そのものを追求する実験的なコンサートを行った。メロディー楽器と言われているバイオリンだが、既成の枠にとらわれずにリズム楽器のように弾いたり、5弦バイオリンやエレクトリックバイオリンを駆使して、バイオリンの可能性を広げた演奏を試みた。バンドメンバーも互いのリズムの変化に瞬時に合わせながら、音の応酬で白熱した絶妙なサウンドを聴かせてくれた。スペシャルゲストとして参加したタップダンサーの熊谷和徳とのタップとバイオリンのキャッチボールも、次の展開の予想がつかない刺激的なセッションだった。今回は聴くというより観客に体感してもらうコンサート。ステージ上で繰り広げられているセッションの熱いエネルギーが強く伝わるものだった。

〈演出〉吉澤耕一

〈出演〉中西俊博（Violin）、長尾行泰（Guitar）、奥山勝（Piano）、クリス・シルバースタイン（Bass）、佐藤正治（Percussion）、井内求生（Keyboard／Program）

〈スペシャルゲスト〉熊谷和徳（Tap）

〈共催〉ミュージックハウス・モズ

平成17年度公演演目一覧表

1．青山劇場

名　　称	日　　時	回数	料　　金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈自主・提携公演〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
青山太鼓見聞録	10.26 (1)	1	S＝4,000／A＝3,500	1,200	1,033	86.1	
クリスマスの贈物（オフィス☆ダム）	12.26 (1)	1	A＝4,000／B＝3,500	1,192	787	66.0	
ファニーレディⅢ（オフィス・イレブン）	H18.2.28 (1)	1	8,000	1,156	965	83.5	
（自主・提携公演　小計）	(3)	3					
〈貸し館〉							
ブロードウェイＧＡＬＡコンサート2005（フジテレビ）	4.1～3 (3)	3	S=12,000／A＝10,000	3,468	2,837	81.8	
「甘い人生」試写会（日本ヘラルド）	4.7 (1)	1	無料	1,164	1,014	87.1	
林英哲コンサート（遥）	4.15～17 (3)	3	6,500	3,464	2,963	85.5	
アニー（日本テレビ）	4.18～5.8 (21)	25	S=7,800／A＝5,800	27,825	24,308	87.4	
クラウディア（アミューズ）	5.10～31 (22)	20	S=10,500／A=8,500／サイドシート=5,250	22,864	19,679	86.1	
THE BOY FROM OZ（フジテレビ）	6.4～27 (24)	27	SS=12,000／S=11,000／A=9,500／立見=8,000	33,544	27,169	81.0	
少年隊PLAYZONE 2005（ジャニーズ事務所）	6.29～8.4 (37)	37	S=15,000／立見=13,000	40,640	39,117	96.3	
THE PRODUCERS（フジテレビ）	8.8～31 (24)	27	SS=12,000／S=11,000／A=9,500／立見=8,000	30,132	28,326	94.0	
吉原御免状（ヴィレッヂ）	9.1～10.5 (35)	32	S=10,500／A=8,400／Z=5,500／立見=5,000	38,240	36,262	94.8	
眠らない音（東宝）	10.6～16 (11)	11	S＝10,000／A＝7,500	12,865	10,907	84.8	
島田歌穂コンサート（K－Links）	10.21～23 (3)	2	8,000／立見=5,000	2,390	2,296	96.1	
すがはらやすのりコンサート（すがはらやすのり音楽事務所）	10.25 (1)	1	6,500	1,156	1,040	90.0	
リトルショップ・オブ・ホラーズ（ホリプロ）	10.29～11.27 (30)	29	S＝10,000／A＝8,500	33,524	25,600	76.4	
エビ大王（RUP）	12.2～11、13～23 (21)	16	S=8,500／A=6,500	18,284	14,625	80.0	
アニー・クリスマス・コンサート（日本テレビ）	12.24・25 (2)	4	S=5,500／A=4,500	4,696	4,475	95.3	
サクラ大戦新春歌謡ショウ（レイネット）	12.27～29、H18.1.3～8 (9)	7	SS=9,000／S=7,000／A=4,000／ファミリー=12,000	7,996	6,897	86.3	
新成人を祝う会（渋谷区）	1.9 (1)	1	無料	1,042	793	76.1	
中島みゆき　夜会（エピキュラス）	1.10～2.26 (48)	22	S=20,000／A=18,000／当日＝18,000	23,056	21,933	95.1	
ザ・ビューティフル・ゲーム（フジテレビ）	3.22～31 (10)	5	SS=12,000／S=11,000／A=9,500／補助席=12,000	5,810	5,414	93.2	4.15まで続演
（貸し館　小計）	(306)	273					
（青山劇場　合計）	(309)						

2. 青山円形劇場

名　称	日　時	回数	料　金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈自主・提携公演〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
Aoyama First Act #6 「南国プールの熱い砂」　(KAKUTA)	5.9～15 (7)	7	3,500 (前売3,000) ／リピーター＝1,500	1,662	1,517	91.3	
創作舞踊詩お春の夢　(玉川大学)	6.6～12 (7)	8	2,000 (前売1,800)	1,616	1,506	93.2	
礎　(劇団ダンダンブエノ)	6.20～7.1 (12)	11	5,250	4,128	3,424	83.0	
ヴィクトリア	7.5～10 (6)	5	4,000	969	648	66.9	
月猫えほん音楽会2005 (こども未来財団)	7.21～24 (4)	5	無料	1,750	1,468	83.9	
ワニのジャックがやってきた！ (オペラクリエイション イン 青山)	9.21～25 (5)	5	2,800	1,757	1,363	77.6	
J－Kダンスフェステバル2005	9.26～10.3 (8)	4	3,500	846	561	66.3	
リドル　(少年社中)	10.4～9 (6)	6	3,300 (前売3,000)	1,705	1,363	77.6	
ROLLY Glory Rolly	10.10～13 (4)	4	7,000	1,402	1,314	93.7	
ダンス狂言ハムレット　(上田遥)	10.14～16 (3)	4	6,000	916	694	75.8	
胎内	10.17～30 (14)	13	5,800 (前売5,500)	4,805	4,020	83.7	
ドイツのダンス　新しい世代	11.2～13 (12)	7	4,500 (前売4,000)	908	644	70.9	
ア・ラ・カルト	11.28～12.11、 12.13～26 (28)	27	6,800	9,737	9,070	93.2	
キリンファミリーオペレッタ 「とびこむ絵本 V」　(キリン福祉財団)	12.27～29、 H18.1.3～9 (10)	12	2,800	4,260	3,980	93.4	
デーモン小暮の邦楽維新　青山本場所	1.26～2.5 (11)	11	5,500／4,000	2,694	2,335	86.7	
KOUSKY III 沢則行 meets 中西俊博	2.9～12 (4)	4	4,500 (前売4,000)	952	802	84.2	
南の島のティオ 3　(ムージャック)	3.1・2 (2)	2	大人＝5,000 (前売4,500)／ 学生＝2,500 (前売2,000)／ 親子ペア＝6,000 (前売5,500)	656	441	67.2	
中西俊博 Leapingbow 2006	3.3・4 (2)	2	6,500 (前売6,000)	574	500	87.1	
Aoyama First Act #7「パンゲア」 (インナーチャイルド)	3.5～13 (9)	9	3,500 (前売3,200) ／リピーター＝2,000	1,516	1,268	83.6	
EAST DRAGON　(オフィスダム)	3.14～16 (3)	3	3,500	425	250	58.8	
光の帝国　(少年社中)	3.21～28 (8)	8	3,300 (前売3,000)	1,592	1,298	81.5	
(自主・提携公演　小計)	(165)	157					
〈内部利用〉							
こどもフォーラム＆サウンドメッセージ こどもフェスティバル	5.2～5 (4)	4	無料 (入館券対応)	1,572	840	53.4	企画研修
マタニティ・コンサート	7.2・3 (2)	1	無料	330	241	73.0	小児保健
キンダーフィルムフェスティバル2005	8.9～14 (6)	21	無料(一部有料＝大人1,000 ／高校生以下500)	5,428	2,880	53.0	企画研修
開館20周年記念シンポジウム	11.1 (1)	1	無料	244	128	52.5	〃
ぼくらのサウンド2006	H18.3.17～19 (3)	6	無料 (入館券対応)	1,500	1,135	75.7	音　楽
(内部利用　小計)	(16)	34					

名　称	日　時	回数	料　金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈貸し館〉	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
原田真二コンサート　(キョードー東京)	4.1～3 (3)	3	6,500	900	725	80.6	
猫と庄造と二人のおんな　(RUP)	4.5～17 (13)	13	5,000 (前売4,800)／エコノミー席＝2,500	4,251	3,582	84.3	
クラムボンツアー '05「てん」(フィリップサイド)	4.18～21 (4)	3	4,725	1,128	1,053	93.4	
エスケープ　(オズエンタテイメント)	4.22 (1)	1	無料	148	99	66.9	
鶴瓶噺2005　(デンナーシステムズ)	4.23～27 (5)	5	4,200	1,869	1,785	95.5	
Namida君　(森山開次公演プロジェクト)	4.28～30 (3)	3	4,500 (前売4,000)／3日券＝11,000／高校生以下＝3,500	901	858	95.2	
PERCUSSIVE MOVEMENT　(梯郁夫)	5.6 (1)	1	4,500 (前売4,000)	299	280	93.7	
届かなかったラヴレター(オズエンタテイメント)	5.7・8 (2)	2	6,500	633	479	75.7	
流れ姉妹～たつことかつこ～　(RUP)	5.17～29 (13)	13	4,500	4,250	3,600	84.7	
水戸華之介ウタノコリスペシャル 円(フリップサイド)	5.31 (1)	1	4,000 (前売3,500)	297	269	90.6	
絵画泥棒　(劇団ステージドア)	6.4・5 (2)	3	2,500	940	825	87.8	
原田真二 with ストリングス(キョードー東京)	6.13・14 (2)	2	7,500 (通し券6,500)	473	430	90.9	
Japan Hand 風の夢～雨の絶望(劇団シアタージャック)	6.15～19 (5)	4	4,500 (前売4,000)	787	627	79.7	
夏まゆみDUNK！DO DANCE！Vol.2(キョードー東京)	7.11～17 (7)	7	5,500	1,812	1,625	89.7	
Creative performance Ⅲ(谷桃子バレエ団)	7.18～20 (3)	2	3,500	410	339	82.7	
かぐやの浦島モモタロウ　(アルゴ)	7.25～8.7 (14)	20	5,000	4,122	3,246	78.7	
エドモンド　(シスカンパニー)	8.16～9.13 (29)	32	6,500	10,517	9,910	94.2	
志茂田景樹と夜子ママ&オアシスガール(オフィスケン)	9.14・15 (2)	5	5,000 (3～12歳＝3,000)	1,012	725	71.6	
彼方へ　めぐりあう七つの風景(アキコカンダ)	9.16～18 (3)	5	4,600	688	653	94.9	
田原総一郎ライブフォーラム(テイクシステムズ)	9.19 (1)	1	無料	300	280	93.3	
松本淳一オトノキモチヒトツナグ(ヤマハミュージックメディア)	9.20 (1)	1	3,000 (前売2,500)	282	218	77.3	
岩戸開喜祭2005　(アゴラシステム)	11.18 (1)	1	5,000	156	73	46.8	
笑福亭鶴瓶落語会　(デンナーシステムズ)	11.19・20 (2)	3	3,800	1,034	963	93.1	
Aloha－1　(鴻池プロダクション)	11.21～23 (3)	3	6,000	842	339	40.3	
ハロルド　(吉本興業/ネルケプランニング)	11.24～27 (4)	5	4,300 (前売3,800)	1,028	851	82.8	
和楽　(MIHYプロデュース)	H18.1.10・11 (2)	2	4,500	400	303	75.8	
浅田信一新春ライブスペシャル(SMA／ディスクガレージ)	1.12・13 (2)	2	6,800 (前売6,300)	693	566	81.7	
井上尭之　I Stand alone(キョードー東京)	1.14・15 (2)	2	6,500	478	362	75.7	
時　(フリークルーズ)	1.19～22 (4)	5	4,000 (前売3,800)	1,129	669	59.3	
アリ to キリギリスのコント HOME(ホリプロ)	1.24・25 (2)	2	3,700 (前売3,500)	564	490	86.9	

名　称	日　時	回数	料　金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
mami dance world ＋−＋ (北村真実)	2.6〜8 (3)	3	4,500 (前売4,000)	532	392	73.7	
ロミオとジュリエット　瓦礫のなかの (オペラシアターこんにゃく座)	2.13〜19 (7)	6	6,000 (前売5,500)	1,560	1,351	86.6	
リゾナンスカルテットリサイタル (リゾナンスカルテット)	2.20 (1)	1	3,000	399	316	79.2	
夜を賭けて　(日本映画学校)	2.21〜27 (7)	5	2,000	1,508	1,202	79.7	
RED×RED SOUL COMPANY vol.15 祭典　(RED×RED SOUL COMPANY)	3.20 (1)	1	7,000	223	215	96.4	
(貸し館　小計)	(156)	173					
(青山円形劇場　合計)	(337)	364					



リン・チャールズのダンスワークショップ (1)

NYMTミュージカルワークショップ





パントマイム・ワークショップ (2)

パントマイム・ワークショップ (1)



3. その他

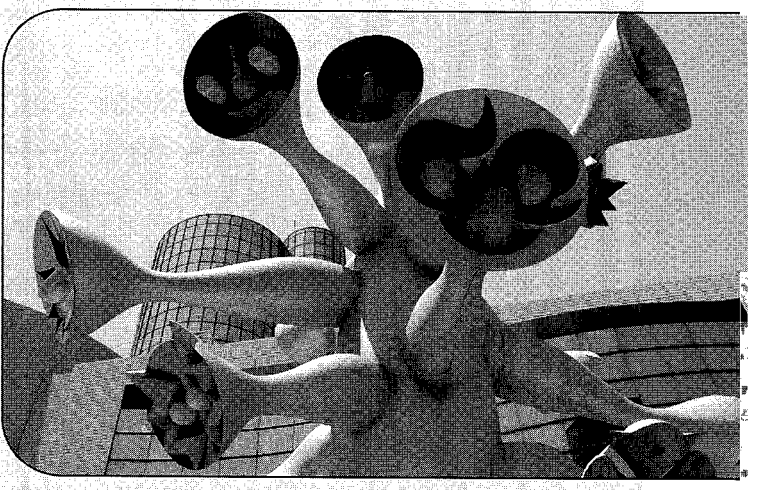
〈青山パフォーミング・アーツ・セミナー2005（APAS） ワークショップ〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
NYMTミュージカルワークショップ（1）、（2）	（人） 12~22歳 （30） （〃）	（人） 27 24	7.24~27 11:00~17:00 7.28~31 11:00~17:00	講師は、マーク・パテンドン（演出家）、トニー・カストロ（音楽家）。 受講料12,000円（4日間）。（Bリハーサル室）
リン・チャールズのダンス・ワークショップ　（1）	4~6歳 （20）	11	8.4~7 11:00~12:15	講師は、リン・リチャーズ。受講料6,000円（4日間）。（〃）
〃　（2）	7~10歳 （25）	14	〃 13:30~15:00	講師は、リン・リチャーズ。受講料10,000円（4日間）。（〃）
〃　（3）	11~18歳 （25）	31	〃 16:00~18:00	講師は、リン・リチャーズ。受講料12,000円（4日間）。（〃）
パントマイム・ワークショップ（1）	（組） 親子ペア （20）	（組） 6	8.12~16 11:30~12:30	講師は、上の空はなび（to R mansion主宰）。受講料10,000円（5日間）。（〃）
〃　（2）	（人） 中・高校生 （20）	（人） 5	8.12、15・16 13:00~17:00	講師は、猪俣哲史（劇団双対天使主宰督）。受講料5,000円（3日間）。（〃）
〃　（3）	一般（大学生以上）（20）	3	〃 18:00~21:00	講師は、猪俣哲史（劇団双対天使主宰督）。受講料8,000円（3日間）。（〃）
〃　（4）	〃 （20）	3	8.13・14 13:00~21:00	講師は、上海太郎（上海太郎舞踏公司主宰）。受講料15,000円。（〃）
〈ダンスフォーラム〉「韓国ダンスの現在」	一般 （40）	36	10.1 14:00~17:00	講師は、石井達朗（舞踊評論家・慶応大学教授）、陸完順（韓国現代舞踊振興会会長）、呉宣明（韓国芸術総合学校講師）、高谷静治（NPO−DAMフェスティバルディレクター）、崔柄珠（首都大学東京講師）。受講料1,000円（研修室）
〈ダンスフォーラム〉ドイツのダンス？新しい世代	〃 （40）	33	11.11 18:30~21:00	講師は、高谷静治（フェスティバルディレクター）、副島博彦（舞踊評論家）、貫成人（舞踊評論家）。受講料5,000円。（〃）
「ドイツのダンス」トーマス・レーメンワークショップ	〃 （20）	16	11.14 15:00~20:00	講師は、トーマス・レーメン。受講料5,000円。（Bスタジオ）
コメディア・デラルテ入門	経験者・一般・学生 （20）	11	H18.2.8~12 10:00~18:00	講師は、光瀬名瑠子。受講料15,000円（5日間）。（Bリハーサル室）
オブジェクトシアター・ワークショップ	一般 （25）	19	2.18・19 10:00~18:00	講師は、沢則行。受講料10,000円（2日間。材料費込み）。（〃）

〈青山劇場プロデュースによるツアー公演〉

公演名称	期間	回数	公演会場(都道府県)
月猫えほん音楽会2005	5.4・5	1	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール（滋賀県）
〃	7.26・27	1	北九州芸術劇場・中劇場（福岡県）
デーモン小暮の邦楽維新	8.20・21	1	三芳町文化会館コピスみよしホール（埼玉県）
ア・ラ・カルト	12.27～31	4	大阪ビジネスパーク円形ホール（大阪府）
KOUSKY III	H18.2.14	1	王子北とぴあ　さくらホール（東京都）

広報部



平成17年度の活動

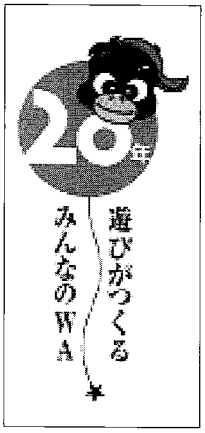
1．はじめに

〔こどもの城〕が開館20周年を迎えたこと、敬宮愛子内親王殿下が年間をとおしてグループ活動を利用されたこと――この2つが、広報の活動に大きく関係する例年と違った出来事だった。

機関紙「こどもの城ニュース」と「事業年報」の編集・発行、特別期間ちらしなどの作成、講座・クラブ一覧の作成、プレスリリース（メディアへの情報提供）の定期送付、館内に掲示する「こどもの城写真ニュース」の作成、夏休み特別期間と新年度の講座・クラブ受講生募集の新聞広告などへの広告出稿――基本となる活動は、マンネリに陥らないように注意しながら例年同様に実施した。

2．開館20周年記念ほか

1985年（昭和60年）11月1日に開館した〔こどもの城〕が、人間でいう成人にあたる20歳の誕生日を迎えることになり、各種の記念事業が実施された。その一環として、20周年であることを広く伝えるために「20周年ありがとう」マークを作成。大小2種類のシールも作成して、名刺や封筒などに張りつけて使用できるようにしたほか、ちらしなどの印刷物を作成する場合に使用してもらうように呼びかけた。



20周年ありがとうマーク（デザイン：コイル）



マークは、「遊びがつくるみんなのWA」という、20周年記念のキャッチフレーズに、20年という文字が入った風船をあしらったもの。〔こどもの城〕のキャラクター“マック・マックロー”入りと“ありがとう”の文字が入りの2パターンで、縦位置と横位置のものをそれぞれ作成した。

敬宮愛子内親王殿下が〔こどもの城〕のグループ活動を利用されたことから、マスコミ等からの問い合せ・取材申し込みが増加した。本年度の取材件数（問いあわせだけのものは除く）は全体で193件（前年度比9件増）で、テレビ・ラジオが26件（同8件増）、雑誌55件（同9件増）となっている。〔こどもの城〕が注目を集めたのは事実であり、「〔こどもの城〕ってなにするところ？」という素朴な疑問に対しては、〔こどもの城〕を知ってもらう良い機会にもなるので、できるだけ対応した。

3．まとめ

広報の仕事というのは、〔こどもの城〕の事業があってはじめて成り立つ。児童厚生施設である〔こどもの城〕が、事業を行おうとしたとき、自己満足に終わらせないためにも、そのことを多くの人に知って欲しい、分かって欲しい、という願いを抱く。そのとき初めて、広報の仕事が生まれるのではなかろうか。“伝えたい”“理解して欲しい”――ものがあるから、外に向かって情報を発信するのである。その方法は、伝えたい情報（内容）、伝えたい対象、伝える

ために必要とされる経費などを総合的に判断して最良のものを選ぶことになる。口コミという前近代的な方法が売り上げ増に寄与するケースもあるので、その判断は難しい。

広報という仕事をするためには、組織のなかで仕事をしながら、外から組織を見ることができる冷静さが要求される。何かを伝えたいと考えたときに、伝えられる側の気持ちになって、どのような伝え方が良いかを考えなければならないからだ。“相手の気持ちになることができる”ことが、意外と大切なのである。

〔こどもの城〕には、伝えていかなければならないものが、まだたくさんある。それを見つけ出して、伝えていくことも広報の大切な仕事であろう。



児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間ちらし（デザイン・クワデザイン）



夏休み特別期間ちらし・ポスター（デザイン・クワデザイン）



冬休み特別期間ちらし（デザイン・コイル）



春休み特別期間ちらし（デザイン・クワデザイン）

平成17年度活動一覧表

名称	日時	内容
「こどもの城ニュース」の編集・発行	毎月15日発行 （1月を除く）	〔こどもの城〕の活動を紹介する新聞形式の機関紙。B3判、表面4色、裏面1色印刷。各号25,000部発行。主な配布先は下記のとおり。 都道府県児童館連絡協議会など（6,350部）／都道府県児童福祉主管課（1,156部）／こどもの城友の会（約1,300部）／渋谷・港区内の保育所、幼稚園、小・中学校（390部）／渋谷区町会ほか（200部）／その他・一般来館児・者など（約15,000部） ◇主な内容◇ 第159号（4月15日号）＝20,000,000人ありがとう ゴールデンウイーク（児童福祉週間）特別期間プログラム 第160号（5月15日号）＝“遊び”から“スポーツ”へ　体育室のプログラム 第161号（6月15日号）＝パフォーミングアーツを身近に体験する 開館20周年プログラム一覧 第162号（7月15日号）＝夢をのせて走れ！　F1カー特別展 第163号（8月15日号）＝めざせ王様!!　チキチキドルッチャランド 第164号（9月15日号）＝ありがとう20周年　開館20周年記念プログラム一覧 第165号（10月15日号）＝全国児童館おりがみ作品展　あそびいろいろ 第166号（11月15日号）＝〔こどもの城〕が20歳になりました 第167号（12月15日号）＝子どもはどこで育つ？～開館20周年記念シンポジウムから 第168号（平成18年2月15日号）＝“生活習慣”を見直す「健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉」 第169号（3月15日号）＝身近な“モノ”使ってスポーツ遊び「スポーツ遊びショップMONO」
「こどもの城写真ニュース」作成・掲示	毎月20日	館内に掲示しているA3判サイズ・カラーの写真ニュース。毎月20日に更新。 4月20日＝パソコン遊び「ポケット手帳」／花よりダンス！ダンスはすんだ？　ほか 5月20日＝時空の旅人～タイムン・トラベルン～／モータースポーツにチャレンジ　ほか 6月20日＝わいわいスタジオ草笛コンサート／FPT親子でチャレンジゲーム　ほか 7月20日＝マタニティ・コンサート／七夕プログラム～天までとどけねがいごと～　ほか 8月20日＝月猫えほん音楽会／ウオーターアドベンチャー「宝さがしの大航海」　ほか 9月20日＝こどもの城20周年記念プログラム～めざせ王様！チキチキ・ドルッチャランド／夢をのせて走れ！F1カー特別展　ほか 10月20日＝サッカーフェスティバル／魔法使いチャンピオンシップ　ほか 11月20日＝こどもの城20周年記念プログラム～ドルッチャタウン～／おりがみカーニバル＆全国児童館おりがみ作品展　ほか 12月20日＝こどもの城20周年記念プログラム～ブルーノ・ムナーリ展～／小児保健セミナー「気になる親へのかかわり方～上手な話しの聴き方・伝え方」　ほか 平成18年1月20日＝2006年新春あそびのお年玉～遊んで笑って福あつめ～／新春もちつき大会　ほか 2月20日＝節分会　大まめまき大会／保育活動展～こどもようPart 3～　ほか 3月20日＝健康スポーツ教室ウオーキングプログラム／ぼくらのサウンド2006　ほか
特別期間のちらし・ポスターなどの作成	特別期間開始日の1か月前	以下の催し案内ちらし・ポスターなどを作成。あわせて英語のちらしも作成した。 ○児童福祉週間（ゴールデンウイーク）特別期間ちらし（A4判／4色×1色／33,000部）） ○夏休み特別期間ちらし（B4判2つ折り／4色×1色／106,000部）、同ポスター（B2判） ○冬休み特別期間ちらし（A4判／1色×1色／21,000部） ○春休み特別期間ちらし（A4判／4色×1色／24,500部） 夏休みのみ、同じデザインのポスターも印刷した（他の期間はちらしを拡大コピーして使用）。英語版もあわせて作成した。
その他のちらし作成		講座・クラブの募集ちらし（2期、3期、夏休み短期講座／B4判・A4判／1色×1色）や土曜日プログラムのちらし、および特別期間の英文ちらしなどを作成した。
こどもの城の案内	H18.3月	〔こどもの城〕の案内を全面改訂。和文200,000部、英文20,000部印刷。
平成18年度講座・クラブ一覧	H18.1月	新年度の講座・クラブ受講生の募集にあわせて、例年同様に一覧を作成した。A3判2ページ（2色）。314,000部印刷。一部を新聞折り込み・ポストインちらしとして使用。

名　称	日　時	内　容
新聞広告		朝日小学生新聞、毎日小学生新聞への定期的な記事広告掲載のほか、特別期間や講座・クラブ受講生募集などの時期に、新聞広告をとおしてPRした。
催し物案内ほか	通年	朝日小学生新聞と毎日小学生新聞に定期的に記事広告を特約掲載。
夏休み特別期間のお知らせ	7.5～8.31	朝日新聞都内各版（全5段ほか）／埼玉少年少女スポーツ新聞（半2段・半3段）／朝日小学生新聞（半2段・全5段）／毎日小学生・中学生新聞（タブロイド3段）／東京新聞・東京中日スポーツ新聞（半5段・全5段）／毎日新聞、読売新聞、日刊ゲンダイ、夕刊フジ、福島タイムス、福島民報（特集広告）
冬休み特別期間のお知らせ	12.8～H18.1.5	朝日小学生新聞（全5段）／毎日小学生新聞（タブロイド3段）／東京新聞（全5段）
平成18年度の講座・クラブ受講生募集	1.29～3.30	朝日新聞都内各版（全5段ほか）／朝日小学生新聞（全5段）
その他の広告		
夏休み特別期間のお知らせ（都営交通とのタイアップ広告）	7.10～16、8.7～14	都営交通とのタイアップ広告。車内つりの記事下スペース（80mm×515mm）で夏休み特別期間をPR。都営交通（都営地下鉄・都バス・都電）の全線・全車両内に延べ14日間にわたって掲出した（約3,800枚）。
平成18年度の講座・クラブ受講生募集の新聞折り込み・ポストイン	H18.2.9・10、11	平成18年度開講の全講座・クラブの案内と受講生募集のちらしを〔こどもの城〕周辺地域の朝日新聞、読売新聞・毎日新聞の朝刊（計77,300部）に折り込み広告を実施。サンケイリビングのポストイン（212,600部）も行った。
取材関係	通年	取材の申し込みがあり、その後記事として掲載されたり放送されたものは以下のとおり（カッコ内は前年度の数）。新聞28（35）、テレビ・ラジオ26（18）、雑誌55（46）、その他84（85）で、全体では193（184）となっている。取材を受けたところには、その後、毎月定期的にプレスリリースを送っている。
第22回渋谷スタンプラリー	7.21～8.31	恒例となった「渋谷スタンプラリー」に本年度も参加した。NHKスタジオパーク、こどもの城、たばこと塩の博物館、電力館、東京都児童会館、UNギャラリーの6館で共催した。参加者は約1万人。
あ・ら・かるちゃー渋谷・恵比寿・原宿	通年	渋谷・恵比寿・原宿周辺の文化施設が集まり、交流・情報交換を行うと同時に、協力してPR活動などを行う。NHKスタジオパーク、渋谷公会堂、たばこと塩の博物館、トーキョーワンダーサイト渋谷、電力館、Bunkamura、観世能楽堂、戸栗美術館、ギャラリーTOM、渋谷区立松濤美術館、太田記念美術館、こどもの城、UNギャラリー、セルリアンタワー能楽堂、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、渋谷区ふれあい植物センター、恵比寿麦酒記念館、恵比寿ガーデンプレイス、東京都写真美術館の19施設が参加。
〈講師派遣〉仙台ひと・まち交流財団「児童厚生員等研修会」	H18.2.16	「児童館だよりの作り方のコツについて」講義。仙台市内の児童館の児童厚生員80人が参加。会場は仙台市民会館展示室。主催は、(財)仙台ひと・まち交流財団。

4

こどもの城から全国へ

こどもの城から全国へ



平成17年度の活動

1．はじめに

本年度も、〔こどもの城〕のセンター的な機能の充実を目的にさまざまな取り組みを実施した。センター的機能とは、全国約4,700の児童館との、主に技術・運営にかんしての情報交換を指している。具体的には「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会」の開催、〈動くこどもの城〉事業、講師派遣や実習生・研修生の受け入れなど。いずれも児童館活動の活性化や児童館活動を担う人材の育成をめざしたもので、〔こどもの城〕に蓄積された情報の発信である。

一方、公民館、保健所、学校など児童館以外の公的施設や子ども会、町内会、市民団体などが行う子育て支援活動についての情報や事業のノウハウも、児童館活動を活性化する上で重要な要素である。本年度も独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金からの助成を受け、「子育てネットワークによる小中学生交流事業」「子どもたちによる街づくりワークショップ事業」のモデル事業を〔こどもの城〕の外で行い、新たな情報の収集やノウハウの蓄積に励んだ。

また同様の目的で、厚生労働省と(財)こども未来財団が主催した「子育てサークルリーダー研修事業」を実行委員会の一員としてコーディネートした。

(ア) 児童厚生員対象の講習会

「児童厚生員等実技指導講習会」は、本年度も2日間の通い型1回、2泊3日の宿泊型2回の計3回のほか、前年度に引き続き、児童館でのパソコン遊びをテーマに、実際にパソコンにふれながらプログラムを体験する2日間の通い型の講習会を1回実施した。

講習会の目的は、児童館活動で必要な技術の習得。子どもの遊びや興味の多様化、児童館利用年齢層の拡大にともない、テーマの選定が年々難しくなってきている。児童館を取り巻く環境の変化なども含めて、今後の児童館活動がどうあるべきかにも視点をあてながら、よりよい活動のあり方を探っている。

宿泊という機会を利用して、児童館で働く者同士が情報交換をする場も、講習会の重要な部分であると考えている。参加各児童館の活動内容を紹介する印刷物を配布したり、夜間の時間帯を活用して任意参加の情報交換会を開催するなどの工夫をしてきた。一方参加費を負担する自治体などからは、日帰りで気軽に参加できる講習会への要望も多い。内容だけでなく実施形態そのものも、多様化した需要に対応していかなくてはならない時代になっている。

「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会(パソコン編)」や指導者向け講習会「つくって演じる人形劇」「おりがみにつよくなる講習会」は、パソコン、人形劇、折り紙といった特に児童館で関心の高い遊びの実際をトピックス的に取り上げた講習会である。いずれも通い型で実施し、気軽に参加できると好評であった。これらの講習会にしても、継続者を前提に発展的なテーマ展開をするのか、あるいは経験の浅い職員でも容易に取り組めるというスタイルをつらぬくのか、開催形式では迷うことが多かった。

(イ) 研修生・実習生の受け入れ

大型児童館の初任者研修などとして、本年度は研修生5人を受け入れた。実習生は大学・短期大学、専門学校から依頼のあった保育、博物館学等の科目履修を目的とした実習の場として学生を受け入れたもので、日産自動車(株)が実施しているNPOラーニングシステムの奨学生を含め、

本年度は25人を受け入れた。

さらに、中・高校生の職場体験の場として受け入れてもらいたいという依頼がここ数年増加している。本年度は中学生2件10人、高校生4件57人を受け入れた。18年度からは、都内の中学校2年生全員が5日の体験を行うことが制度化され、〔こどもの城〕への要望もさらに増えるものと思われる。子どもたちを地域社会全体で育て、社会に送り出していこうというシステムには、〔こどもの城〕としてもかかわっていく意義があり、受け入れのためのシステムを確立していきたい。

（ウ）講師派遣

地域で開催される児童健全育成のための研修会や催しのために、〔こどもの城〕の職員が講師として招かれた件数は、前年度より若干減少して105件。都道府県や地区の児童館連絡協議会が主催する講習会への派遣依頼が多かった。

講師派遣で要求されるのは、講師個人の技能とともに、〔こどもの城〕としてのノウハウである。外部の媒体への情報提供や講師派遣のルール作りを1日も早く行い、〈動くこどもの城〉、講習会、講師派遣が有機的に機能するようにしたい。

2. 動くこどもの城

平成6年度の事業開始以来11年が経過し、ほぼ全国の都道府県に派遣を行うことができた。

ここ数年、次のステップへの準備の時期にさしかかっている。新規プログラムの開発、親子プログラムに集中する需要への対応、事業効果の検証などが継続して課題となっている。平成15年度から始めた報告書の作成と配布、親子プログラムを中心とした新プログラムの開発、派遣場所の拡大の計画、アンケートの実施と、課題解決に向けて少しずつ準備は進んでいる。これらの作業をとおして、現在の児童館のおかれている状況に対応した、現実的で効果的な事業の形態を模索していきたい。

本年度は、昨年の新潟中越地震で被害を受けた地域の子どもたちと、子どもを取り巻く保護者を元気づけたいと、〈動くこどもの城〉として「がんばれ 長岡っ子」を7月～平成18年2月に計4回実施。協力、長岡市役所、長岡子育てライン三尺玉ネット。第1～3回は、音楽事業部によるミニ・コンサートに加え、保護者同士が心配事などを話し合える「子育てサロン」を臨床心理士を中心に行い、第4回は、「遊びの屋台」を各事業部の協力を得て実施した。

3. 助成金による事業など

【福祉医療機構子育て支援基金助成事業】

独立行政法人福祉医療機構子育て支援基金の助成を受け、「子育てネットワークによる小・中学生交流事業」と「子どもたちによる街づくりワークショップ事業」の2事業に取り組んだ。

2年計画で実施してきた「子育てネットワークによる小・中学生交流事業」は、これまで実施してきた「子育てサークルネット支援事業」や「小・中学生ボランティア交流事業」のノウハウを生かし、子育てサークルなどの自助的な子育て支援グループ、児童館や子育て支援センターなどの子育て支援のための施設、そして行政が協力して、小・中学生とその親が交流できる地域社会作りのためのモデル事業を行い、その結果や事業についての考察を「公開フォーラム」や報告書をとおして公開した。

また、単年度事業として取り組んだ「子どもたちによる街づくりワークショップ事業」は、児童館などを拠点にして、子どもたちが主体となった街おこし、地域活性化のモデル事業を実施してもらい、その成果やプロセスを1月に〔こどもの城〕で行った「子ども街づくりサミット」で公開するとともに、報告書にまとめ、児童健全育成関係者に配布した。

【その他の共催事業】

平成15年度から開始した、厚生労働省・(財)こども未来財団が主催する「子育てサークルリーダー研修事業」のなかで、札幌市、青森市、熊本市で実施した際に運営などをコーディネートした。

本年度の研修会は、午前中のみ4日間の実施とした。コミュニケーション・トレーニング、サークル運営のノウハウ、行政の子育て支援施策の説明、子育てサークルの運営やネットワーク作りについてのディスカッション、交流会を行った。また研修会終了後、それぞれの地域のテーマに沿って、研修会の趣旨がより地域に定着するようにするためのモデル事業を行った。

4. まとめ

少子化対策や地方行政改革のなかで、全国約4,700か所におよぶ児童館の事業は、岐路に立っているといえる。もちろん、大型児童館の一つとして〔こどもの城〕もまた、社会の変化や需要の多様化にどのように対応していくべきか、迷うことが多かった。ここ数年のうちに社会の変化に対応する事業の新しい方向性を打ち出す必要があるが、センター的な機能の充実は、既存事業の継続や交流をとおしてこそ、その方向性が見出せると考えている。

助成を受けて〔こどもの城〕の外部で行う「モデル事業」、(財)こども未来財団が行う研修会のコーディネートなどは、〔こどもの城〕の外の社会状況を実感できる貴重な機会と考え、ここで得たものをセンター的な機能や〔こどもの城〕自体の事業の中に有効に生かしていきたい。

平成17年度活動一覧表

1．講座・クラブなど

〈専門指導者向け講習会〉

名　称	対象・定員	受講数	日　時	内　容
平成17年度こどもの城児童厚生員等実技指導講習会				
第1回「音であそぶ!～手作り楽器とリズム遊び～」	（人）児童館職員ほか（50）	（人）29	5.18、19（2日間の通い）	1日目は身近な材料を使っての楽器作り。アフリカのトーキングドラムをヒントにした“おしゃべり太鼓”を全員で制作。材料は植木鉢（プラスチック製）やクリアホルダーなど。制作後、数グループに分けて“おしゃべり太鼓”で「なんて言ったか当てよう」クイズ対抗戦を実施した。さらに、アフリカのマラカス“カシシ”を紙コップを使って制作、全員で演奏の仕方などを学んだ。2日目は、“がらくた楽器”の紹介。びんやフィルムケース、茶わんなどを使った演奏を紹介し、全員で実際に体験した。スプーンを使った演奏にもチャレンジした。午後は、まとめの講習。“おしゃべり太鼓”でリズムアンサンブル、“アフリカンタムタム”という太鼓を使った〔こどもの城〕オリジナルのリズム遊びを紹介した。最後に、制作した楽器や体験した楽器などを使用して、グループごとにオリジナルリズムを作り、演奏、発表した。講師は音楽事業部スタッフ。（研修室、Bスタジオ）
第2回「フィールドアドベンチャー～遊びと子どもと“まちづくり”～」	〃（50）	33	10.19～21（2泊3日）	近年、子どもが参画する街づくりをテーマにしたプログラムが、地域で行われてきている。“子どもの参画する街づくり”を遊びをとおして楽しみながら行うプログラムを考えることを目的にした講習。参加者を数グループに分けて、グループごとにプログラムを考えて実践した後に、問題点を洗い出して組み建て直す形で講習を進めた。最初に、「子どもたちに興味を持ってもらいたいもの」「これはおもしろそう」などの視点で街にあるものを、一人ひとりが書き出していき、それをグループで検討して遊びのプログラムを考えていった。2日目の午前中は、前日考えたプログラムの内容と実際の“街”を照らし合わせて、安全面も含めて詳細をチェック。午後は、2グループでペアを作り、互いに他グループのプログラムを子どもの立場で体験し、評価をしあった。夜には、ペアごとに意見交換を行い、実施方法や改善点などについて話し合い、グループごとにプログラムの再構築を行い、改めて全員に対して発表して終了した。3日目は、講師に武蔵野美術大学齋藤啓子教授を迎え、“子どもの参画による街づくり”に結び付けて行くための考え方や手法や子どもの参画の意味などについての講義を行った。（研修室）
第3回「児童館のグループ活動～仲間同士の力をいかすために～」	〃（50）	46	H18.1.21～23（2泊3日）	児童館における児童健全育成活動では、子ども一人ひとりに対応する支援とあわせて、グループ活動をとおしての子どもの成長や人間関係作りの支援を行うことも大切であるという観点から「児童館のグループ活動」について講習を行った。1日目は、参加者が日常行っているグループ活動の現時点での取り組み姿勢について、ワークシートを用いて個々に再確認。「子どものグループ活動を見つめる視点」について吉澤英子大正大学名誉教授による講義を行った。2日目からは、実際にグループ活動を行いながら、活動を援助するワーカーとしての視点や技術、自分自身の特性と課題などについて気付いていくためのワークショップ。参加者を数グループに分け、2グループでペアを作り進行。折り紙をテーマに、1グループが活動しているのを他のグループが観察するという形で、双方が制作と観察を経験した。観察側は、かかわり方などを詳細に観察して記録。活動中の主体性や参加度合いについて意見を交換。グループごとに「子どものグループ活動を援助する、援助者のあり方と技術」についてまとめて発表した。3日目は、「これからのグループ活動をみつめる視点」や「子どもの関係作りを促進」するための援助者としてのあり方などを話し合って本講習を終えた。（研修室）

名　　称	対象・定員	受講数	日　　時	内　　容
平成17年度こどもの城児童厚生員等実技指導講習会 パソコン編 「パソコンクラフト〜作って遊びを広げよう〜」	（人） 児童館職員ほか （20）	（人） 13	6.8・9 （2日間の通い）	前年度は2回行ったが、本年度は1回にした。個人の遊びになってしまうパソコンを、いかに子どもたちの遊びにつなげられるかということに視点をあて講習会を実施。〔こどもの城〕で行ってきたプログラムの中から、クラフト系のソフトを使用した“パソコン遊び”を紹介した。“紙ずもう”は、あらかじめ顔（頭）、腕、上半身、下半身の“パーツ（部品）”ごとに、たくさんの素材（データー）を準備しておき、その中から好きなパーツを選んで力士を作りあげていくもの。力士の型を作り、色づけなどをしてからプリントし、厚手の紙にはってから切り抜いて紙ずもう大会を楽しむプログラム。“オリジナル手帳”作りでは、基本のカレンダーデータや手帳を飾り付けるデータを準備しておき、子どもたちはそれぞれの好みにあわせてカレンダーの日付の配置を変えたり、装飾したりするプログラム。“竹とんぼ”と“カスタムジェット”は、パソコンで型紙を作成し、好みの図柄をレイアウト。切り抜いて作ったもので遊ぶプログラム。参加者全員でオリジナルジェットを作成して、よく飛ぶように微調整を行い、大会を行った。羽や翼の微妙な調整の仕方、基本の翼の形などで飛び方が大きく変わるので、参加者は調整に夢中になっていた。（パソコンルーム、プレイホール）
つくって演じる人形劇	〃 （各30）	40 30	8.21 9.11	児童館や保育所などで、子どもを対象とした人形劇を上演する際に使える、ウレタンを素材にした表情人形を“つくって演じる”講習会。1回目から2回目午前までを人形の制作にあて、2回目午後に操作方法と上演にかんするコツを学んだ。（研修室）
おりがみにつよくなる講習会	〃 （各50）	37 39	10.16 10.30	テーマは「折って遊べるおりがみ〜おりがみで子どもたちと遊ぶ〜」。1回目は春から夏、2回目は秋から冬と季節で分け、季節に合った折り紙とその遊び方、装飾法などを学んだ。折り紙を気軽に楽しめるものとしていくことを目的としているので、初級レベルの内容にした。（研修室）



こどもの城児童厚生員等実技指導講習会
（フィールドアドベンチャー〜遊びと子どもと“まちづくり”〜）



おりがみにつよくなる講習会



つくって演じる人形劇

2.〈動くこどもの城〉

〈子どもや家族を対象としたプログラム〉

名　称	内　容
「おにごっこ」で楽しく体力づくり（体育）	かつて、子どもたちは元気に軽快に遊ぶなかで、基本的な体力を自然に向上させていたが、現代ではその基本的な体力の低下が危ぶまれている。かんたんに転んだり、よけることができなくてぶつかってしまうこともある。「敏捷性」「バランス」を養うための陣取りゲームなどの“スポーツ遊び”を多彩に展開。
身近な道具でスポーツあそび（体育）	身の回りにある道具を使って体を動かしてみる。新聞紙・棒・ひも、そして特定のスポーツの道具として用いることが多いボールなどの使い方を、人数や場所の広さによって変えていく発展型プログラム。発想を変えることによって、さまざまなスポーツ遊び、スポーツへと展開していく。
親子ふれあい体操“1・2・3”（体育）	“歩く”から“走る”へと運動発達が著しい1～3歳の時期に、親と子で楽しく体を動かしながら、子どもの成長やコミュニケーションを楽しめるかんたんな体操、模倣動作、親子で鬼ごっこなど、室内外でできる運動や遊びを紹介。
お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ（体育・小児保健）	赤ちゃんが自然に健康に成長していることは、母親でも意外と意識しないもの。音楽や楽しい遊具を使いながら、赤ちゃんと一緒にできる簡単な体操をとおして、表情や動きの新しい発見をするプログラム。
やってみよう！パソコン遊びのプログラム（プレイ）	「きれいなグラフィック遊び」、さまざまなペーパークラフトをパソコンでデザインしてから作って遊ぶ「パソコンクラフト」など、〔こどもの城〕で実施したプログラムの中から、いくつかを選択して実施。パソコンで楽しく遊ぶコーナーを一定期間設置する。
みんなで遊ぼう　パペットランド（プレイ）	人形作りと劇遊びの2つの活動で構成。紙コップや封筒など身近な素材で人形を作り、作った人形で話をしたり、仲間とコーラスを楽しんだり、ごっこ遊びを繰り広げたり――イメージの世界をみんなで楽しむ、人形遊びのプログラム。
レクリエーションゲーム大会の演出プラン（プレイ）	ごっこ遊びの要素を取り入れて、レクリエーションゲームをよりおもしろく演出しようというプログラム。忍者や魔法使いなどをテーマにファンタジーの世界を仲間と共有しながら、協力、相談、競争をキーワードに、さまざまなゲームをとおして交流をはぐくむことをねらいとしたプログラム。
ガドガドコンサート「おんがくがスキ！」（音楽）	参加者に演奏を聞かせるだけのコンサートではなく、歌遊び、手遊びなどを盛り込み、演じる・見る・聞く・楽しむ行為が一体となって、音楽の楽しさをより深く体験できる参加型のプログラム。
竹の響き「アンクルンコンサート」（音楽）	アンクルンは、竹で作られたインドネシアの民族楽器。一つの楽器から一つの音しかでない“竹のハンドベル”。アンクルンのほかに、竹のマリンバ、ベースなどと一緒に、童謡やインドネシアの民謡を演奏。竹の優しく素朴な音のハーモニーが楽しめる。参加した子どもたちが体験するコーナーもある。
音楽ゲームセンターであそぼう「スーパースターゲッター！」（音楽）	子どもたちとの遊びのなかから作り上げたオリジナルの音楽遊びプログラム。“踊る”“歌う”“聞く”“リズムをたたく”“楽器を体験する”など、音楽的要素を含んだゲームコーナーが屋台のように並ぶ。
アニメ・ワークショップ（AV）	2枚の簡単な絵を描いて作る「ぱたぱたアニメ」、映画発明以前の動く絵を楽しむ“視覚がん具”の制作などをとおして映画、映像の仕組みを体験。また、制作の難しい複雑な“視覚がん具”も展示。
こどもの城映画劇場（AV）	子ども向けに作られた国内外の芸術的なアニメーションの短編作品――〔こどもの城〕フィルムライブラリー「武藤行雄記念文庫」に収蔵された作品から数本――を上映。「武藤行雄記念文庫」にはカナダ国立映画制作庁（NFBC）のアニメーションをはじめ、世界中の優れた作品を約110本収蔵。
映像探検　写真ワークショップ（AV）	日常なにげなく撮っている写真の“写る仕組み”を体験。写真の発明以前に、画家たちがデッサンの補助的器具として用いていた“カメラオブスクラ”や、レンズを使わないカメラ“ピンホールカメラ”を使ったワークショップ。また、写真の仕組みや歴史を探る展示も行う。
絵本の読み語り「おはなしコンサート」（企画研修）	スライドで写し出した大きなイラスト（絵本の絵）――ピアノとパーカッションの生演奏をバックに、絵本の読み語りを行う。絵本の楽しさを家族一緒に体験できるプログラム。
ボランティア交流プログラム（企画研修）	〔こどもの城〕で活動しているボランティアリーダーと地域のボランティアとの交流プログラム。ボランティアの養成やさまざまな活動についての情報を交換。

〈児童厚生員などを対象とした実技研修会〉

名　称	内　容
手作り楽器のワークショップ　（音楽）	“がらくた”として捨ててしまうようなもの（金属の缶やフィルムのケースなど）を生き返らせて、音が出る“音の道具＝楽器”に早変わり。制作終了後には、作った楽器を使って全員で合奏。
打楽器で遊ぶワークショップ　（音楽）	ブラジルのサンバ、アフリカの太鼓“タムタム”、和太鼓のほか、スプーンなど身近な道具を使った打楽器体験。児童館などで行うリズム遊びを紹介。
想像遊びのワークショップ　（企画研修）	さまざまな絵本をモチーフにした、想像遊び、みたて遊び、言葉遊びを楽しむワークショップ。かんたんなカード制作をとおして、共同制作者とのコミュニケーションをはかるプログラム。
造形ワークショップ　（造形）	素材・発想・技法などを組み合わせると、さまざまなプログラムが生まれる。どこにでもある素材も、ほんの少しだけ発想を変えると、ふだんは見えないものが見えてくる。そうしたプログラムの何種類かを体験制作。背景となる考え方や発想法についても考える。
不思議な映像実験室　（ＡＶ）	“映像の時代”ともいえる現代に生きる子どもたちにとって、豊かな映像にふれることは大切なことです。その映像の基本的な原理について、遊びをとおして理解するプログラム。
人形遊びのワークショップ　（プレイ）	くつした、紙コップ、タオル、てぶくろなど、身近な素材で人形を作って遊ぶためのワークショップ。表現遊びの楽しさを知ってもらうことをねらいとしている。
パソコン遊びのワークショップ（プレイ）	子どもたちの遊びや学習の道具として、身近な存在になったパソコンを使った遊びのプログラムをいくつか体験しながら、活動を計画・実施するときの考え方や方法を学ぶ。

〈巡回展示とワークショップ〉

名　称	内　容
造形ワークショップ展　（造形）	〔こどもの城〕造形スタジオの実践プログラムを視覚的に分かりやすく、展示パネルの形式にまとめて展示。展示中心のプログラムだが、いくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施することもできる。展示のテーマは以下のとおり。それぞれ独立した展示内容で、開催団体と相談の上、展示テーマを決定する。 **■素材ア・ラ・カルト■**紙、木、土、竹、金属などの素材の特性を生かしたプログラム作品の展示。 **■竹体験ワークショップ■**竹に焦点をあて、竹で作られた生活道具、楽器、オブジェなどの展示を含め、竹のプログラム作品の展示。竹の特質を総合的に学習、体験できる。 **■絵本の世界へ■**ブルーノ・ムナーリの「アートとあそぼう」や「造形発見展〜絵本と造形」で実施したプログラム作品をはじめ、多様な絵本の表現方法を使ったプログラム作品を中心にした展示。 **■アートとあそぼう　クレイワーク■**表現素材としての土の可能性を考えて「素材との出会い展〜土と造形」で実施したプログラム作品の展示。立体物が多い展示。 **■光体験ワークショップ■**光ってなんだろう？　どんなものだろう？　いつも私たちの身の回りにあふれているにもかかわらず、気づかない光のプログラム作品の展示と光を体験できるものの展示。
お父さんの少年時代　（企画研修）	児童館などを訪れる子どもたちのお父さん、お母さんが子どもだったころ、昭和30〜40年代の“遊び”の展示。展示されたメンコ、ベーゴマ、凧、日光写真などの遊び道具をきっかけに、親子のコミュニケーションをはかると同時に、子どもたちは昔遊びのエッセンスを体験。
絵本とコミュニケーション　（企画研修）	絵本は子どもたちの感性をはぐくむ優れた媒体。子どもの様子を見ながらページをめくれば、自然と親子のコミュニケーションをはかることもできる。駒形克己さん（グラフィックデザイナー）は、絵本がもつ“コミュニケーションのためのツール”という側面に着目し、さまざまな絵本を制作するだけでなく、絵本作りのワークショップを実践している。〔こどもの城〕で実施した展示とワークショップで構成したプログラム。駒形さんの絵本の世界を中心に「絵本とコミュニケーション」について考える。
おりがみカーニバル巡回展　（企画研修）	各地の児童館活動のなかで制作したおりがみ作品を集めた「全国児童館おりがみ作品展」（参加25館／10月15日〜11月16日／こどもの城）を、12月から全国で巡回展示。本年度は「あそび」がテーマ。6月までは前年度の作品（テーマは「私たちの街」）を巡回展示。

〈実施一覧〉

都道府県	開催団体	会場	日時	内容	催し	研修	展示
兵庫県	兵庫県立こどもの館	兵庫県立こどもの館	4.20~5.11	おりがみカーニバル巡回展			○
佐賀県	鳥栖市児童センター	鳥栖市児童センター	5.15	おりがみカーニバル巡回展			○
岩手県	盛岡市大慈寺児童センター	盛岡市大慈寺児童センター	5.21~30	おりがみカーニバル巡回展			○
鹿児島県	阿久根市阿久根おひさまクラブ	阿久根市図書館	6.3~16	おりがみカーニバル巡回展			○
沖縄県	南部地区児童館連絡会	具志頭村社会体育館	6.3・4	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	○	○	
青森県	青森県子ども家庭支援センター（黒石市）	黒石市立公民館	6.21	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
青森県	青森県子ども家庭支援センター（つがる市）	つがる市生涯学習交流センター	6.22	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
福島県	田島町健康福祉課	田島町保険センター	6.28	みんなで遊ぼう！パペットランド	○	○	
新潟県	長岡子育てライン三尺玉ネット	長岡市民体育館／長岡市立福戸保育園／長岡市ちびっこ広場／長岡市リリックホール	7.15・16	がんばれ！長岡っ子	○		
石川県	石川県立小松児童会館	石川県立小松児童会館	7.16~31	おりがみカーニバル巡回展			○
千葉県	佐倉市福祉部子育て支援課	佐倉市海臨寺町社会福祉センター	9.26	想像遊びのワークショップ		○	
岡山県	岡山市三門児童センター	岡山市ふれあいセンター	9.27	身近な道具でスポーツあそび	○	○	
埼玉県	北本市保健福祉部こども課	北本市市民交流プラザ	9.30	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
山形県	山形県高畠町糠野目児童館	高畠町糠野目児童館	10.8	竹の響き「アンクルンコンサート」	○	○	
新潟県	長岡子育てライン三尺玉ネット	長岡市立みずほ保育園／長岡市立中之島保育園／長岡市立中之島中央小学校	10.7・8	がんばれ！長岡っ子	○		
栃木県	栃木県児童館連絡協議会	栃木県子ども総合科学館	10.14~16	「おにごっこ」で楽しく体力づくり	○	○	
埼玉県	所沢市立すみれ児童館	所沢市立すみれ児童館	10.18	みんなで遊ぼう！パペットランド		○	
熊本県	熊本県児童館連絡協議会	本渡市本渡町／くわく本渡児童館	10.22・23	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	○	○	
兵庫県	宝塚市健康福祉部こども室子育て支援課	宝塚市立東公民館	10.24	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
新潟県	NPO法人ゆめきゃんばす	妙高市紙町ふれあい会館	10.24	「おにごっこ」で楽しく体力づくり	○	○	
山口県	山口県児童センター	山口県児童センター	11.11・12	ガドガドコンサート「おんがくがスキ！」	○	○	
山梨県	韮崎市立4児童センター／韮崎市地域子育て支援センター	韮崎市営体育館	11.12	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
新潟県	長岡子育てライン三尺玉ネット	長岡市立石坂保育園／道の駅良寛の里まわし	11.18・19	がんばれ！長岡っ子	○		
佐賀県	鳥栖市児童センター	鳥栖市児童センター	11.18・19	おりがみカーニバル巡回展			○
北海道	（財）札幌市青少年女性活動協会	さっぽろ地下街「オーロラスクエア」／中の島児童会館	12.3~11	おりがみカーニバル巡回展			○
香川県	（財）香川県児童・青少年健全育成事業団	さぬきこどもの国	12.13	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
富山県	富山県児童館連絡協議会	富山県民共生センター	12.15	造形ワークショップ		○	
栃木県	栃木県子ども総合科学館	栃木県子ども総合科学館	12.17~H18.1.7	おりがみカーニバル巡回展			○
兵庫県	神戸市立樫谷児童館	神戸市西区民センター	1.11~17	おりがみカーニバル巡回展			○
埼玉県	埼玉県児童館連絡協議会北部ブロック	上里町神保原児童館	1.17	造形ワークショップ		○	
熊本県	西合志町児童館	西合志町児童館	1.21~26	おりがみカーニバル巡回展			○
栃木県	野木町立新橋児童館	野木町立新橋児童館	1.21~29	おりがみカーニバル巡回展			○
愛知県	刈谷市中央児童館	刈谷市中央児童館	2.1~10	おりがみカーニバル巡回展			○
新潟県	長岡子育てライン三尺玉ネット	国営越後丘陵公園花と緑の館	2.4	がんばれ！長岡っ子	○		
京都府	京都市大塚児童館	京都市大塚児童館	2.19	おりがみカーニバル巡回展			○

都道府県	開催団体	会場	日時	内容	催し	研修	展示
島根県	益田市立子育て支援センター	益田市立子育て支援センター	3.10・11	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	○	○	
栃木県	野木町立新橋児童館	野木町立新橋児童館	2.14	「おにごっこ」で楽しく体力づくり	○	○	
東京都	杉並区今川児童館	杉並区今川児童館	2.17、3.10	親子ふれあい体操1・2・3	○	○	
石川県	石川県立中央児童会館	石川県立中央児童会館	2.25~3.18	おりがみカーニバル巡回展			○
埼玉県	川越駅東口児童館	川越駅東口児童館	3.16	親子ふれあい体操1・2・3	○		
山口県	山口県児童センター	山口県児童センター	3.25~4.7	おりがみカーニバル巡回展			○

3. 助成金による事業など

《独立行政法人 福祉医療機構　子育て支援基金助成事業「子育てネットワークによる小・中学生交流事業」》

名称	日時	内容
思春期までを見通した子育てネットワーク活動を考えるためのモデル事業	6月～H18.2月	前年度に引き続き、乳幼児期を中心としたネットワークから、思春期までを見通したネットワークへの移行段階について、モデル事業を通じて調査・研究した。 モデル事業実施団体：NPO法人新座子育てネットワーク（埼玉県新座市）／NPO法人子育てサポーター チャオ（埼玉県越谷市）／ASAKAいくじネットワーク（埼玉県朝霞市）／スポルテ目黒（東京都目黒区）／豊橋子育てネットワークゆずり葉（愛知県豊橋市）／自遊創生団（石川県金沢市）／NPO法人子育て支援ネットワークとくしま（徳島県徳島市）／乳幼児子育てネットワーク・ひまわり（福岡県北九州市）
子育てネットワーク全国フォーラム	H18.1.28・29	モデル事業によって得られた、思春期までを見通した子育てネットワーク活動の課題を討論するために全国フォーラムを開催した。各モデル事業の発表のほか、「子どもの育ちを意識したネットワークづくり」「親の育ちを意識したネットワークづくり」「男性の参画を進めるために」「ネットワークの人材育成と世代交代」「子育てネットワークと企業との協働」というテーマで分科会、「思春期までを見通したネットワーク活動」というテーマでパネルディスカッションを実施した。
「みんなで子育て」の発行	3月	モデル事業や子育てネットワークの先進事例などの情報をまとめ、今後の子育てネットワーク活動の普及・推進のために報告書「みんなで子育て」を発行し、全国の自治体などに配布した。

《独立行政法人 福祉医療機構　子育て支援基金助成事業「子どもたちによる街づくりワークショップ事業」》

名称	日時	内容
中高生向け児童館プログラムを検討するためのモデル事業	6月～H18.2月	現在、地域コミュニティーの再生が叫ばれている。この地域コミュニティーを考える場合、子どもたちの視点を取り入れていくことも大切なことである。そこで、児童館を拠点として中高生を対象に街づくりにかんするさまざまなワークショップを実施し、子どもたち自らに、住んでいる街に対して提言をまとめてもらった。 モデル事業実施児童館：三鷹市西児童館（東京都三鷹市）／松山市中央児童センター（松山市）／神戸市総合児童センター（神戸市）／フレミラ宝塚大型児童センター（兵庫県宝塚市）／大阪府立大型児童館ビッグバン（大阪府堺市）／こどもの城（東京都渋谷区）
子ども街づくりサミット	1.7	街づくりワークショップを通じてまとめた「街づくりの提言」を、広く社会にアピールするために実施。ポスターセッションと中高生をパネラーとしたパネルディスカッションを行った。
「子どもの参画」の発行	3月	子どもたちのまとめた提言および、各館が実施した街づくりワークショップの事例を紹介する報告書「子どもの参画」を発行し、全国の児童館などに配布した。

〈財団法人こども未来財団委託事業「子育てサークルリーダー研修事業」〉

名　称	日　時	内　容
子育てサークルリーダー研修事業		厚生労働省・財団法人こども未来財団が主催する「子育てサークルリーダー研修事業」を、財団法人こども未来財団から委託されて4地域で実施した。
青森市	9.30、10.13・18・24	「よりよい関係をつくるためのコミュニケーション・トレーニング」「サークルで生かせるグループ・コミュニケーション」「分科会（効果的なちらし作り／サークルでできる音楽遊び／サークル運営・子育て井戸端会議）」「パネルディスカッション　サークルから広がる子育ての輪」。 協力：あおもり子育てサークル学習会実行委員会
熊本市	8.24・30、9.6・14	「出会いとつながりのワークショップ　子育てに必要なコミュニケーション・スキル」「サークルに必要なグループ・コミュニケーション」「グループ学習　サークル運営のお悩み解決」「パネルディスカッション　子育てサークルって何？」。 協力：くまもと子育てサークル学習会実行委員会
札幌市	9.12・14・20・21	「よりよい関係をつくるためのコミュニケーション・トレーニング」「みんながいるからできる集団遊びを体験しよう！」「サークルで生かせるグループ・コミュニケーション」「パネルディスカッション　子育てサークルの魅力って何？」。 協力：さっぽろ子育てネットワーク
長野市	10.7・14・21・26	「出会いとつながりのワークショップ　子育てに必要なコミュニケーション・スキル」「サークルで生かせるグループ・コミュニケーション」「パネルディスカッション　子育てサークルって何?」「グループ学習　サークル運営のお悩み解決」。 協力：NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト

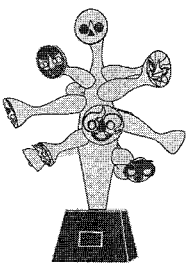
こどもの城
事業年報
平成17年度

平成18年11月1日発行

［編集・発行］
財団法人 児童育成協会
理事長　吉武　民樹

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
電話 03-3797-5666

表紙イラスト／KOHYA
デザイン／ COIL
印刷所／日本印刷株式会社



財団法人 児童育成協会
こどもの城
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1
TEL 03-3797-5666(代表) FAX 03-3797-5676
http://www.kodomono-shiro.or.jp/